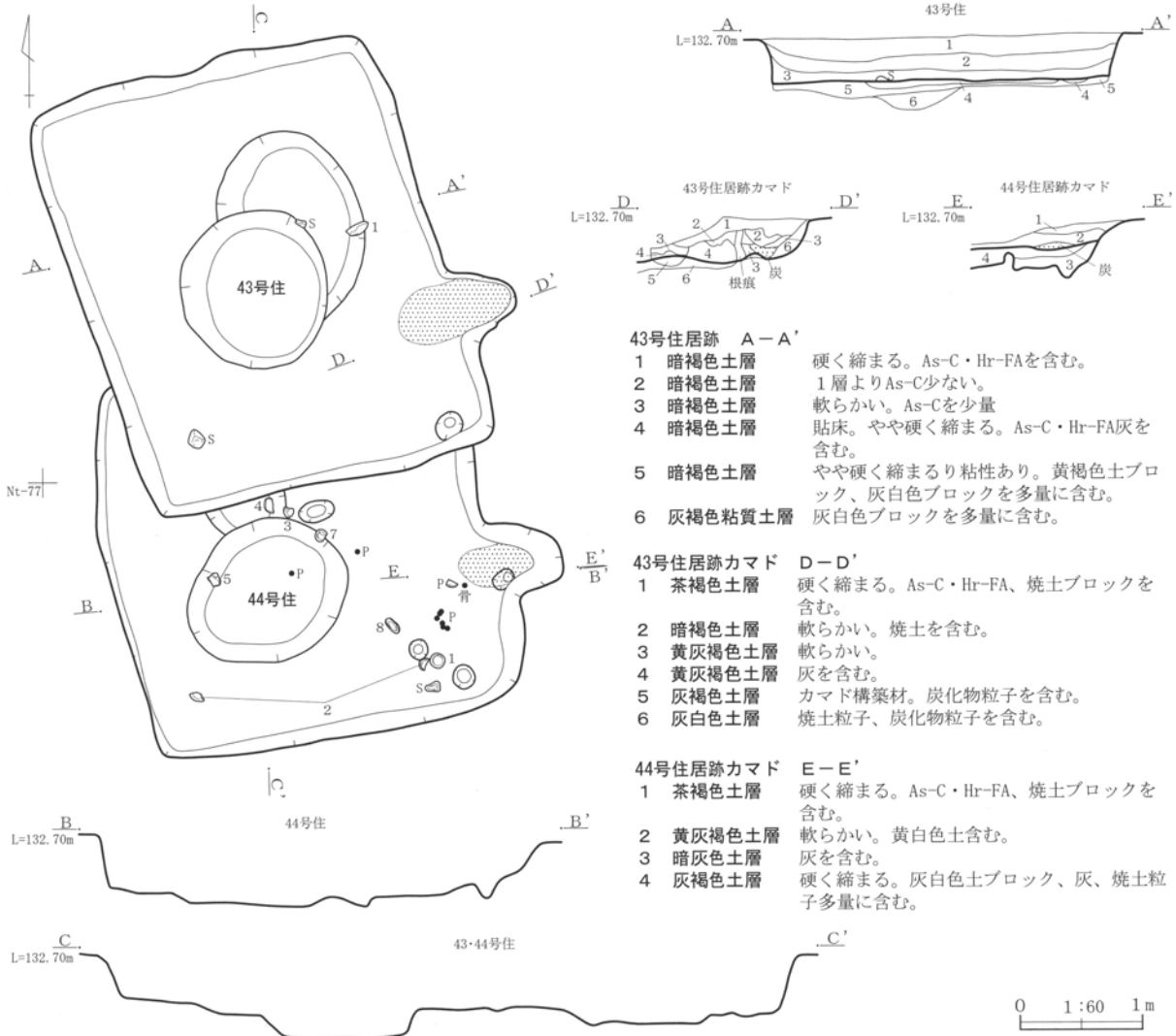


(1) 竪穴住居跡



- 43号住居跡 A-A'**
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
 - 2 暗褐色土層 1層よりAs-C少ない。
 - 3 暗褐色土層 軟らかい。As-Cを少量
 - 4 暗褐色土層 貼床。やや硬く締まる。As-C・Hr-FA灰を含む。
 - 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロック、灰白色ブロックを多量に含む。
 - 6 灰褐色粘質土層 灰白色ブロックを多量に含む。
- 43号住居跡カマド D-D'**
- 1 茶褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかい。焼土を含む。
 - 3 黄灰褐色土層 軟らかい。
 - 4 黄灰褐色土層 灰を含む。
 - 5 灰褐色土層 カマド構築材。炭化物粒子を含む。
 - 6 灰白色土層 焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 44号住居跡カマド E-E'**
- 1 茶褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土ブロックを含む。
 - 2 黄灰褐色土層 軟らかい。灰白色土含む。
 - 3 暗灰色土層 灰を含む。
 - 4 灰褐色土層 硬く締まる。灰白色土ブロック、灰、焼土粒子多量に含む。

第232図 43号住居跡・44号住居跡

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 8世紀。

44号住居跡 ①第232図②第206・207図、P.L.229・282

位置 Ns-76・77グリッドにかけて検出された。

43号住居跡と重複している。

形状 一辺約3.2mの正方形を呈するか。

方位 N-80°-E。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約6.1㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向86cm、両袖方向46cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

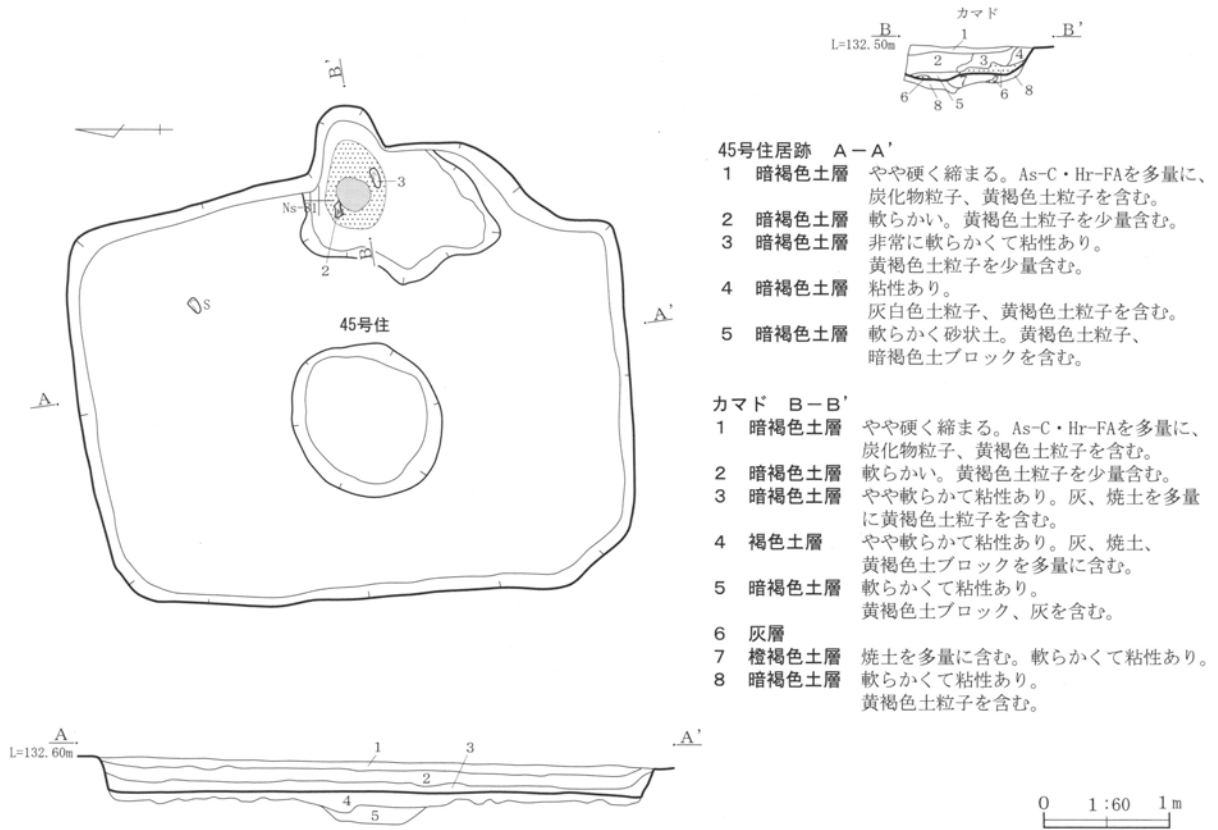
遺物 竈周辺や覆土中から土師器の坏や甕が出土している。

時期 7世紀前半。

45号住居跡 ①第233図③第208図、P.L.230・282

位置 Nr・Ns-80・81グリッドにかけて検出された。47号住居跡と接している。

形状 長辺約4.4m、短辺約3.1~3.6mの方形を呈



第233図 45号住居跡

する。

方位 N-79° - E。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は約12.8㎡。中央部に土坑。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向100cm、両袖方向54cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から少量の遺物が出土している。

時期 7世紀前半。

方位 N-83° - E。

覆土 6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約7.3㎡。中央部の土坑は長径136cm、短径108cm、深さ14cm。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向84cm、両袖方向60cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の破片が出土している。

時期 8世紀。

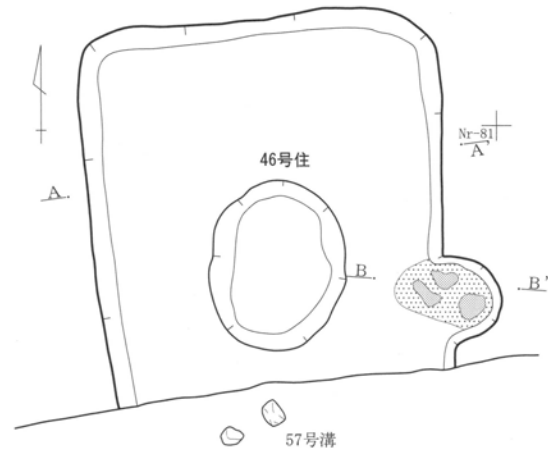
46号住居跡 (①第234図②第209図、P.L.231・282)

位置 Nr-80・81グリッドにかけて検出された。

57号溝によつて壊されている。

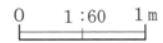
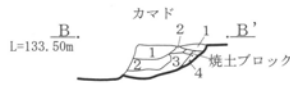
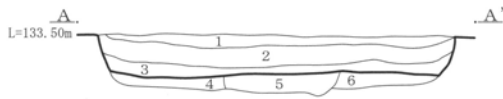
形状 現状での長辺約3m、短辺約2.9mである。

(1) 竪穴住居跡

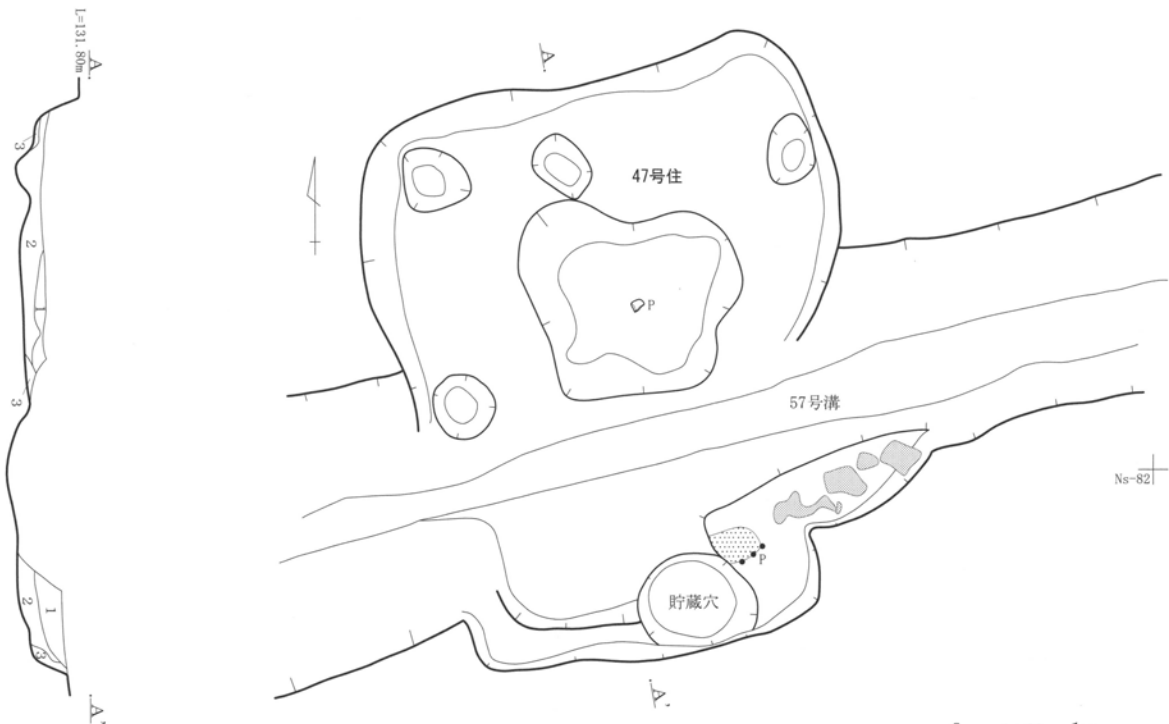


- 46号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 1層より軟らかい。黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
 - 4 暗褐色土層 非常に軟らかい。黄褐色土粒子を含む。
 - 5 暗褐色土層 粘性あり。
 - 6 暗褐色土層 粘性あり。黄褐色土粒子、黄白色土ブロックを含む。

- カマド B-B'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 3 灰色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰を多量に含む。
 - 4 灰層

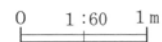


第234図 46号住居跡



- 47号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。As-C・Hr-FAを含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土、赤色土粒子を含む。

- 57号溝
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかい。砂質土。
 - 3 暗褐色土層 軟らかい。As-C・Hr-FAを含む。



第235図 47号住居跡

47号住居跡 (①第235図②第209図、P.L.・282)

位置 Ns・Nt-81・82グリッドにかけて検出された。57号溝によって壊されている。

形状 長辺約4.6m、短辺約2.8~3.8mである。

方位 N-76° -E。

覆土 3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約26~34cmで床面。

床面 やや凹凸がある。面積は約14.1m²。中央部に土坑。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向138cm、両袖方向は不明である。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 南壁に接して検出。長径97cm、短径72cm、深さ9cmを測る。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の破片が出土している。

時期 8世紀。

48号住居跡 (①第236図②第209図、P.L.232・282)

位置 Oh-76・77グリッドにかけて検出された。34号溝によって壊されている。また完掘できなかった。

形状 不明。

方位 N-90° -E。

覆土 竈覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約12cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約1.5m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向134cm、両袖方向62cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径44cm、短径42cm、深さ21cmを測る。

遺物 覆土中から少量の土器片が出土している。

時期 8世紀。

49号住居跡 (①第237図②第210図、P.L.232・283)

位置 Nt・Oa-79・80グリッドにかけて検出された。62号・41号・52号住居跡と重複している。

形状 長辺約4.2m、短辺約4.1mの方形を呈する。

方位 N-107° -W。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は約15.3m²。

周溝 検出できなかった。

竈 西壁の中央から南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向112cm、両袖方向46cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の破片が出土している。

時期 6世紀後半。

62号住居跡 (①第237図、P.L.232)

位置 Nt・Oa-79・80グリッドにかけて検出された。49号住居跡と重複している。

形状 長辺約3.7~3.9m、短辺約2.9~3.2mの方形を呈する。

方位 N-87° -E。

壁高 住居跡確認面より約30~52cmで床面。

床面 やや凹凸がある。面積は約9.8m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央から南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向70cm、両袖方向30cmである。

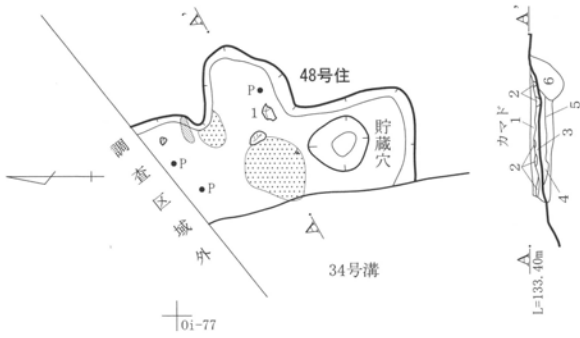
柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径56cm、短径46cm、深さ22cmを測る。

遺物 覆土中から土師器片が少量出土している。

時期 不明。

(1) 竪穴住居跡

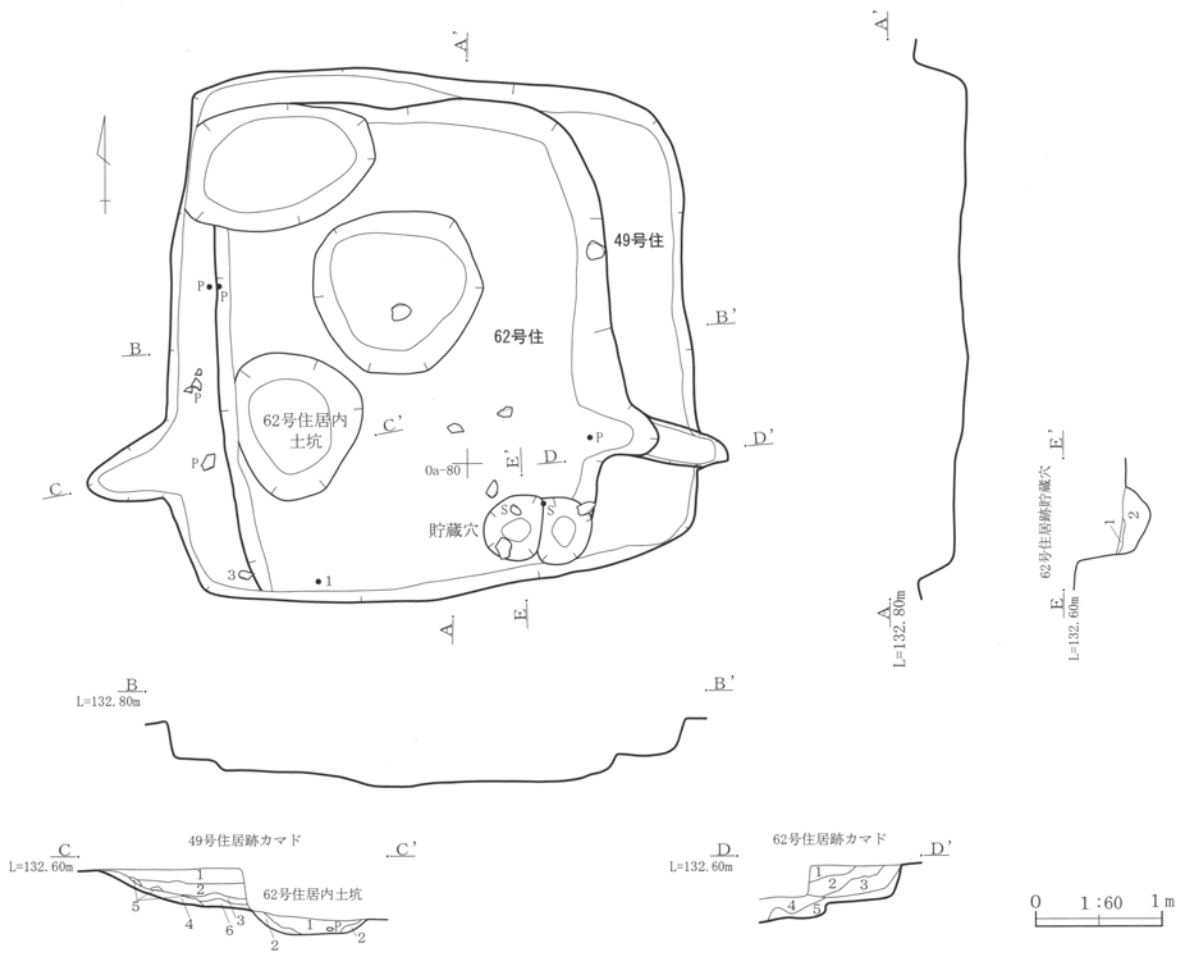


48号住居跡カマド A-A'

- 1 茶褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAと焼土を含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくネバネバしている。焼土を含む。
- 3 暗褐色土層 ネバネバしている。炭化物と灰を含む。
- 4 暗褐色土層 灰と焼土を含む。
- 5 暗褐色土層 灰白色土粒子と焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を多く含み、黒色土ブロックを含む。

0 1:60 1m

第236図 48号住居跡



49号住居跡カマド・62号住居内土坑 C-C'

49号住居跡カマド

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 灰、焼土粒子を多く含む。
- 3 褐灰色土層 軟らかくネバネバしている。焼土粒子を少量含む。
- 4 赤褐色土層 焼土、灰を多量に含む。
- 5 灰層 焼土を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかい。灰、焼土、灰白色土ブロックを多く含む。

62号住居内土坑

- 1 暗褐色粘質土層 灰白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色粘質土層 灰白色土ブロックを上層よりも多量に含む。

62号住居跡カマド D-D'

- 1 暗褐色土層 焼土を含む。
- 2 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、焼土を多く含む。
- 3 褐色土層 焼土粒子を含む。
- 4 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土、炭化物粒子を含む。
- 5 灰白色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。

62号住居跡貯蔵穴 E-E'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。

第237図 49号住居跡・62号住居跡

第6章 VI区 検出の遺構

50号住居跡 (①第238図②第211図、P.L.237・283)

位置 Oh-77グリッドにおいて検出された。59号住居跡と重複している。

形状 現状では竈部分のみ検出。

方位 N-115° -W。

壁高 住居跡確認面より約39cmで床面に達す。

床面 詳細は不明。

周溝 検出できなかった。

竈 西壁に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両袖方向30cmである。支脚(石)が残る。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から少量の遺物が出土している。

時期 不明。

備考 59号住居跡よりも古い。

59号住居跡 (①第238図②第219・220図、P.L.237・284)

位置 Og・Oh-76・77グリッドにかけて検出された。50号住居跡と重複している。

形状 長辺約4.8m、短辺約3.4mの長方形。

方位 N-66° -E。

覆土 8層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約34cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約14m²。

周溝 北壁と西壁の一部で検出。幅10~22cm、深さ6cmである。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向74cm、両袖方向42cmである。構築材が散乱。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中や竈周辺から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時期 7世紀後半。

備考 50号住居跡よりも新しい。

53号住居跡 (①第239図②第213図、P.L.234・283)

位置 Oc・Od-76・77グリッドにかけて検出された。34号住居跡に近接している。

形状 長辺約4.1~4.4m、短辺約4~4.2mの隅丸方形を呈する。

方位 N-85° -E。

覆土 5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約16~38cmで床面。

床面 凹凸がある。面積は約15.6m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向98cm、両袖方向54cmである。

柱穴 4個のピットが検出された。1は長径30cm、短径28cm、深さ14cm。2は長径28cm、短径18cm、深さ25cm。3は長径18cm、短径14cm、深さ37cm。4は長径26cm、短径24cm、深さ31cm。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の甕が出土している。

時期 7世紀。

54号住居跡 (①第240図②第214図、P.L.233・283)

位置 Nr-74・75グリッドにかけて検出された。50号溝によって壊されている。また完掘できなかった。

形状 現状では一辺約2.3mである。

方位 不明。

覆土 2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約35cmで床面に達する。

床面 凹凸がある。現状での面積は約4.3m²。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

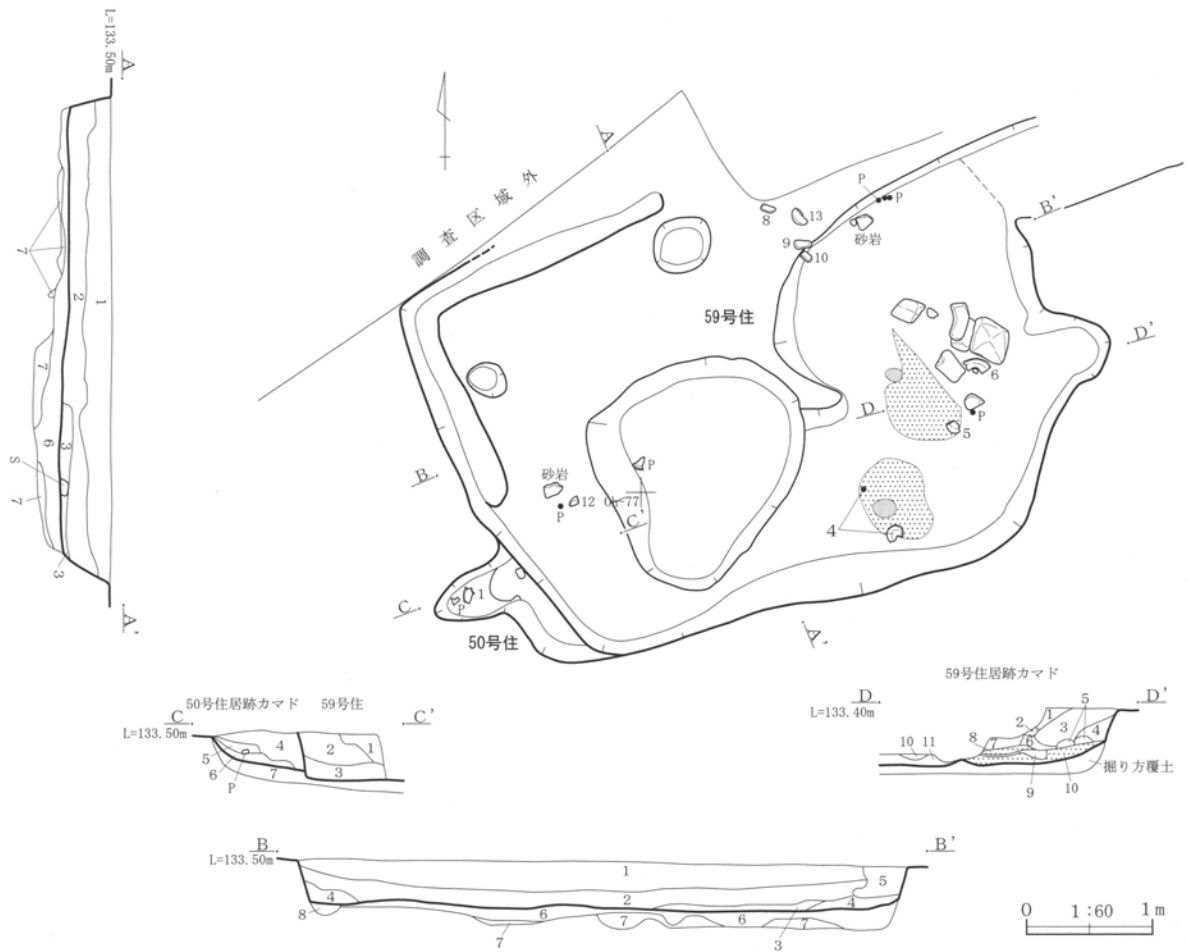
柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から少量の土師器片が出土している。

時期 7世紀。

(1) 竪穴住居跡



59号住居跡 A-A' B-B'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土ブロック、灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 4 黒褐色土層 軟らかく粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 軽石を多量に、黄褐色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 7 黄褐色土層 やや硬く締まり、粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 8 暗褐色土層 やや硬く締まり、粘性あり。灰白色土ブロックを含む。

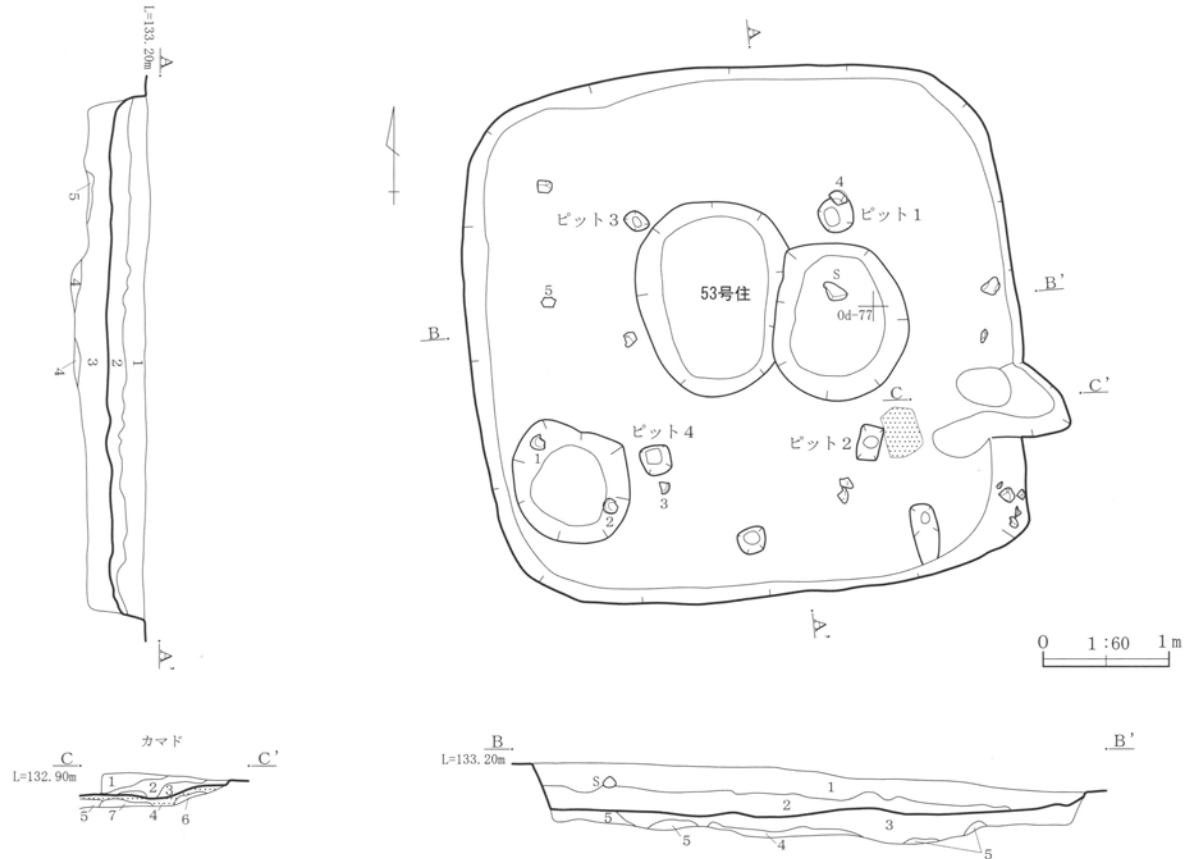
59・50号住居跡カマド C-C'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土ブロック、灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 4 灰褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 灰褐色土層 灰白色土ブロック、焼土を多量に含む。
- 6 褐色土層 やや硬く締まる。焼土、炭化物、灰を含む。
- 7 茶褐色土層 焼土、灰を多量に含む。

59号住居跡カマド D-D'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 2 灰層 焼土を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 5 焼土層
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土、灰、灰白色土ブロックを含む。
- 7 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子、灰を含む。
- 8 灰層
- 9 褐色土層 焼土を多量に灰を含む。
- 10 灰層 焼土を多量に含む。
- 11 暗褐色土層 褐色土粒子を含む。

第238図 50号住居跡・59号住居跡



53号住居跡 A-A' B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土層 粘性あり。黄褐色土粒子、黒色土ブロックを含む。
- 4 褐色土層 粘性あり。黄褐色土ブロックを多く含む。
- 5 灰黄褐色土層 粘性あり。黄褐色土に黒色土が混入。

カマド C-C'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、焼土を少量含む。
- 2 暗褐色土層 焼土ブロック、灰を含む。
- 3 黄灰褐色土層 やや軟らかい。焼土、灰を含む。
- 4 灰層
- 5 暗褐色土層 粘性あり。灰を含む。
- 6 暗褐色土層 灰、黄褐色土粒子を含む。
- 7 褐色土層 粘性あり。黄褐色土粒を含む。

第239図 53号住居跡

55号住居跡 (①240図②第215図、P.L.235・283)

位置 Of-78グリッドにおいて検出された。

形状 不明。

方位 N-71° - E。

覆土 竈覆土は3層に分かれた。

壁高 ほとんど検出できなかった。

床面 不明。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向98cm、両袖方向46cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から少量の遺物が出土している。

時期 8世紀。

56号住居跡 (①第240図②第215図、P.L.236・283)

位置 Ob・Oc-75・76グリッドにかけて検出された。42号溝によって壊されている。

形状 一辺約3.2mの正方形を呈する。

方位 不明。

覆土 2層に分かれた。

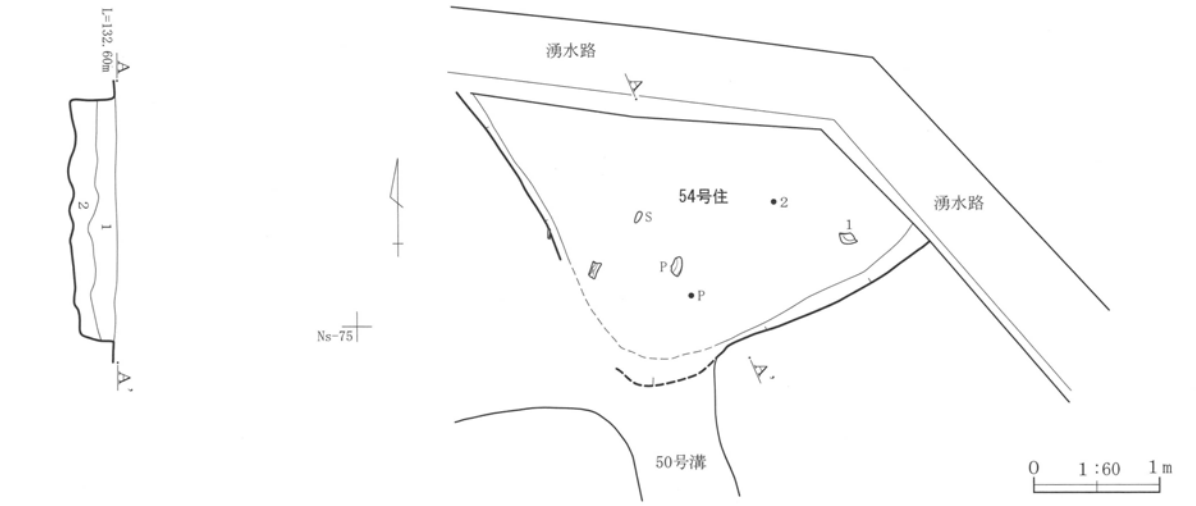
壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。面積は約8.4m²。

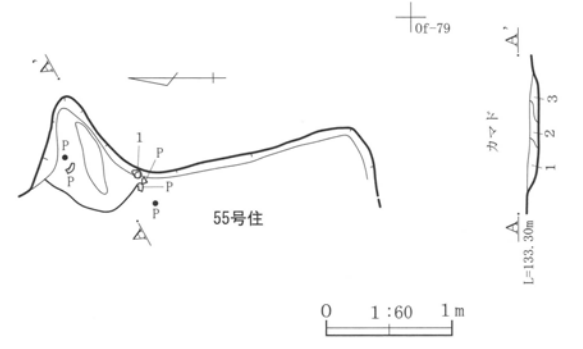
周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかったが、袖石1個を確認。42

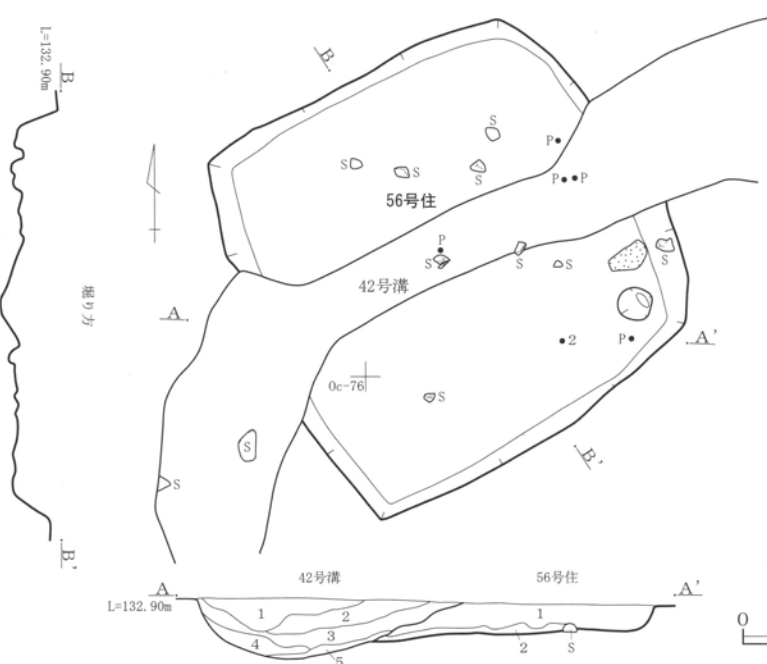
(1) 竪穴住居跡



- 54号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。



- 55号住居跡カマド A-A'
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、灰を含む。
 - 2 暗褐色土層 硬く締まる。1層同様であるが、焼土粒子を少量含む。
 - 3 褐色土層 焼土粒子を多量に含む。



- 56号住居跡 A-A'
- 56号住居跡
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-F、黄白色土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まる
- 42号溝
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
 - 2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
 - 3 暗褐色土層 1・2層とほぼ同じ
 - 4 暗褐色砂質土層
 - 5 暗褐色粘質土層

第240図 54号住居跡・55号住居跡カマド・56号住居跡

第6章 VI区 検出の遺構

号溝によって壊されたものと思われる。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径28cm、短径25cm、深さ31cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀。

57号住居跡 (①第241図第216・217図、P.L.235・283)

位 置 Oa-81、Ob-80~82グリッドにかけて検出された。42号溝・58号住居跡によって壊されている。

形 状 長辺約4.7m、短辺約4.5mの方形を呈する。

方 位 N-66° - E。

覆 土 6層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約50cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。現状での面積は約16m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向74cm、両袖方向42cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀前半。

58号住居跡 (①第241図②第218図、P.L.238・284)

位 置 Ob・Oc-81グリッドにかけて検出された。

57号住居跡を壊している。

形 状 長辺約3.5m、短辺約2.6mの長方形を呈する。

方 位 N-90° - E。

覆 土 4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約10~20cmで床面。

床 面 やや凹凸がある。面積は約7.8m²。長径150cm、短径100cm、深さ10cmの土坑を検出。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多く

は壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両袖方向40cmである。袖石が残る。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀後半。

備 考 住居上面の一部を39号溝によって壊されている。

60号住居跡 (①第242図②第221図、P.L.239・284)

位 置 Oc-74グリッドにおいて検出された。61号・68号住居跡と重複している。

形 状 現状での長辺約3.7m、短辺約2.9~3.6mの方形を呈するものと思われる。

方 位 N-93° - E。

覆 土 7層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約32~50cmで床面。

床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約11m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向66cm、両袖方向30cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 9世紀。

61号住居跡 (①第242図②第222図、P.L.238・239・284)

位 置 Oc-74・75グリッドにかけて検出された。

60号住居跡と重複している。

形 状 一辺約3mの正方形を呈する。

方 位 N-84° - E。

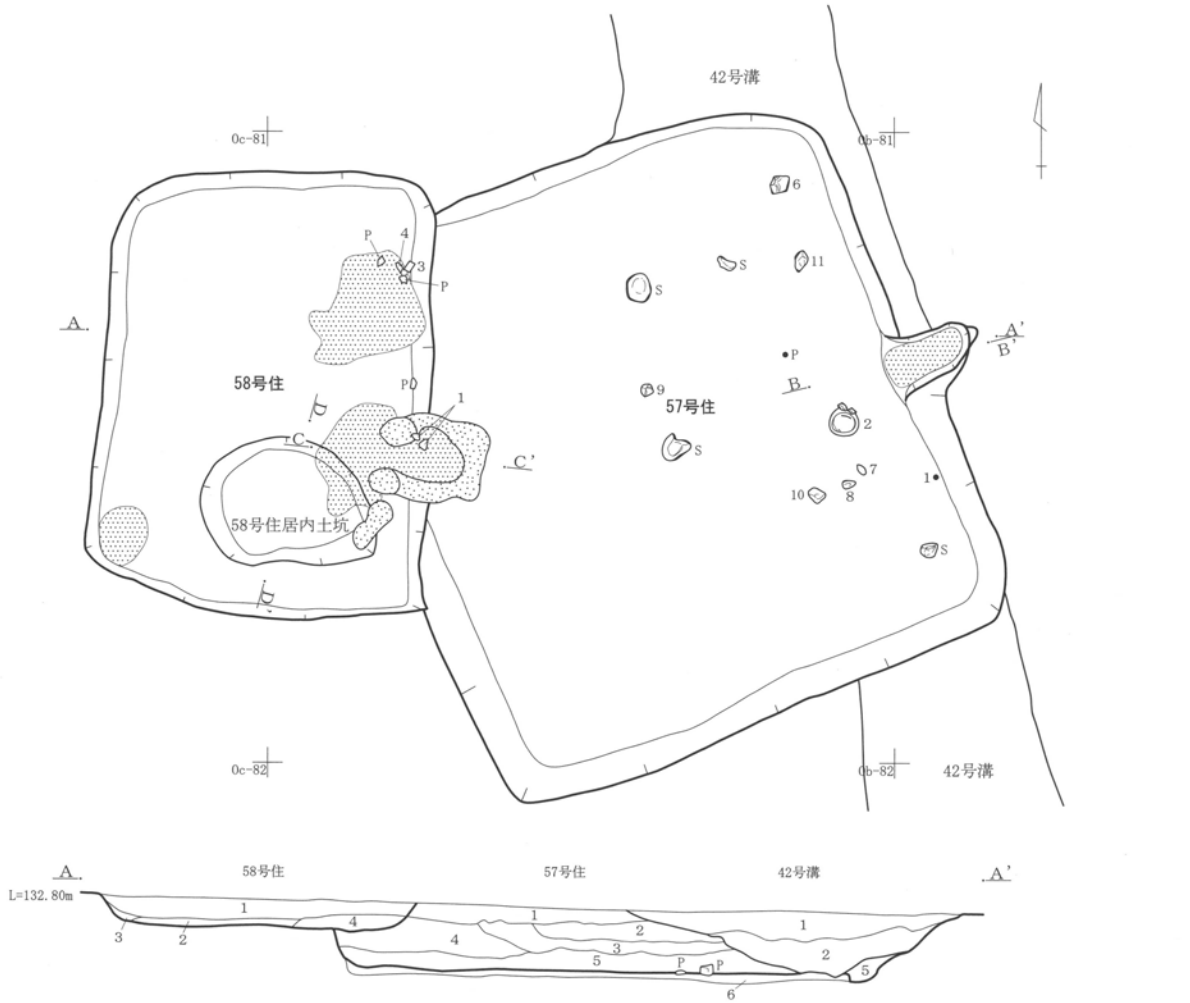
覆 土 2層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約12cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。面積は約7.4m²。

周 溝 検出できなかった。

(1) 竪穴住居跡



57・58号住居跡 A-A'

58号住居跡

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA粒を多く含む。
- 2 暗褐色土層 1層と同様であるが、少し砂状。
- 3 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

57号住居跡

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを多く含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを1層多く含む。
- 3 暗褐色土層 As・Hr-FAを含む。
- 4 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を多く含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかい。黄白色土粒子、ブロック含む。
- 6 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロック、灰を多量に含む。

42号溝

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 砂状土と粘質土の混じり。

58号住居内土坑 D-D'
L=132.80m

58号住居内土坑 D-D'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子を少量含む。

58号住居跡カマド C-C'
L=132.80m

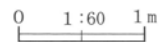
58号住居跡カマド C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
- 2 赤褐色土層 硬く締まる。焼土主体の層。
- 3 暗褐色土層 上層より軟らかい。焼土、黄褐色土ブロック、灰を含む。
- 4 灰層

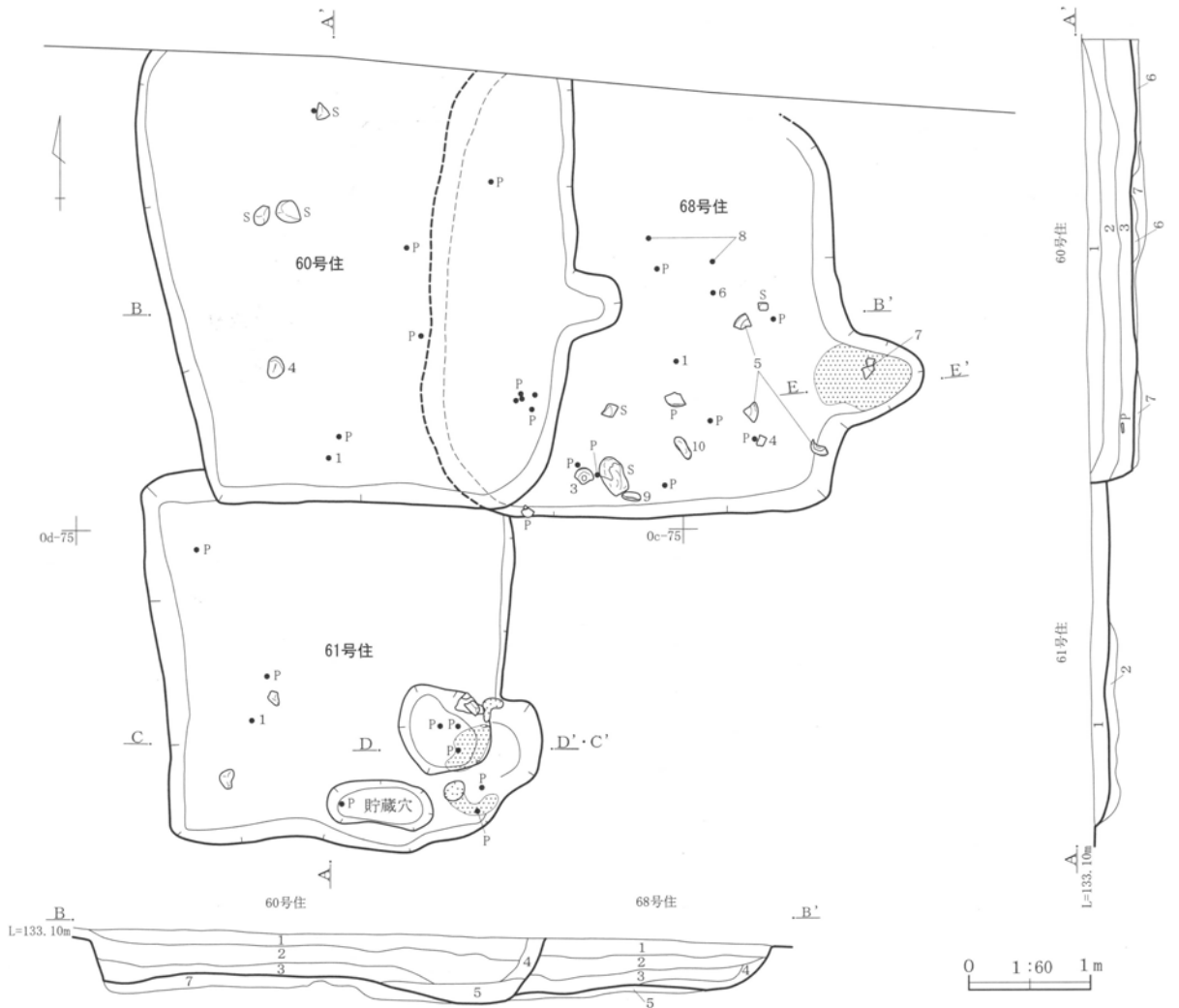
57号住居跡カマド B-B'
L=132.80m

57号住居跡カマド B-B'

- 1 灰層 焼土を多量に含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰、焼土粒子を含む。
- 3 灰層 焼土を含む。
- 4 暗褐色土層 黄褐色土ブロック、灰を含む。



第241図 57号住居跡・58号住居跡



60号住居跡 A-A' B-B'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰褐色土、焼土を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 7 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロック、灰褐色土ブロックを含む。

61号住居跡カマド D-D'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

61号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子、焼土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
- 2 暗褐色土層 黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。

68号住居跡 B-B'

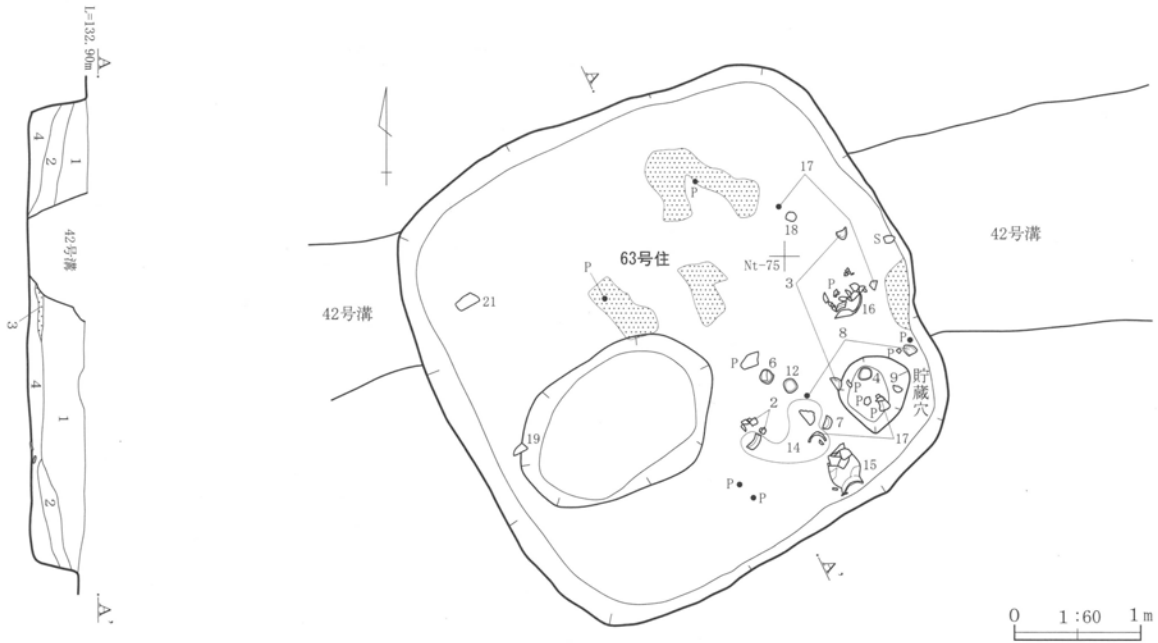
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 灰褐色土層 粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 5 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色、灰褐色土ブロックを含む。

61号住居跡カマド D-D' L=132.90m

68号住居跡カマド E-E' L=132.90m

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子、灰を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり、粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかい。焼土を多量に含む。
- 4 灰白色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を含む。
- 5 暗褐色土層 灰、焼土、灰白色土ブロックを含む。

第242図 60号住居跡・61号住居跡・68号住居跡



63号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかく粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 3 灰層
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、白色土ブロックを含む。

第243図 63号住居跡

竈 東壁の南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向82cm、両袖方向42cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径86cm、短径34cm、深さ13cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時 期 9世紀。

竈 東壁のやや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両袖方向56cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏、埴や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀前半。

68号住居跡 (①第242図②第229・230図、P.L.239・286)

位 置 Ob・Oc-74グリッドにかけて検出された。

60号住居跡に壊されている。

形 状 現状での長辺約3.6m、短辺約3.5mの方形を呈する。

方 位 N-88°-E。

覆 土 5層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約6.9m²。

周 溝 検出できなかった。

63号住居跡 (①第243図②第223~225図、P.L.240・285)

位 置 Ns・Nt-74・75グリッドにかけて検出された。42号溝によって壊されている。

形 状 長辺約3.9m、短辺約3.7mの方形を呈する。

方 位 N-62°-E。

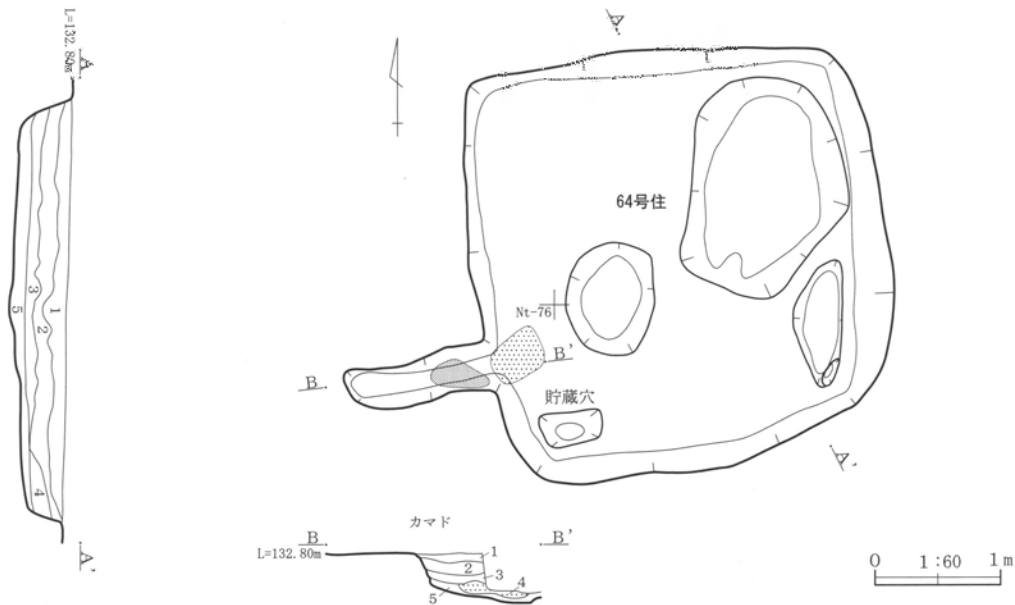
覆 土 4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約46cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は約11.8m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁下に部分的に灰の分布が認められた。



64号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、粘性のある黒色土を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかく、ボソボソしている。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土層 灰白色土ブロックを多量に含む。

カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、焼土を含む。
- 3 暗褐色土層 やや軟らかい。焼土粒子、灰を含む。
- 4 灰層
- 5 暗褐色土層 焼土、灰、黄褐色土ブロックを含む。

第244図 64号住居跡

42号溝によって壊されたものと思われる。東壁下に部分的に灰の分布が認められた。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径54cm、短径53cm、深さ7cmを測る。

遺 物 貯蔵穴周辺や南壁寄りから土師器の坏や甕、須恵器の坏、埴や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀。

は壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向72cm、両袖方向26cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径50cm、短径26cm、深さ15cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が少量出土している。

時 期 不明。

64号住居跡 (①第244図②第226図、P.L.241・286)

位 置 Ns・Nt-75・76グリッドにかけて検出された。43号住居跡に接している。

形 状 一辺約3.1~3.4mの方形を呈する。

方 位 N-95°-W。

覆 土 5層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。面積は約8.9㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 西壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多く

65号住居跡 (①第245図②第226図、P.L.241・286)

位 置 Oe-75・76グリッドにかけて検出された。66号・80住居跡と重複している。

形 状 現状での長辺約3.3m、短辺約2mである。

方 位 N-80°-E。

覆 土 3層確認できた。

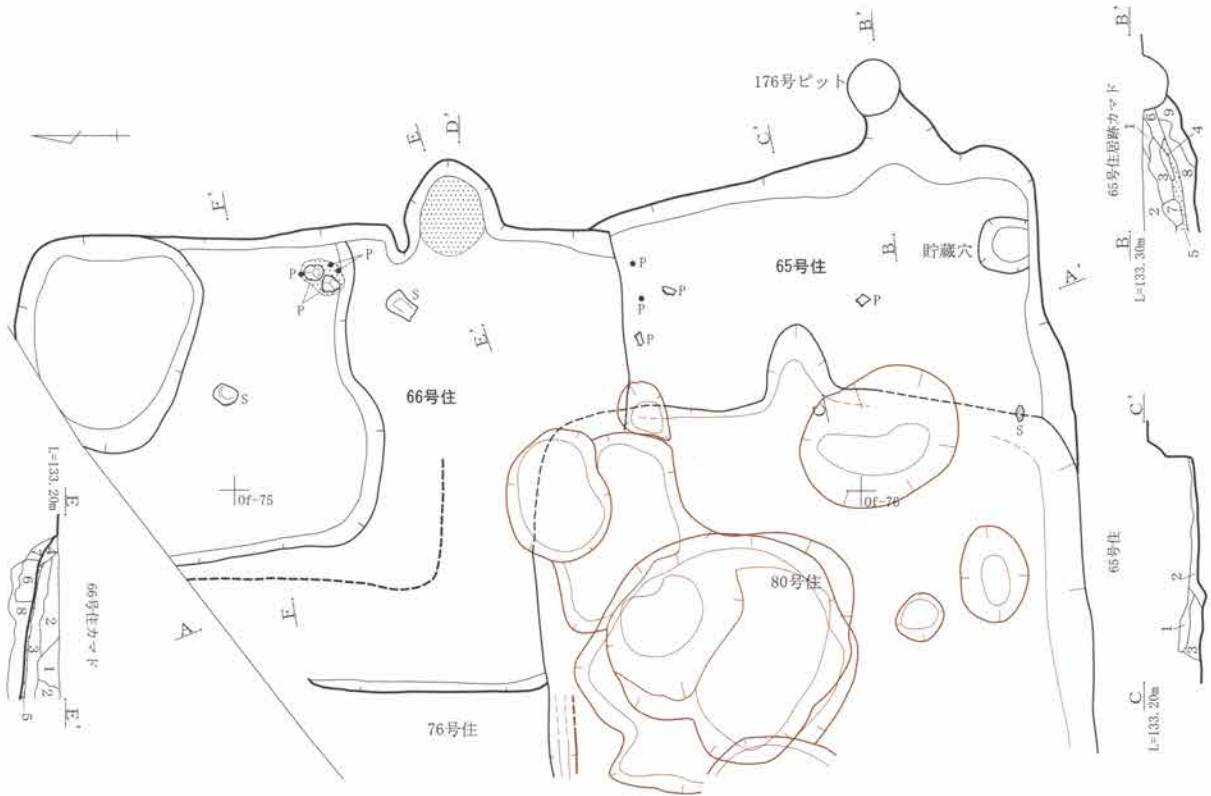
壁 高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南に位置し、燃焼部の一部は壁を掘

(1) 竖穴住居跡



66号住居跡カマド E-E'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土粒子、炭化物を含む。
- 2 褐色土層 やや硬く締まる。焼土を多量に、灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 上層よりも軟らかくて粘性あり。焼土、灰白色土ブロックを含む。
- 4 焼土層
- 5 灰層
- 6 褐色土層 粘性あり。焼土を多量に含む。
- 7 褐色土層 砂状土。炭化物を少量含む。
- 8 黒色土層 粘性あり。黒色土ブロックを含む。

65号住居跡カマド B-B'

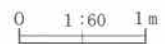
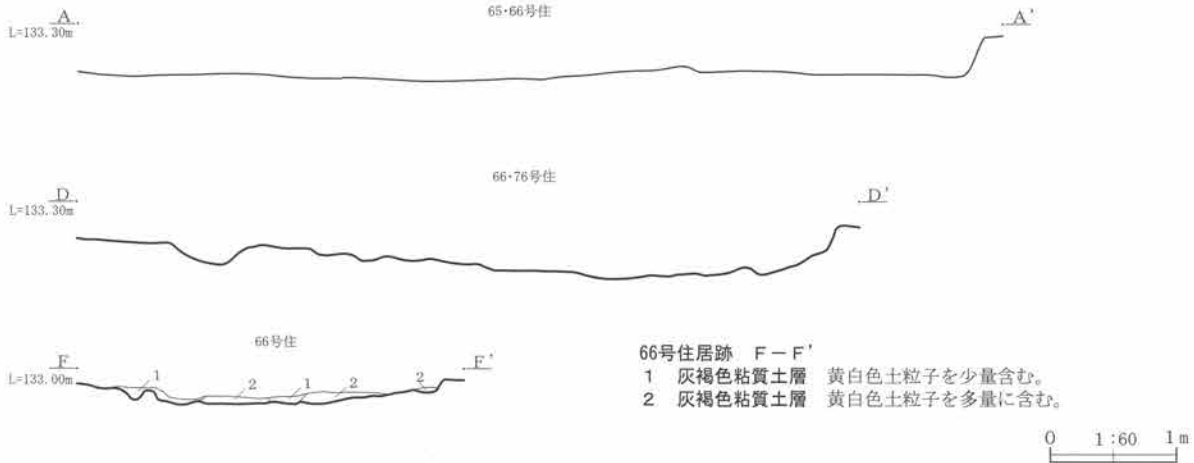
- 1 赤褐色土層 焼土を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 焼土粒子を少量、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土、黄褐色土粒子、灰を含む。
- 4 焼土層
- 5 灰層
- 6 暗褐色土層 焼土を含む。
- 7 灰白色土層 カマド構築材。
- 8 暗褐色土層 やや軟らかい。焼土、炭化物を含む。
- 9 暗褐色粘質土層

65号住居跡 C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を多量に含む。炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 炭化物粒子、焼土粒子、黄褐色土粒子を少量含む。

66号住居跡 F-F'

- 1 灰褐色粘質土層 黄白色土粒子を少量含む。
- 2 灰褐色粘質土層 黄白色土粒子を多量に含む。



第245図 65号住居跡・66号住居跡

第6章 VI区 検出の遺構

り込んで造られていたものと思われる。176号ピットによって壊されている。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 明瞭ではなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が少量出土している。

時 期 不明。

66号住居跡 (①第245図②第227図、P.L.242・286)

位 置 Oe・Of-74・75グリッドにかけて検出された。65号・80号住居跡と重複している。

形 状 現状での長辺約4.5m、短辺約3.7mの長方形を呈する。

方 位 N-93°-E。

覆 土 竈覆土は8層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両袖方向50cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀。

67号住居跡 (①第246図②第228図、P.L.242・286)

位 置 Oi・Oj-73・74グリッドにかけて検出された。98号住居跡と重複している。

形 状 長辺約6.1m、短辺約5.5mの方形を呈する。

方 位 N-91°-W。

覆 土 竈覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床 面 凹凸がある。面積は約31.7m²。

周 溝 幅12~24cm、深さ3~6cmの溝が全周。

竈 西壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向

92cm、両袖方向46cmである。

柱 穴 4個のピットが検出された。1は長径50cm、短径48cm、深さ49cm。2は長径56cm、短径48cm、深さ60cm。3は長径58cm、短径50cm、深さ40cm。4は長径50cm、短径33cm、深さ30cm。

貯蔵穴 長径106cm、短径80cm、深さ70cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀前半。

98号住居跡 (①第246図、P.L.242)

位 置 Oi・Oj-73・74グリッドにかけて検出された。67号住居跡によって壊されている。

形 状 長辺約5.5m、短辺約5.1mの方形を呈するものと思われる。

方 位 N-90°-W。

壁 高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床 面 凹凸がある。

周 溝 幅14~34cm、深さ3cmの溝が部分的に検出できた。

竈 西壁の中央に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。

柱 穴 4個のピットが検出された。1は長径40cm、短径39cm、深さ20cm。2は長径58cm、短径34cm、深さ40cm。3は長径39cm、短径35cm、深さ52cm。4は長径37cm、短径30cm、深さ15cm。

貯蔵穴 不明。

遺 物 検出できなかった。

時 期 不明。

備 考 竈とピットの存在から67号住居跡と重複していることが判明した。

69号住居跡 (①第247図②第231図、P.L.287)

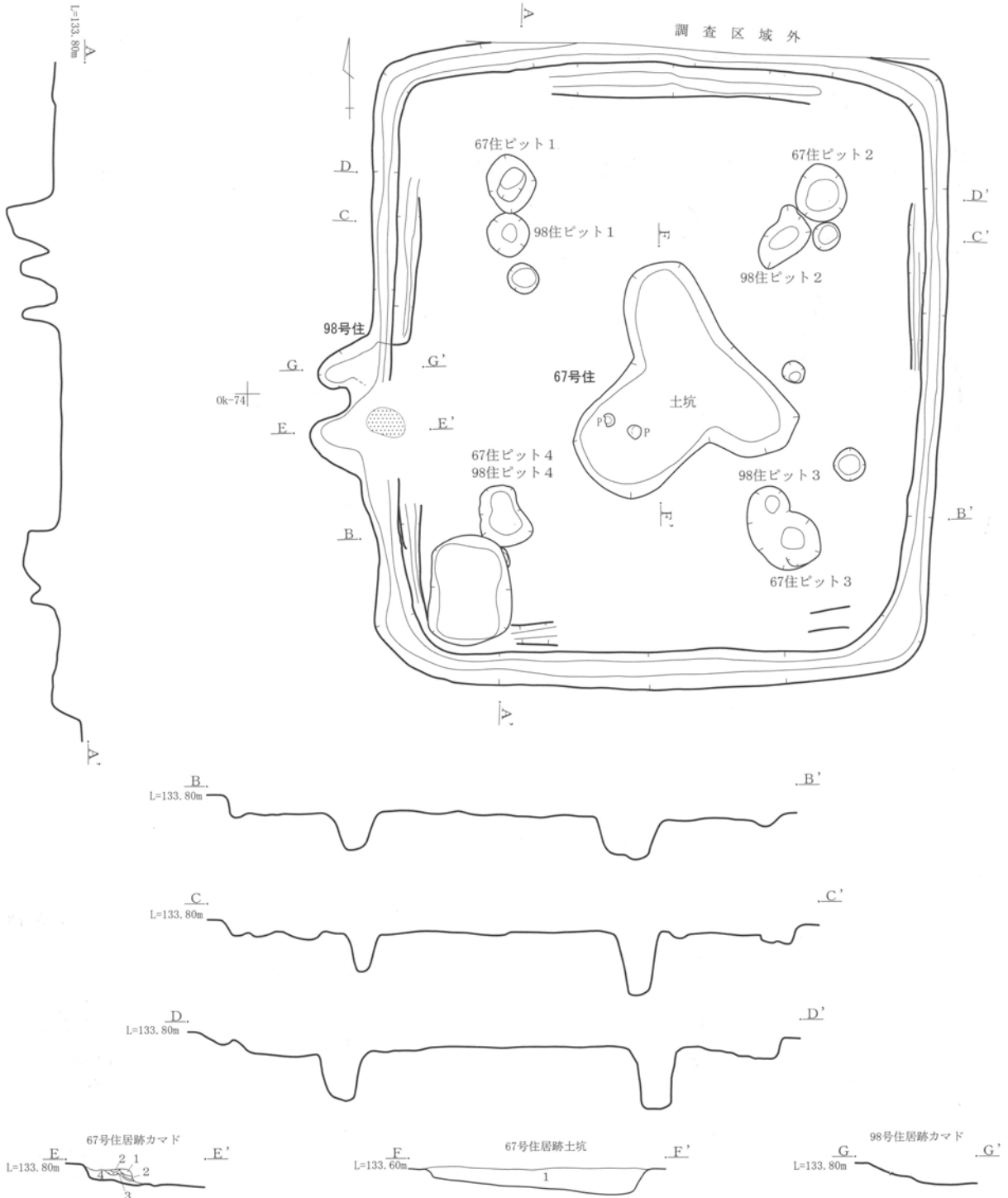
位 置 Oh-73、Oi-73・74グリッドにかけて検出された。67号住居跡に接している。

形 状 東西約3.4m、現状での南北約3.8mである。

方 位 N-66°-E。

覆 土 2層に分かれた。

(1) 竪穴住居跡

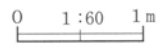


67号住居跡カマド E-E'

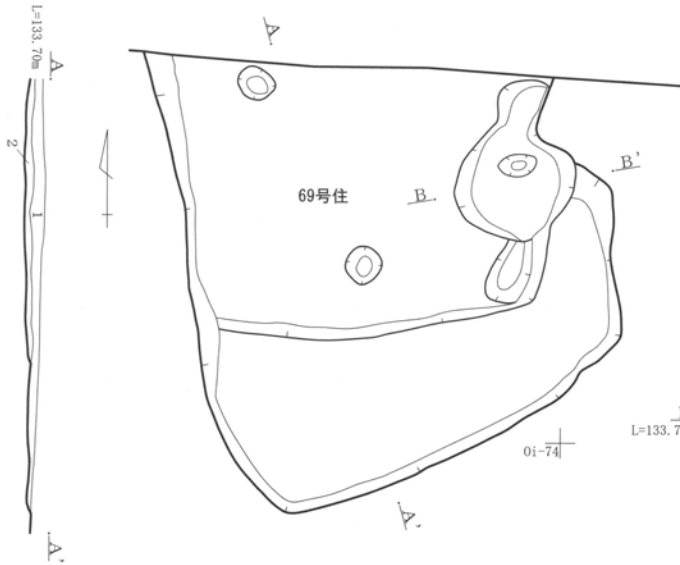
- 1 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰を少量含む。
- 2 焼土層
- 3 灰層
- 4 黄褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。

67号住居跡土坑 F-F'

- 1 灰黄褐色土層 黄白色土粒子を多量に含む。



第246図 67号住居跡・98号住居跡

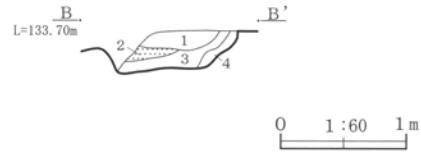


69号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

カマド B-B'

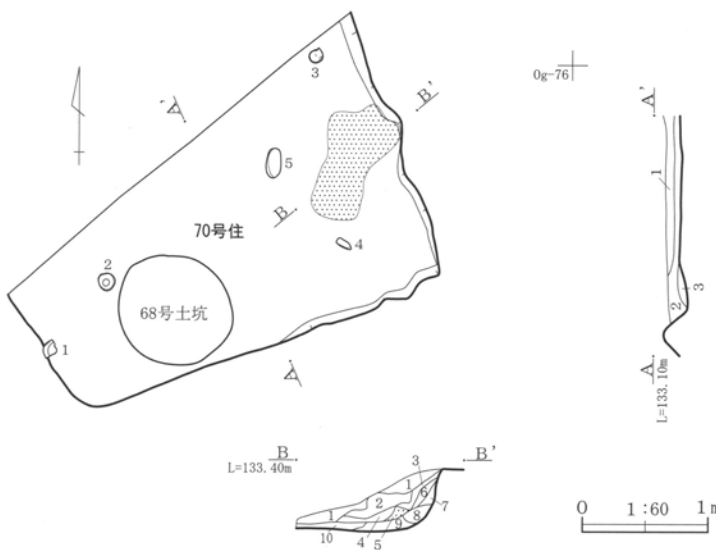
- 1 灰褐色土層 軟らかい。焼土粒子、黄白色土粒子、灰を少量含む。
- 2 灰層
- 3 黄褐色土層 粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 4 黄灰褐色土層 粘性あり。



第247図 69号住居跡

壁 高 住居跡確認面より約2~12cmで床面。
 床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約9.3m²。
 周 溝 検出できなかった。
 竈 東壁に位置し、燃烧部の多くは床面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向86cm、両袖方向54cmである。
 柱 穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が少量出土している。
 時 期 8世紀。

70号住居跡 (①第248図②第231・232図、P L.243・287)
 位 置 Og-75・76グリッドにかけて検出された。68号土坑によって壊されている。完掘できなかった。
 形 状 東西約3.3m、現状での南北約2.2mである。
 方 位 N-70° - E。
 覆 土 3層に分かれた。
 壁 高 住居跡確認面より約10~16cmで床面。
 床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約5.6m²。
 周 溝 検出できなかった。
 竈 東壁に位置し、燃烧部の多くは床面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向60cm、両袖



70号住居跡 A-A'

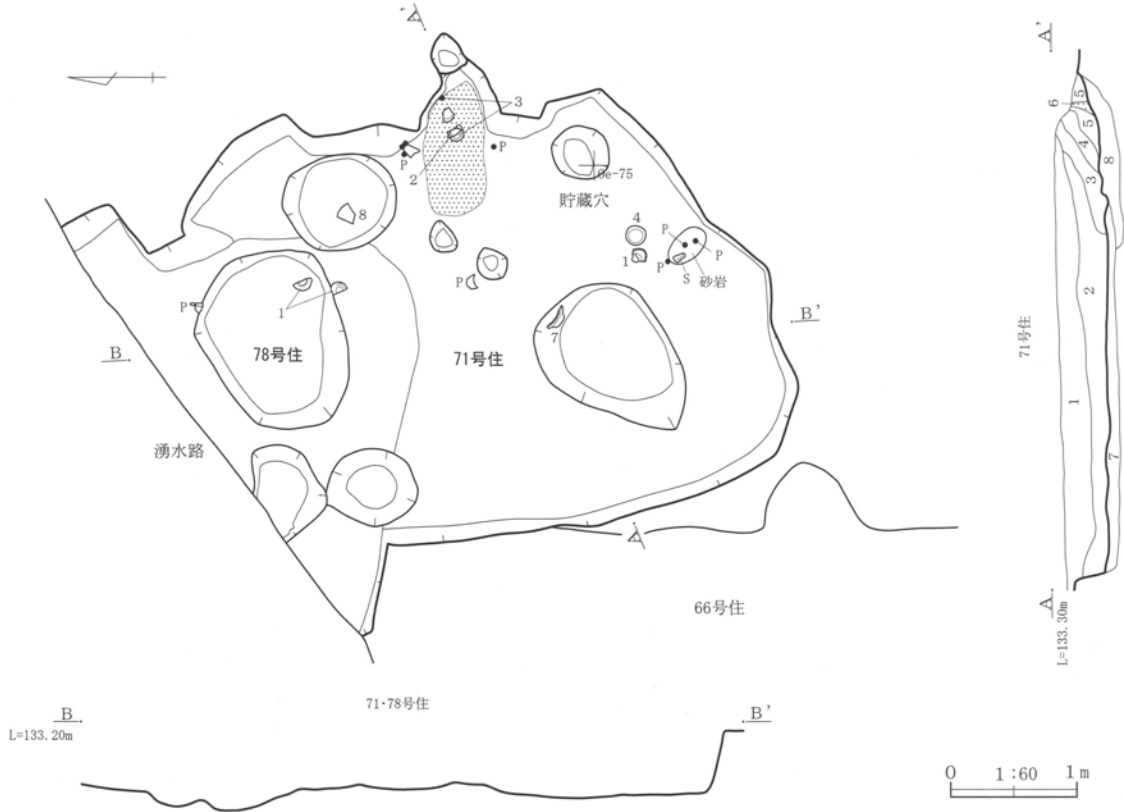
- 1 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 上層よりも軟らかい。黄褐色土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 黄褐色土ブロックを含む。

カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを含む。
- 2 灰白色土層 軟らかくて粘性あり。
- 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土を多量に含む。
- 4 灰白色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土を多量に含む。
- 5 灰層
- 6 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土を多量に含む。
- 7 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 8 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰を含む。
- 9 暗褐色土層 焼土、灰を含む。
- 10 暗褐色土層 硬く縮まる。焼土粒子、灰、黄褐色土粒子を含む。

第248図 70号住居跡

(1) 竪穴住居跡



71号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 上層よりも軟らかくて暗い色調。炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。

- 4 灰白色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 5 褐色土層 やや硬く締まる。焼土を多量に含む。
- 6 灰層
- 7 暗褐色土層 黄褐色土粒子を含む。
- 8 暗褐色土層 軟らかい。焼土、炭化物を含む。

第249図 71号住居跡・78号住居跡

方向40cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕の破片が少量出土している。

時 期 7世紀後半。

71号住居跡 (①第249図②第233・234図、P L.243・244・287)

位 置 Od-74・75、Oe-75・76グリッドにかけて検出された。78号住居跡と重複している。

形 状 長径約3.4m、短径約3.3mの方形を呈するものと思われる。

方 位 N-60° - E。

覆 土 8層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約38cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約9.4m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向64cm、両袖方向42cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径45cm、短径43cm、深さ12cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏、埴や甕が出土している。

時 期 8世紀前半。

78号住居跡 (①第249図②第242図、P L.244・289)

位 置 Oe-75グリッドにおいて検出された。71号

第6章 VI区 検出の遺構

住居跡と重複している。完掘できなかつた。

形状 東西約3.1m、南北約2.8mを確認できた。

方位 不明。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床面 凹凸がある。現状での面積は約4.6m²。

周溝 検出できなかつた。

竈 不明。

柱穴 検出できなかつた。

貯蔵穴 検出できなかつた。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の破片が少量出土している。

時期 8世紀前半。

72号住居跡 (①第250図②第235図、P.L.245・287)

位置 Nr-75・76グリッドにかけて検出された。

73号・74号住居跡と重複している。50号溝によって壊されている。

形状 長辺約3.5m、短辺約3mの方形を呈する。

方位 N-75° - E。

覆土 6層(3~8層)に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約9.8m²。

周溝 検出できなかつた。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは床面に造られている。規模は煙道方向74cm、両袖方向46cmである。

柱穴 検出できなかつた。

貯蔵穴 検出できなかつた。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕が少量出土している。

時期 7世紀後半。

73号住居跡 (①第250図、P.L.245)

位置 Nr-75・76グリッドにかけて検出された。

72号住居跡によって壊されている。

形状 一辺約3mを確認できた。

方位 不明。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 検出できなかつた。

竈 不明。

柱穴 検出できなかつた。

貯蔵穴 検出できなかつた。

遺物 覆土中から遺物の出土はなかつた。

時期 不明。

74号住居跡 (①第250図②第236~239図、P.L.245・246・287・288)

位置 Nq・Nr-76・77グリッドにかけて検出された。72号・82号住居跡と重複している。50号溝によって壊されている。

形状 長辺約6m、短辺約4.7mの長方形を呈する。

方位 N-89° - E。

覆土 6層(3~8層)に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約50cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約18.2m²。

周溝 検出できなかつた。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向86cm、両袖方向70cmである。

柱穴 検出できなかつた。

貯蔵穴 検出できなかつた。

遺物 竈や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏、碗や甕が出土している。14~17は50号溝の遺物。

時期 8世紀後半。

75号住居跡 (①第251図②第240図、P.L.246・289)

位置 Ns-75グリッドにおいて検出された。42号溝によって壊されている。完掘できなかつた。

形状 東西約2.5mを確認できた。

方位 N-83° - E。

覆土 竈覆土は2層に分かれた。

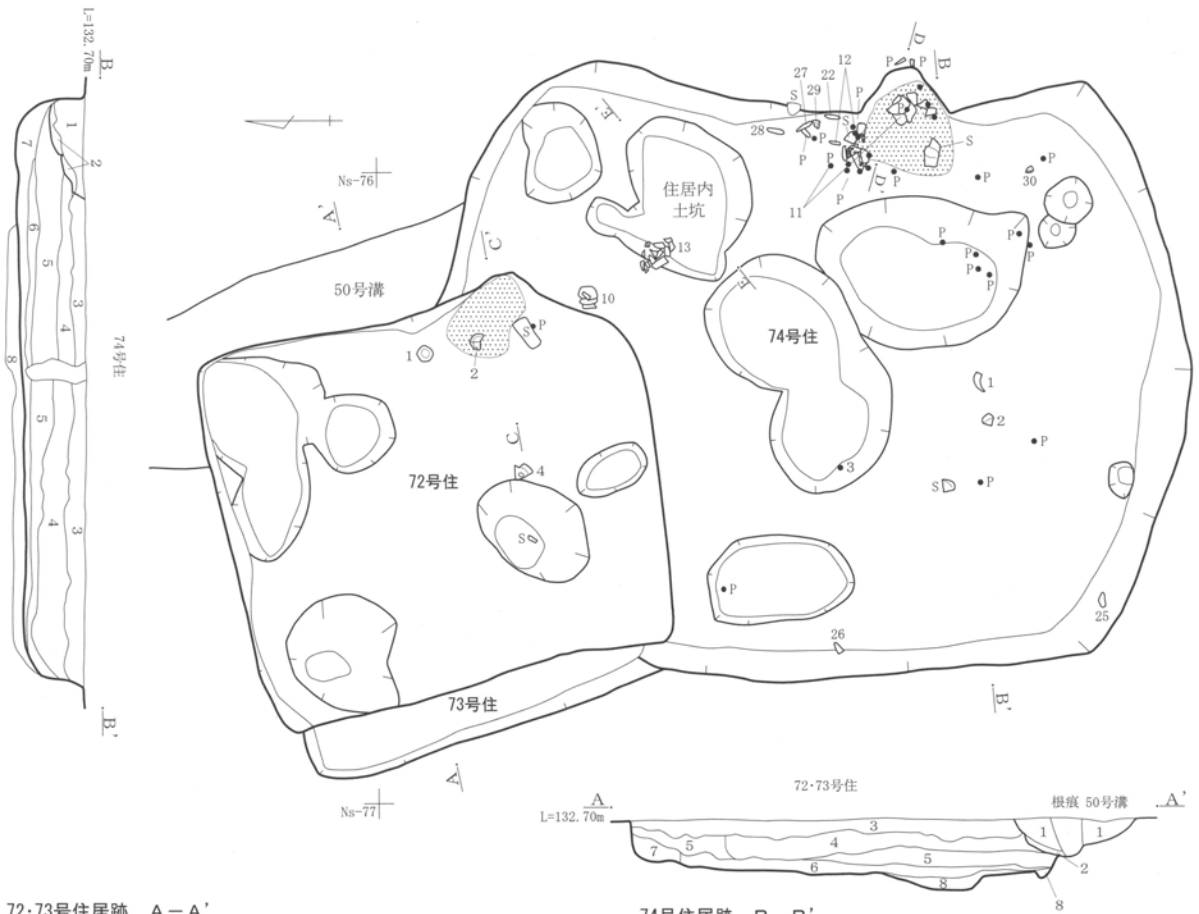
壁高 ほとんど検出できなかつた。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約2.6m²。

周溝 検出できなかつた。

竈 東壁に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込

(1) 竪穴住居跡

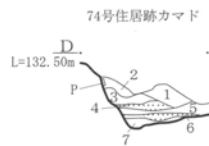
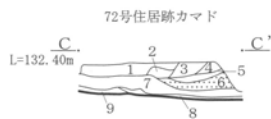


72・73号住居跡 A-A'

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | 硬く締まる。砂、灰白色土粒子を含む。 50号溝覆土 |
| 2 暗褐色粘質土層 | 50号溝覆土 |
| 3 暗褐色土層 | 硬く締まる。粘質土ブロック、As-C・Hr-FAを含む。 |
| 4 暗褐色土層 | やや軟らかい。As-C・Hr-FAを含む。 |
| 5 暗褐色土層 | 4層と同様であるが砂質。 |
| 6 暗褐色土層 | 硬く締まる。As-C・Hr-FAを少量含む。 |
| 7 暗褐色砂質土層 | |
| 8 黒褐色粘質土層 | 黄褐色土ブロックを含む。 |

74号住居跡 B-B'

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。 50号溝覆土 |
| 2 暗褐色粘質土層 | 50号溝覆土 |
| 3 暗褐色土層 | 硬く締まる。 粘質土ブロック、As-C・Hr-FAを含む。 |
| 4 暗褐色土層 | 軟らかい。As-C・Hr-FA、炭化物を含む。 |
| 5 暗褐色土層 | As-C・Hr-FAを少量含む。 |
| 6 暗褐色粘質土層 | 硬く締まる。 |
| 7 黒褐色粘質土層 | 黄褐色土粒子を少量含む。 |
| 8 黒褐色粘質土層 | 黄褐色土ブロックを含む。 |



72号住居跡カマド C-C'

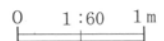
- | | |
|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色土層 | 硬く締まる。As-C・Hr-FA、炭化物を含む。 |
| 2 暗褐色土層 | 黄白色土とAs-C・Hr-FAを含む。 |
| 3 黄褐色土層 | 軟らかい。白色、黄白色土粒子を多く含む。 |
| 4 黄褐色粘質土層 | |
| 5 黄褐色粘質土層 | 炭化物を含む。 |
| 6 灰層 | |
| 7 暗褐色土層 | 硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。 |
| 8 黄褐色粘質土層 | 黄白色土ブロック混入。 |
| 9 暗褐色粘質土層 | As-C・Hr-FAを少量含む。 |

74号住居跡カマド D-D'

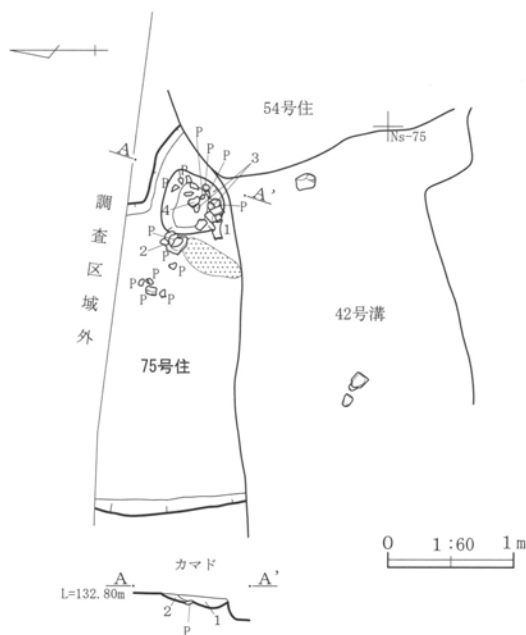
- | | |
|-----------|-----------------|
| 1 黄褐色粘質土層 | 黄白色土粒子、焼土粒子を含む。 |
| 2 黄褐色粘質土層 | |
| 3 黄褐色土層 | 焼土を多量に含む。 |
| 4 灰層 | |
| 5 黄褐色土層 | |
| 6 灰層 | |
| 7 褐色土層 | 焼土を少量含む。 |

74号住居内土坑 E-E'

- | | |
|-----------|------------|
| 1 暗褐色粘質土層 | 黄白色土粒子を含む。 |
|-----------|------------|



第250図 72号住居跡・73号住居跡・74号住居跡



75号住居跡 A-A'
 1 褐色土層 やや軟らかい。焼土を含む。
 2 暗褐色土層 やや軟らかい。焼土、炭化物を含む。

第251図 75号住居跡

んで造られている。規模は煙道方向114cm、両袖方向62cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が少量出土している。

時 期 9世紀後半。

79号住居跡 (①第252・253図②第243～246図、P.L.246・247・289・290)

位 置 Ns・Nt-78・79グリッドにかけて検出された。35号住居跡に近接している。

形 状 長辺約5.2m、短辺約4.3mの方形を呈する

覆 土 上層からHr-FA、床面上からAs-C層を検出。

壁 高 住居跡確認面より約90cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は約17.7m²。

周 溝 検出できなかった。

炉 不明。

柱 穴 4個のピットを検出した。1は長径35cm、短径33cm、深さ19cm。2は長径32cm、短径31cm、深さ16cm。3は長径40cm、短径35cm、深さ15cm。

4は長径46cm、短径38cm、深さ20cmである。

貯蔵穴 南壁下から長径53cm、短径39cm、深さ28cmのピットを検出。周囲に床面の高まりが認められる。

遺 物 覆土中(5～6層)から多量の土器が出土した。

時 期 3世紀終末～4世紀。

80号住居跡 (①第254図、P.L.248)

位 置 Oe・Of-75・76グリッドにかけて検出された。65号・66号・76号住居跡と重複している。

形 状 長辺約5.2m、短辺約4.4mの長方形。

方 位 N-85°-E。

覆 土 4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約43cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。面積は約19.7m²。

周 溝 北壁と西壁の一部で検出。幅10～16cm、深さ2～4cmである。

竈 東壁のほぼ中央に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向76cm、両袖方向38cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 不明。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の甕の破片が出土している。

時 期 不明。

81号住居跡 (①第255図②第247図、P.L.249・291)

位 置 Of・Og-76・77グリッドにかけて検出された。80号住居跡によって壊されている。

形 状 長辺約6.2m、短辺約4.3mの長方形。

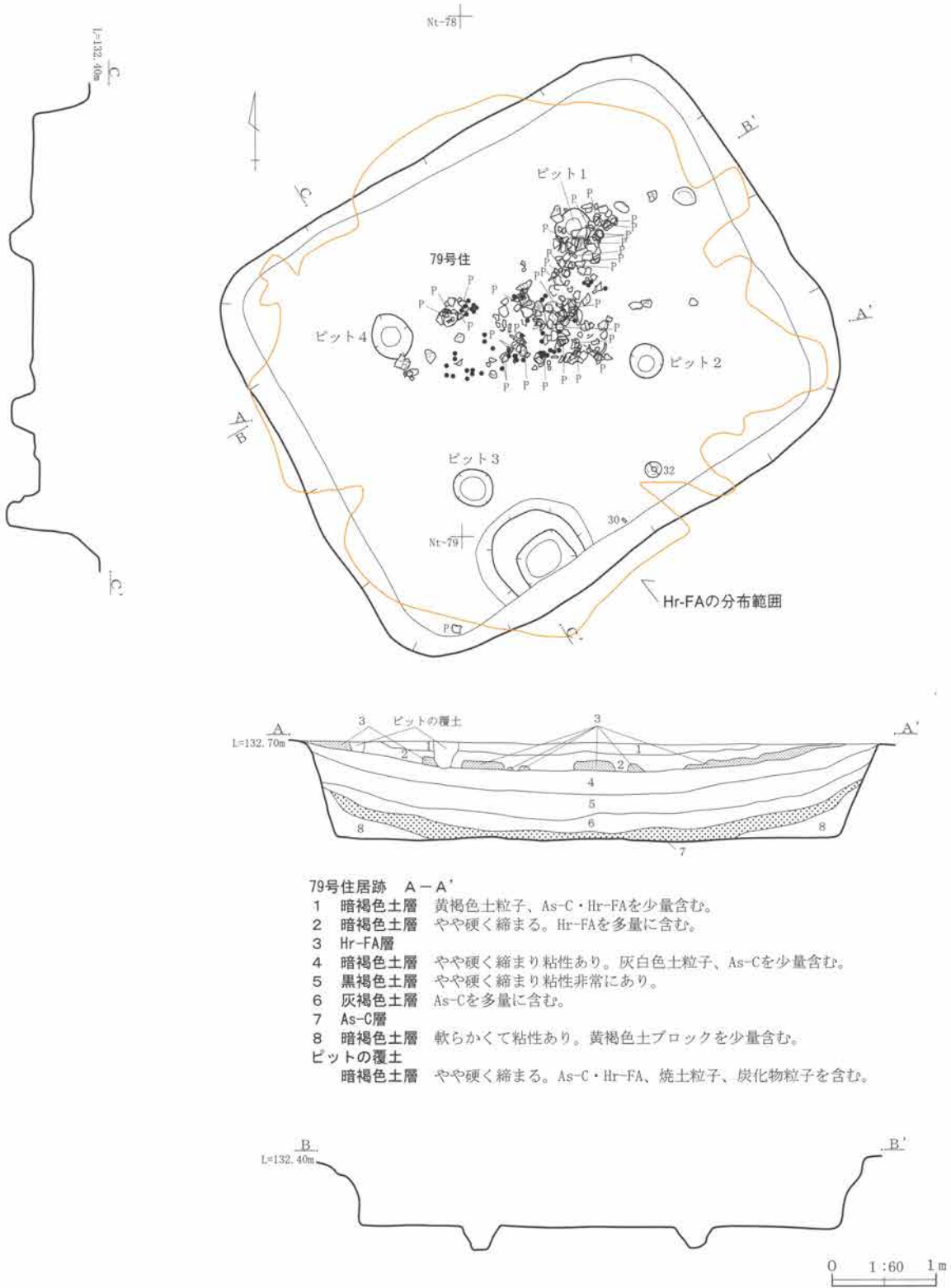
覆 土 床面から約40cm上層にAs-C層を検出。厚さ3～10cm。

壁 高 住居跡確認面より約70cmで床面に達する。

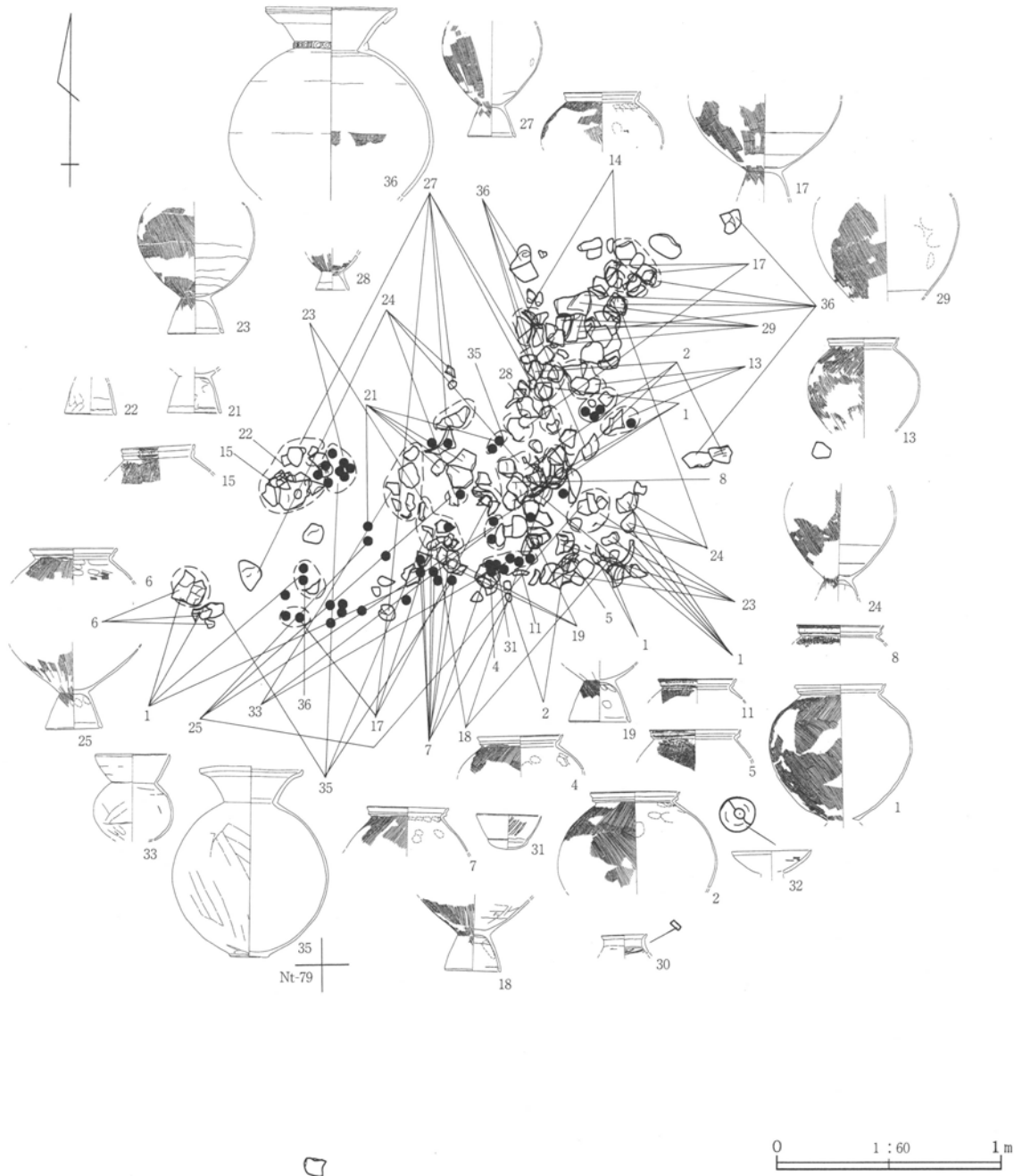
床 面 ほぼ平坦である。面積は約23.7m²。

周 溝 全周していたものと思われる。幅5～15cm、深さ2～6cmである。

炉 ピット4の近くから検出。地床炉で長径64cm、短径37cm、深さ8cmである。



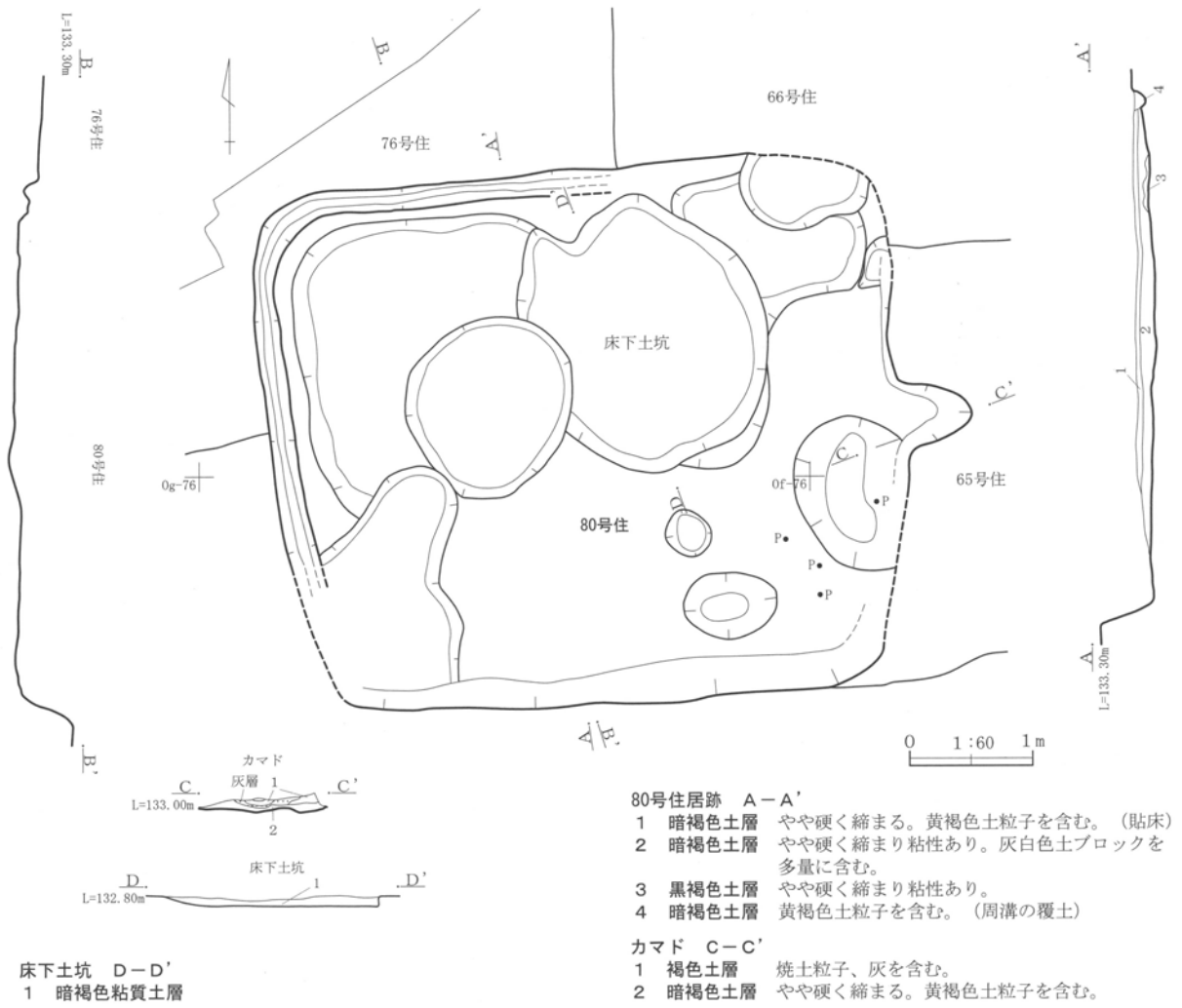
第252図 79号住居跡



第253図 79号住居跡遺物分布図

79号住居跡

| 番号 | 床面からの高さ | 番号 | 床面からの高さ | 番号 | 床面からの高さ |
|----|-------------|----|-------------|----|-------------|
| 1 | 3~22.2cm | 15 | 20.6cm | 28 | 16cm |
| 2 | 8~22.6cm | 17 | 3~30.3cm | 29 | 13~21.7cm |
| 4 | 13.8cm | 18 | 8~16.6cm | 30 | 2.4cm |
| 5 | 12.8cm | 19 | 8~21.9cm | 31 | 5.6cm |
| 6 | 20.8~22.2cm | 21 | 5~12.6cm | 32 | 1.5cm |
| 7 | 8~18.4cm | 22 | 20.6cm | 33 | 8.3~19cm |
| 8 | 10.3cm | 23 | 8~20.7cm | 35 | 8~21cm |
| 11 | 16cm | 24 | 7.5~22.7cm | 36 | 11.3~44.2cm |
| 13 | 13.6~17.2cm | 25 | 7.5~15.5cm | | |
| 14 | 20~22.7cm | 27 | 10.2~18.8cm | | |



第254図 80号住居跡

柱 穴 4個のピットを検出した。1は長径53cm、短径38cm、深さ20cm。2は長径30cm、短径27cm、深さ50cm。3は長径30cm、短径28cm、深さ49cm。4は長径23cm、短径20cm、深さ30cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 北壁下の床面上に焼土、炭化物が多量に出土。また、弥生土器が出土した。

時 期 弥生時代後期。

82号住居跡 (①第256図②第248図、P.L.250・291)

位 置 Nq-76・77、Nr-76グリッドにかけて検出された。74号住居跡と重複している。

形 状 長辺約4.6m、短辺約4.1mの方形を呈する。

方 位 N-36° - W。

覆 土 床面直上からAs-C層を検出。厚さ8～14cm。また、最上層にはFr-FA層が検出できた。

壁 高 住居跡確認面より約70cmで床面に達する。

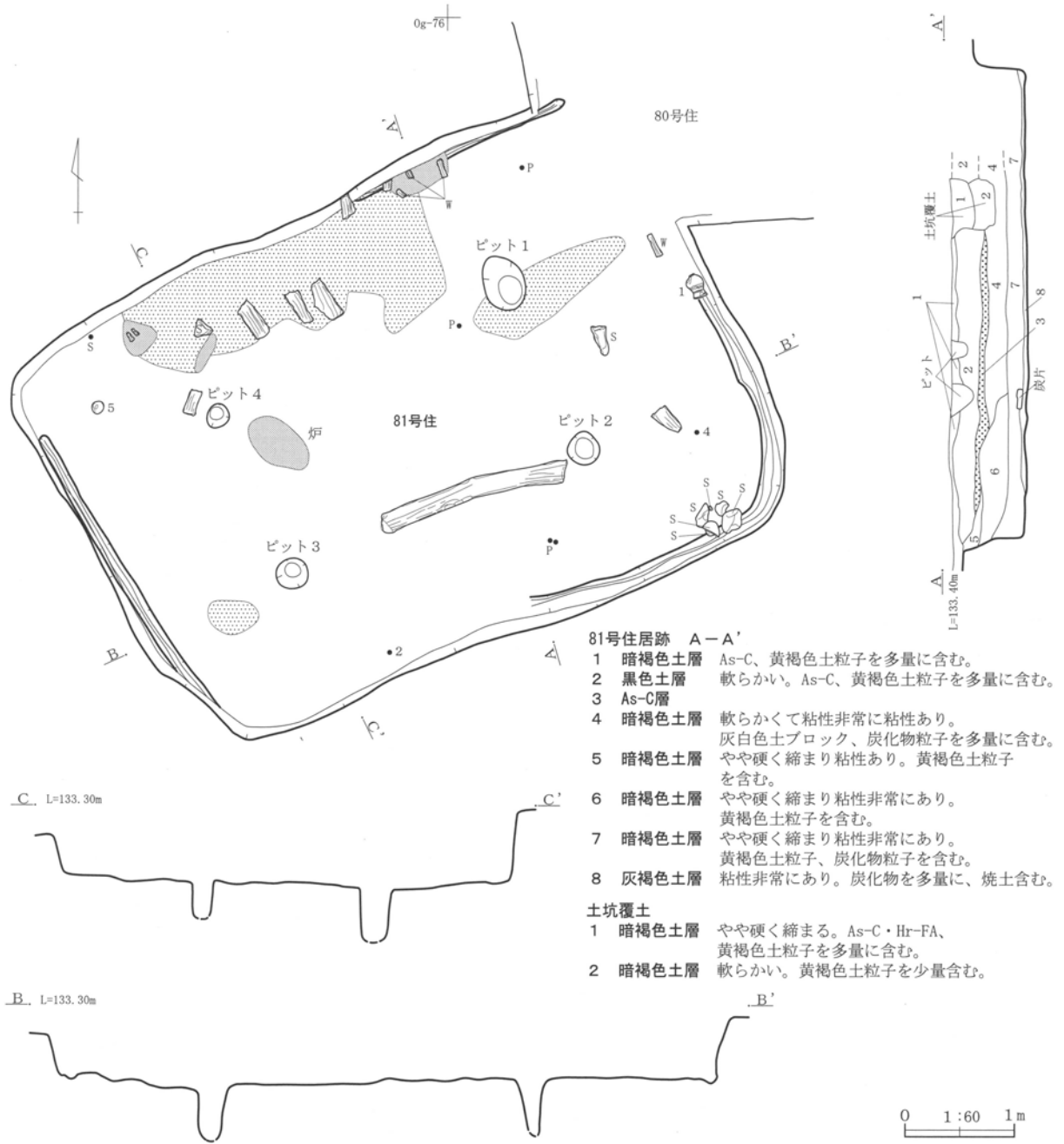
床 面 ほぼ平坦である。面積は約16.6㎡。南壁の隅から土坑が検出された。長径70cm、短径50cm、深さ44cmである。

周 溝 検出できなかった。

炉 ピット3とピット4の中間からやや北に位置する石が、炉に配置されたものと思われる。

柱 穴 4個のピットを検出した。1は長径33cm、短径27cm、深さ61cm。2は長径40cm、短径37cm、深さ42cm。3は長径39cm、短径38cm、深さ35cm。4は長径26cm、短径25cm、深さ40cmである。

遺 物 2は床上約32.6cm、3は同じく約1.7cm、4



第255図 81号住居跡

は約15.1cm、5は約34.2cmの所から出土している。

時期 3世紀終末～4世紀。

84号住居跡 (①第257図、P.L.251)

位置 Nr-74・75、Ns-74グリッドにかけて検出された。54号住居跡と重複し、50・42号溝によって壊されている。

形状 一辺約2.9mの正方形を呈する。

方位 不明。

壁高 住居跡確認面より約30～42cmで床面。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約6.2m²。

周溝 検出できなかった。

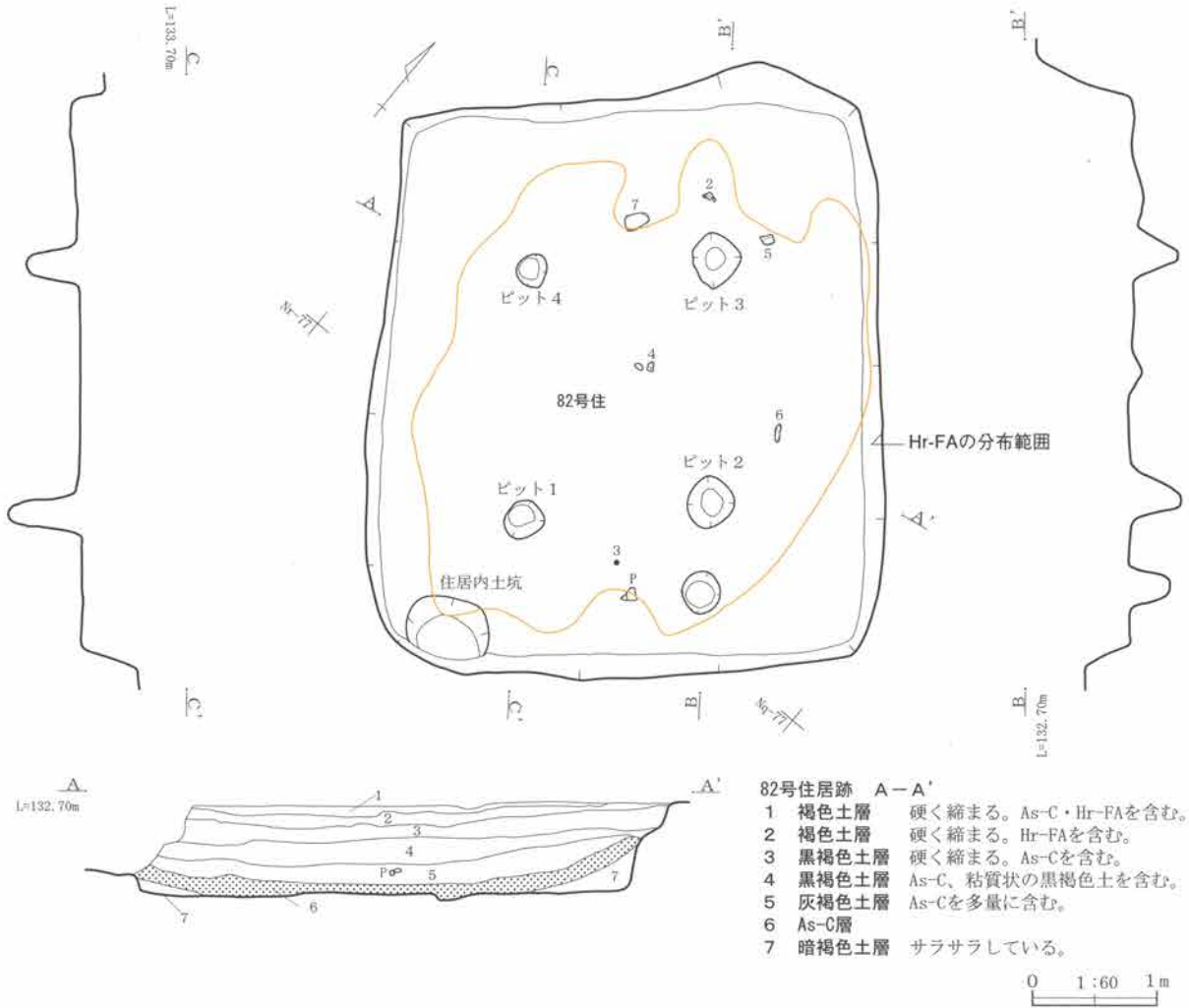
竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどなかった。

(1) 竪穴住居跡



第256図 82号住居跡

時期 不明。

85号住居跡 (①第257図②第249図、P.L.251・291)

位置 Ng-80・81グリッドにかけて検出された。

50・57号溝や土坑によって壊されている。

形状 長辺約4.1m、短辺約3.7mの方形を呈する。

方位 N-87° - E。

覆土 7層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約42~60cmで床面。

床面 やや凹凸がある。面積は約13.3m²。住居内土坑が検出されている。長径107cm、短径105cm、深さ16.5cmである。

周溝 全周している。幅10~25cm、深さ0.8~4cmである。

竈 東壁の南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向118cm、両袖方向40cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 7世紀。

86号住居跡 (①第258図②第250・251図、P.L.252・291・292)

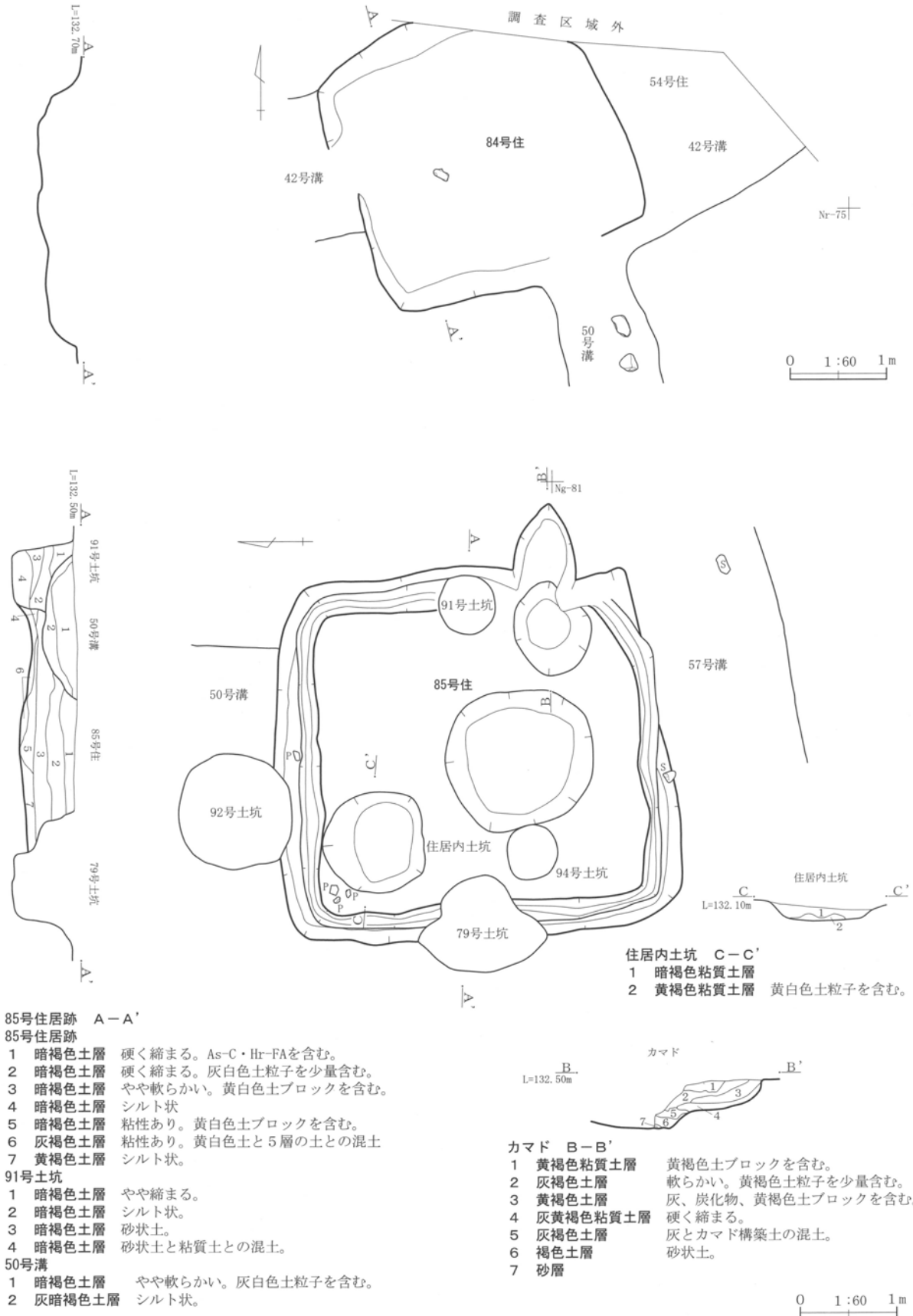
位置 Ns-83グリッドにおいて検出された。

形状 長辺約2.8m、短辺約2.7mの方形を呈する。

方位 N-76° - E。

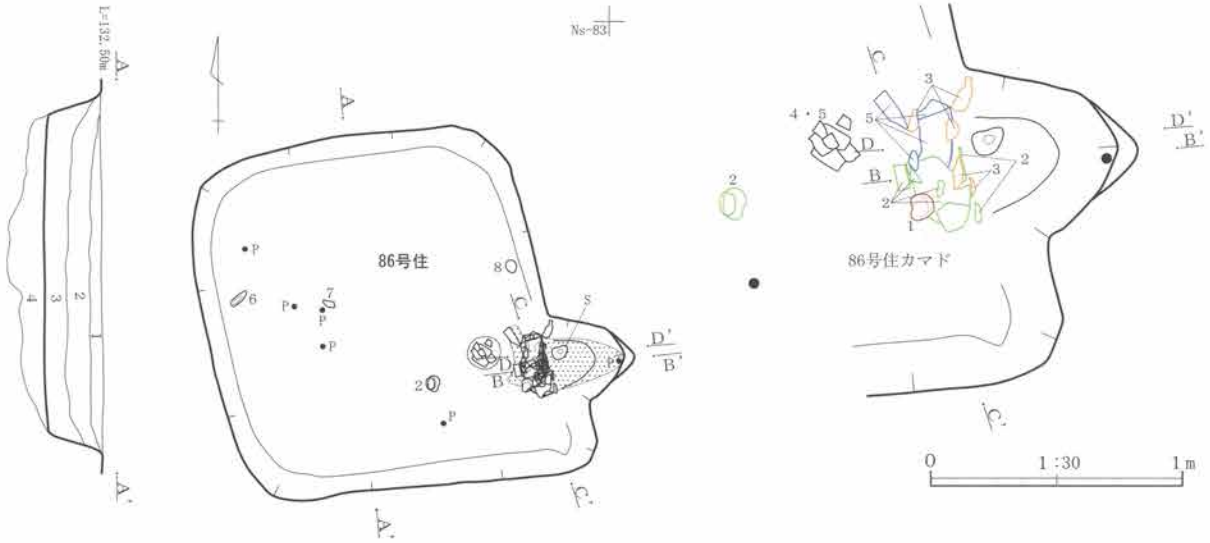
覆土 4層に分かれた。

第6章 VI区 検出の遺構



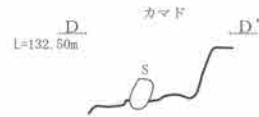
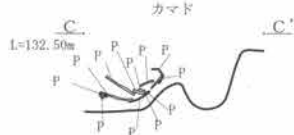
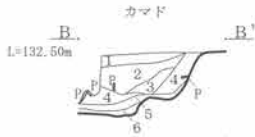
第257図 84号住居跡・85号住居跡

(1) 竪穴住居跡



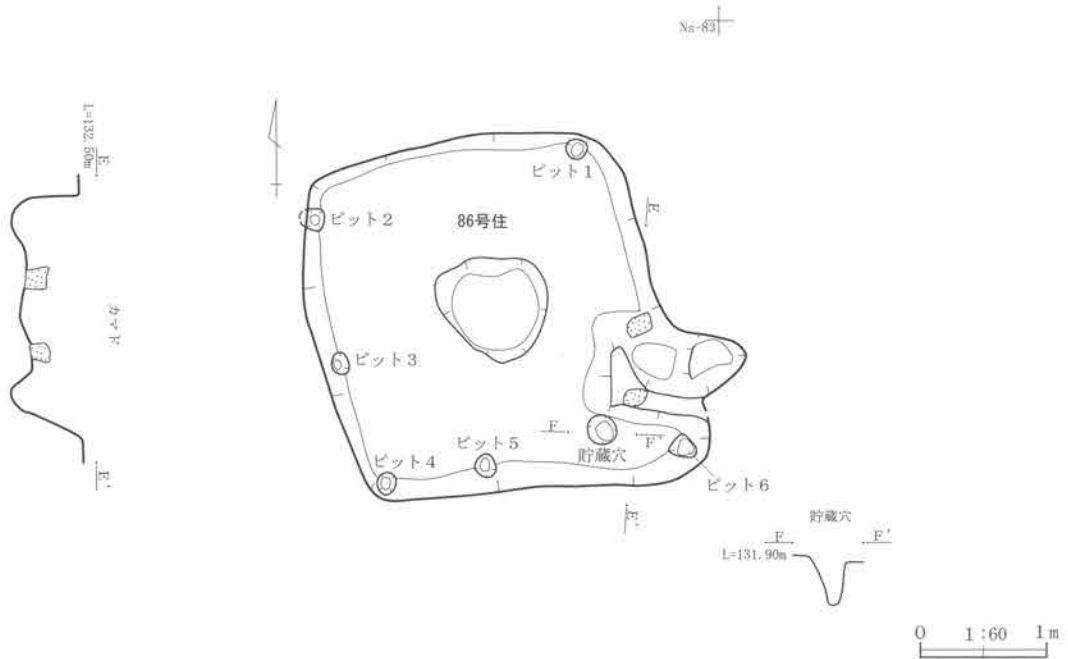
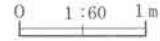
86号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロック、灰白色土ブロックを含む。

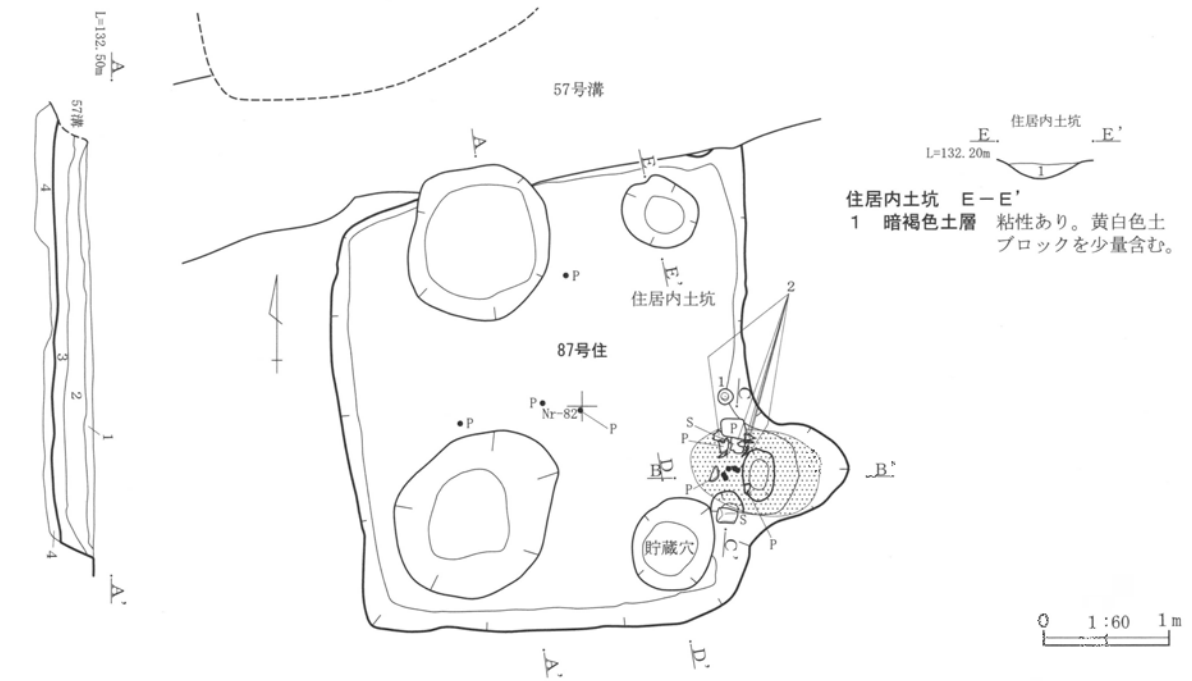


カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。
- 2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を含む。
- 4 褐色土層 軟らかい。焼土粒子を含む。
- 5 灰層
- 6 暗褐色土層 軟らかい。

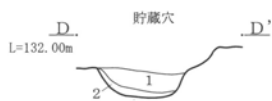


第258図 86号住居跡・カマド・掘り方



87号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土が混じる。



貯蔵穴 D-D'

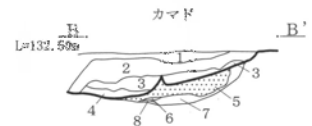
- 1 灰褐色粘質土層 黄白色土ブロックを含む。
- 2 灰褐色土層 1層よりも砂状。黄白色土粒子を含む。



カマド B-B'

カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰を多量に含む。
- 5 灰層 焼土を含む。
- 6 焼土層
- 7 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を含む。
- 8 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。



第259図 87号住居跡

壁 高 住居跡確認面より約42cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は約6㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両袖方向46cmである。袖石が残り、甕が横たわっていた。

柱 穴 掘り方調査時に6個のピットを検出した。1は長径18cm、短径16cm、深さ9.4cm。2は長径20cm、短径17cm、深さ6.9cm。3は長径19cm、短径14cm、深さ4.6cm。4は長径19cm、短径15cm、深さ9.7cm。5は長径18cm、短径16cm、深さ3.1cm。6は長径20cm、短径17cm、深さ9cmである。

貯蔵穴 掘り方調査時に検出。長径24cm、短径

23cm、深さ36cmである。

遺 物 竈を中心に土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時 期 6世紀後半。

87号住居跡 (①第259図②第252図、P.L.253・292)

位 置 Nq・Nr-81・82グリッドにかけて検出された。57号溝に接している。

形 状 長辺約3.7m、短辺約3.1~3.3mの方形。

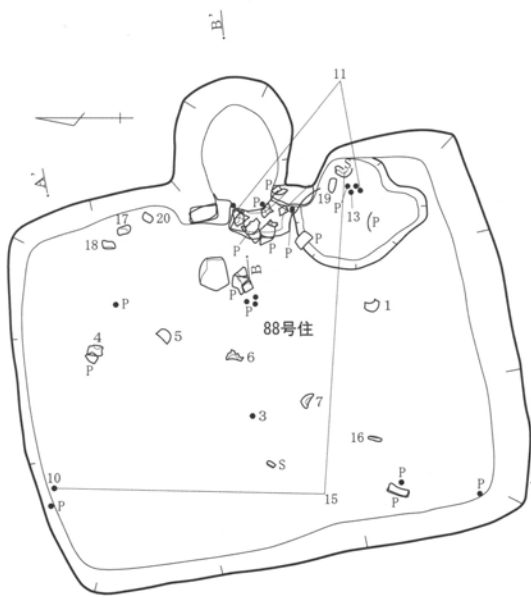
方 位 N-89°-E。

覆 土 4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約24~30cmで床面。

床 面 やや凹凸がある。面積は約10.2㎡。住居内土

(1) 竪穴住居跡



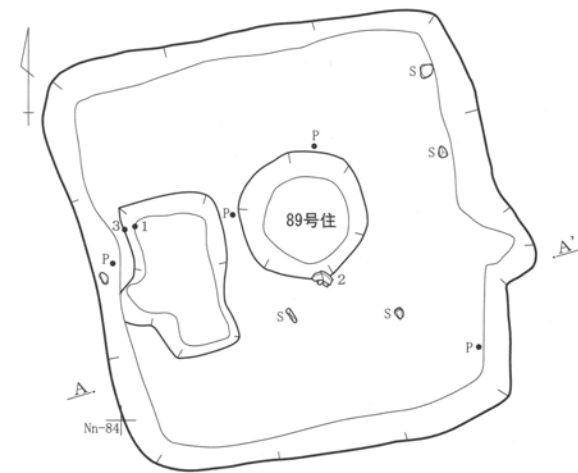
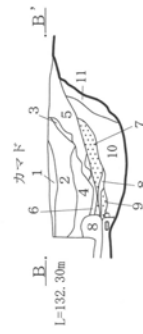
88号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層よりも軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 粘性あり。赤褐色土粒子を含む。



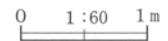
カマド B-B'

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、As-C・Hr-FAを含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰白色土ブロックを含む。
- 3 焼土層
- 4 灰褐色土層 非常に軟らかくて粘性あり。焼土、灰を含む。
- 5 褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を多量に含む。
- 6 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を含む。
- 7 灰層
- 8 赤褐色土層 焼土層
- 9 灰層
- 10 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰、炭化物を含む。
- 11 暗褐色土層 硬く締まる。焼土を含む。



89号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 上層より軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて非常に粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 4 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。壁のくずれ。
- 5 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色土ブロック、黄白色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 7 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土を含む。
- 8 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土ブロック、黄白色土粒子を含む。
- 9 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土ブロック、黄白色土粒子を多量に含む。



坑の規模は長径61cm、短径52cm、深さ11cmである。

周溝 検出できなかった。

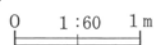
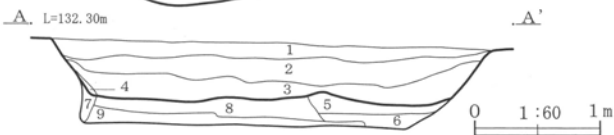
竈 東壁の中央やや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向116cm、両袖方向64cmである。袖石が残る。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径80cm、短径62cm、深さ20cmを測る。

遺物 竈や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 8世紀。



88号住居跡 (①第260図②第253・254図、P.L.254・292)

位置 Nn・No-81グリッドにかけて検出された。93号住居跡に近接している。

形状 長辺約4.5m、短辺約3.2mの長方形。

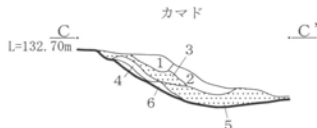
方位 N-77°-E。

第260図 88号住居跡・89号住居跡

第6章 VI区 検出の遺構

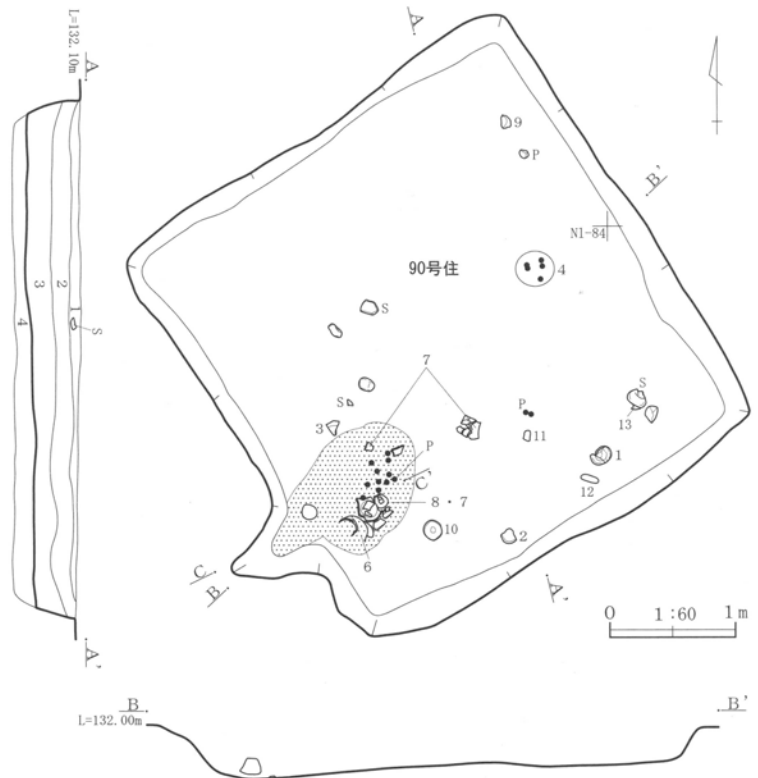
90号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。



カマド C-C'

- 1 赤褐色土層 粘性あり。焼土を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土を含む。
- 3 灰層 焼土を多量に含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 5 灰層 軟らかい。炭化物、焼土を含む。
- 6 暗褐色土層 粘性あり。



第261図 90号住居跡

覆土 4層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。
 床面 ほぼ平坦である。面積は約11.8m²。
 周溝 検出できなかった。
 竈 東壁の中央やや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向120cm、両袖方向80cmである。袖石が残る。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 竈や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。
 時期 8世紀前半。

覆土 9層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約44cmで床面に達する。
 床面 やや凹凸がある。面積は約8.5m²。
 周溝 検出できなかった。
 竈 東壁の中央やや南に位置し、燃烧部の一部は壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向52cm、両袖方向30cmである。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。
 時期 6世紀後半。

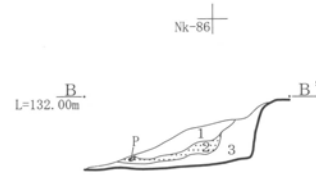
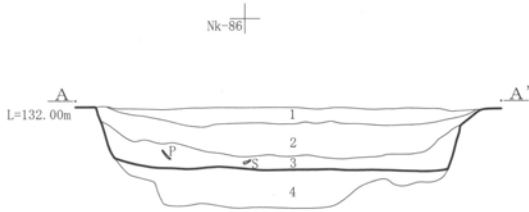
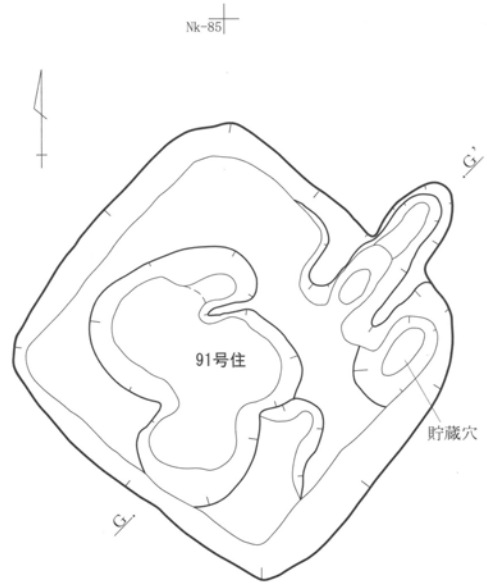
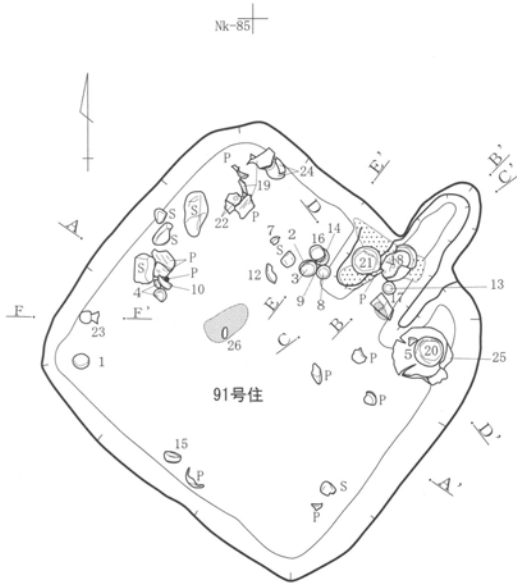
89号住居跡 (①第260図②第255図、P L.255・292)

位置 Nm-83・84、Nn-83グリッドにかけて検出された。90号住居跡の北西約3mの所に位置する。
 形状 一辺約3.3~3.4mの正方形を呈する。
 方位 N-81°-E。

90号住居跡 (①第261図②第256・257図、P L.256・292・293)

位置 Nk・Nl-83・84グリッドにかけて検出された。101号住居跡の西約3mの所に位置する。
 形状 長辺約3.9m、短辺約3.6mの方形を呈する。
 方位 N-124°-W。

(1) 竪穴住居跡

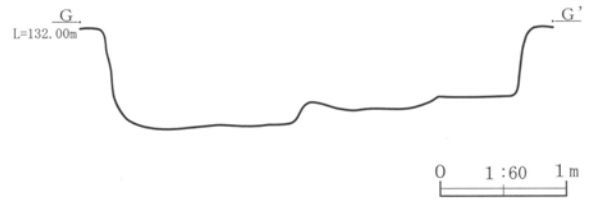
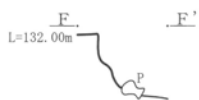
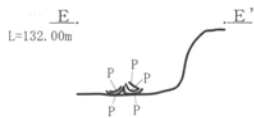
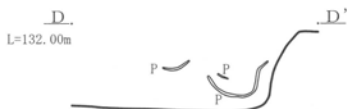
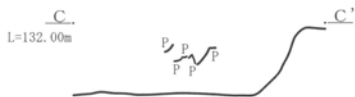


91号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物を多量に含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色土ブロックを含む。

カマド B-B'

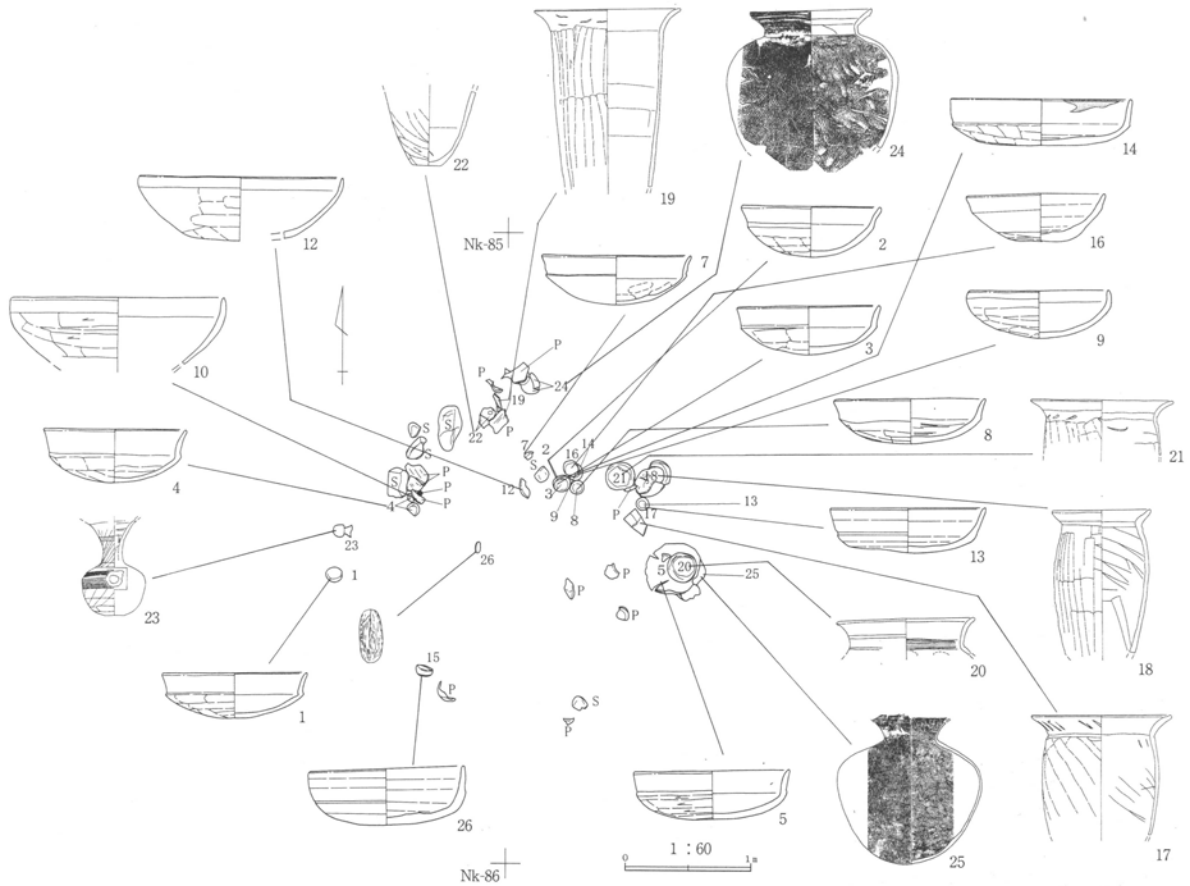
- 1 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。カマドの天井の崩落土。
- 2 灰層
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物を含む。



91号住居跡

| 番号 | 床面からの高さ | 番号 | 床面からの高さ | 番号 | 床面からの高さ |
|----|-----------|----|-------------|----|-------------|
| 1 | 1cm | 10 | 14.5cm | 19 | 4.6~20.4cm |
| 2 | 2.2cm | 12 | 16cm | 20 | 10cm |
| 3 | 12cm | 13 | 1.6cm | 21 | 19.8cm |
| 4 | 10~14.5cm | 14 | 1.2cm | 22 | 4.7cm |
| 5 | 36.5cm | 15 | 17cm | 23 | 0.8cm |
| 7 | 17.7cm | 16 | 14cm | 24 | 17.8~44.5cm |
| 8 | 2.6cm | 17 | 15.8cm | 25 | 2.8cm |
| 9 | 0.2cm | 18 | 13.8~14.5cm | 26 | 9.3~13.4cm |

第262図 91号住居跡・掘り方



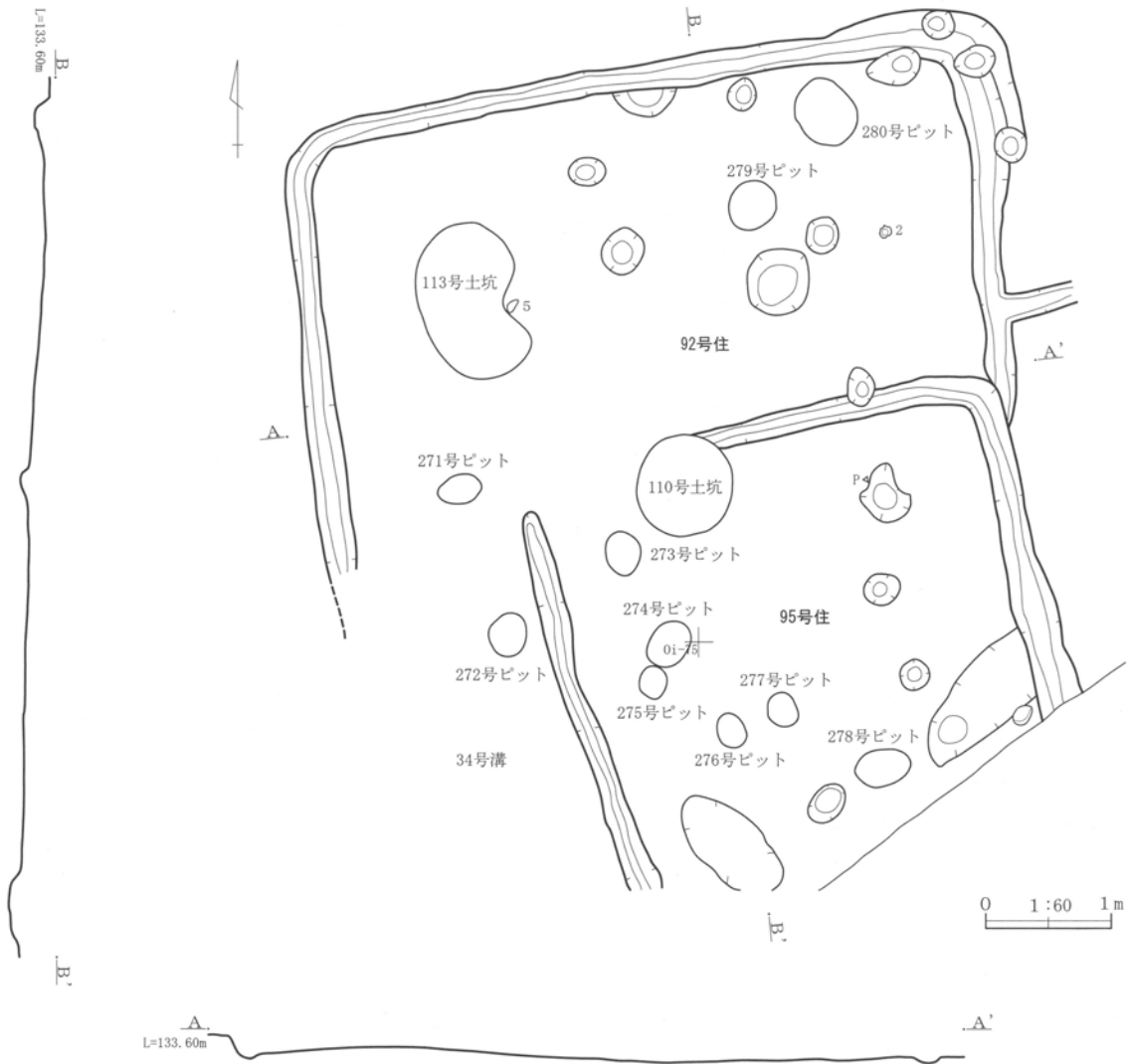
第263図 91号住居跡遺物分布図

覆土 4層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約34~43cmで床面。
 床面 やや凹凸がある。面積は約11.9m²。
 周溝 検出できなかった。
 竈 西壁の中央やや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向80cm、両袖方向30cmである。支脚(石)が残る。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 竈周辺や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕が出土している。
 時期 6世紀後半。

91号住居跡 (①第262・263図②第258~260図、P.L.256・257・293・294)

位置 Nj・Nk-85グリッドにかけて検出された。

96号住居跡の北西約3.5mの所に位置する。
 形状 長辺約3m、短辺約2.8mの方形を呈する。
 方位 N-38°-E。
 覆土 4層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約44~50cmで床面。
 床面 ほぼ平坦である。面積は約6.4m²。
 周溝 検出できなかった。
 竈 北壁の中央やや東に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向96cm、両袖方向34cmである。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 長径80cm、短径40cm、深さ12cmを測る。
 遺物 竈や貯蔵穴、壁際や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕が出土している。
 時期 7世紀後半。



第264図 92号住居跡・95号住居跡

92号住居跡 (①第264図②第261図、P.L.258・294)

位置 Oh・Oi-74グリッドにかけて検出された。

95号住居跡と重複している。

形状 長辺約5.8m、現状での短辺約3.4mの長方形。

方位 不明。

覆土 暗褐色砂質土層である。

壁高 住居跡確認面より約15cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は約17.6㎡。

周溝 全周していたものと思われる。幅13～36cm、深さ6cmである。

柱穴 ピットは検出されているが、住居に伴うものかどうかは不明である。

貯蔵穴 不明。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 8世紀。

95号住居跡 (①第264図、P.L.258)

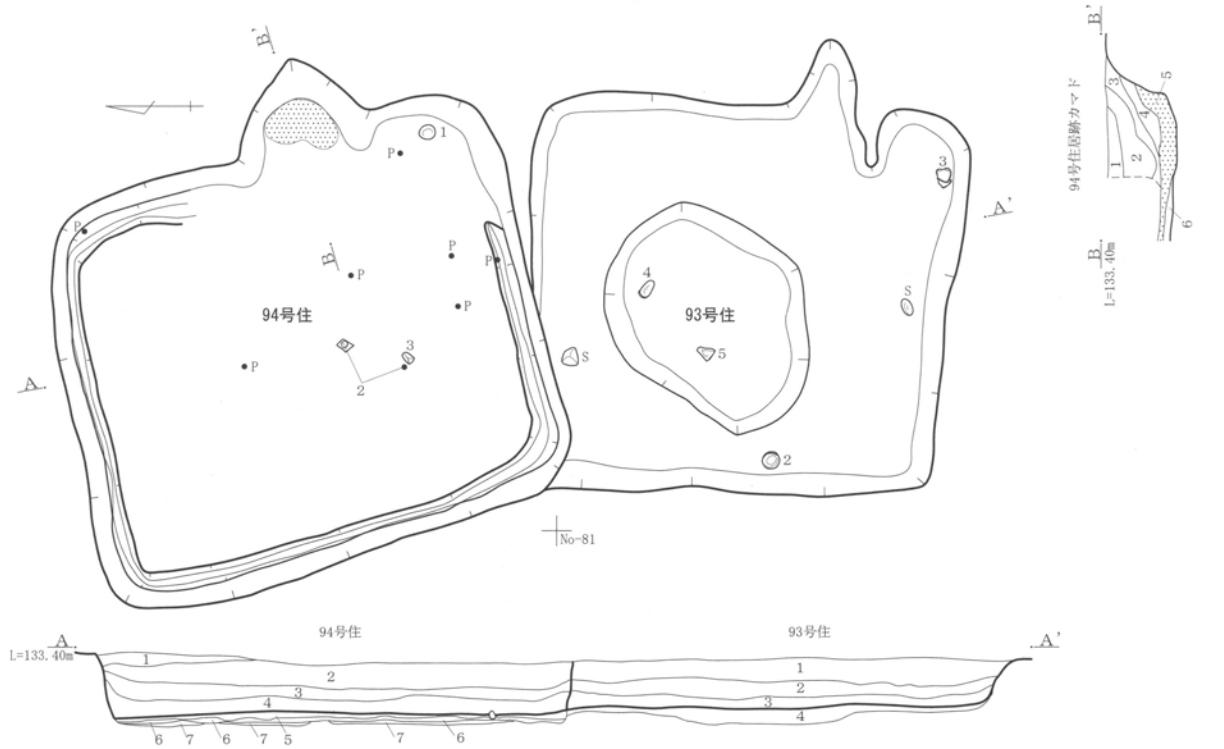
位置 Oh・Oi-74・75グリッドにかけて検出された。92号住居跡と重複している。

形状 東西約4m、現状での南北約3.7mである。

方位 不明。

覆土 暗褐色砂質土層である。

壁高 ほとんど検出できなかった。



93・94号住居跡 A-A'

93号住居跡

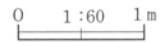
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、赤褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや軟らかい。As-C・Hr-FAを含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかい。粘性あり。赤色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、黄褐色土粒子を含む。

94号住居跡

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを多く含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、炭化物、赤色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや軟らかい。As-C・Hr-FAを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかい。粘性あり。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まる。粘性あり。赤色土粒子を含む。
- 6 明褐色土層 硬く締まる。赤褐色土粒子を含む。
- 7 黒褐色土層 粘性あり。

94号住居跡カマド B-B'

- 1 褐灰色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、白色粘土を含む。
- 2 灰褐色土層 粘性あり。As-C・Hr-FA、焼土、白色粘土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかい。焼土、炭化物を含む。
- 4 赤褐色土層 軟らかい。焼土粒子を多量に、灰、炭化物を含む。
- 5 灰層
- 6 明黄褐色土層 硬く締まる。赤褐色土粒子、黄褐色土粒子の混じり。



第265図 93号住居跡・94号住居跡

床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約12.6㎡。

周 溝 全周しているものと思われる。幅12～26cm、深さ1.2～3.9cmである。

竈 不明。

柱 穴 ピットは検出されているが、住居に伴うものかどうかは不明である。

貯蔵穴 不明。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が少量出土している。

時 期 不明。

93号住居跡 (①第265図②第262図、P.L.258・294)

位 置 Nn-80・81グリッドにかけて検出された。94号住居跡と重複している。

形 状 長辺約3.5m、短辺約3.2mの方形を呈する。

方 位 N-95°-E。

覆 土 4層に分かれた。

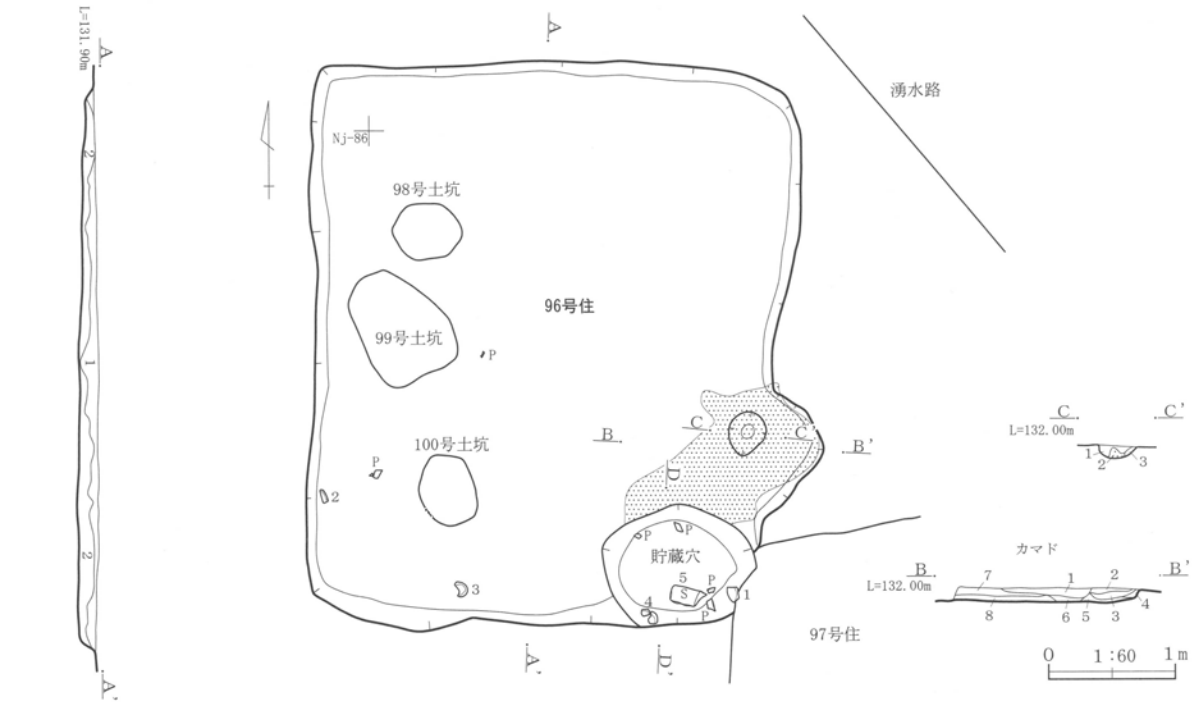
壁 高 住居跡確認面より約38cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。面積は約8.5㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向

(1) 竪穴住居跡



96号住居跡 A-A'

- 1 灰褐色土層 軟らかい。粘性あり。黄褐色土を含む。
- 2 黒褐色土層 As-C・Hr-FAを含む。

貯蔵穴 D-D' 貯蔵穴 D-D'

- 1 灰褐色土層 軟らかい。粘性あり。黄褐色土、炭化物を少量含む。

カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。灰を多量に含む。
- 2 褐色土層 軟らかい。灰、焼土を含む。
- 3 焼土層
- 4 褐色土層 軟らかい焼土を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。灰を含む。
- 7 暗褐色土層 やや硬く縮まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 8 黒褐色土層 As-Cを含む。

C-C'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰、焼土粒子を含む。
- 2 灰層
- 3 褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を含む。

第266図 96号住居跡

80cm、両袖方向30cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀後半。

94号住居跡 (①第265図②第263図、P.L.259・294)

位 置 Nn・No-80グリッドにかけて検出された。

93号住居跡と重複している。

形 状 長辺約3.8m、短辺約3.3mの方形を呈する。

方 位 N-75°-E。

覆 土 7層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約38~48cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。面積は約10.8m²。

周 溝 全周していたものと思われる。幅9~17cm、深さ約2cmである。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向96cm、両袖方向66cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀前半



97号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色ブロックを少量、灰白色土粒子を含む。

96号住居跡 (①第266図②第264・265図、P.L.259・294)

位置 Ni・Nj-85・86グリッドにかけて検出された。97号住居跡と接している。

形状 長辺約4.5m、短辺約3.7~3.9mの方形。

方位 N-90°-E。

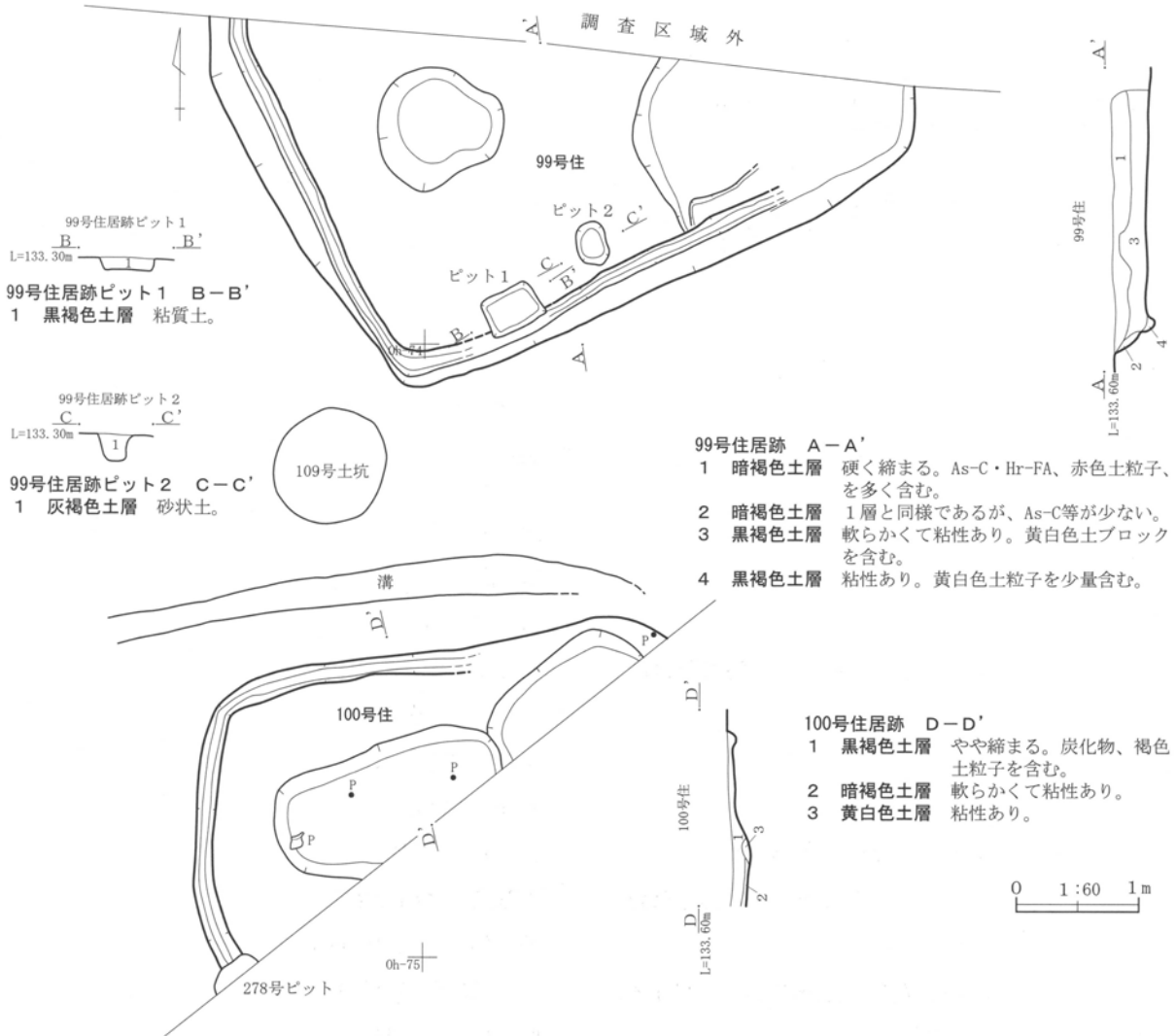
覆土 2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約8~18cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。面積は約15.4m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向110cm、両袖方向70cmである。竈内ピットは支脚跡である。



99号住居跡ピット1 B-B'

- 1 黒褐色土層 粘質土。

99号住居跡ピット2 C-C'

- 1 灰褐色土層 砂状土。

99号住居跡 A-A'

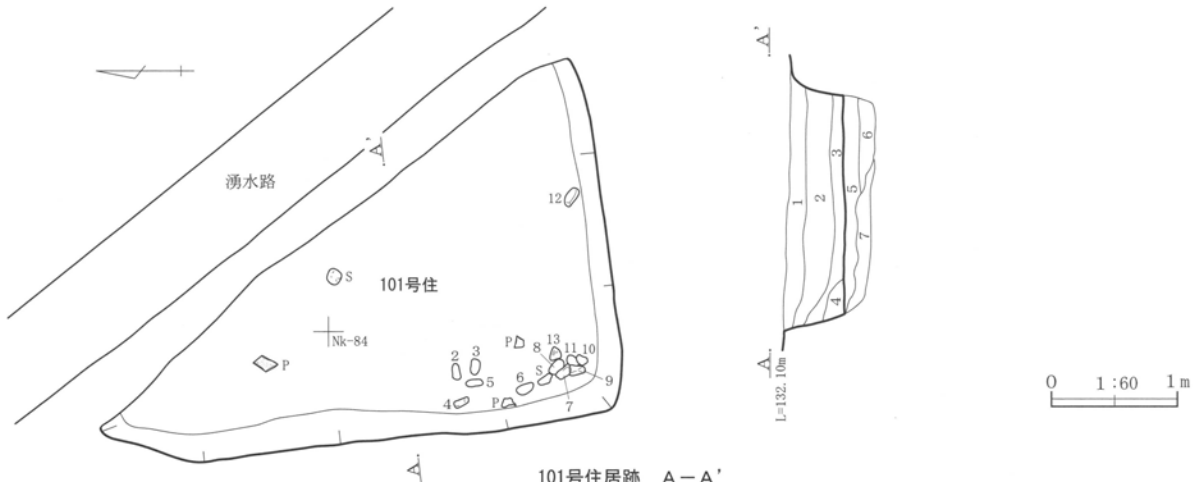
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、赤色土粒子、を多く含む。
 2 暗褐色土層 1層と同様であるが、As-C等が少ない。
 3 黒褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色土ブロックを含む。
 4 黒褐色土層 粘性あり。黄白色土粒子を少量含む。

100号住居跡 D-D'

- 1 黒褐色土層 やや締まる。炭化物、褐色土粒子を含む。
 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
 3 黄白色土層 粘性あり。

第267図 97号住居跡・99号住居跡・100号住居跡

(1) 竪穴住居跡



101号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 やや軟らかい。炭化物、As-C・Hr-FAを少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 4 暗褐色土層 粘性あり。黄白色粘土ブロック含む。
- 5 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり。黒褐色粘土、黄白色土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土ブロックを含む。
- 7 黒褐色土層 粘性あり。黄白色土ブロックを多量に含む。

第268図 101号住居跡

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径120cm、短径90cm、深さ14cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏・埴や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀後半。

97号住居跡 (①第267図、P L.259)

位 置 Nh-86、Ni-86・87グリッドにかけて検出された。完掘できなかった。

形 状 現状での長辺約3.6m、短辺約1.9mである。

方 位 不明。

覆 土 1層確認できた。

壁 高 住居跡確認面より約10~16cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。現状の面積は約4.9㎡。

周 溝 検出できなかった。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏の破片が少量出土している。

時 期 不明。

99号住居跡 (①第267図②第266図、P L.260・295)

位 置 Og・Oh-73・74グリッドにかけて検出された。完掘できなかった。

形 状 現状での長辺約5.9m、短辺約3.3mである。

方 位 不明。

覆 土 4層確認できた。

壁 高 住居跡確認面より約24~30cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。現状の面積は約9.5㎡。

周 溝 幅12~18cm、深さ6cmを測る。

柱 穴 2個のピットを検出した。1は長辺48cm、短辺33cm、深さ9cm。2は長径35cm、短径25cm、深さ13cmである。柱穴になるかどうかは不明。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の甕の破片が少量出土している。

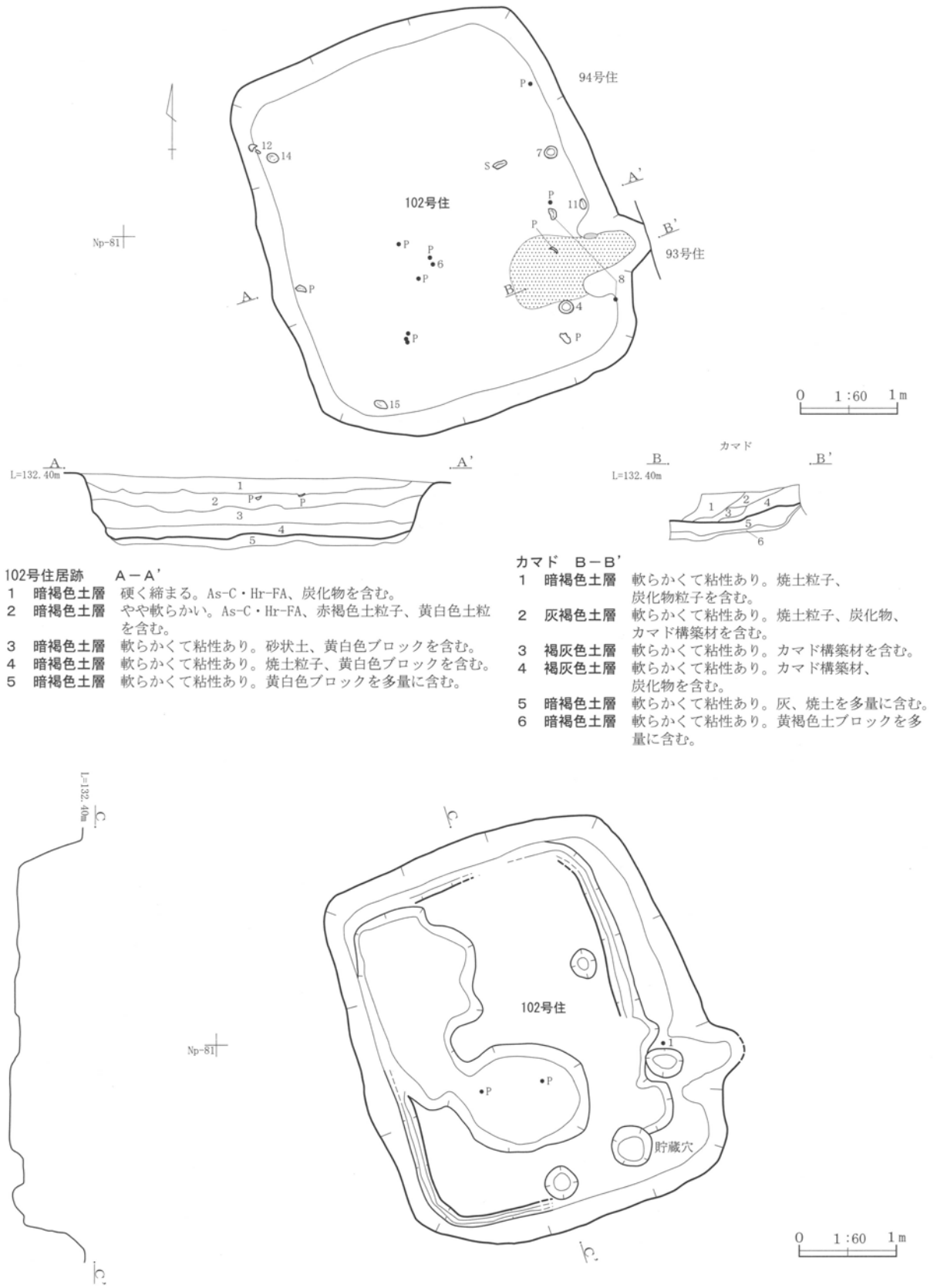
時 期 不明。

100号住居跡 (①第267図②第267図、P L.295)

位 置 Og・Oh-74グリッドにかけて検出された。完掘できなかった。

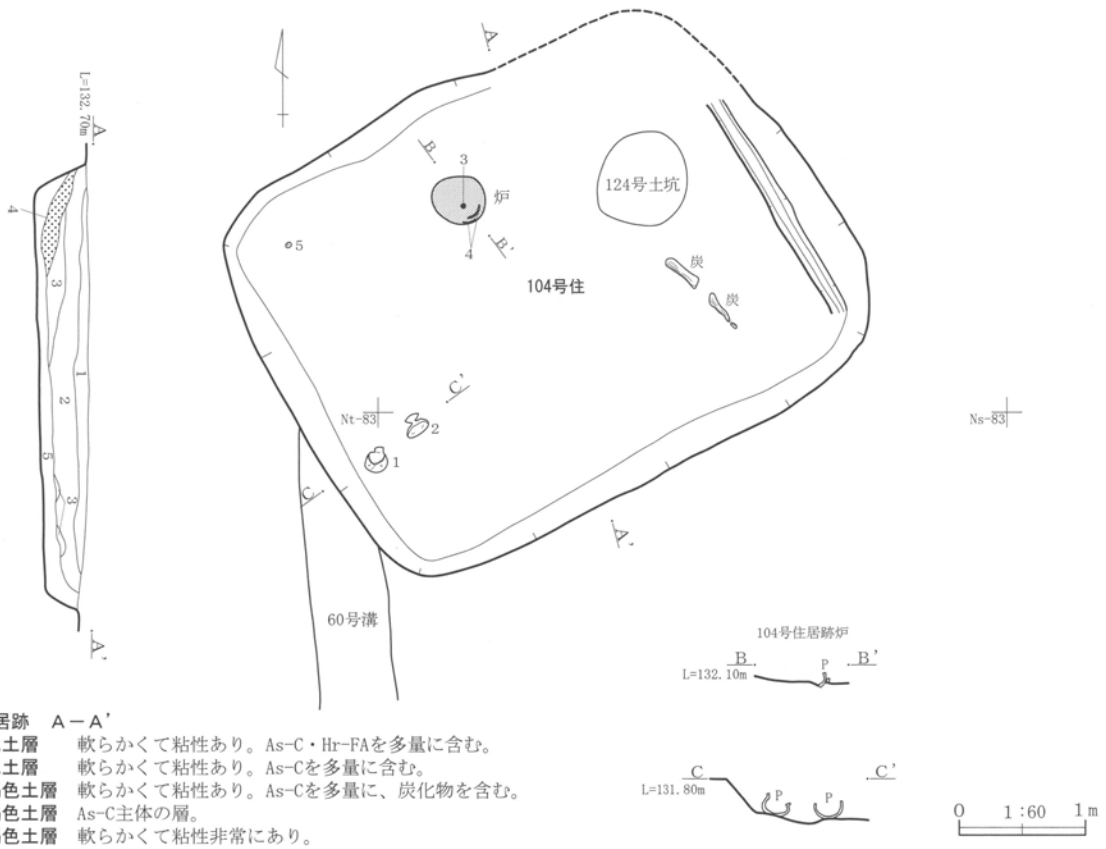
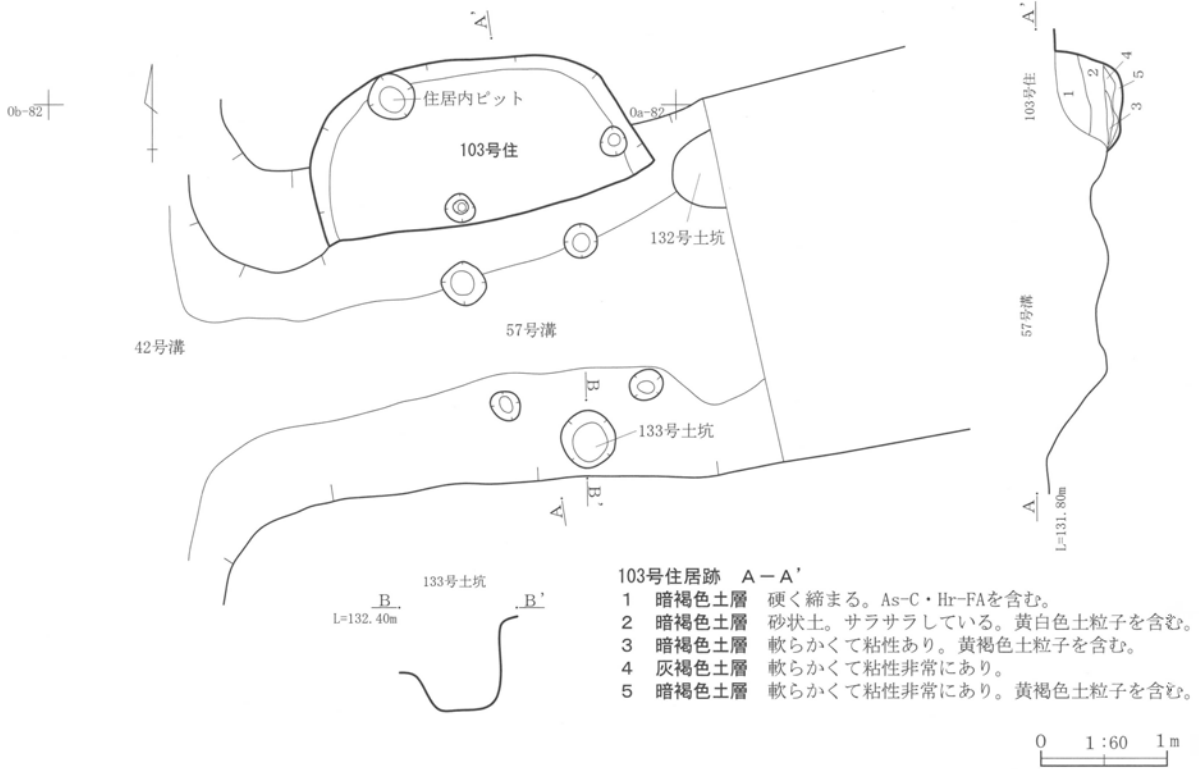
形 状 現状での長辺約3.9m、短辺約2.1mである。

方 位 不明。



第269図 102号住居跡・掘り方

(1) 竪穴住居跡



第270図 103号住居跡・104号住居跡

覆土 3層確認できた。
壁高 住居跡確認面より約6~14cmで床面。
床面 やや凹凸がある。現状の面積は約5.1m²。
周溝 幅約10cm、深さ3cmを測る。
柱穴 検出できなかった。
貯蔵穴 検出できなかった。
遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏・碗や甕の破片が出土している。
時期 7世紀。

101号住居跡 (①第268図②第268・269図、P.L.260・295)
位置 Nj・Nk-83・84グリッドにかけて検出された。完掘できなかった。
形状 現状での長辺約4.1m、短辺約2.8mである。
方位 不明。
覆土 7層確認できた。
壁高 住居跡確認面より約40~48cmで床面。
床面 ほぼ平坦である。現状の面積は約5.9m²。
周溝 検出できなかった。
柱穴 検出できなかった。
貯蔵穴 検出できなかった。
遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が少量出土している。また、こも編石が南西コーナー付近から出土した。
時期 7世紀。

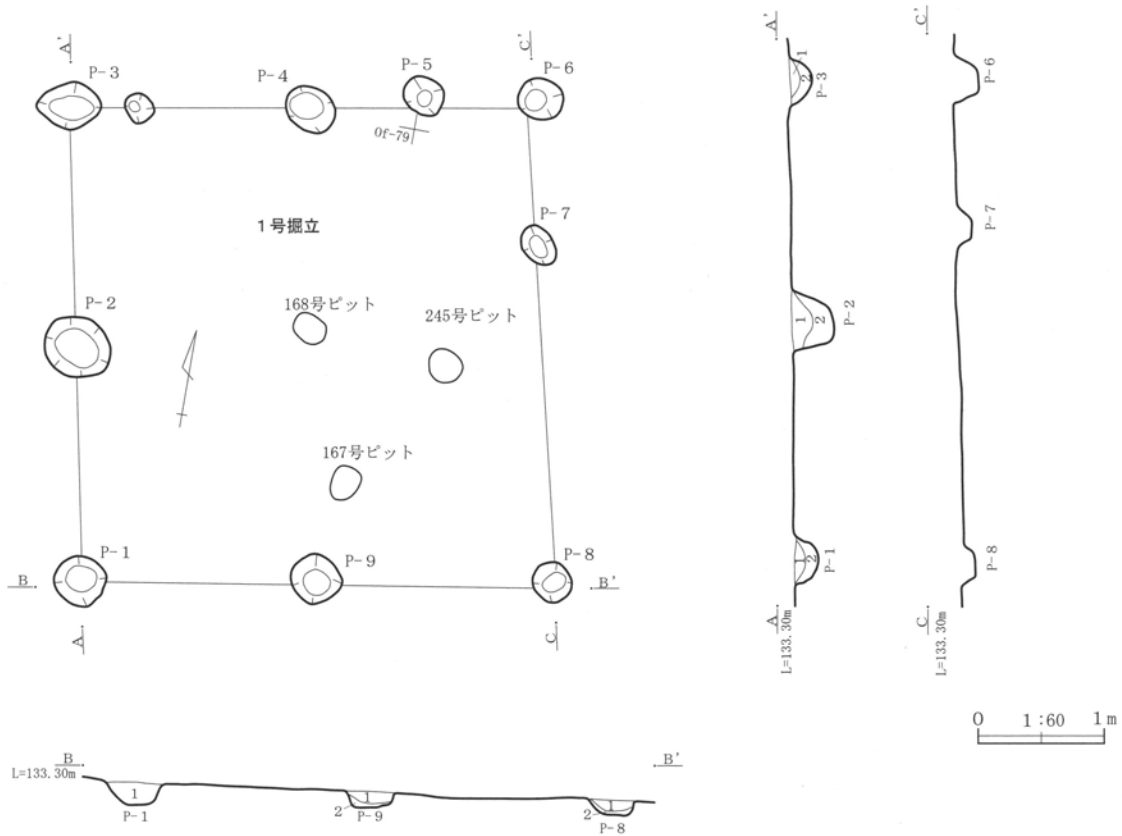
102号住居跡 (①第269図②第270図、P.L.261・295)
位置 Nn・No-80・81グリッドにかけて検出された。93号・94号住居跡と接している。
形状 長辺約4m、短辺約3.5mの方形を呈する。
方位 N-71°-E。
覆土 5層に分かれた。
壁高 住居跡確認面より約60cmで床面に達する。
床面 やや凹凸がある。面積は約10.8m²。
周溝 掘り方調査時に検出。幅10~22cm、深さ1~4cm。
竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向

100cm、両袖方向46cmである。
柱穴 検出できなかった。
貯蔵穴 掘り方調査時に検出。長径42cm、短径40cm、深さ20cmを測る。
遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。
時期 6世紀後半。

103号住居跡 (①第270図②第271図、P.L.262・295)
位置 Oa-81・82グリッドにかけて検出された。57号溝によって壊されている。
形状 現状での長辺約2.6m、短辺約1.3m。
覆土 5層に分かれた。
壁高 住居跡確認面より約53cmで床面に達する。
床面 やや凹凸がある。現状での面積は約2.4m²。
周溝 検出できなかった。
竈 検出できなかった。
柱穴 1個のピットを検出した。長径35cm、短径34cm、深さ40cmである。他のピットは住居跡に伴うものかどうか不明である。
遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の甕の破片が少量出土している。
時期 不明。

104号住居跡 (①第270図②第272図、P.L.263・295)
位置 Ns・Nt-82・83グリッドにかけて検出された。47号住居跡によって壊されている。
形状 長辺約4.5m、短辺約3.5mの長方形を呈する。
覆土 5層に分かれた。4層はAs-C層である。
壁高 住居跡確認面より約18~34cmで床面。
床面 ほぼ平坦である。面積は約12.3m²。
周溝 東壁下で部分的に検出できた。幅13~18cm、深さ約3cmである。
炉 長径43cm、短径37cm、深さ2cmの地床炉で、土器片を設置していた。
柱穴 検出できなかった。
遺物 西壁寄りの床面から台付甕と高坏が出土。
時期 弥生時代後期。

(2) 掘立柱建物跡



1号掘立柱建物跡 A-A' B-B'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土層 1層より暗い色調。やや硬く締まり粘性あり。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。

第271図 1号掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (①第271図、P.L.270)

位置 Oe・Of-78・79グリッドにかけて検出。

形状 2間×2間の方形を呈する。

規模 柱間は約1.9mである。P1は長径40cm、短径38cm、深さ18cmである。以下順にP2は長径56cm、短径49cm、深さ34cm。P3は長径50cm、短径36cm、深さ17cm。P4は長径42cm、短径33cm、深さ21cm。P5は長径34cm、短径29cm、深さ33cm。P6は長径36cm、短径34cm、深さ20cm。P7は長径34cm、短径23cm、深さ15cm。P8は長径32cm、短

径30cm、深さ10cm。P9は長径37cm、短径36cm、深さ14cmである。

所見 覆土は2層に分かれた。出土遺物はない。

(3) 土坑・ピット

(a) 土坑 (①第272~280図②第273~279図、P.L.263~270・296・297)

VI区から検出した土坑は、計80基である。この中で火葬墓と考えられる土坑は3基(55~57号)、その可能性のあるものが1基(60号)である。土壙墓は1基(99号)、その可能性のあるもの1基(73号)である。

覆土中に石を伴う土坑は、10基(62・69・71・72・73・79・83・90・112・124号)である。また、円筒形の土坑が比較的多く検出されている。

(b) ピット (①第275・280~296図②第280図、P.L.263・268・270・271・297)

ピットは総計250基を検出した。詳細は一覧表を参照されたい。

土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|----------|-------|--------------|----------------|------------|-------|-------|---------|
| 55 | Od・Oe-77 | 隅丸長方形 | 102×57×10~15 | 土師器片6・須恵器片1 | 火葬墓 | 第272図 | 第273図 | 264・296 |
| 56 | Nl・Nk-83 | 楕円形 | 150×83×17~24 | 土師器片8・須恵器片3 | 火葬墓 | 272 | 273 | 264・296 |
| 57 | Nk-84 | 隅丸長方形 | 107×45×7 | 土師器片5 | 火葬墓 | 272 | | 265 |
| 58 | Nl-82 | 円形 | 135×128×105 | | 36号溝と重複 | 272 | | 265 |
| 60 | Nm-83 | 楕円形 | 68×60×8 | 炭化物 | 覆土中にAs-B | 273 | | 265 |
| 61 | Od・Oe-80 | 楕円形 | 95×85×55 | | 25号住居と重複 | 273 | | 265 |
| 62 | Of-80 | 楕円形 | 94×80×47 | 礫 | | 273 | | 265 |
| 63 | Oe-81 | 楕円形 | 71×65×52 | 土師器片13・須恵器片6 | | 273 | | 265 |
| 64 | Of-76 | 楕円形 | 158×155×98 | 土師器片9・須恵器片10 | | 273 | | 265 |
| 65 | Od-79・80 | 楕円形 | 58×52×11 | | | 273 | | 271 |
| 66 | Od-80 | 楕円形 | 57×56×15 | | | 273 | | 266 |
| 67 | Od-78 | 楕円形 | 90×80×10 | 土師器片5・須恵器片2 | | 273 | | 266 |
| 68 | Og-76 | 円形 | 90×88×94 | 土師器片11・須恵器片5 | | 273 | 274 | 296 |
| 69 | Og-76 | 円形 | 49×47×47 | 土師器片2 | | 274 | | |
| 70 | Oe-76 | 楕円形 | 62×53×22 | | | 274 | | 266 |
| 71 | Ns・Nt-81 | 楕円形 | 74×67×(75) | 土師器片12 | | 274 | | 266 |
| 72 | Ns・Nt-80 | 隅丸方形 | 70×68×19 | 土師器片1 | | 274 | | 266 |
| 73 | Ns-79 | 楕円形 | 116×49×28 | | | 274 | | 266 |
| 74 | Ns-77 | 隅丸方形 | 48×41×45 | 土師器片4・須恵器蓋片1 | | 274 | | 246 |
| 75 | Nr-78 | 楕円形 | 55×50×22 | | | 274 | | 226 |
| 76 | Nr-78 | 楕円形 | 69×(69)×37 | 土師器片6 | 35号住居と重複 | 274 | | 226 |
| 77 | Nf-79 | 楕円形 | 63×60×58 | | | 274 | | 266 |
| 78 | Nf-79 | 楕円形 | 58×55×67 | | | 274 | | 266 |
| 79 | Nq-80・81 | 楕円形 | 130×137×64 | 土師器片2・須恵器片1 | | 274 | 274 | 267 |
| 80 | Nq-78・79 | 円形 | 68×68×53 | 土師器片2 | | 275 | | 267 |
| 81 | Nt・Oa-76 | 隅丸方形 | 62×60×129 | | 254号ピットに近接 | 275 | | |
| 82 | Of-77 | 隅丸長方形 | 125×61×14 | | | 275 | | |
| 83 | Og-78・79 | 円形 | 120×120×70 | 土師器片8・須恵器片8 | | 275 | 274 | 267 |
| 84 | Nr-77 | 円形 | 80×76×38 | 土師器片10・須恵器片1 | 85号土坑に近接 | 275 | | 267 |
| 85 | Nr-77 | 不整形 | 113×70×39 | 土師器片14・須恵器片1 | 86号土坑に近接 | 275 | | 267 |
| 86 | Nr-77 | 不整形 | 83×76×38 | 土師器片25・須恵器片4 | 88号土坑と重複 | 275 | | 267 |
| 87 | Oh-78 | 楕円形 | 65×61×18 | 土師器片7 | | 276 | | 267 |
| 88 | Nr-77・78 | 不整形 | (52)×50×13 | | 86号土坑と重複 | 275 | | 267 |
| 89 | Ng・Nh-79 | 楕円形 | 210×178×15 | | | 275 | | 267 |
| 90 | Nq-77 | 円形 | 90×84×49 | | 50号溝と重複 | 276 | | 268 |
| 91 | Ng-80 | 楕円形 | 61×59×17 | | | 276 | | |
| 92 | Ng-80 | 円形 | 120×118×103 | 土師器片1 | | 276 | | 268 |
| 93 | Nq-79 | 楕円形 | 73×63×26 | | | 276 | 275 | 296 |
| 94 | Ng-80・81 | 円形 | 57×52×41 | | | 276 | | |
| 95 | Nr-83 | 隅丸方形 | 75×75×10 | | | 276 | | 268・271 |
| 96 | Nq・Nr-83 | 楕円形 | 72×68×8 | | | 276 | | 268・271 |
| 97 | Nq-83 | 円形 | 105×101×98 | | | 276 | | 268 |
| 98 | Nj-86 | 楕円形 | 70×60×16 | 土師器片4 | 99号土坑に近接 | 277 | | 268 |
| 99 | Nj-86 | 楕円形 | 109×83×15 | 土師器片12・須恵器片2 | 100号土坑に近接 | 277 | 280 | 268 |
| 100 | Nj-86 | 楕円形 | 56×47×12 | | | 277 | | 268 |
| 101 | Ni-86・87 | 楕円形 | 72×60×15 | | 102号土坑に近接 | 277 | | 268 |
| 102 | Ni-87 | 楕円形 | 43×36×19 | | | 277 | | 268 |
| 103 | Nj-86 | 楕円形 | 44×38×14 | 土師器小片7 | 104号土坑に近接 | 277 | | 268 |
| 104 | Nj-86 | 楕円形 | 56×56×12 | 土師器片2 | | 277 | | 268 |
| 105 | Nj・Nk-86 | 不整形 | 41×(42)×9 | | 106号土坑と重複 | 277 | | 268 |
| 106 | Nj・Nk-86 | 不整形 | 50×(50)×12 | | 105号土坑と重複 | 277 | | 268 |
| 107 | Nj-86 | 楕円形 | 49×40×14 | | | 277 | | 268 |

(3) 土坑・ピット

土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|-------------|-----|--------------|--------------------|------------|-------|-----------|---------|
| 108 | Nj・Nk-86 | 楕円形 | 58×50×29 | | | 第277図 | | 268 |
| 109 | Oh-74 | 円形 | 94×92×32 | 土師器片 2 | | 278 | | |
| 110 | Oh・Oi-74 | 円形 | 80×78×91 | | | 278 | | 258 |
| 111 | Nn-86 | 楕円形 | 49×45×27 | | 53号溝と重複 | 278 | | |
| 112 | Nn・No-86・87 | 楕円形 | 189×120×80 | 土師器片43・須恵器片11・灰釉片2 | | 278 | 第276・277図 | 296・297 |
| 113 | Oi-74 | 楕円形 | 125×70×25 | | | 278 | | 258 |
| 114 | Nr-84 | 楕円形 | 129×116×24 | | 36号溝と重複 | 278 | | 269 |
| 115 | Nq-85・86 | 楕円形 | 72×64×35 | | | 278 | | 269 |
| 116 | Nr・Ns-87 | 楕円形 | 100×98×100 | | 117号土坑に近接 | 279 | | |
| 117 | Nr-87 | 円形 | 85×85×94 | | | 279 | | |
| 118 | No-86 | 楕円形 | 115×105×118 | 土師器杯片1・須恵器片9 | | 279 | 278 | 269・297 |
| 119 | Ns-85・86 | 円形 | 107×104×133 | | | 279 | | 269 |
| 120 | Nr-86 | 楕円形 | 53×43×57 | 土師器甕片1 | | 279 | | 269 |
| 121 | Nq-85 | 円形 | 45×45×68 | 土師器片2・須恵器片2 | | 279 | | 269 |
| 122 | Nr-84 | 楕円形 | 89×79×53 | | | 279 | | 269 |
| 123 | Ns-83 | 円形 | 80×79×87 | 土師器片4・須恵器片1 | | 279 | | 269 |
| 124 | Ns-82 | 楕円形 | 89×78×58 | 土師器片4・須恵器片2 | 290号ピットに近接 | 280 | | 263 |
| 125 | Nt-84 | 楕円形 | 138×130×107 | | 301号ピットと重複 | 280 | | 270 |
| 126 | Nj-86 | 円形 | 92×92×58 | | | 280 | 279 | 297 |
| 127 | Nm-85 | 円形 | 55×53×47 | | | 280 | | |
| 128 | Nl・Nm-86 | 楕円形 | 94×90×48 | | | 280 | | |
| 129 | Nk-86 | 楕円形 | 49×49×30 | 須恵器碗片1 | | 280 | | |
| 130 | Nk-87 | 楕円形 | 48×40×41 | | | 280 | | |
| 131 | Ns-84 | 円形 | 95×95×129 | 土師器片2・縄文片1 | | 280 | | 270 |
| 132 | Nt・Oa-82 | 不整形 | (60)×(62)×- | | | | | |
| 133 | Oa-82 | 円形 | 43×42×45 | | | 280 | | |
| 134 | Nr-82 | 楕円形 | 90×84×71 | 土師器片1 | 341号ピットと重複 | 280 | | 270 |
| 135 | Nk-83 | 楕円形 | 61×53×77 | 土師器甕片1 | | 280 | | 270 |

ピット一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|----------|------|--------------|----------------|------------|-------|------|------|
| 124 | Og-78・79 | 円形 | 30×28×12 | | | 第281図 | | 271 |
| 125 | Og-79 | 楕円形 | 30×22×9 | | | 281 | | 271 |
| 126 | Of-79 | 楕円形 | 35×35×10 | | | 281 | | 271 |
| 127 | Of-79 | 円形 | 20×20×12 | | | 281 | | 271 |
| 128 | Of-79 | 楕円形 | 32×27×7 | 土師器片3 | | 281 | | 271 |
| 129 | Of・Og-79 | 不整形 | (36)×36×13 | | 130号ピットと重複 | 281 | | 271 |
| 130 | Og-79 | 不整形 | 38×(36)×15 | | 129号ピットと重複 | 281 | | 271 |
| 131 | Og-79 | 円形 | 42×41×7 | | | 281 | | 271 |
| 132 | Og-79 | 楕円形 | 21×20×16 | | | 281 | | 271 |
| 133 | Og-79 | 円形 | 28×26×14 | | | 281 | | 271 |
| 134 | Of-79 | 楕円形 | 38×32×17 | 土師器片1・須恵器碗片1 | | 281 | | 271 |
| 135 | Of-80 | 楕円形 | 28×27×13 | | | 281 | | 271 |
| 136 | Of-78 | 楕円形 | 30×28×15 | | | 282 | | 271 |
| 137 | Oh-76 | ほぼ円形 | 32×28×25 | 土師器片5 | | 282 | | 271 |
| 138 | Oh-76 | 楕円形 | 30×26×37 | 土師器甕片1 | | 282 | | 271 |
| 139 | Oh-77 | 楕円形 | 31×24×8 | | | 282 | | 271 |
| 140 | Of-77 | 楕円形 | 22×21×11 | | | 282 | | 271 |
| 141 | Of-77 | 楕円形 | 25×23×12 | 土師器片3 | | 282 | | 271 |
| 142 | Of-77 | 楕円形 | 28×20×17 | 土師器片3 | | 282 | | 271 |
| 143 | Oe-79 | 楕円形 | 29×27×27 | | | 283 | | 270 |
| 144 | Od-80 | 楕円形 | 26×22×9 | | | | | |
| 145 | Od-80 | 楕円形 | 25×23×9 | 土師器片1・須恵器甕片1 | 66号土坑に近接 | 283 | | 271 |
| 146 | Od-80 | 円形 | 38×38×27 | | | 283 | | 271 |
| 147 | Of-80 | 楕円形 | 29×25×6 | | | 281 | | 271 |
| 148 | Of-80 | 楕円形 | 35×32×12 | | | 281 | | 271 |
| 149 | Of-80 | 楕円形 | 32×24×11 | | 62号土坑に近接 | 281 | | 271 |
| 150 | Of-80 | 楕円形 | 23×25×11 | | | 283 | | 271 |
| 151 | Of-80 | 楕円形 | 27×22×8 | | | 283 | | 271 |
| 152 | Of-80 | 楕円形 | 29×24×12 | | | 283 | | 271 |
| 153 | Of-80 | 楕円形 | 27×25×9 | | | 283 | | 271 |
| 154 | Of-81 | 楕円形 | 26×26×11 | | | 283 | | 271 |
| 155 | Oe・Of-80 | 楕円形 | 40×32×15 | | | 283 | | 271 |
| 156 | Oe-81 | 楕円形 | 31×26×15 | | | 283 | | 271 |
| 157 | Oe-77 | 楕円形 | 28×20×16 | | | 283 | | 271 |
| 158 | Oe-78 | 円形 | 26×25×6 | | | 284 | | 271 |

第6章 VI区 検出の遺構

ピット一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|----------|------|--------------|---------------------|------------|-------|------|------|
| 159 | Od-78 | 楕円形 | 30×29×20 | 土師器甕片 5 | 67号土坑に近接 | 第284図 | | 271 |
| 160 | Od-78 | 楕円形 | 30×29×12 | 土師器甕片 2 | 67号土坑に近接 | 284 | | 271 |
| 161 | Od-77 | 楕円形 | 45×36×13 | | | 283 | | 271 |
| 162 | Od-79 | 楕円形 | 31×29×16 | | | 284 | | 271 |
| 163 | Od-79 | 楕円形 | 39×35×13 | | | 284 | | 271 |
| 164 | Od-79 | 楕円形 | 37×34×25 | | | 284 | | 271 |
| 165 | Oh-77 | 円形 | 29×29×14 | 土師器甕片 1 | 34号溝と重複 | 284 | | |
| 166 | Oh-77 | 楕円形 | 31×25×20 | | 34号溝と重複 | 284 | | |
| 167 | Oe・Of-79 | 楕円形 | 29×22×11 | | | 285 | | 270 |
| 168 | Of-79 | 楕円形 | 27×21×9 | | | 285 | | 270 |
| 169 | Oe・Of-78 | 楕円形 | 32×29×16 | | | 285 | | 270 |
| 170 | Oe-78 | 楕円形 | 25×25×10 | | | 285 | | 270 |
| 171 | Oe-78 | 楕円形 | 20×19×10 | | | 285 | | 271 |
| 172 | Oe-78 | 楕円形 | 27×26×9 | 土師器片 3 | | 285 | | 271 |
| 173 | Of-78 | 楕円形 | 22×21×7 | | | 285 | | 271 |
| 174 | Of-78 | 楕円形 | 27×24×20 | | | 285 | | 271 |
| 175 | Oe-78 | 楕円形 | 35×25×11 | | | 285 | | 271 |
| 176 | Oe-75・76 | 楕円形 | 44×40×14 | 土師器杯片 1・甕片 3・須恵器片 1 | | 286 | | 271 |
| 177 | Od-75 | 方形 | 31×30×4 | | | 286 | | 271 |
| 178 | Oe-75 | 楕円形 | 30×23×15 | 須恵器杯片 1 | | 285 | | 271 |
| 179 | Od-78 | 楕円形 | 36×29×10 | | | 284 | | 271 |
| 180 | Od-77 | 楕円形 | 37×32×9 | 土師器甕片 3 | | 286 | | 271 |
| 181 | Od-77 | 楕円形 | 27×23×9 | | | 286 | | 271 |
| 182 | Od-77 | 円形 | 34×33×8 | | | 286 | | 271 |
| 183 | Od-77 | 楕円形 | 38×37×5 | | | 286 | | 271 |
| 184 | Od-76 | 楕円形 | 57×41×28 | | 185号ピットと重複 | 286 | | |
| 185 | Od-76 | 不整形 | 47×(29)×7 | | 184号ピットと重複 | 286 | | 271 |
| 186 | Oe-76 | 円形 | 46×45×10 | | | 287 | | 271 |
| 187 | Oe-76 | 楕円形 | 35×32×13 | | | 287 | | 271 |
| 188 | Od-76 | 楕円形 | 60×59×60 | 土師器片 1・須恵器片 1 | | 286 | | 271 |
| 189 | Oe-76 | 円形 | 25×22×10 | | | 287 | | 271 |
| 190 | Of-76 | 楕円形 | 43×31×19 | | | 287 | | 271 |
| 191 | Of-77 | 楕円形 | 25×24×17 | | | 287 | | 271 |
| 192 | Of-76・77 | 楕円形 | 33×27×10 | | | 287 | | 271 |
| 193 | Of-76 | 楕円形 | 31×29×30 | | 194号ピットと重複 | 287 | | 271 |
| 194 | Of-76 | 不整形 | 52×40×16 | | 193号ピットと重複 | 287 | | 271 |
| 195 | Og-76 | 円形 | 24×23×33 | | | 287 | | 271 |
| 196 | Oe-76 | 円形 | 55×49×9 | | | 287 | | 271 |
| 197 | Oe-76 | 楕円形 | 41×29×9 | | | 287 | | 271 |
| 198 | Oe-76 | 楕円形 | 30×23×14 | 土師器片 5・須恵器片 1 | | 287 | | 271 |
| 199 | Oe-76 | 円形 | 27×25×15 | | | 287 | | 271 |
| 200 | Oe-76 | 長方形 | 28×17×10 | | | 286 | | 271 |
| 201 | Oe-76 | 円形 | 28×28×11 | | | 286 | | 271 |
| 202 | Oe-76 | 楕円形 | 48×47×28 | 土師器片 7 | | 286 | | 271 |
| 203 | Oe-75 | 楕円形 | 47×44×25 | 土師器杯片 3・甕片 8 | | 286 | | 271 |
| 204 | Od-76 | 円形 | 35×34×8 | | | 287 | | 271 |
| 205 | Og-77 | 円形 | 40×36×48 | | | 288 | | 271 |
| 206 | Oh-77 | 楕円形 | 28×23×13 | | | 282 | | |
| 207 | Oh-77 | 楕円形 | 28×25×43 | 土師器片 2・須恵器杯片 3 | | 282 | | 271 |
| 208 | Oh-77 | 楕円形 | 20×20×14 | 土師器片 3 | | 282 | | 271 |
| 209 | Nr-77 | 楕円形 | 23×22×14 | | 35号住居と重複 | 288 | | |
| 210 | Ns-77 | 楕円形 | 22×21×9 | | 35号住居と重複 | 288 | | |
| 211 | Ns-77 | 方形 | 29×29×26 | | 35号住居と重複 | 288 | | |
| 212 | Ob-76 | ほぼ円形 | 21×19×13 | 土師器小片 1 | | 288 | | |
| 213 | Ob-76 | 円形 | 29×29×22 | | | 288 | | |
| 214 | Oa・Ob-76 | 楕円形 | 30×24×42 | 土師器小片 5 | | 288 | | |
| 215 | Oa・Ob-76 | 楕円形 | 48×35×26 | 土師器片 3・須恵器片 3 | | 288 | | |
| 216 | Ob-76 | 円形 | 16×16×16 | | | 288 | | |
| 217 | Oa・Ob-76 | 楕円形 | 30×29×30 | 土師器小片 1 | | 288 | | |
| 218 | Oa-76 | 円形 | 26×(21)×19 | | 219号ピットと重複 | 288 | | |
| 219 | Oa-76 | 方形 | 29×(27)×21 | 土師器片 2・須恵器片 2 | 218号ピットと重複 | 288 | | |
| 220 | Oa-76 | 方形 | 44×40×20 | 土師器片 4 | | 288 | | |

(3) 土坑・ピット

ピット一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|-------------|------|--------------|-------------------|-----------|-------|-------|---------|
| 221 | Oa-76 | 楕円形 | 28×26×24 | 土師器片1 | | 第288図 | | |
| 222 | Oa-76 | 方形 | 22×21×15 | | | 288 | | |
| 223 | Oa-76 | 円形 | 40×39×23 | 土師器片10 | | 288 | | |
| 224 | Nt-78 | 楕円形 | 37×30×51 | 土師器片2 | | 289 | | 246 |
| 225 | Nt-78 | 楕円形 | 44×36×51 | 土師器片2・須恵器片4 | | 289 | | 246 |
| 226 | Nt-78 | 楕円形 | 43×42×54 | 土師器片2・須恵器片1 | | 289 | | 246 |
| 227 | Nt-78 | 円形 | 36×34×47 | 土師器片1 | | 289 | | 246 |
| 228 | Nt-77・78 | 円形 | 25×25×16 | 土師器小片1 | | 289 | | 246 |
| 229 | Nt-77 | 楕円形 | 35×34×49 | 土師器片1 | | 289 | | |
| 230 | Nt・Oa-78 | 円形 | 33×32×40 | 土師器片1・須恵器小片1 | | 289 | | |
| 231 | Ns-78 | 楕円形 | 34×32×60 | 土師器片1 | | 289 | | 246 |
| 232 | Ns-78 | 楕円形 | 39×34×67 | | | 289 | | 246 |
| 233 | Ns-77 | 円形 | 22×21×19 | | | 289 | | 246 |
| 234 | Ns-77 | 円形 | 23×23×24 | 土師器片1 | | 289 | | |
| 235 | Ns-77 | 円形 | 33×31×37 | 土師器片1 | | 289 | | |
| 236 | Nr-77 | 楕円形 | 45×31×8 | | | 275 | | |
| 237 | Nr-77 | 楕円形 | 28×27×28 | | 35号住居と重複 | 288 | | |
| 238 | Nt-80 | 楕円形 | 54×37×34 | 土師器杯片6・甕片16・須恵器片1 | | 289 | 第280図 | |
| 239 | Nt-80 | 楕円形 | 27×25×10 | | | 289 | | 228 |
| 240 | Ns-80 | 楕円形 | 31×28×24 | 土師器片1 | | 289 | | 228 |
| 242 | Of-77・78 | 楕円形 | 31×28×15 | | | 285 | | |
| 243 | Of-78 | 円形 | 27×27×7 | | | 282 | | |
| 244 | Of-78 | 楕円形 | 26×23×18 | | | 282 | | |
| 245 | Oe-79 | 楕円形 | 27×25×8 | | | 285 | | 270 |
| 246 | Nq-77 | 楕円形 | 61×49×19 | | | 290 | | |
| 247 | Nq-77 | 楕円形 | 18×18×10 | | | 290 | | 268 |
| 248 | Np-78 | 円形 | 27×27×17 | | | 290 | | |
| 249 | No・Np-78 | 方形 | 44×40×31 | 土師器片1・縄文土器片1 | | 290 | | |
| 250 | Od-78 | 楕円形 | 29×27×16 | | | 284 | | 271 |
| 251 | Oe-77 | 楕円形 | 30×30×19 | | | 283 | | 271 |
| 252 | Od-77 | 円形 | 16×15×8 | | | 283 | | 271 |
| 253 | Od-77 | 楕円形 | 17×17×9 | | | 283 | | 271 |
| 254 | Nt-76 | 楕円形 | 27×25×34 | 土師器片4 | | 275 | | |
| 255 | Oh-78 | 楕円形 | 32×28×27 | | | 290 | | |
| 256 | Oh-77 | 楕円形 | 30×28×38 | 須恵器片1 | 34号溝と重複 | 290 | | |
| 257 | Oh-77 | 楕円形 | 33×25×35 | | 34号溝と重複 | 290 | | 271 |
| 258 | Of-80 | 楕円形 | 46×43×11 | 土師器片3 | | 281 | | |
| 259 | Of-80 | 楕円形 | 53×50×41 | 土師器片10・須恵器片1 | | 281 | | 271 |
| 260 | Oa-74 | 楕円形 | 30×26×19 | | | 290 | | 271 |
| 261 | Nt-74 | 楕円形 | 27×27×9 | 土師器片1 | | 290 | | 271 |
| 262 | Nt・Oa-74 | 楕円形 | 29×28×39 | | | 290 | | 271 |
| 263 | Nt-74 | 楕円形 | 30×25×44 | | | 290 | | 271 |
| 267 | Nq-77 | 楕円形 | 77×66×22 | 土師器片1 | 50号溝と重複 | 290 | | 271 |
| 268 | Nq-78 | 楕円形 | 52×49×22 | 須恵器片1 | | 290 | | 271 |
| 269 | Nq-79 | ほぼ円形 | 63×62×12 | 土師器片1 | | 291 | | 271 |
| 270 | Nq-83 | 楕円形 | 41×36×10 | 土師器杯片1・須恵器杯片1 | | 291 | | 271・268 |
| 271 | Oi-74 | 楕円形 | 35×23×18 | | | 291 | | 258 |
| 272 | Oi-74・75 | 楕円形 | 35×30×31 | | | 291 | | 258 |
| 273 | Oi-74 | 楕円形 | 31×30×36 | | | 291 | | 258 |
| 274 | Oi-75 | 楕円形 | 39×30×25 | | | 291 | | 258 |
| 275 | Oi-75 | 円形 | 25×22×11 | | | 291 | | 258 |
| 276 | Oh-75 | 楕円形 | 29×22×13 | | | 291 | | 258 |
| 277 | Oh-75 | 楕円形 | 27×23×16 | | | 291 | | 258 |
| 278 | (A)Oh-75 | 楕円形 | 45×30×20 | | | 291 | | 258 |
| 278 | (B)Oh-74・75 | 不明 | 43×(14)×24 | | 100号住居と重複 | 291 | | |
| 279 | Oh-74 | 楕円形 | 39×37×25 | | | 291 | | 258 |
| 280 | Oh-74 | 楕円形 | 53×45×20 | | | 291 | | 258 |
| 281 | Ns-86 | 円形 | 25×25×13 | | | 292 | | |
| 282 | Ns-86 | 円形 | 22×21×13 | | | 292 | | |
| 283 | Ns-86 | 円形 | 20×20×9 | | | 292 | | |
| 284 | Ns-85 | 円形 | 29×26×23 | | | 292 | | |
| 285 | Ns-85 | 楕円形 | 30×25×22 | | | 292 | | |

第6章 VI区 検出の遺構

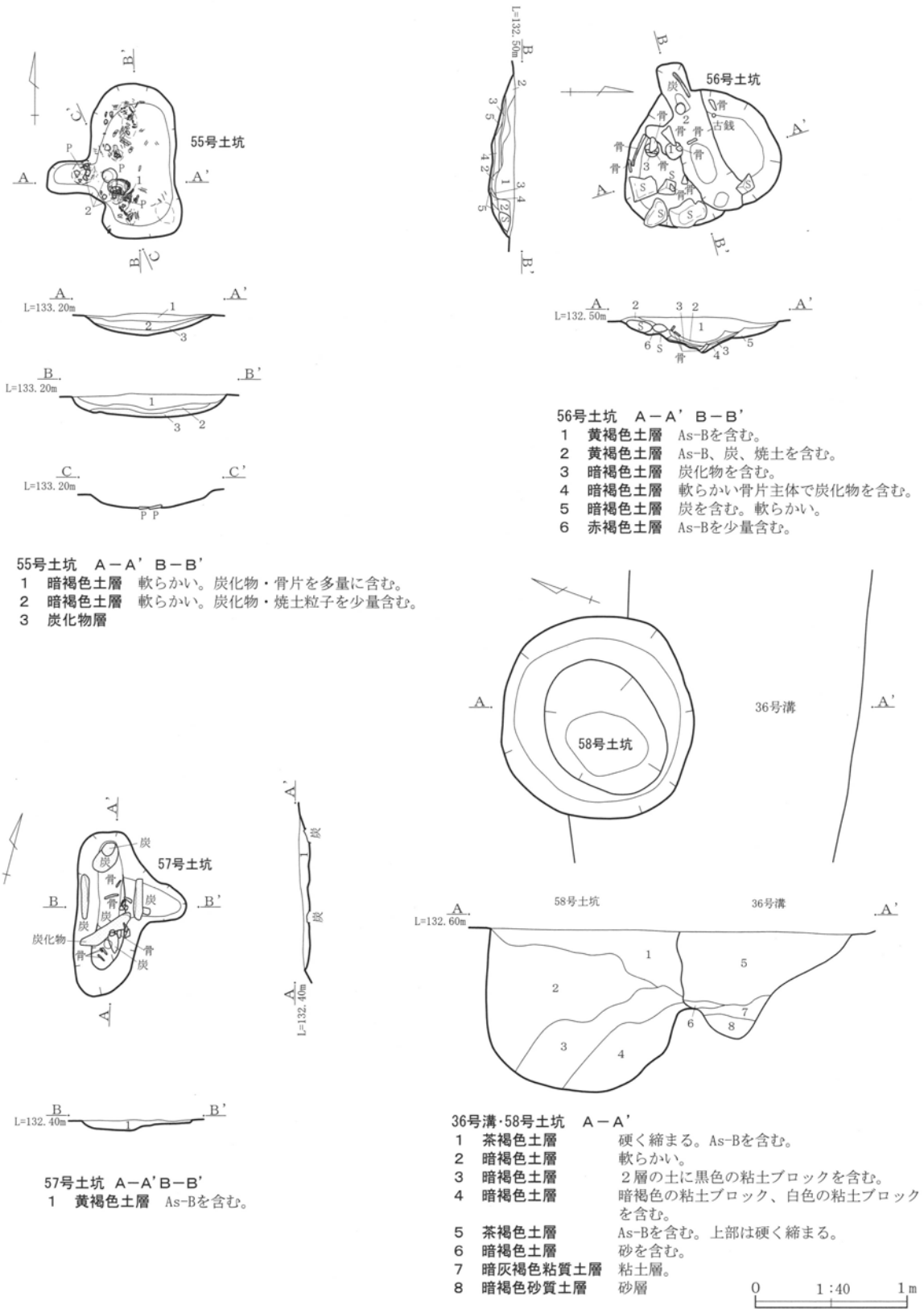
ビット一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|-------------|-----|--------------|--------------------|------------|-------|-------|------|
| 286 | Ns-85 | 円形 | 28×28×20 | | | 第292図 | | |
| 287 | Ns-86 | 円形 | 37×37×28 | | | 292 | | |
| 288 | Ns-82 | 楕円形 | 48×46×34 | | | 292 | | 263 |
| 289 | Ns-82 | 方形 | 50×50×20 | | | 292 | | |
| 290 | Ns-82 | 楕円形 | 47×42×36 | | 124号土坑に近接 | 280 | | |
| 291 | Ns-82・83 | 楕円形 | 36×32×16 | | | 290 | | 263 |
| 292 | Ns・Nt-85 | 円形 | 36×33×4 | | | 292 | | |
| 293 | Ns-84 | 円形 | 25×23×12 | | | 292 | | |
| 294 | Ns-84 | 楕円形 | 31×30×23 | | | 292 | | |
| 295 | Nr-85 | 円形 | 28×27×43 | | 55号溝と重複 | 292 | | |
| 296 | Nr-84・85 | 円形 | 25×23×48 | | | 292 | | |
| 297 | Nr-84 | 楕円形 | 36×26×13 | | | 293 | | |
| 298 | Nr-84 | 楕円形 | 28×26×12 | | | 293 | | |
| 299 | Np-84 | 楕円形 | 40×39×21 | | | 293 | | |
| 300 | Nq-86 | 円形 | 36×34×27 | | | 293 | | |
| 301 | Nt-84 | 楕円形 | 24×22×20 | | 125号土坑と重複 | 280 | | 270 |
| 302 | Nn-84 | 楕円形 | 36×32×25 | | | 293 | | |
| 303 | Nn-84・85 | 楕円形 | 58×53×30 | | | 293 | 第280図 | 297 |
| 304 | (A)Nn-84・85 | 楕円形 | 44×43×27 | | | 293 | | |
| 304 | (B)Nm-84 | 円形 | 33×31×35 | | | 293 | | |
| 305 | Nm-84・85 | 円形 | 47×47×45 | | | 293 | | |
| 306 | Nm-85 | 円形 | 32×30×35 | 土師器片2・須恵器片5 | 55号溝と重複 | 293 | | |
| 307 | Nm-85 | 楕円形 | 55×45×45 | | 55号溝と重複 | 293 | | |
| 308 | Nm-84 | 楕円形 | 40×35×38 | 須恵器杯片1 | | 293 | | |
| 309 | Nm-84 | 円形 | 38×36×19 | 土師器片2・須恵器片1・縄文土器片1 | | 293 | | |
| 310 | Nk-85・86 | 不整形 | 34×(33)×34 | | 311号ビットと重複 | 294 | | |
| 311 | Nk-86 | 不整形 | 42×(29)×34 | | 310号ビットと重複 | 294 | | |
| 312 | Nk-86 | 楕円形 | 32×23×14 | | | 294 | | |
| 313 | Nj-86 | 楕円形 | 31×29×33 | | | 294 | | |
| 314 | Nk-85 | 楕円形 | 25×23×11 | | | 294 | | |
| 315 | Nk-85 | 楕円形 | 26×26×13 | | | 294 | | |
| 316 | Nk-86 | 円形 | 34×33×26 | | | 294 | | |
| 317 | Nk-86 | 楕円形 | 57×34×26 | | | 294 | | |
| 318 | Nk-86 | 楕円形 | 30×26×21 | | | 294 | | |
| 319 | Nj-86 | 円形 | 25×24×28 | | | 294 | | |
| 320 | Nk-84 | 楕円形 | 38×32×32 | | | 294 | | |
| 321 | Nk-84 | 楕円形 | 33×28×20 | 土師器片4 | | 294 | | |
| 322 | Nk-83 | 楕円形 | 37×37×35 | 土師器小片13 | | 294 | | |
| 323 | Nt-83 | 楕円形 | 28×27×8 | | | 295 | | |
| 324 | Nt-84 | 円形 | 30×28×17 | | | 295 | | |
| 325 | Ns-84 | 楕円形 | 34×31×32 | | | 295 | | |
| 326 | Ns-83 | 楕円形 | 26×21×12 | | | 294 | | |
| 327 | Ns-83 | 円形 | 36×35×25 | | 123号土坑に近接 | 294 | | 263 |
| 328 | Ns-83 | 楕円形 | 36×32×10 | | | 294 | | 263 |
| 329 | Nt-83 | 円形 | 29×28×26 | | | 295 | | |
| 330 | Oa-83 | 円形 | 31×28×30 | | | 295 | | |
| 331 | Nt・Oa-83 | 楕円形 | 33×32×41 | | | 295 | | |
| 332 | Nt-83 | 楕円形 | 40×37×29 | | | 295 | | |
| 333 | Nn-85 | 円形 | 41×41×25 | | 55号溝と重複 | 293 | | |
| 334 | Nt-83 | 円形 | 20×20×7 | | | 295 | | |
| 335 | Nt-83 | 楕円形 | 24×21×11 | | | 295 | | |
| 336 | Nt-83 | 楕円形 | 20×16×10 | | | 295 | | |
| 337 | Nt-83 | 楕円形 | 26×22×17 | | | 295 | | |
| 338 | Ns-83 | 楕円形 | 25×23×12 | | 123号土坑に近接 | 294 | | 269 |
| 339 | Ns-83 | 円形 | 24×23×10 | | 123号土坑に近接 | 294 | | 269 |
| 340 | Ns-83 | 楕円形 | 36×21×11 | | | 294 | | |
| 341 | Nr-82 | 楕円形 | 22×19×70 | | 134号土坑と重複 | 280 | | 270 |
| 342 | Nr-82 | 楕円形 | 18×15×11 | | | 280 | | 270 |
| 343 | Nr-82 | 円形 | 19×19×17 | | | 280 | | 270 |
| 344 | Nr-82 | 方形 | 30×28×16 | | | 295 | | 270 |
| 345 | Nr-82 | 円形 | 23×22×14 | | | 295 | | |
| 346 | Nr-82 | 楕円形 | 31×28×24 | | | 295 | | |

(3) 土坑・ピット

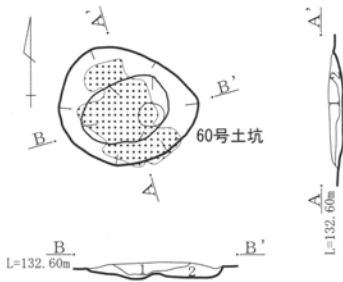
ピット一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|----------|------|--------------|----------------|----------|-------|------|------|
| 347 | Nr-82 | 楕円形 | 24×19×24 | | | 第295図 | | |
| 348 | Nr-83 | 楕円形 | 30×24×23 | | 92号土坑に近接 | 295 | | |
| 349 | Nr-83 | 楕円形 | 39×34×15 | | 92号土坑に近接 | 295 | | |
| 350 | Nr-83 | 円形 | 22×21×10 | | | 295 | | |
| 351 | Nr-82・83 | 楕円形 | 32×23×16 | | | 295 | | |
| 352 | Nq-82 | 楕円形 | 26×22×11 | | | 296 | | |
| 353 | Nq-83 | 楕円形 | 46×29×16 | | | 296 | | |
| 354 | Np-82 | 円形 | 34×33×17 | | | 296 | | |
| 355 | No-82 | 円形 | 45×42×15 | | | 296 | | |
| 356 | Nm-82 | 円形 | 23×23×8 | | | 296 | | |
| 357 | Nm-81 | 円形 | 27×27×5 | | | 296 | | |
| 358 | Nl・Nm-81 | 円形 | 35×35×5 | | | 296 | | |
| 359 | Nl-82 | 円形 | 35×35×4 | | | 296 | | |
| 360 | Nl-82 | 楕円形 | 41×35×5 | | | 296 | | |
| 361 | Nm-82 | 方形 | 21×20×7 | | | 296 | | |
| 362 | Nl-83 | 円形 | 27×27×10 | | | 296 | | |
| 363 | Nl-84 | 円形 | 30×29×20 | | | 293 | | |
| 365 | Nk-84 | 楕円形 | 31×30×16 | | 52号溝と重複 | 296 | | |
| 366 | Nk-84・85 | 円形 | 28×27×34 | | 52号溝と重複 | 296 | | |
| 367 | Nj-84 | 円形 | 32×30×40 | | | 296 | | 260 |
| 368 | Nj-84 | 楕円形 | 26×25×13 | | 52号溝と重複 | 296 | | |
| 369 | Nj-84 | 楕円形 | 25×23×13 | | 52号溝と重複 | 296 | | |
| 370 | Nj-84 | 円形 | 23×23×12 | | 52号溝と重複 | 296 | | |
| 371 | Nj-84 | 楕円形 | 30×25×15 | | | 296 | | |
| 372 | Nj-84 | 円形 | 24×23×27 | | | 296 | | |
| 373 | Nl-85 | 楕円形 | 23×20×15 | | | 294 | | |
| 374 | Nl-86 | 楕円形 | 24×24×19 | | | 294 | | |
| 375 | Nl-86 | 円形 | 24×24×16 | | 53号溝と重複 | 294 | | |
| 376 | Ns-85 | ほぼ円形 | 35×34×37 | | | 296 | | |

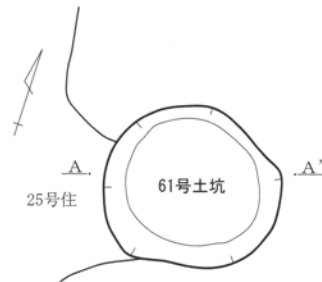


第272図 55~58号土坑

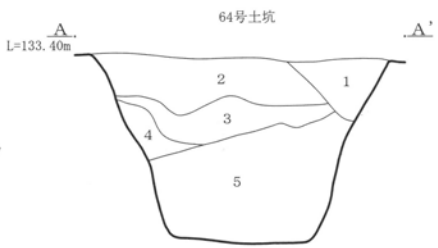
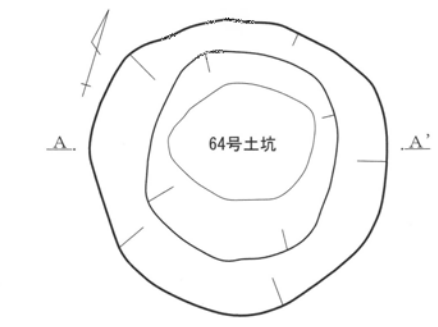
(3) 土坑・ピット



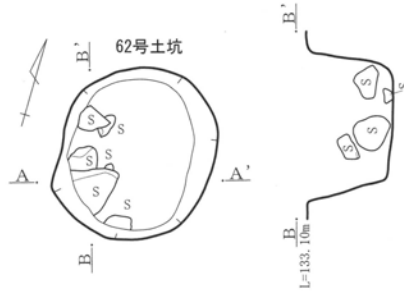
60号土坑 A-A' B-B'
 1 褐色土層 炭化物、As-Bを含む。
 2 明褐色土層 硬く締まる。
 As-Bを少量含む。



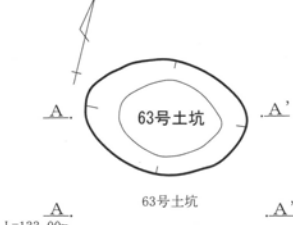
61号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 As-Bを含む。
 2 暗褐色土層 暗褐色土ブロックを含む。



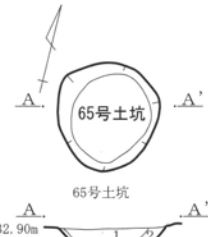
64号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 As-Bを含む。
 2 明褐色土層 As-Bの混土と赤褐色土の混土
 3 暗褐色土層 As-Bを含む。
 4 暗褐色土層 白色の粘土ブロックを含む。
 5 暗褐色砂質土層



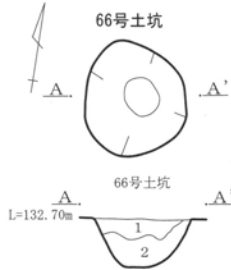
62号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 As-Bを含む。
 2 暗褐色土層 暗褐色土ブロックを含む



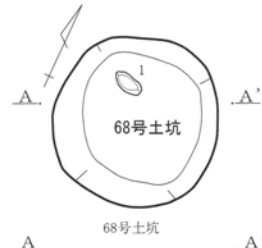
63号土坑 A-A'
 1 黄褐色土層 黄灰褐色の粘土ブロックと暗褐色土の混土。
 2 灰褐色砂質土層



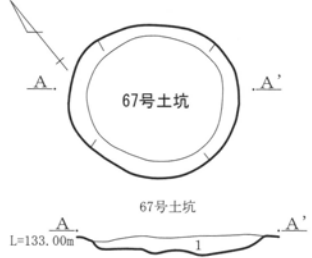
65号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黒色ブロック、As-C・Hr-FAを含む。
 2 暗褐色土層 やや硬く締まり、粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。



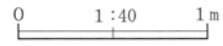
66号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、As-Bを含む。
 2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、As-Bを含む。



68号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-Bを含む。
 2 暗褐色土層 1層の中に黄白色土ブロックを含む。
 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
 4 暗褐色砂質土層

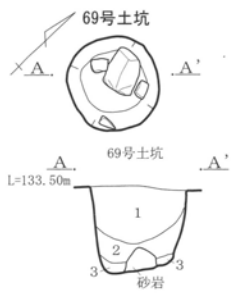


67号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、As-Bを含む。



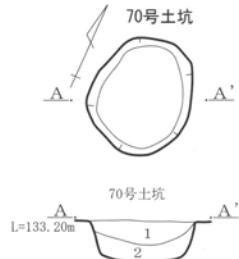
第273図 60~68号土坑

第6章 VI区 検出の遺構



69号土坑 A-A'

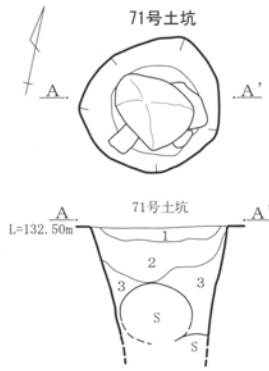
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を多量に炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を多量に炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。



70号土坑 A-A'

70号土坑 A-A'

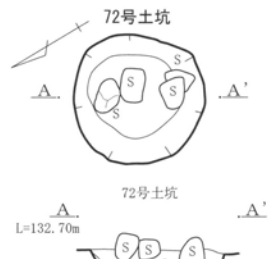
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を多量・炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を多量・炭化物粒子を含む。



71号土坑 A-A'

71号土坑 A-A'

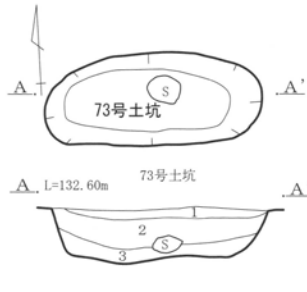
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を多量・炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかい。黄褐色土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 非常に軟らかい。



72号土坑 A-A'

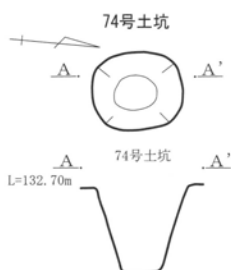
72号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。

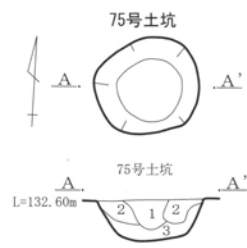


73号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量・黄褐色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい。黄褐色土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて、サラサラしている。黒色ブロックを含む。

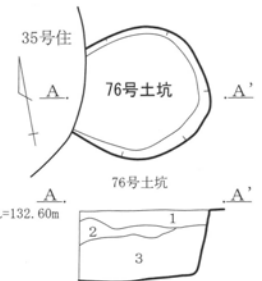


74号土坑 A-A'



75号土坑 A-A'

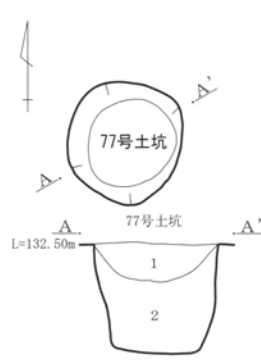
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい。As-C・Hr-FA、灰白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。



76号土坑 A-A'

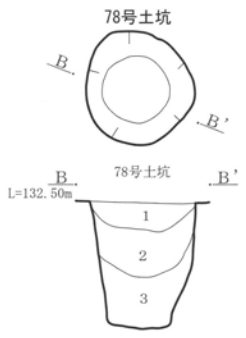
76号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色粒子・黒色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
- 3 暗褐色土層 やや軟らかく、ボンボンしている。



77号土坑 A-A'

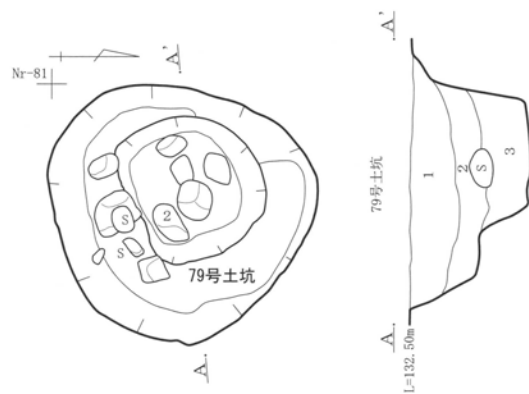
- 1 暗褐色土層 As-Bを多量に含みサラサラしている。
- 2 暗褐色土層 上層よりも軟らかい。As-Bを含む。



78号土坑 B-B'

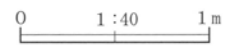
78号土坑 B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロックと灰褐色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 上層よりも軟らかく粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰褐色土ブロックを少量含む。



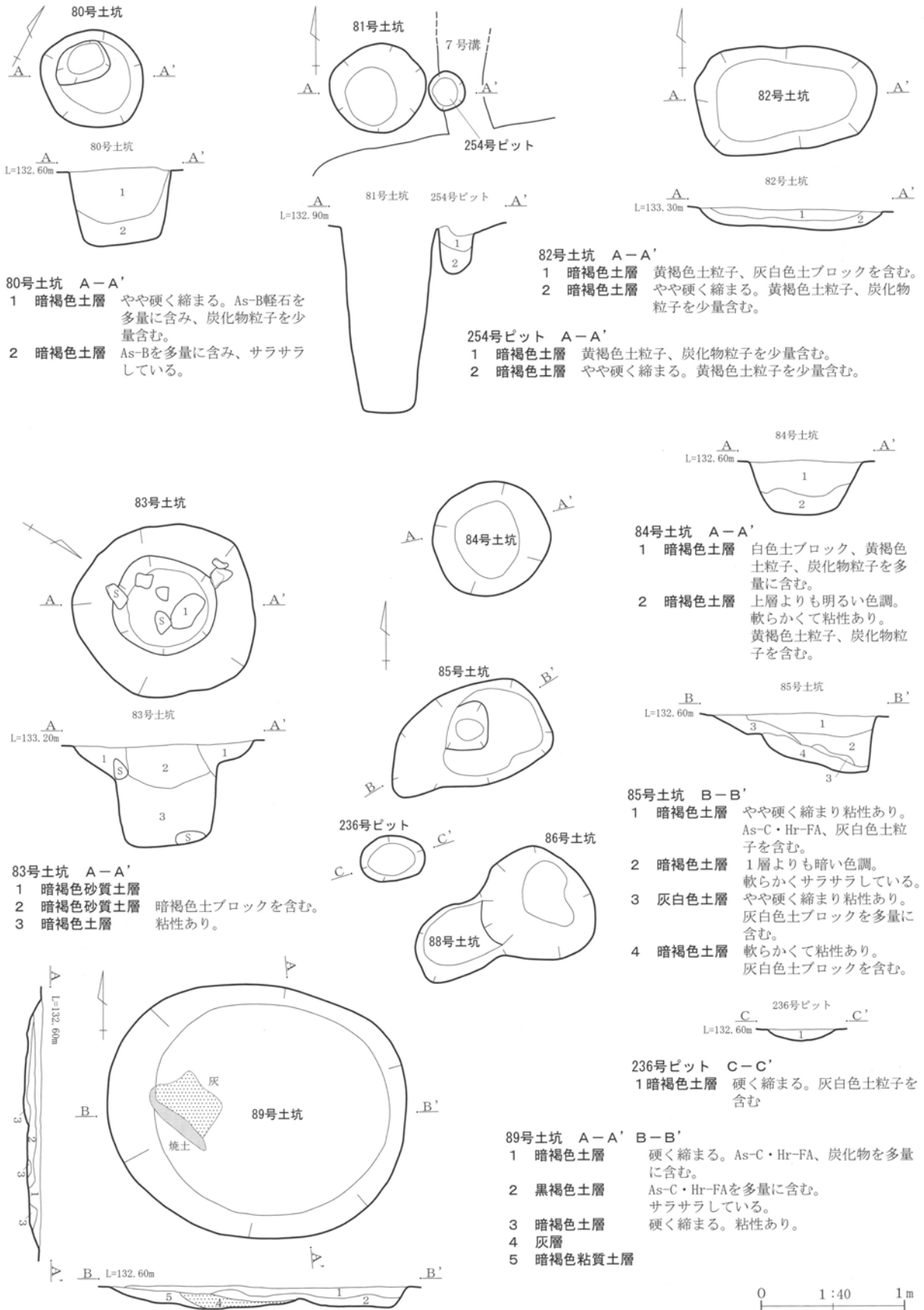
79号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや軟らかい。灰白色粒子を含む。
- 3 暗褐色粘質土層 軟らかい。



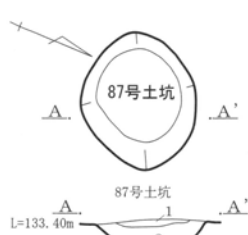
第274図 69~79号土坑

(3) 土坑・ピット



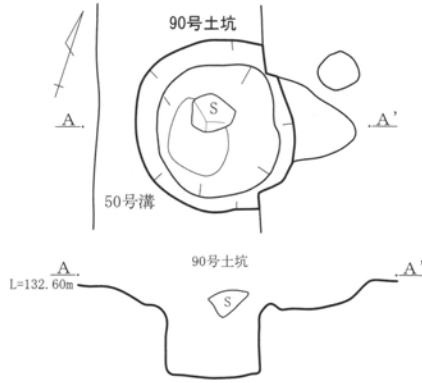
第275図 80~86・88・89号土坑、236・254号ピット

第6章 VI区 検出の遺構

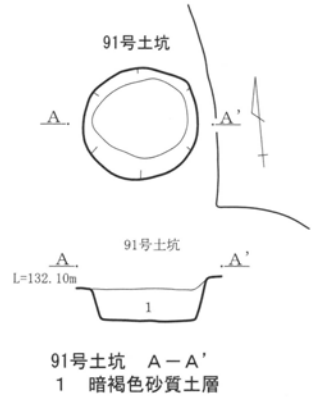


87号土坑 A-A'

- 1 赤褐色土層 軟らかい。焼土粒子、灰白色土を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

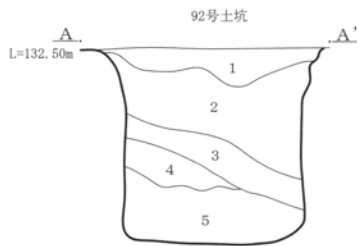
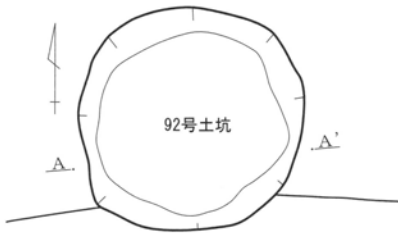


90号土坑 A-A'



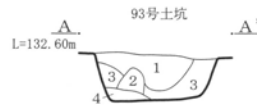
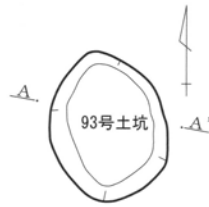
91号土坑 A-A'

- 1 暗褐色砂質土層



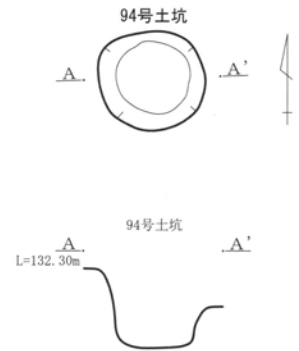
92号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色砂質土層
- 3 暗褐色土層 シルト状。
- 4 暗褐色砂質土層
- 5 暗褐色砂質土層



93号土坑 A-A'

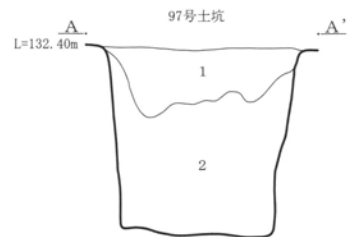
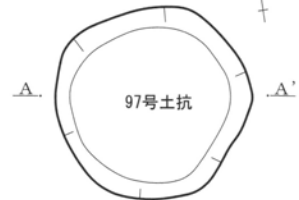
- 1 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色砂質土層
- 3 暗褐色粘質土層
- 4 暗褐色粘質土層



94号土坑 A-A'

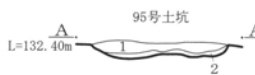
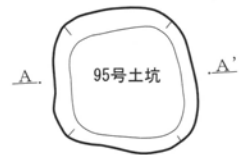
97号土坑 A-A'

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。



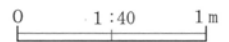
96号土坑 B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を少量含む。



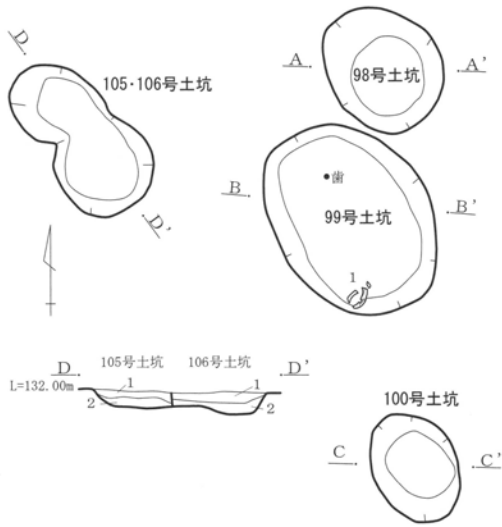
95号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を少量含む。



第276図 87・90~97号土坑

(3) 土坑・ピット



98号土坑 A-A'

- 1 褐色土層 軟らかい。黄褐色土ブロック、炭化物粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土層 軟らかくて粘性あり。

99号土坑 B-B'

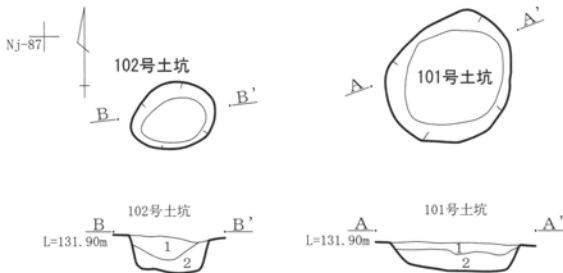
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくて、サラララしている。

100号土坑 C-C'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。

105・106号土坑 D-D'

- 1 褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土を含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まり、粘性あり。



101号土坑 A-A'

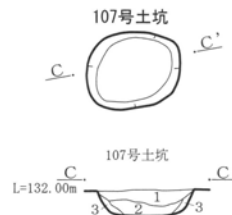
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。

102号土坑 B-B'

- 1 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。

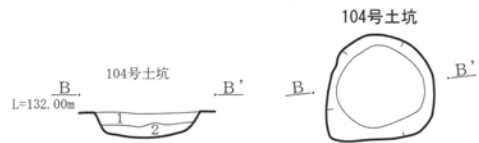
107号土坑 C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 上層よりも軟らかい。黄褐色土粒子を含む。
- 3 黒褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。



104号土坑 B-B'

- 1 褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土を含む。
- 2 暗褐色土層 硬くしまり粘性あり。

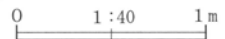
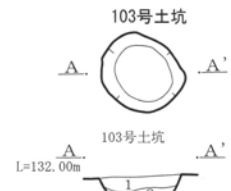


108号土坑 D-D'

- 1 灰褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。

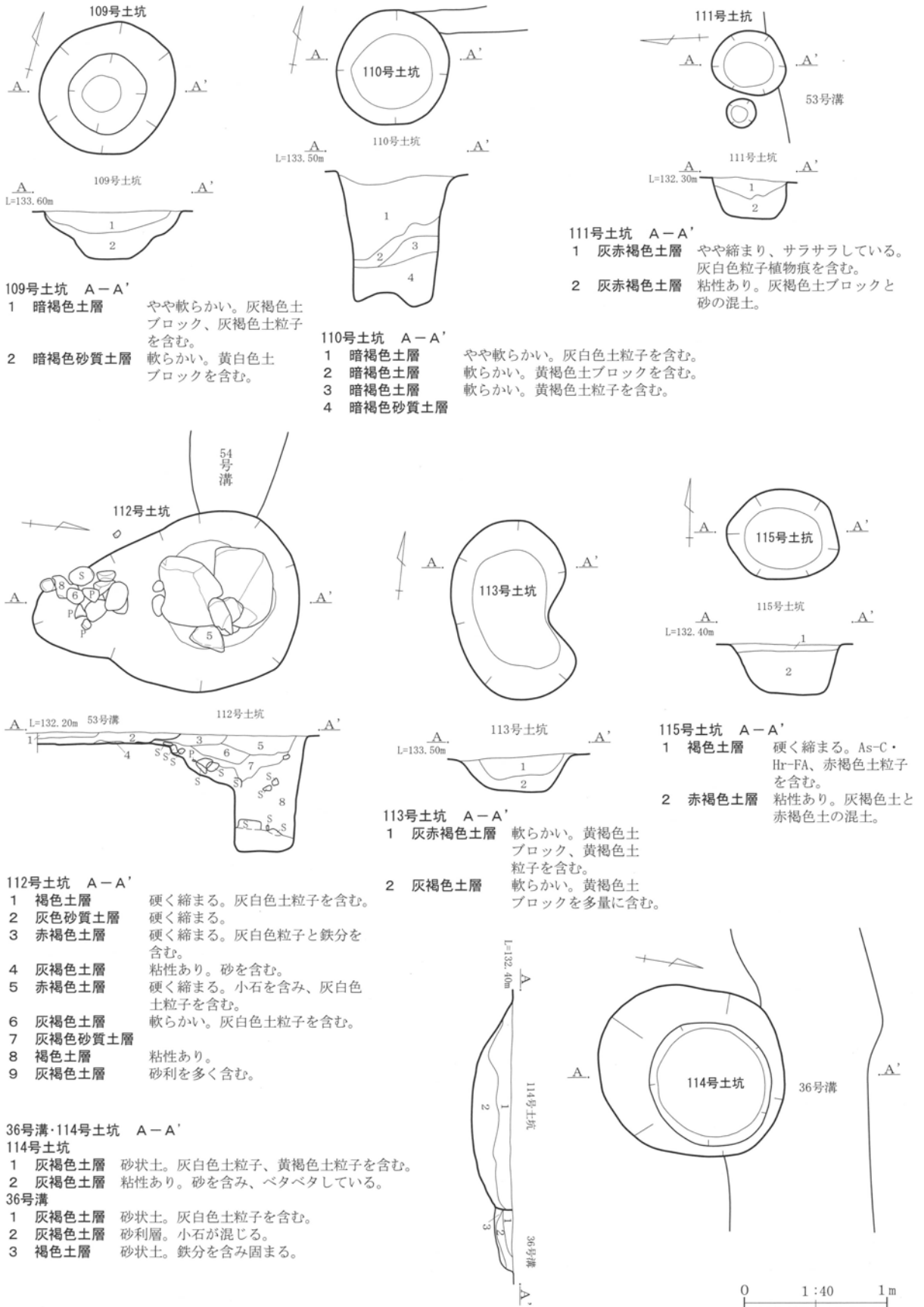
103号土坑 A-A'

- 1 褐色土層 軟らかくて粘性あり。赤褐色土を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。



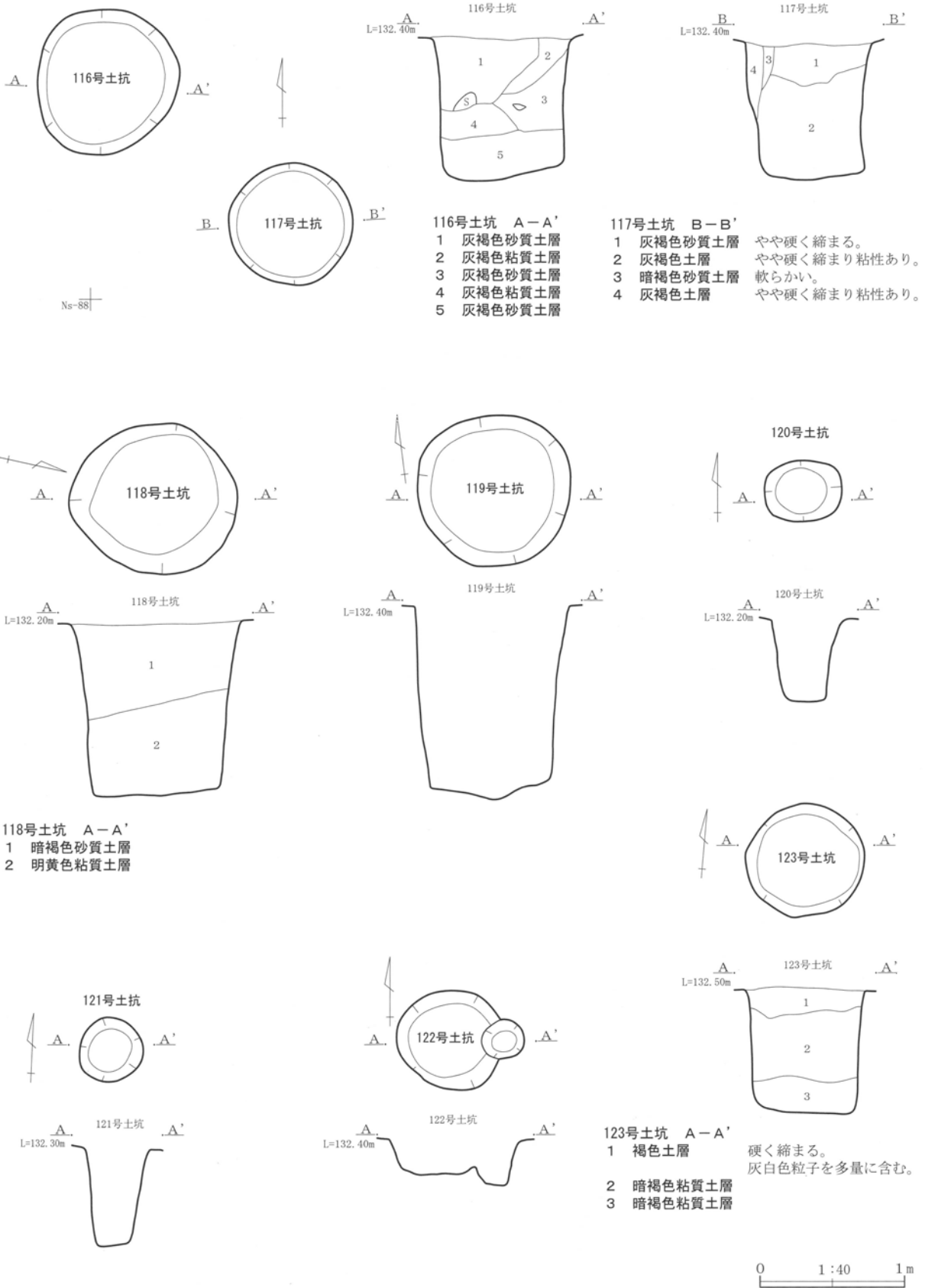
第277図 98~108号土坑

第6章 VI区 検出の遺構



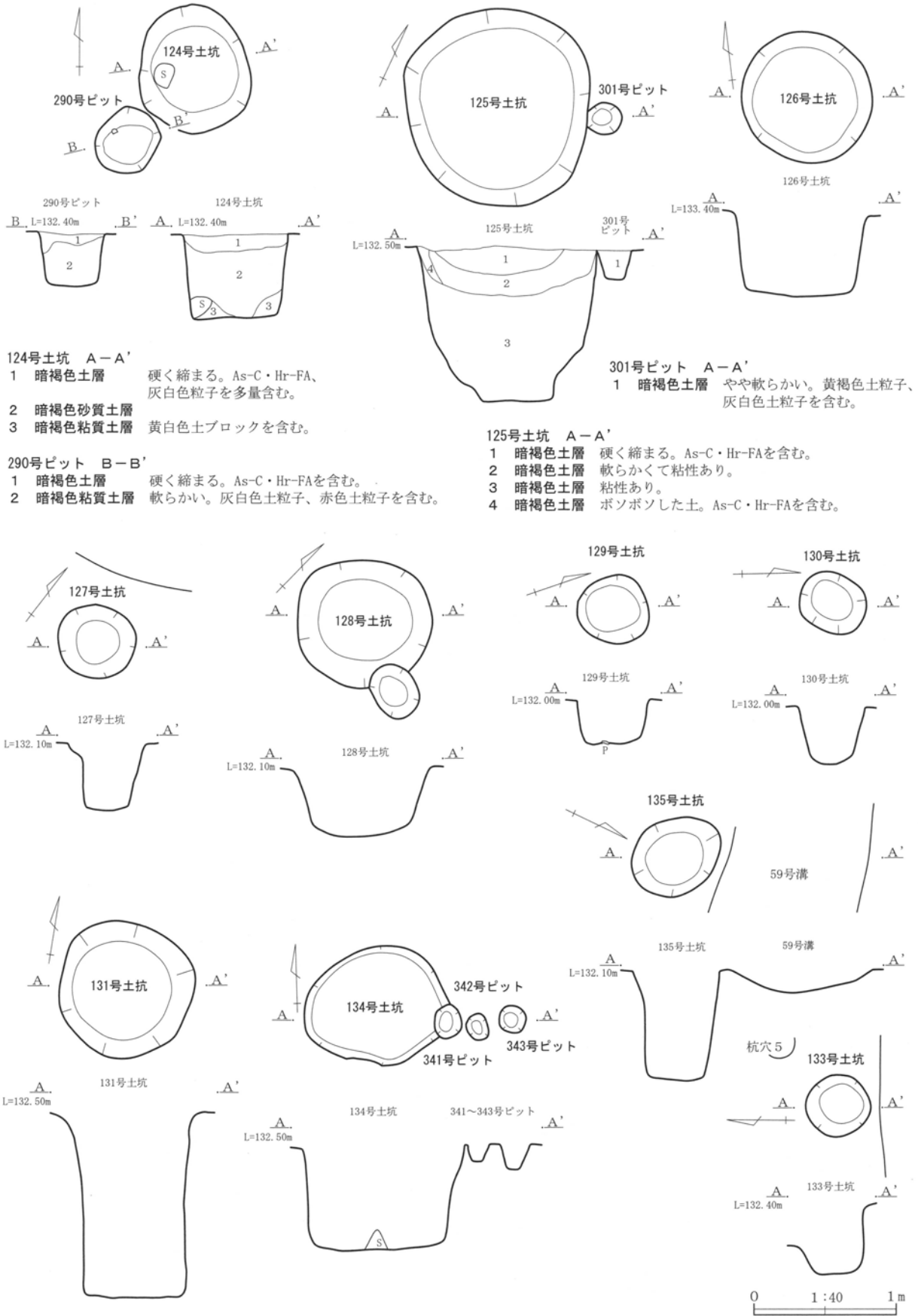
第278図 109~115号土坑

(3) 土坑・ピット



第279図 116~123号土坑

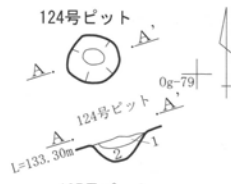
第6章 VI区 検出の遺構



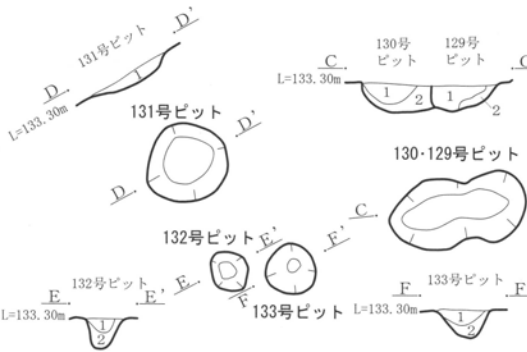
第280図 124~131・133~135号土坑、290・301・341~343号ピット

(3) 土坑・ピット

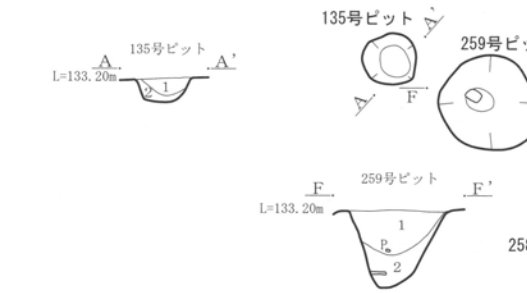
124号ピット A-A'
 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
 2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。



125・131号ピット B-B' D-D'
 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。



132・133号ピット E-E' F-F'
 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
 2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。



135号ピット A-A'
 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
 2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。

147号ピット B-B'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に含む。

148号ピット C-C'
 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
 2 黒褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。

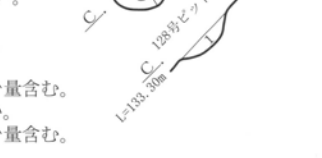
126・128号ピット A-A' C-C'
 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。



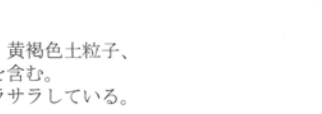
129・130号ピット C-C'
 129号ピット
 1 褐色土層 やや硬く締まる。軽石を含む。
 2 暗褐色土層 1層より軟らかい。
 130号ピット
 1 褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
 2 黒褐色土層 1層より軟らかい。黄褐色土粒子を少量含む。



127号ピット B-B'
 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
 2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。



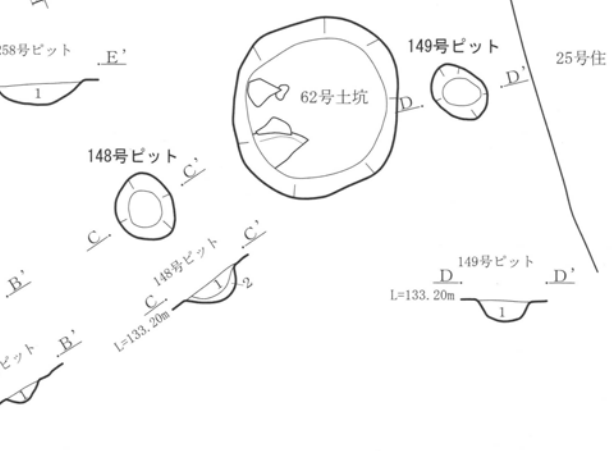
134号ピット D-D'
 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
 2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。



259号ピット F-F'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を少量含む。
 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。

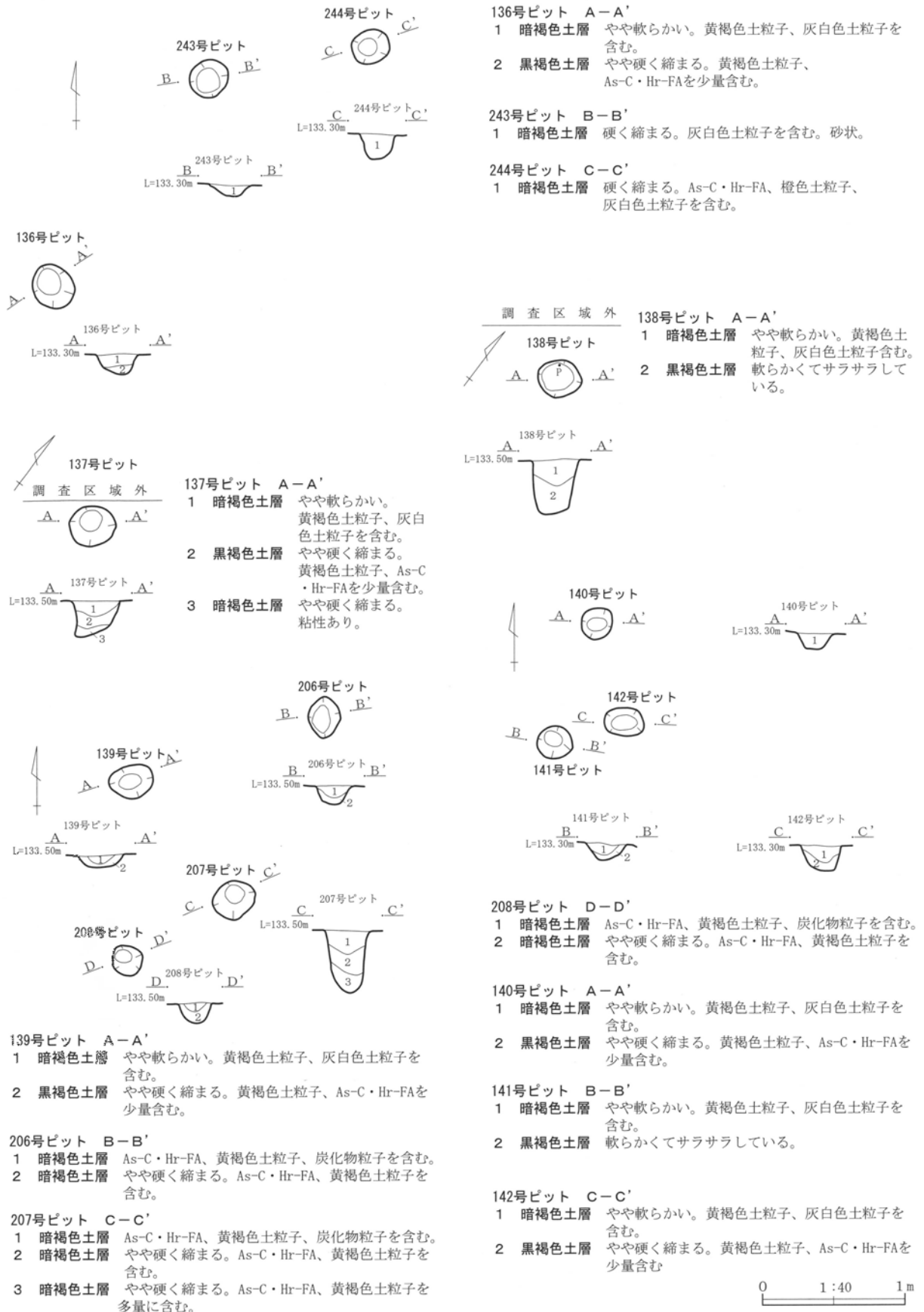
258号ピット E-E'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。

149号ピット D-D'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に含む。



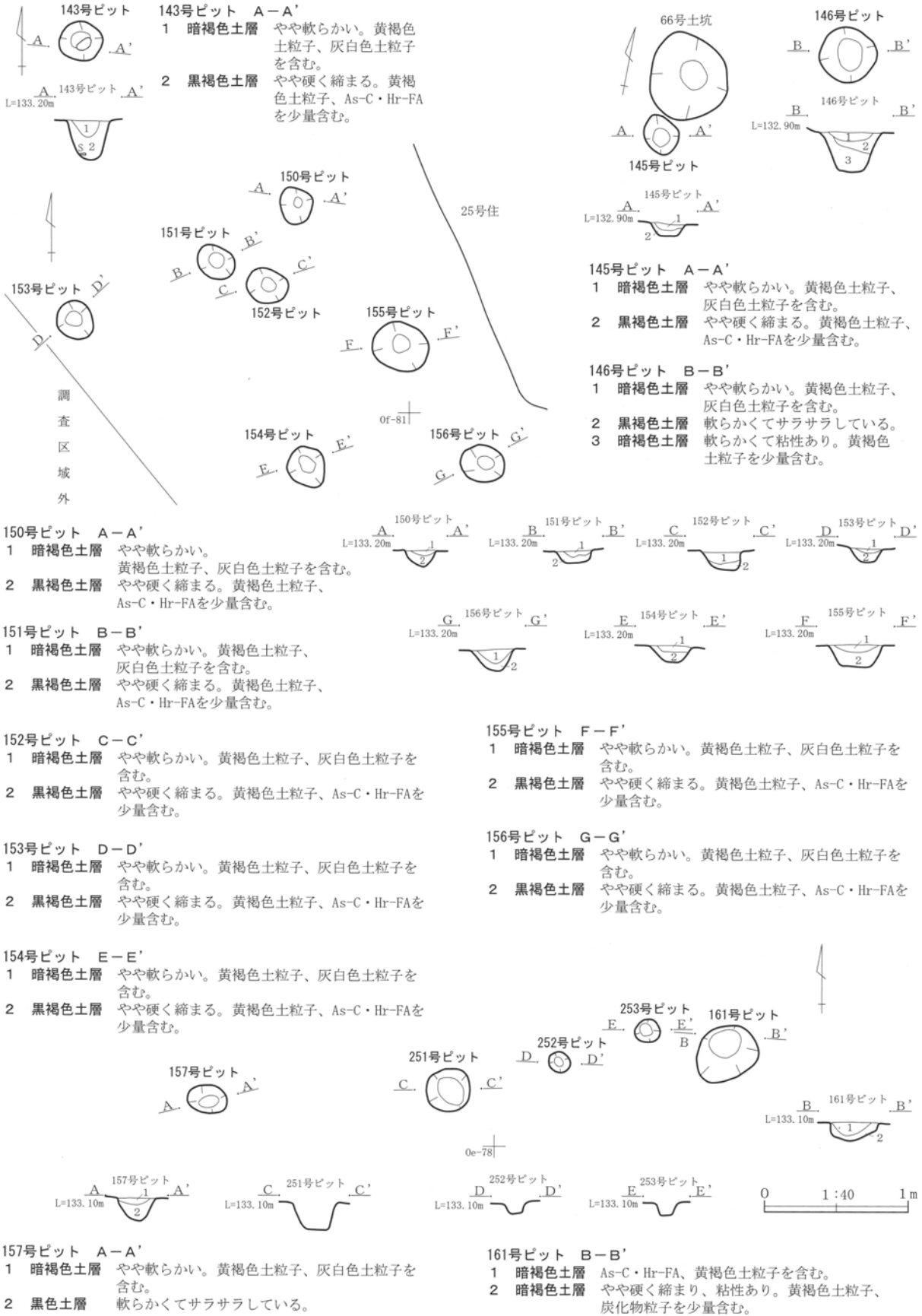
第281図 124~135・147~149・258・259号ピット

第6章 VI区 検出の遺構



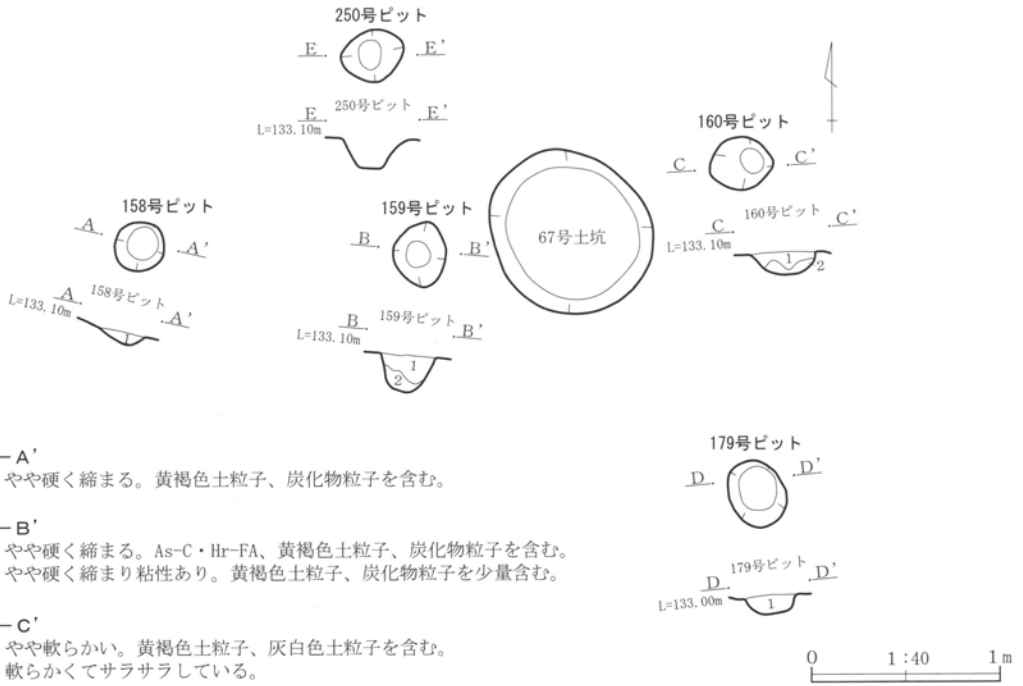
第282図 136~142・206~208・243・244号ピット

(3) 土坑・ピット



第283図 143・145・146・150～157・161・251～253号ピット

0e-78



158号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。

159号ピット B-B'

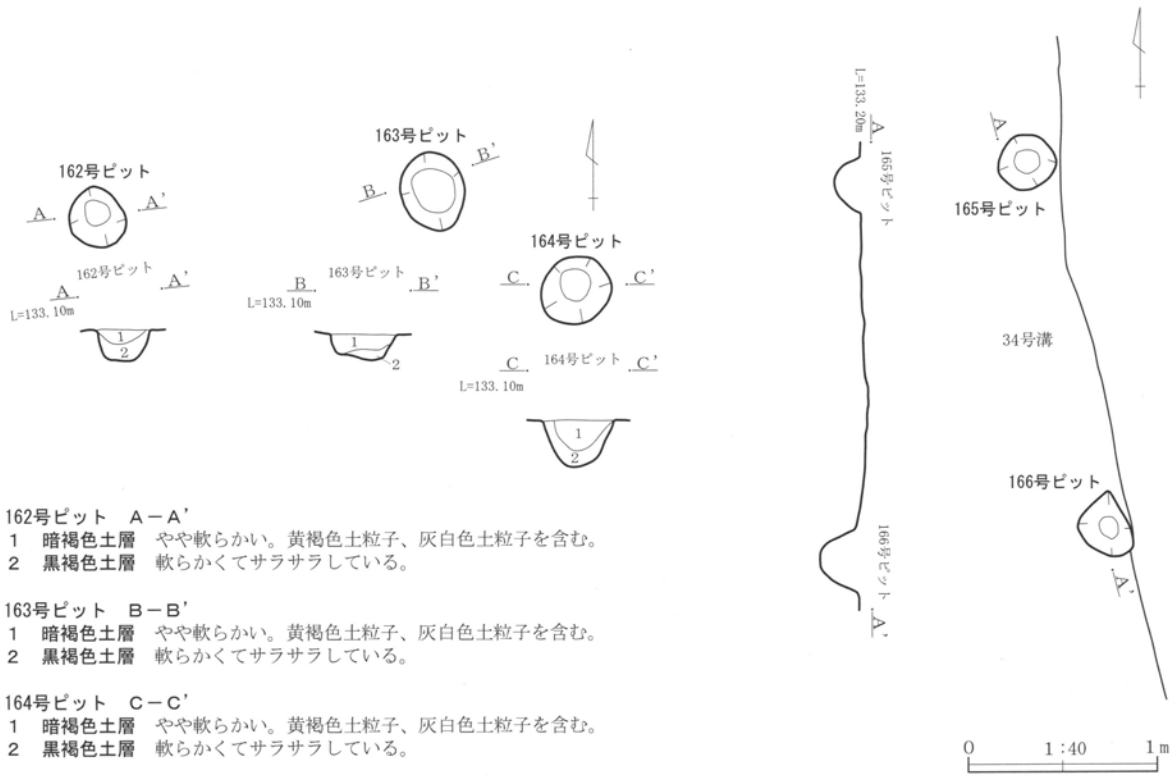
- 1 暗褐色土層 やや軟く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。

160号ピット C-C'

- 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。

179号ピット D-D'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。



162号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。

163号ピット B-B'

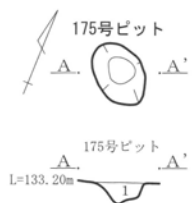
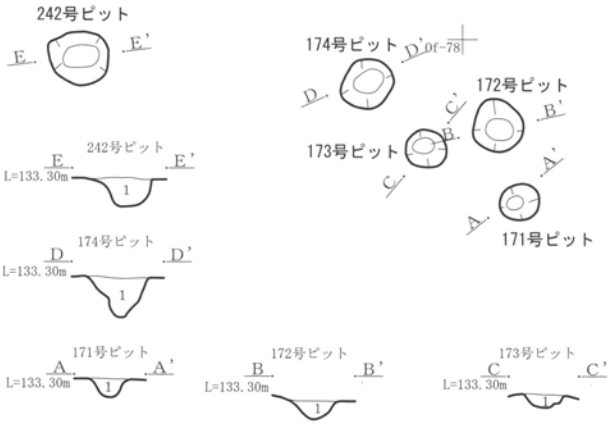
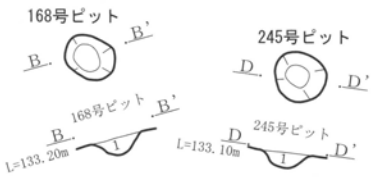
- 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。

164号ピット C-C'

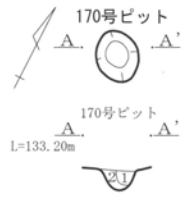
- 1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。

第284図 158~160・162~166・179・250号ピット

(3) 土坑・ピット



175号ピット A-A'
1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、
灰褐色土粒子、黄褐色土粒子を含む。



167号ピット A-A'
1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。

168号ピット B-B'
1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

169号ピット C-C'
1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

245号ピット D-D'
1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子を含む。

170号ピット A-A'
1 暗褐色土層 灰白色土粒子を含む。ボソボソした土。
2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子を含む。

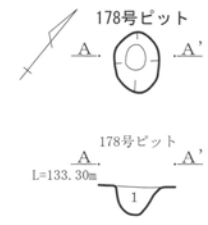
171号ピット A-A'
1 暗褐色土層 硬く締まっているが、ボソボソしている。
灰白色土粒子、褐色土ブロックを含む。

172号ピット B-B'
1 暗褐色土層 硬く締まっているが、ボソボソしている。
灰白色土粒子、褐色土ブロックを含む。

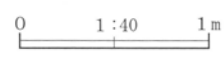
173号ピット C-C'
1 暗褐色土層 硬く締まっているが、ボソボソしている。
灰白色土粒子、褐色土ブロックを含む。

174号ピット D-D'
1 暗褐色土層 砂状土。灰白色土粒子を含む。

242号ピット E-E'
1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。砂状。

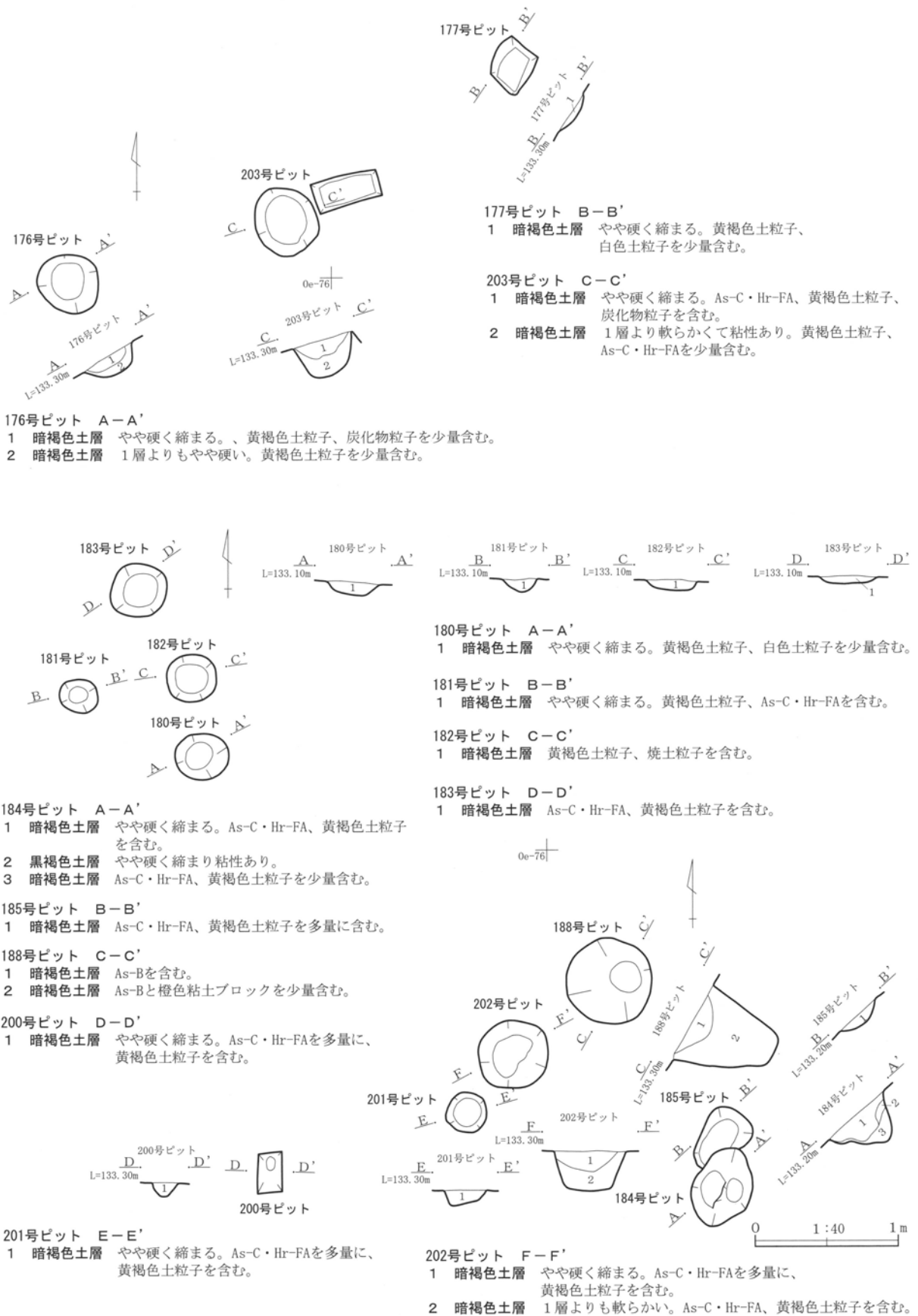


178号ピット A-A'
1 暗褐色土層 軽石を含みガラガラしている。



第285図 167~175・178・242・245号ピット

第6章 VI区 検出の遺構

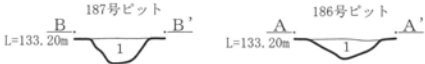
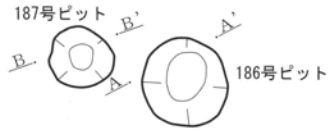


第286図 176・177・180～185・188・200～203号ピット

(3) 土坑・ピット

186号ピット A-A'

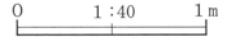
1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。



187号ピット B-B'

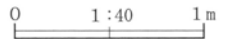
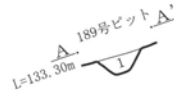
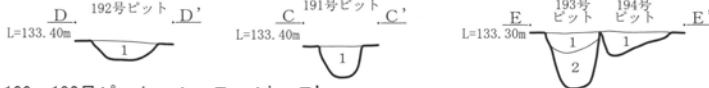
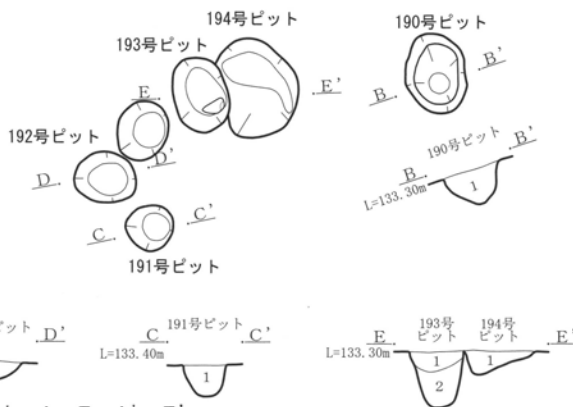
1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを含む。

204号ピット



204号ピット C-C'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。

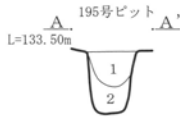
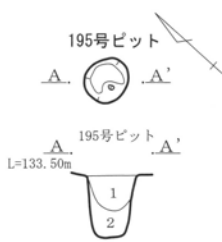


189~192号ピット A-E~A'-E'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。

193・194号ピット E-E'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。



195号ピット A-A'

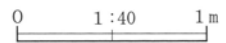
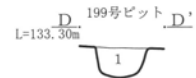
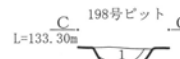
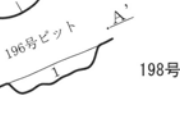
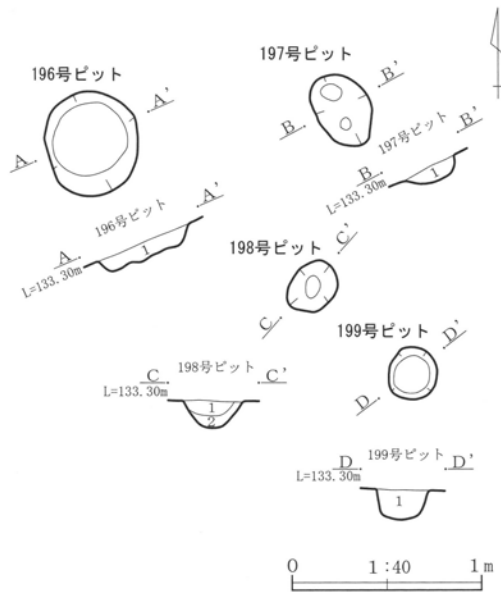
1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

196・197・199号ピット A-A' B-B' D-D'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。

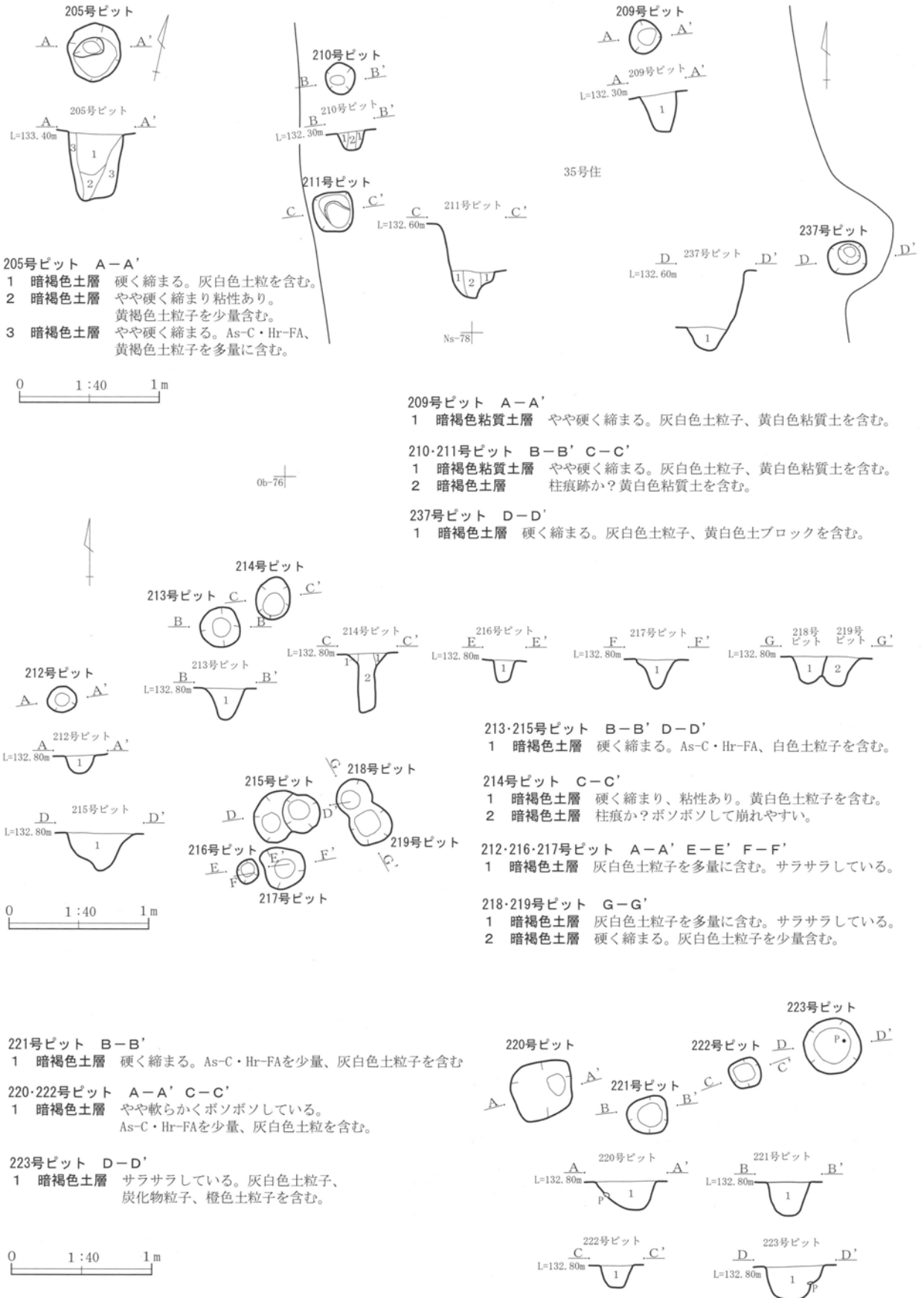
198号ピット C-C'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。



第287図 186・187・189~199・204号ピット

第6章 VI区 検出の遺構



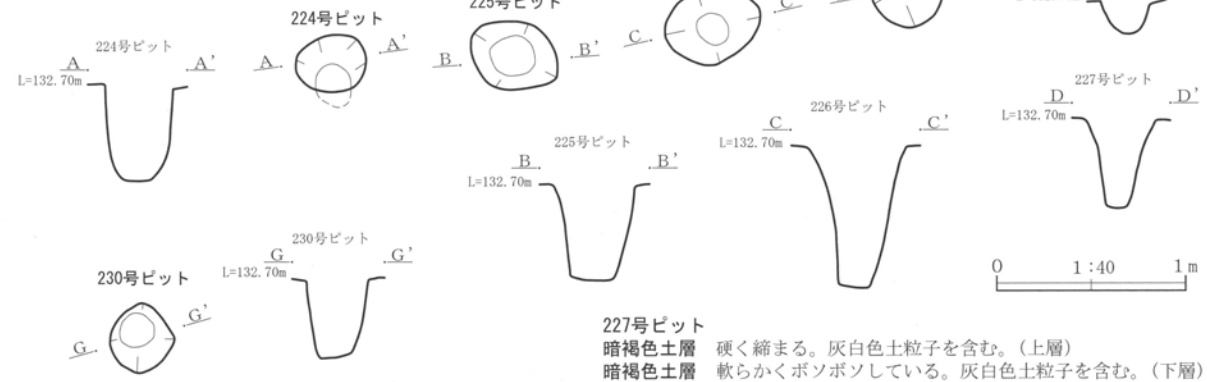
第288図 205・209~223・237号ピット

(3) 土坑・ピット

224号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、
黒色土ブロックを含む。

225号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、
橙色土粒子を含む。(上層)
暗褐色土層 黒色土ブロックを多量に含む。(下層)

226号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、
黒色土ブロックを含む。



227号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。(上層)
暗褐色土層 軟らかくボンボンしている。灰白色土粒子を含む。(下層)

230号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、橙色粒子、
黒色土ブロックを含む。(上層)
暗褐色土層 1層と同じであるが、黒色ブロックを含まない。(中層)
暗褐色土層 灰白色土粒子を含む。(下層)

228号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
229号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

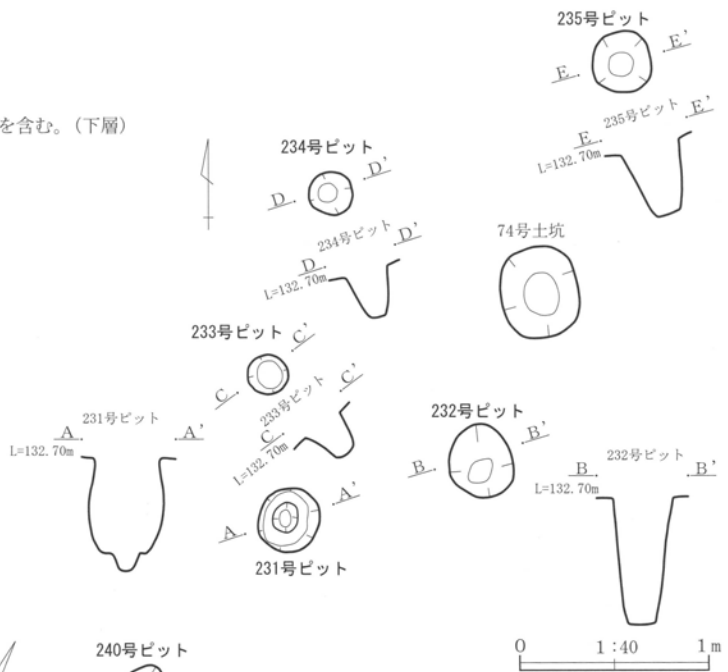
231号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。(上層)
暗褐色土層 軟らかくボンボンしている。灰白色土粒子を含む。(下層)

233号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

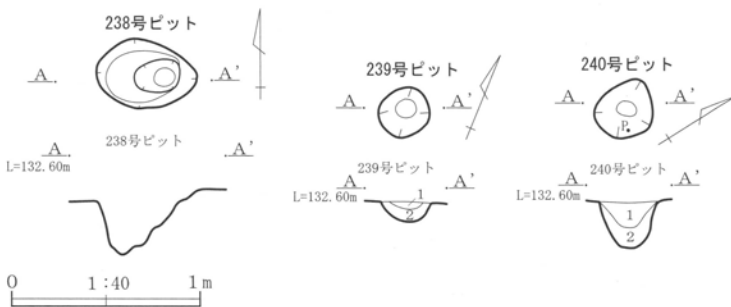
232号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。黄白色粘土ブロックを含む。

234号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

235号ピット
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

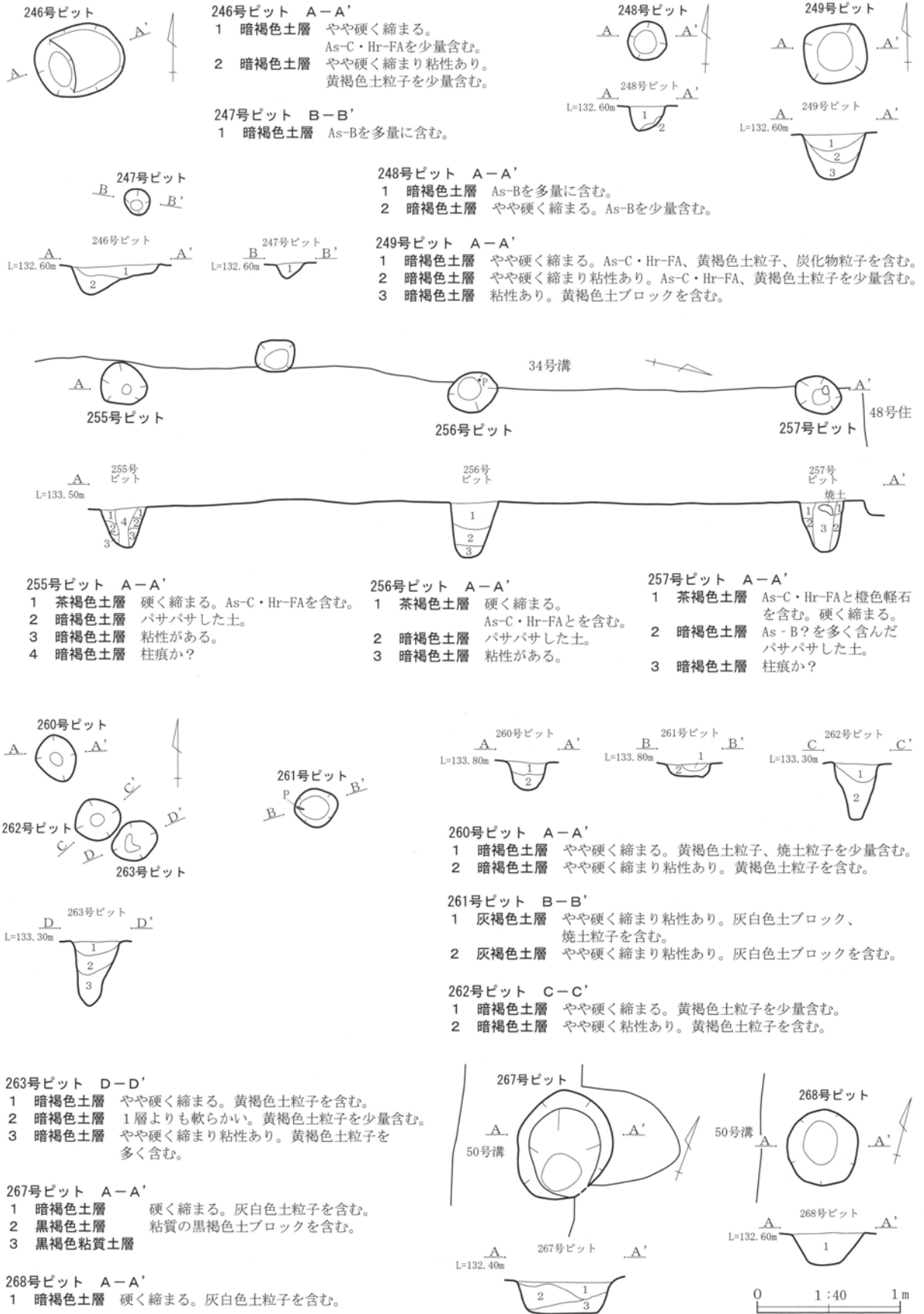


239・240号ピット A-A'
1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 硬く締まる。1層と同じであるが、
黒色土ブロックを含む。



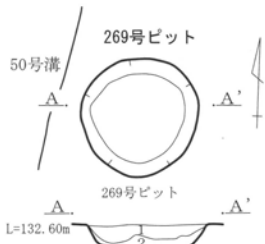
第289図 224～235・238～240号ピット

第6章 VI区 検出の遺構



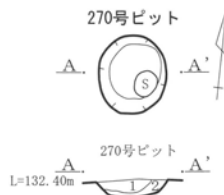
第290図 246~249・255~257・260~263・267・268号ピット

(3) 土坑・ピット



269号ピット A-A'

- 1 褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを少量含む。



270号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を少量含む。
- 2 黒褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を少量含む。



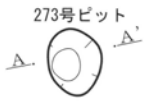
271号ピット



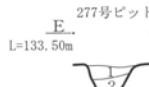
272号ピット

271・272号ピット A-A' B-B'

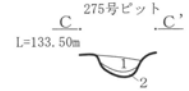
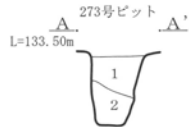
- 1 黒褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層 軟らかい。



275号ピット



278号(A)ピット



273・275号ピット A-A' C-C'

- 1 黒褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。
- 2 黒褐色土層 軟らかい。

274号ピット B-B'

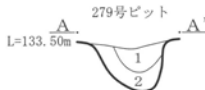
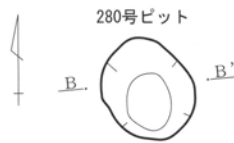
- 1 黒褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。
- 2 黄褐色土層 黄白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 砂状土。
- 4 暗褐色土層 やや軟らかい。
- 5 暗褐色土層 砂状土。

276・277号ピット D-D' E-E'

- 1 黒褐色土層 軟らかい。焼土、炭化物粒子、黄白色土粒子を含む。
- 2 褐色土層 砂状土。

278号(A)ピット F-F'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。

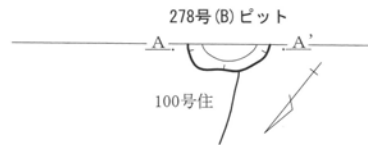


279号ピット A-A'

- 1 黒褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、黄白色粒を含む。
- 2 黒褐色土層 軟らかい。

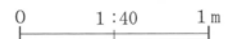
280号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかい。黄褐色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。



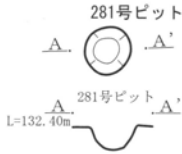
278号(B)ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土粒子、黄褐色土粒子を含む。



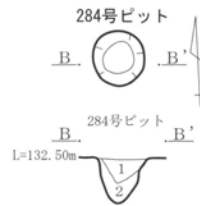
第291図 269～280号ピット

第6章 VI区 検出の遺構



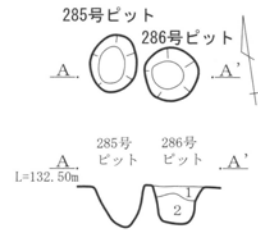
281号ピット
灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、
黄白色土を含む。

282号ピット
灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、
黄白色土を含む。

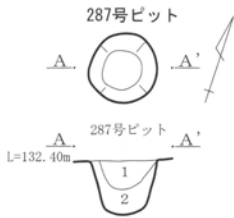


283号ピット A-A'
1 灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄白色土を含む。

284・287号ピット A-A' B-B'
1 灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色粘質土層



285号ピット A-A'
灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、
黄白色土を含む。
286号ピット
1 灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土層

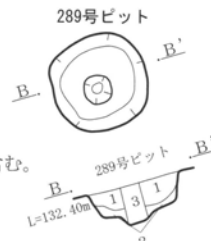
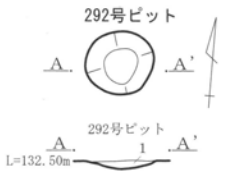


288号ピット A-A'
1 暗褐色土層 軟らかい。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色土層 粘質土ブロックを含む。

289号ピット B-B'
1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
2 暗褐色粘質土層
3 暗褐色土層 柱痕。ボンボンとしている。

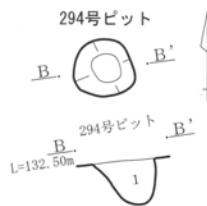
291号ピット A-A'
暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、赤色土粒を含む。

292号ピット A-A'
1 黄褐色土層 As-C・Hr-FAを含む。サラサラしている。



291号ピット

Ns-83

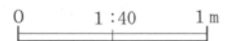
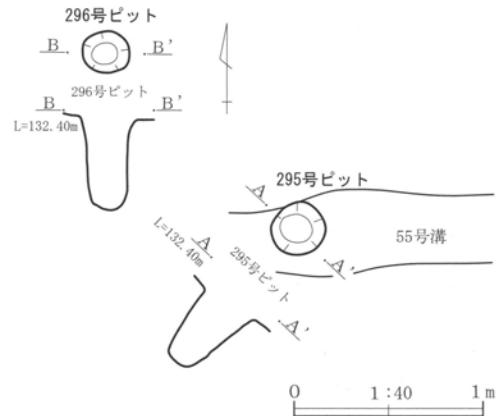


294号ピット B-B'
1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。

295号ピット
灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄白色土を含む。

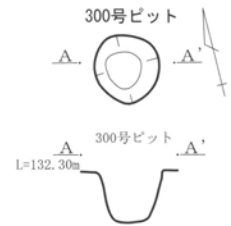
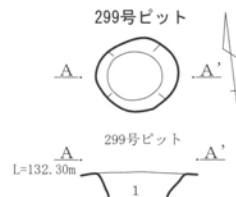
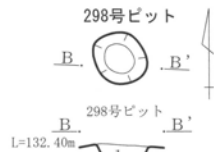
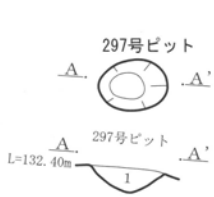
296号ピット
灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄白色土を含む。

Ns-85



第292図 281~289・291~296号ピット

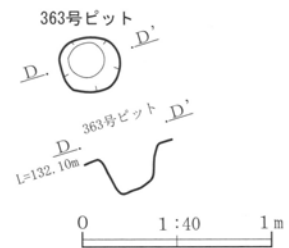
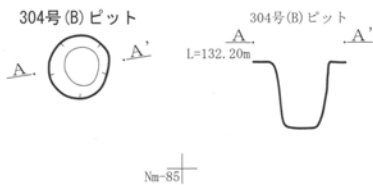
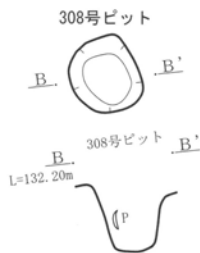
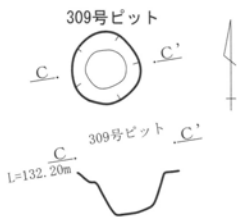
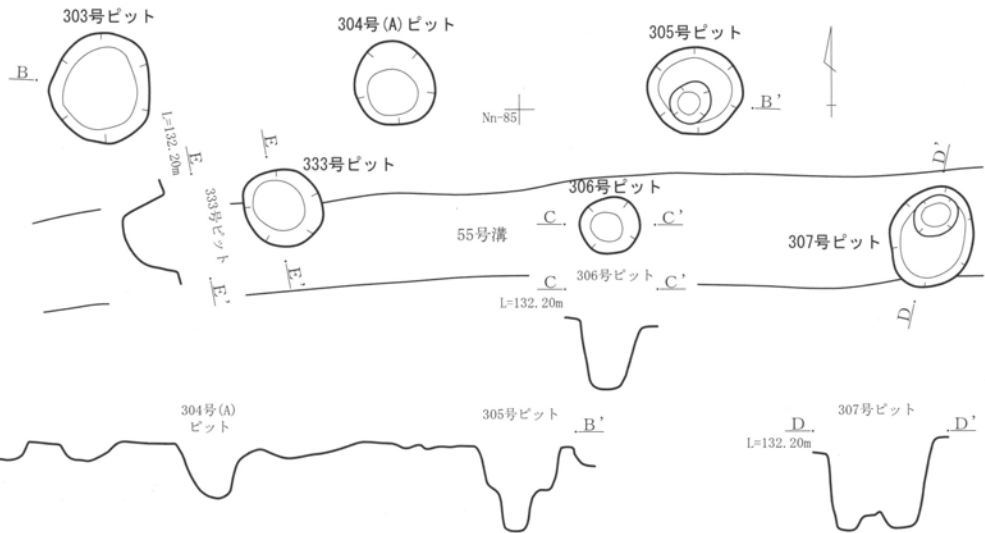
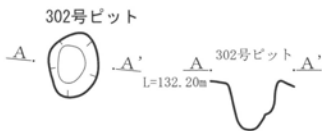
(3) 土坑・ピット



297号ピット A-A'
 1 灰褐色土層 サラサラしている。As-C・Hr-FA、黒色土粒子を含む。

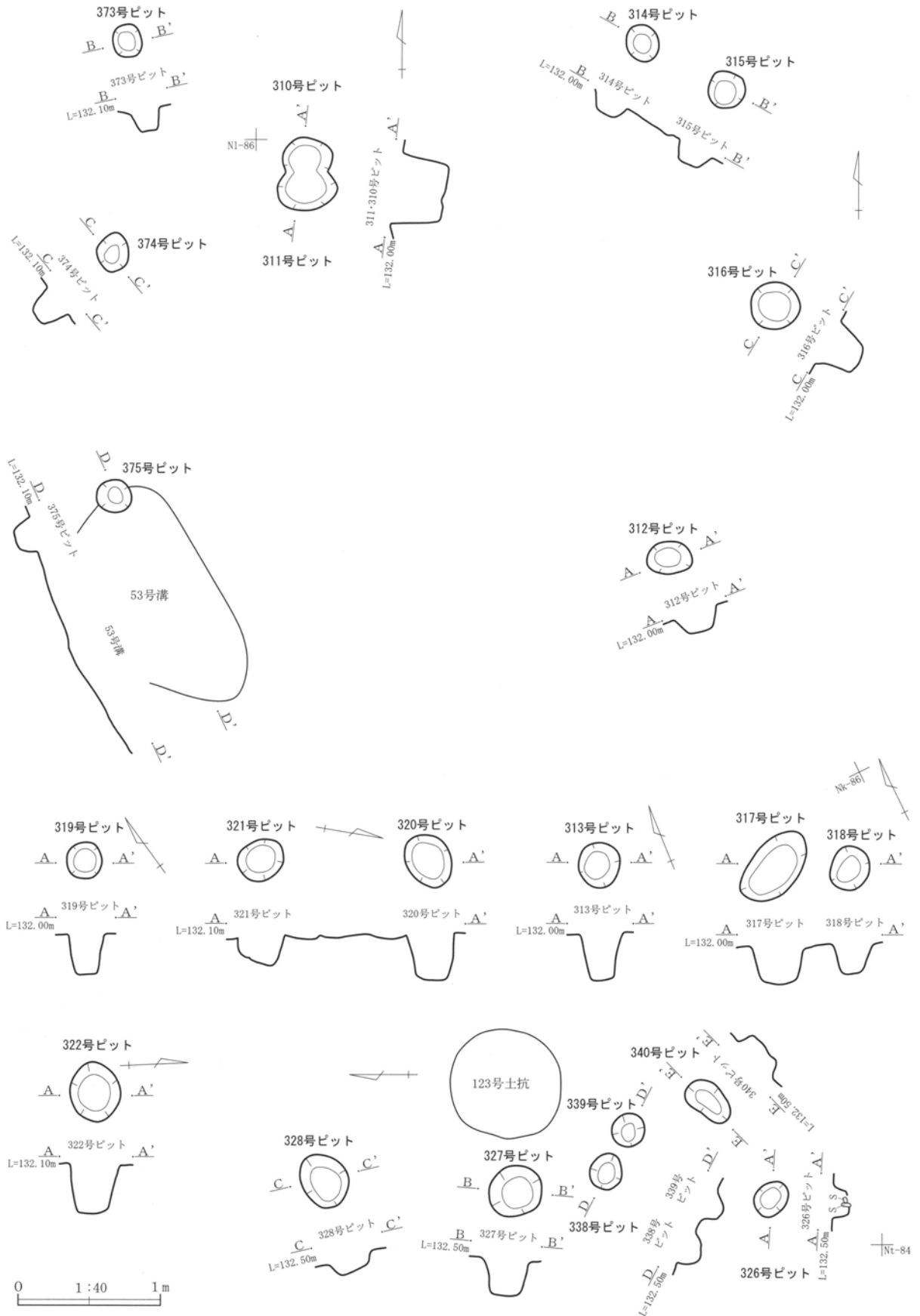
298号ピット B-B'
 1 灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄白色土粒子を含む。

299号ピット A-A'
 1 灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄白色土粒子を含む。



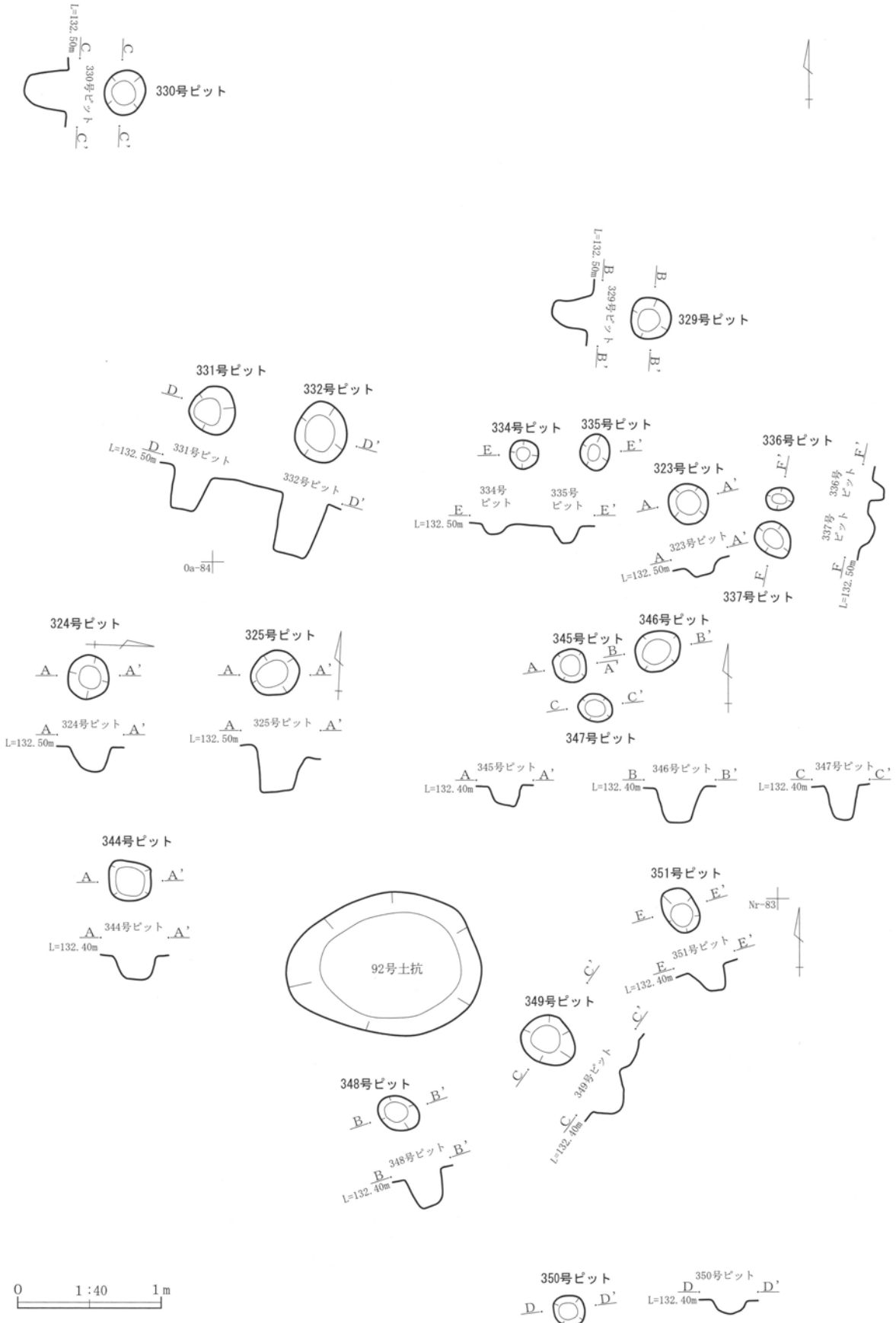
第293図 297~300・302~309・333・363号ピット

第6章 VI区 検出の遺構



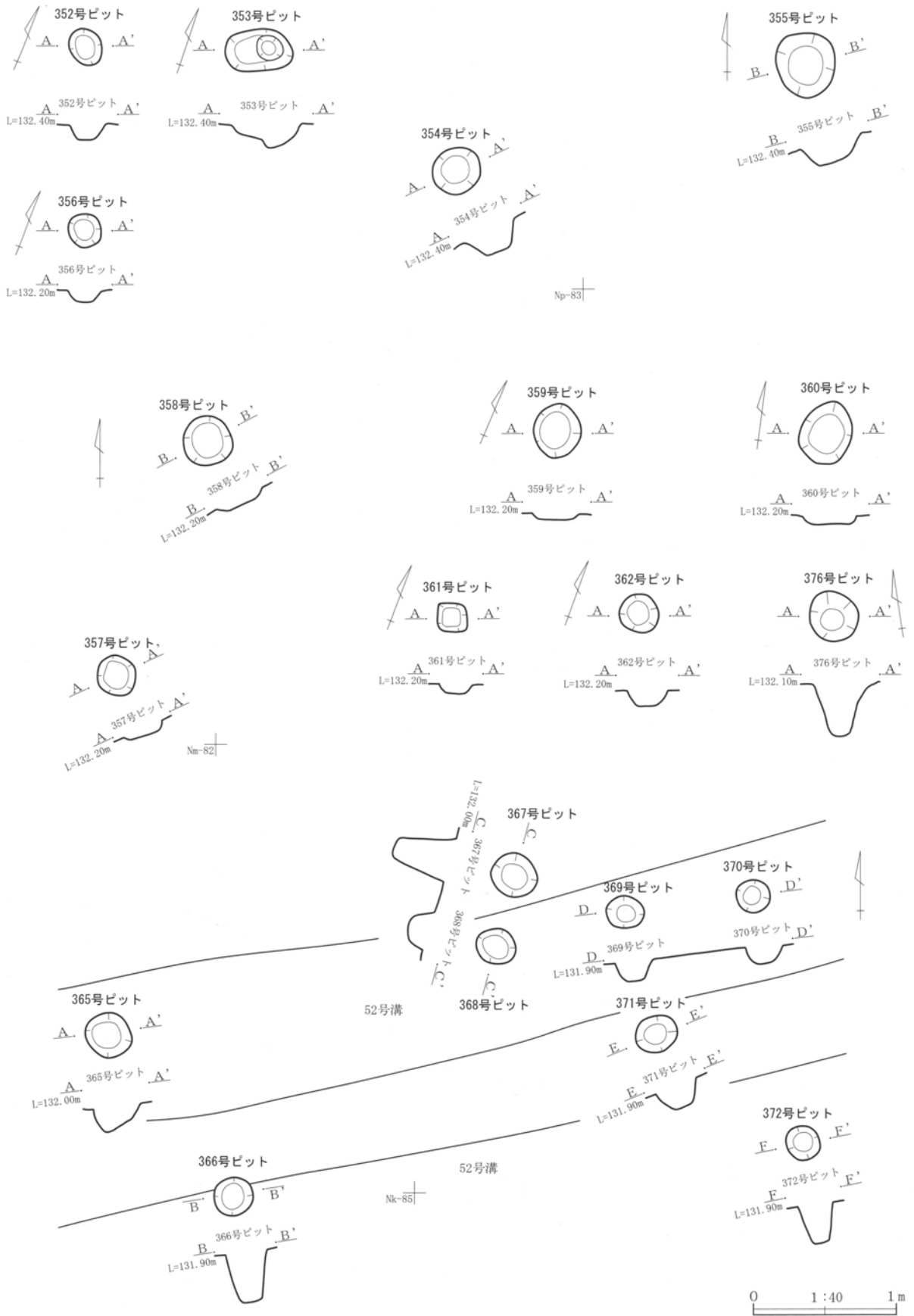
第294図 310~322・326~328・338~340・373~375号ピット

(3) 土坑・ピット



第295図 323~325・329~332・334~337・344~351号ピット

第6章 VI区 検出の遺構



第296図 352~363・365~372・376号ビット

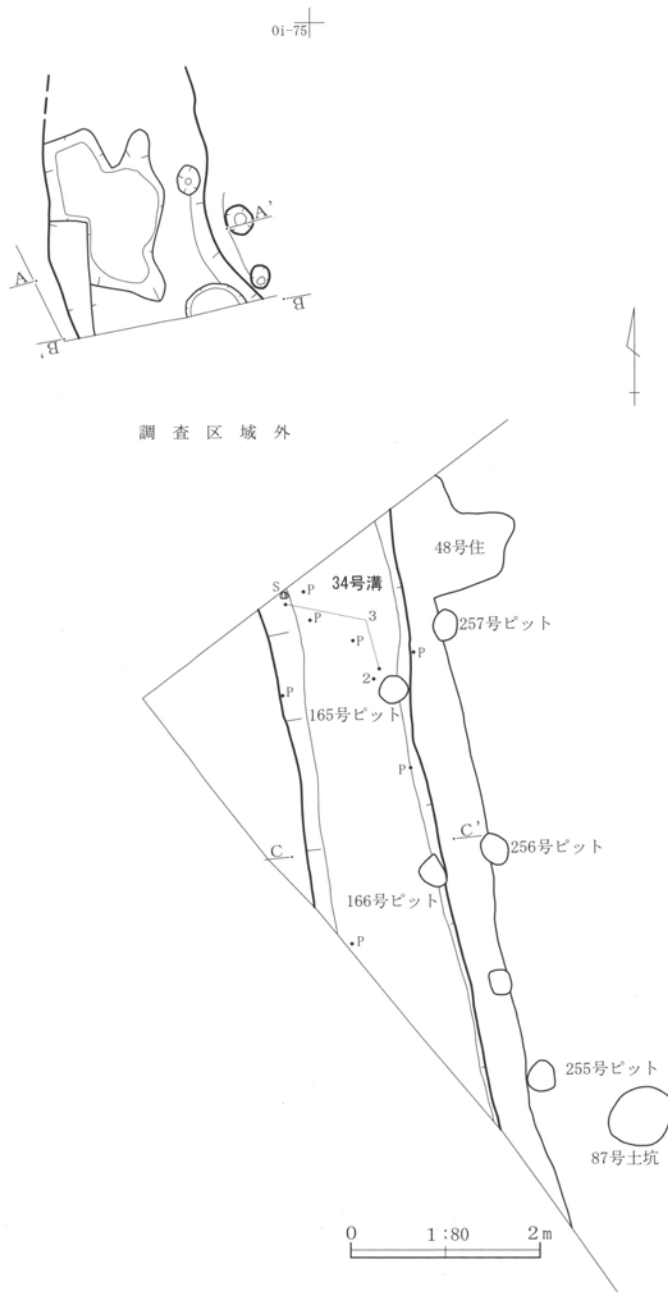
(4) 溝

(1) N-10° ~20° -W走向の溝

37号溝 (①第299図、P L.273) は、調査区南東で検出された。幅60cm、深さ40cm、検出された長さ6.3mである。出土遺物は無いが36号溝につながることから、36号溝と同時期と思われる。また、As-B (浅間B軽石) の上面から掘り込まれていることから時期は中世と考えられる。

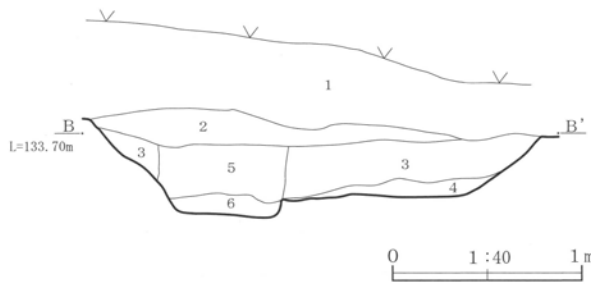
39号溝 (①第300・302図②第285図、P L.274・298) は、調査区北西で検出された。幅130~300cm、深さ10~30cmである。全体的に浅く、溝は2条になるところもあり、掘り直しの可能性も伺える。全体に石が散らばることから水路と考えられる。52号溝に流れ込むように直角につながっている。検出された長さは25mほどであったが、北方向に伸びていたと推測される。52号溝と同時期と考えられることから、時期は中世といえよう。

43号溝 (①第301図②第292・293図、P L.275・300) は、調査区中央で検出された。幅50cm、深さ120cmであり、42号溝から分かれて平行に南下するが、検出された長さは5mである。出土遺物は茶臼・石鉢・砥石・敲石であり、42号溝と同時期と考えられることから、時期は15世紀である。



34号溝 B-B' C-C'

- 1 盛土
- 2 明褐色土層 やや軟らかい。炭化物、灰白色土粒子、鉄分を含む。
- 3 暗褐色土層 砂状。小石を含む。
- 4 暗褐色土層 砂状。小石を3層よりも多く含む。
- 5 暗褐色土層 3層に似る。より砂状土。
- 6 黒褐色土層 粘性あり。砂を含む。



第297図 34号溝(1)



第298図 34号溝(2)

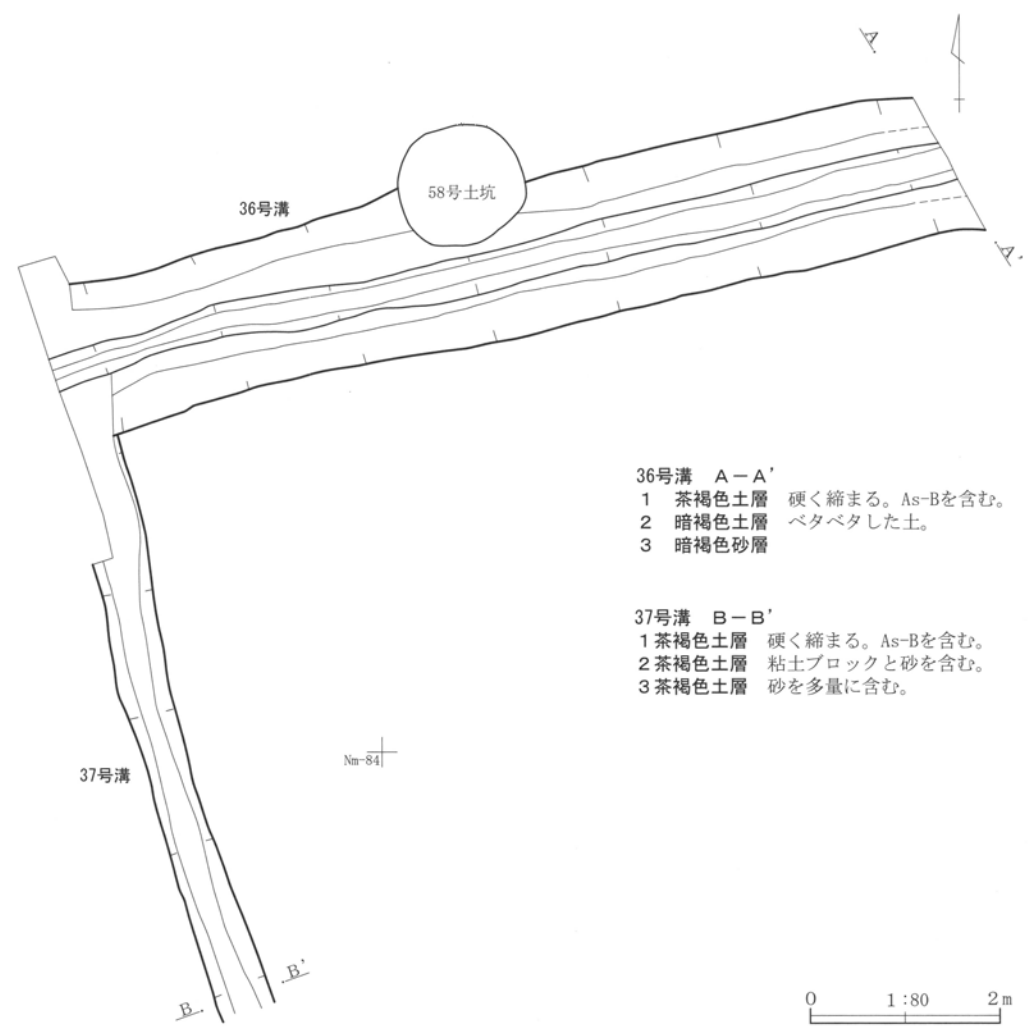
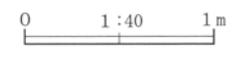
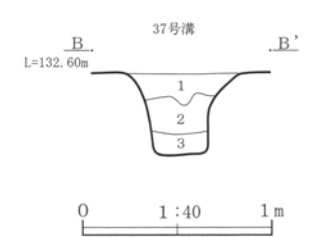
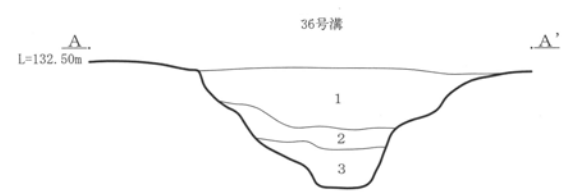
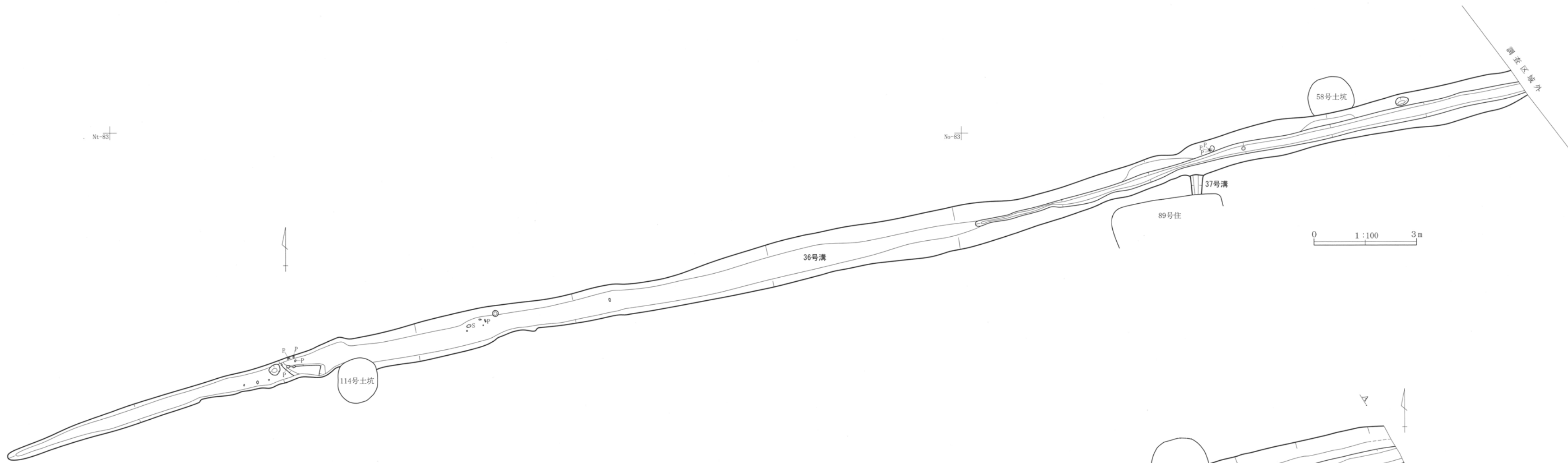
45号溝 (①第304図) は、調査区北で検出された。幅60cm、深さ20cm、検出した長さ12mである。北側に石の集積する部分があり、水路と考えられる。出土遺物は無く、時期は不明である。

49号溝 (①第305図) は、調査区北西で検出された。幅30cm、深さ20cm、検出した長さ5.4mである。出土遺物は無く、時期は不明である。

50号溝 (①第305図②第295・296図、P L.276・301) は、調査区北東で検出された。幅100~200cm、深さ30cmであり、北東隅で42号溝にほぼ直角につながる。長さは30mであり、南の端で止まる。57号溝との間が1.5mあいている。区画溝と考えられる。出土遺物はカワラケ・軟質陶器内耳鍋・揺り鉢、砥石・石臼であり、時期は15世紀と考えられる。51号溝が接続している。42号溝、57号溝とで方形の区画を構成する。

56号溝 (①第302図) は、調査区南西で検出された。幅60cm、深さ120cm、検出された長さ7mである。52号溝につながる。砂層があり水路と考えられる。出土遺物は無いが52号溝につながることから、時期は同時代の15世紀と考えられる。

60号溝 (①第308図、P L.263) は、調査区南中央で検出された。幅80cm、深さ10cm、検出された長さ8mである。出土遺物は無く、時期は不明である。



- 36号溝 A-A'
- 1 茶褐色土層 硬く縮まる。As-Bを含む。
 - 2 暗褐色土層 ベタベタした土。
 - 3 暗褐色砂層
- 37号溝 B-B'
- 1 茶褐色土層 硬く縮まる。As-Bを含む。
 - 2 茶褐色土層 粘土ブロックと砂を含む。
 - 3 茶褐色土層 砂を多量に含む。

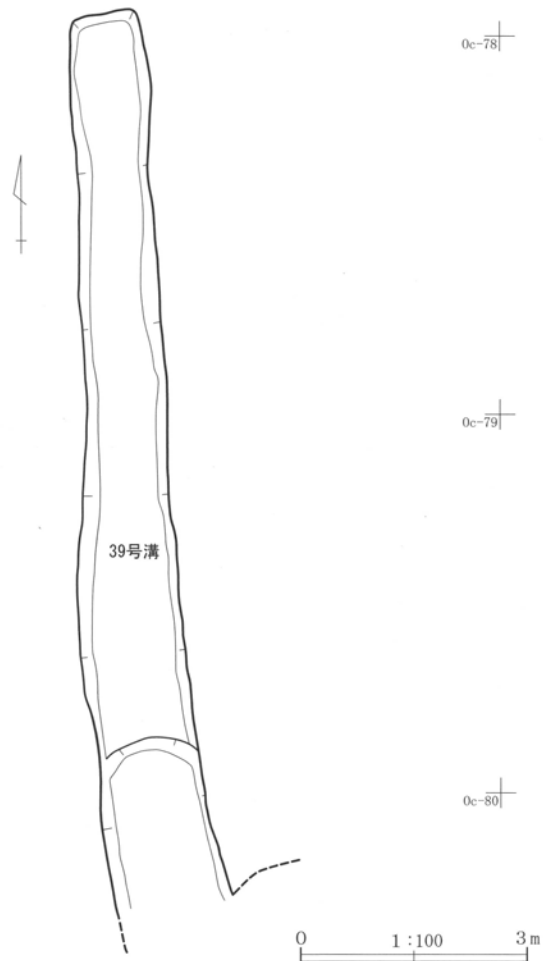
第299図 36号溝・37号溝

(2) N-70° ~80° - E 走向の溝

36号溝 (①第299図②第284図、P L.273・298) は、調査区南側で検出された。幅160cm、深さ120cm、断面形状は葉研堀である。幅55mの調査区を東西に横切る。Ⅶ-2区の11号溝につながる。埋没土より水路と考えられる。出土遺物は、須恵器坏・土師器坏、北宋銭であり、Ⅶ-2区11号溝と同一と思われることから、時期は15世紀と考えられる。また、この溝は調査区東側においてAs-B (浅間B軽石) 面より掘り込まれていたことや、周辺に北宋銭とカワラケを伴う中世の火葬施設が検出されていることより上記のことを裏付けられよう。37号溝が直交し、39号溝と42号溝と重複している。V区では、66号溝とつながる。11号溝の項で述べたように、この溝はⅦ区だけでなく、Ⅵ区、V区を貫いている幹線的な水路である。

52A・52B号溝 (①第306図②第297~300図、P L.276・301・302) は、調査区南側で検出された。幅350cm、深さ50~60cmであり、36号溝と同走向で幅25mの調査区を東西に一直線に横切る。この溝は、36号溝より南側に位置する。出土遺物はカワラケ・軟質陶器内耳鍋・播り鉢、茶臼・石鉢・砥石・凹石であり、また、埋没土最下層に鉄分を含んだ堅く締まった砂層があることから、36号溝と同じく15世紀の水路と考えられる。ただ、この溝は新旧2条の溝からなり南側52B号溝が新しい。2条の溝は、ほとんど重なり合い、近い時期の掘り直しと思われる。北側から39号溝・42号溝・56号溝が垂直方向に流れ込んでおり、その交点部分は砂礫が多く散乱していて、新旧2条の溝の区別もつかない。また、西から15mほどのところで54号溝が接続する。この溝も36号溝と同じ役割を持つものと考えられる。つまり、この地区の幹線的な水路ということである。ただし、時期が多少異なるものといえよう。この溝に流れ込んでいる42号溝と39号溝が36号溝を壊していることから、36号溝より52A・B号溝が新しいといえる。

53号溝 (①第306図②第301図、P L.303) は、調



第300図 39号溝

査区南側で検出された。幅200cm、深さ50cm、検出された長さ16mである。井戸を伴う。出土遺物は軟質陶器播り鉢であり、時期は中世と考えられる。54号溝を壊している。

57号溝 (①第307図②第301図、P L.276・303) は、調査区中央で検出された。幅150~300cm、深さ50cm、検出された長さ25mである。42号溝に垂直に接続する。接続部に木杭跡があり、石が散見する。埋没土等からも水が流れていたと思われる。交点部分は2mであるが東方向に5mほどのところでやや幅が狭くなり、交点から25mのところまで止まってしまう。50号溝とはつながらず1.5mあいている。42号溝、50号溝とで方形区画を構成する。時期は、42号溝と同時代と考えられる。

第6章 VI区 検出の遺構

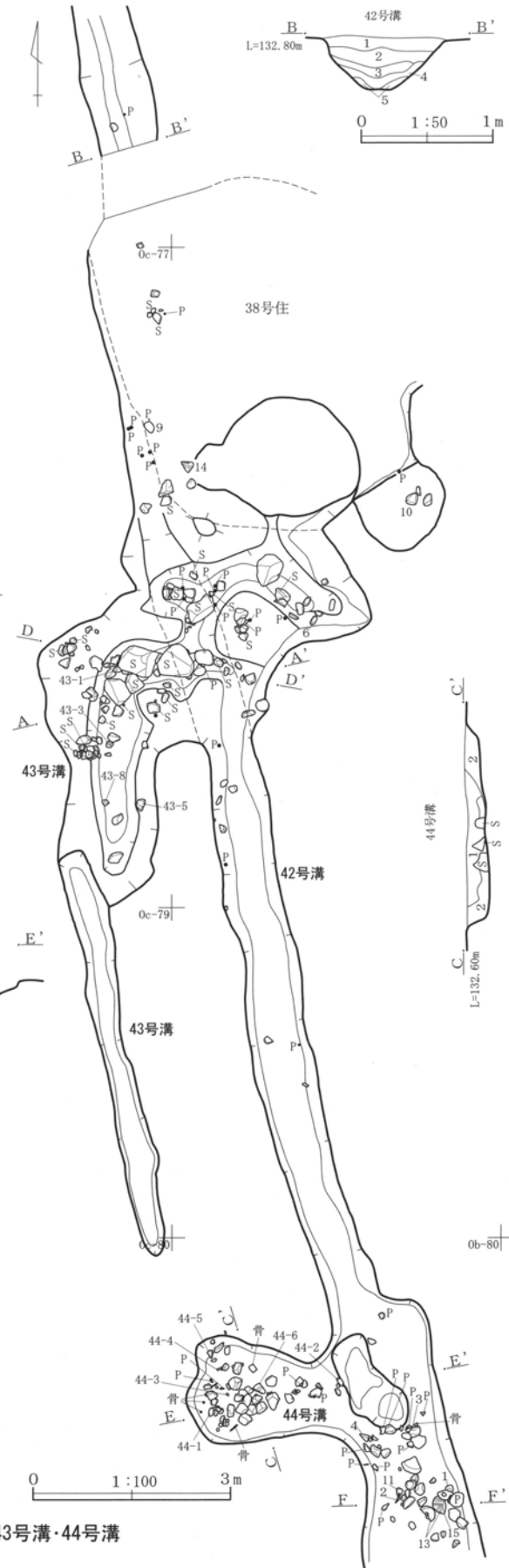
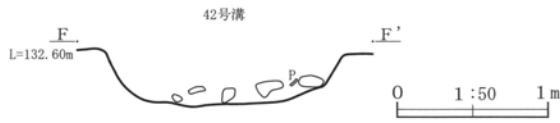
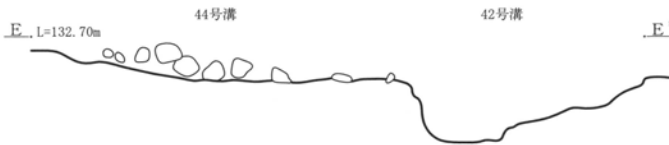
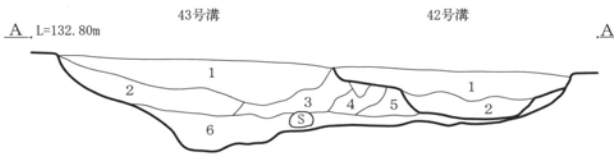
42号溝 B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、灰白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 灰白色土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色粘質土層
- 5 暗褐色砂質土層

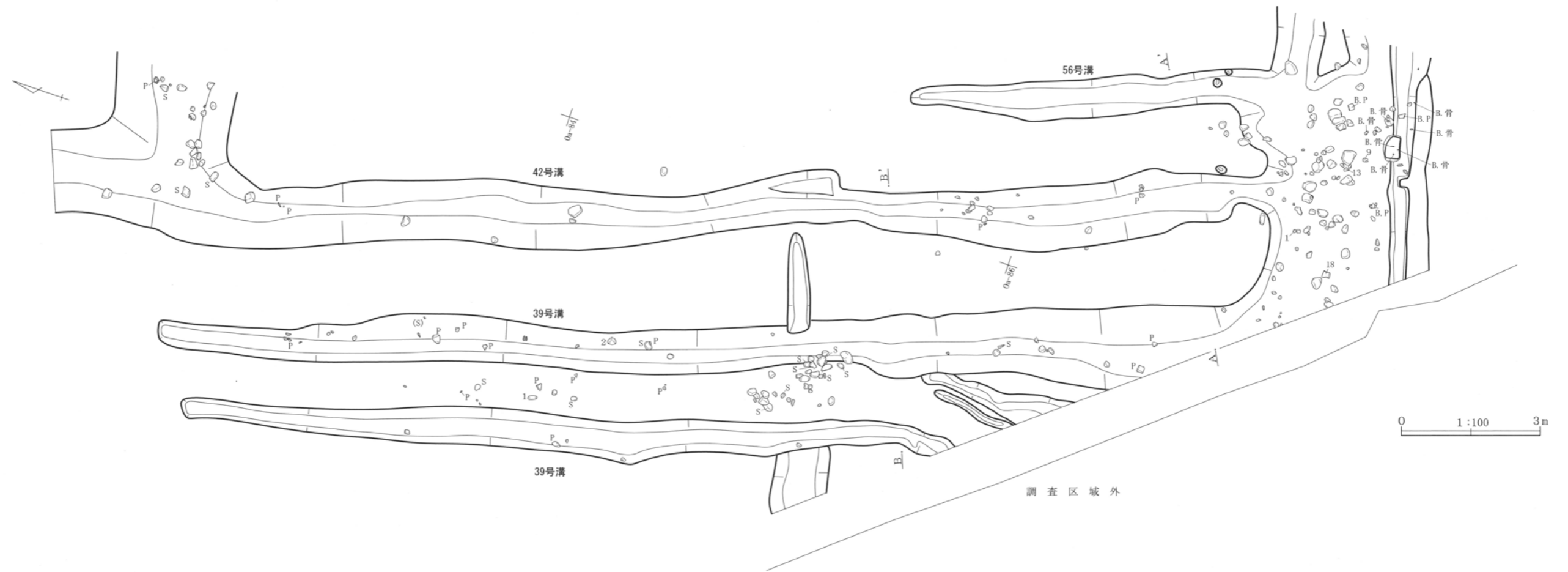


42・43号溝 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、As-Bを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 1層と同様であるが、粘りのある褐色の土を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかい。1層と同様であるが、黑色粘土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 黑色粘土ブロック、As-C・Hr-FAを含む。
- 5 暗褐色質土層
- 6 暗褐色砂質土層



第301図 42号溝・43号溝・44号溝



39・42・56号溝 A-A'

- a溝
 1 灰褐色砂利層
 2 灰褐色土層
 3 灰褐色土層 砂状に黒褐色土ブロックを含む。
 b溝
 1 明黄褐色土層
 2 灰褐色砂利層
 3 灰褐色砂利層

42号溝

- 1 褐灰色土層 硬く縮まる。灰白色粒子を含む。
 2 灰褐色粘質土層

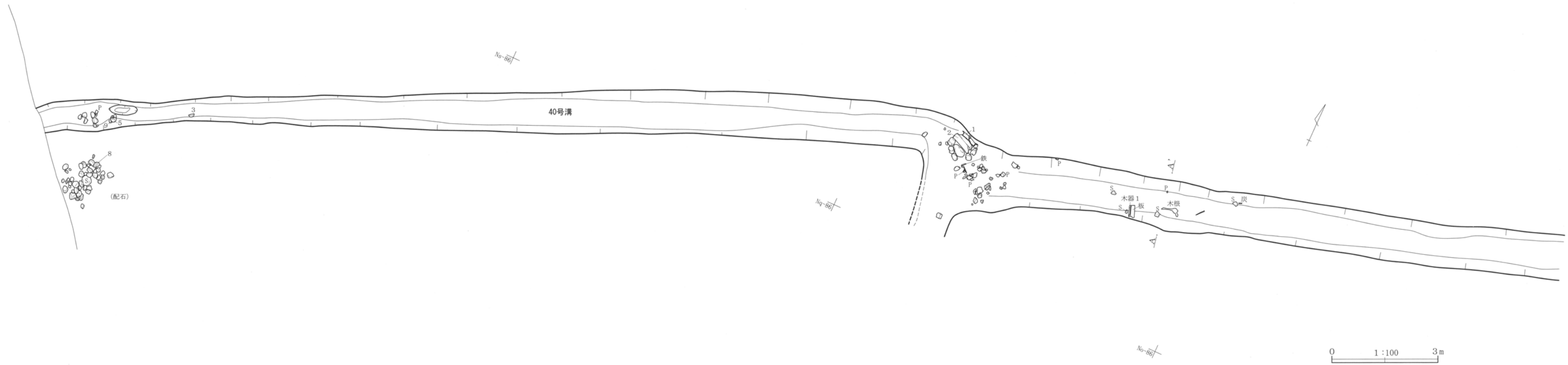
56号溝

- 1 黒褐色土層 As-C・Hr-FAを多量に含む。

39・42号溝 B-B'

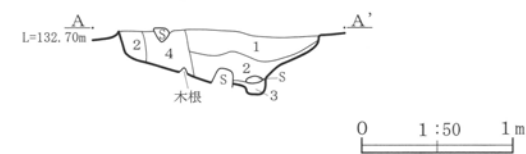
- 1 褐色土層 明黄褐色土、As-C・Hr-FAを含む。

第302図 39号溝・42号溝・56号溝



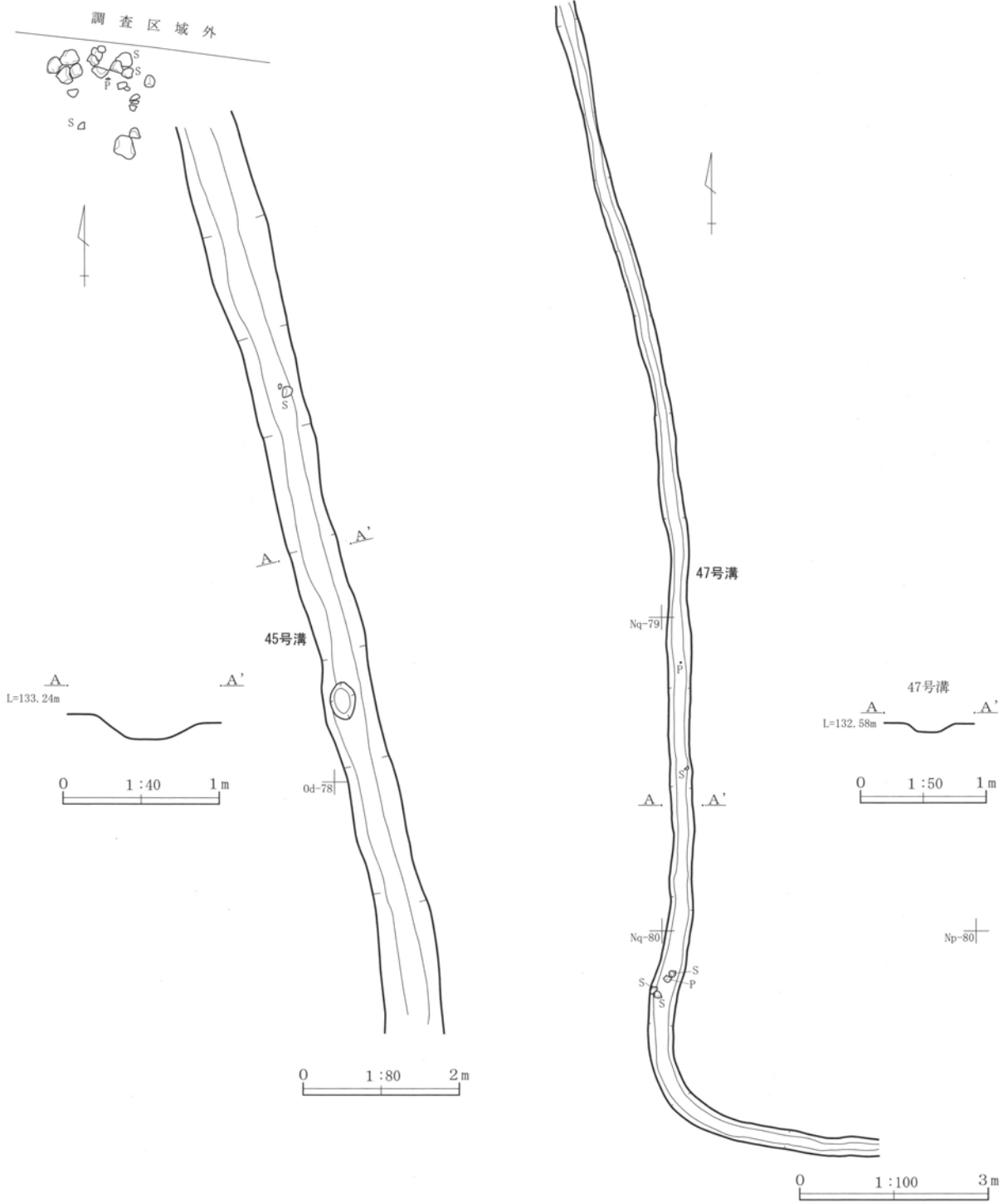
溝一覧表

| 番号 | 位置 | 長さ×幅×深さ(m) | 出土遺物 (未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|----|-------------|----------------------|-----------------|----|-----------|-----------|-------------|
| 34 | Oi-74~Nn-78 | 16×1.6~2.5×0.24~0.38 | | | 第297・298図 | 第281~283図 | 272・297・298 |
| 36 | Nk-82~Ob-85 | 54.6×0.3~1.3×0.64 | | | 299 | 284 | 273・298 |
| 37 | Nl-85~Nm-83 | 10×0.4~0.5×0.42 | | | 299 | | 273 |
| 39 | Oc-77~Nt-86 | (46) ×0.9~1.4×- | | | 300・302 | 285 | 274・298 |
| 40 | Om-84~Oa-87 | 54.2×0.8~1.2×0.4 | | | 303 | 286・287 | 273・299 |
| 42 | Oa-75~Nt-86 | 80×0.8~1.9×0.3~0.4 | | | 301・302 | 288・291 | 275・299・300 |
| 43 | Oc-77~Oc-80 | 10×0.5~1.2×0.6 | | | 301 | 292・293 | 275・300 |
| 44 | Ob-80~Oc-80 | 2.8×0.9~1.7×0.18 | | | 301 | 294 | 301 |
| 45 | Od-74~Oc-76 | 14×0.6~0.9×0.14 | | | 304 | | |
| 47 | Nq-75~No-80 | 32.5×0.3×0.4 | | | 304 | | |
| 48 | Ns-74~Nt-76 | 9.5×0.3×- | | | | | |
| 49 | Of-75~Of-77 | 6.8×0.3×0.1 | | | 305 | | |
| 50 | Nr-74~Nq-80 | 28.5×0.3~1.5×0.24 | | | 305 | 286・286 | 276・301 |
| 51 | Nq-80 | 1.8×0.3×0.14 | | | 305 | | |
| 52 | Nj-84~Nt-87 | 54.5×2.4~3.5×0.1~0.3 | | | 306 | 297・300 | 276・301・302 |
| 53 | Nk-86~No-87 | 17.2×0.9~2.3×0.22 | | | 306 | 301 | 303 |
| 54 | Nk-87~Nr-87 | 38×0.4~0.8×0.1 | | | 306 | 301 | 303 |
| 55 | Nm-85~Nt-85 | 36.5×0.3~0.4×0.1 | | | | | |
| 56 | Nt-85~Ns-86 | 7.9×0.5~0.8×0.12 | | | 302 | | |
| 57 | Nq-81~Oa-82 | 24×1.5~2×0.2~0.5 | | | 307 | 301 | 276・303 |
| 58 | Nm-87 | 2.5×0.2×- | | | | | |
| 59 | Nk-82~Nm-83 | 10×0.8~1×0.17 | | | | | |
| 60 | Nt-82~Ns-84 | 8.5×0.7×0.1 | | | 308 | | 263 |
| 61 | Ns-87~Nt-87 | 5.5×0.4×- | | | | 301 | 303 |



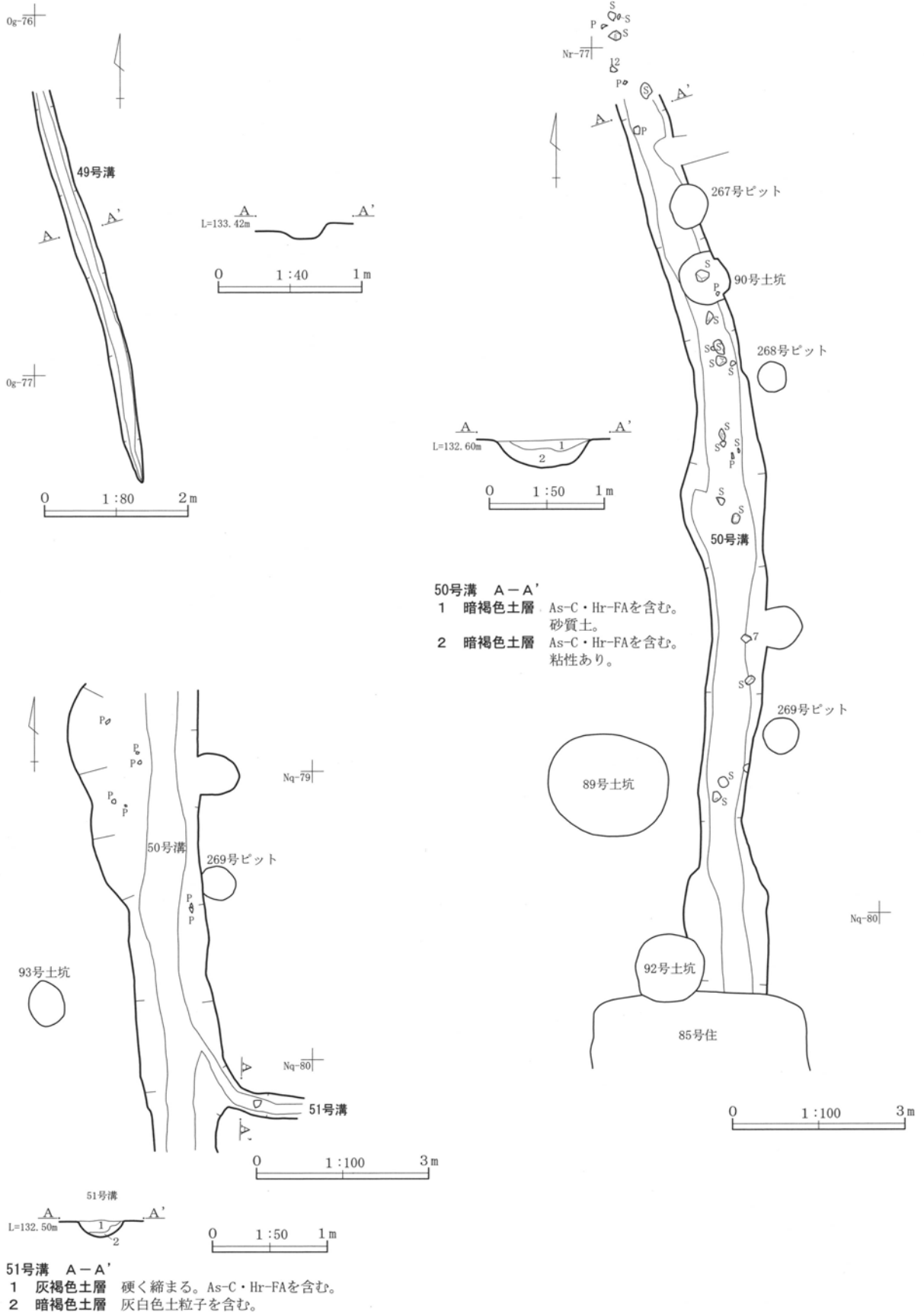
- 40号溝 A-A'
- 1 灰褐色土層 砂を含む。
 - 2 灰色土層 1層よりも砂を多く含む。
 - 3 砂層 砂を多量に含む。
 - 4 灰褐色土層 砂は殆ど含まない。

第303図 40号溝

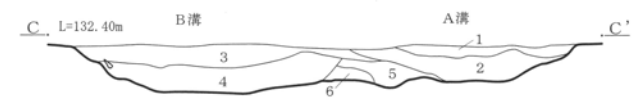
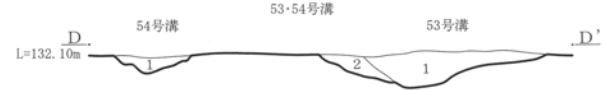
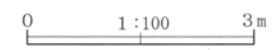
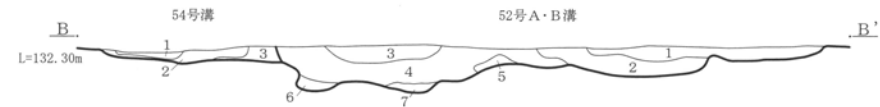
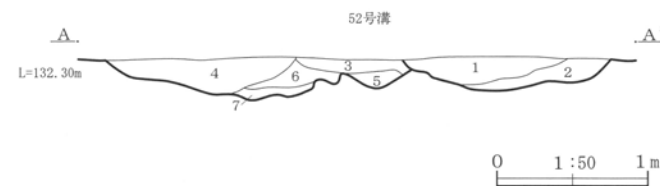
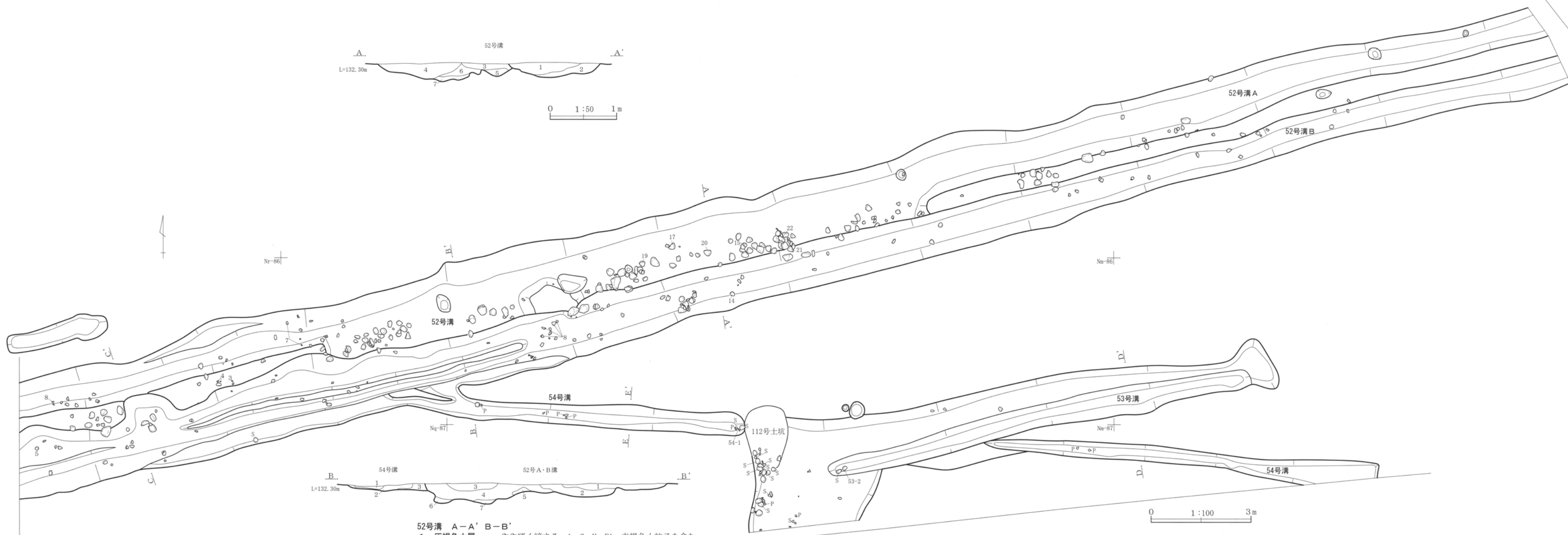


第304図 45号溝・47号溝

第6章 VI区 検出の遺構



第305図 49号溝・50号溝・51号溝



- 52号溝 A-A' B-B'**
- 1 灰褐色土層 やや硬く縮まる。As-C・Hr-FA、赤褐色土粒子を含む。
 - 2 灰褐色粘質土層 細かな砂状土を含む。
 - 3 灰褐色土層 やや軟らかい。As-C・Hr-FAを含む。
 - 4 灰褐色土層 粘質土と砂状土を含む。
 - 5 灰褐色土層 硬く縮まる。鉄分を含む。As-C・Hr-FAを含む。
 - 6 灰褐色土層 砂利を含み、サラサラしている。
 - 7 灰褐色砂利層 硬く縮まる。鉄分を含む。

- 54号溝 B-B'**
- 1 灰褐色土層 小石を多量に含む。
 - 2 赤褐色土層 鉄分を含み、小石を少量含む。
 - 3 灰褐色土層 やや硬く縮まる。

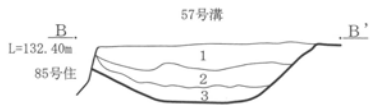
- 54号溝 E-E'**
- 1 灰褐色土層 やや硬く縮まる。砂状土。
 - 2 赤灰褐色土層 硬く縮まる。鉄分を含み、As-C・Hr-FAを含む。

- 53・54号溝 D-D'**
- 53号溝**
- 1 灰褐色土層 やや硬く縮まる。砂状土。
 - 2 赤灰褐色土層 硬く縮まる。鉄分を含み、As-C・Hr-FAを含む。
- 54号溝**
- 1 灰褐色砂利層

- 52号溝 C-C'**
- 1 灰褐色土層 やや硬く縮まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。下層はサラサラしている。
 - 3 灰褐色土層 やや硬く縮まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、砂利を含む。
 - 4 灰褐色土層 砂利を含み、サラサラしている。
 - 5 灰褐色土層 やや硬く縮まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 6 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。

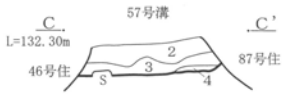


第306図 52~54号溝



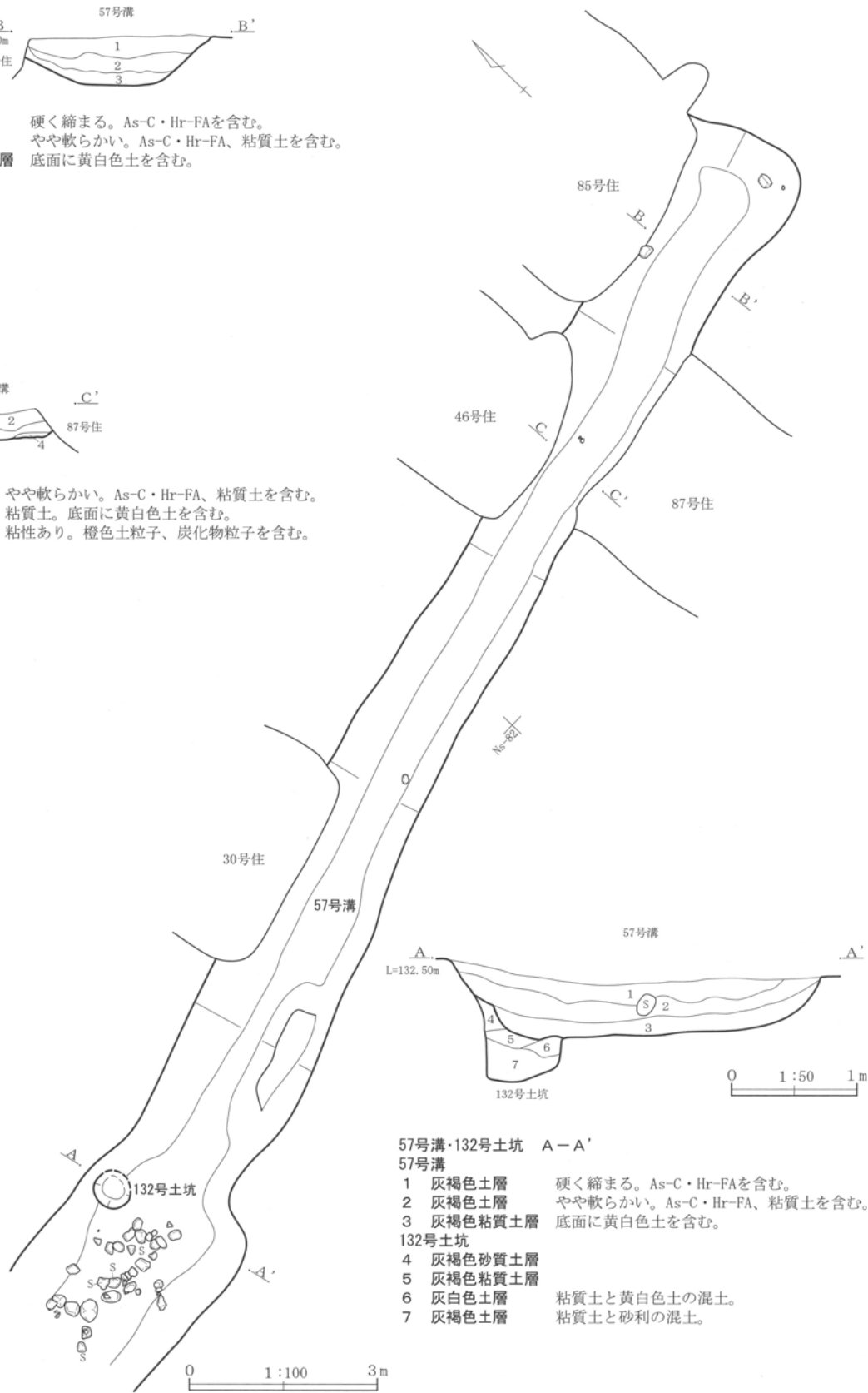
57号溝 B-B'

- 1 灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
- 2 灰褐色土層 やや軟らかい。As-C・Hr-FA、粘質土を含む。
- 3 灰褐色粘質土層 底面に黄白色土を含む。



57号溝 C-C'

- 2 灰褐色土層 やや軟らかい。As-C・Hr-FA、粘質土を含む。
- 3 灰褐色土層 粘質土。底面に黄白色土を含む。
- 4 黒褐色土層 粘性あり。橙色土粒子、炭化物粒子を含む。



57号溝・132号土坑 A-A'

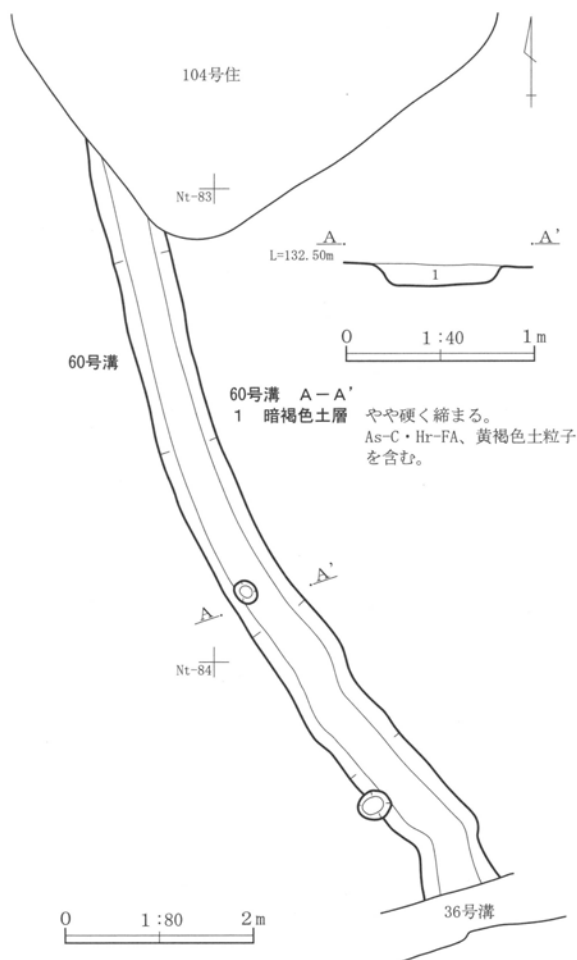
57号溝

- 1 灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
- 2 灰褐色土層 やや軟らかい。As-C・Hr-FA、粘質土を含む。
- 3 灰褐色粘質土層 底面に黄白色土を含む。

132号土坑

- 4 灰褐色砂質土層
- 5 灰褐色粘質土層
- 6 灰白色土層 粘質土と黄白色土の混土。
- 7 灰褐色土層 粘質土と砂利の混土。

第307図 57号溝



第308図 60号溝

(3) 直角方向に曲がる溝

42号溝 (①第301・302図②第288~291図、P L.275・299・300) は、調査区中央から北で検出された。幅100~170cm、深さ70cmであり、調査区北東隅よりN-75°-Eの走向で25m地点ではほぼ直角に曲がり(N-15°-W)南下する。10m南下した地点に直径約30~50cmの川原石が多く積み重なる場所があり、そこが43号溝との分岐点である。その石の集積場から北東側に井戸があり、その付近一帯が水に関する施設の存在を伺わせる。洗い場のような場所と思われる。そこからさらに10m南下したところで44号溝との交点がある。溝の幅は170cmとや

や広くなる。またさらに10m南下したところで57号溝と直交する。この部分では、多くの石の散乱が見られ、木杭の痕跡も認められた。ここも分岐点であろう。そして、この溝はさらに南下して52号溝に至る。52号溝との交点部分にはさらに多くの石の散乱が見られた。

また、調査区の東北隅ではN-15°-W走向の50号溝とつながる。42号溝は、57号溝と50号溝とで方形に囲む区画を構成する。その内部には多くのピットのあり方から屋敷跡の存在が伺える。本溝からの出土遺物は、土師質灯明皿、軟質陶器内耳鍋、茶臼・砥石・磨石・台石・北宋銭等であり、時期は15世紀と考えられる。屋敷の区画と水路を兼ねた溝と考えられる。重複関係は、36号溝を壊している。

(4) その他の 方向の溝

54号溝 (①第306図②第301図、P L.303) 位置：調査区南。幅100cm。深さ20cm。検出された長さ30m。出土遺物：無し。重複：52B号溝につながり、53号溝に壊される。時期：中世。走向：N-80°-W。

44号溝 (①第301図②第294図、P L.301) 位置：調査区中央。幅150cm。深さ20cm。検出された長さ：3m。出土遺物：軟質陶器内耳鍋・播り鉢、凹石。42号溝との交点部分に石の集積場あり。42号溝とつながる。時期：15世紀。走向：N-90°-E。

40号溝 (①第303図②第286・287図、P L.273・299) 位置：調査区中央。幅120cm。深さ30cm。検出された長さ38m。出土遺物：土管・播り鉢。時期：近代。走向：N-90°-E。



VI区 昭和18年田畑

| 番号 | 面積 (m ²) |
|----|----------------------|
| ① | 424.5 |
| ② | 164.8 |
| ③ | 276.3 |
| ④ | 150.4 |
| ⑤ | 49.1 |
| ⑥ | 115.7 |
| ⑦ | 118.4 |
| ⑧ | 292.8 |
| ⑨ | 394.7 |
| ⑩ | 320.5 |
| ⑪ | 404.3 |
| ⑫ | 224.0 |
| ⑬ | 32.0 |
| ⑭ | 152.5 |
| ⑮ | 477.3 |
| ⑯ | 549.9 |



第310図 遺構全体図 (1/300)

第7章 V区 検出の遺構

V区の調査面積は3,515㎡である。現水田面を掘削し、新たに検出した面を1面（①第311図、P L.305）として調査を始めた。その主要な調査は、飛行場造成土の平面的分布の図化作業である。

1面の図化終了後、2面（昭和18年）（①第312図、P L.306・367）の調査に入った。この面の調査もまた、田畑の図化を中心としたものである。

2面掘削後、住居跡（①第310図）などの調査に入ったが、思わぬ湧水に悩まされ常時排水ポンプを設置しながらの発掘となった。さらに工事行程に追われた結果、住居跡床面の確認や遺物出土状況の確認作業に困難をきたした。

76

78

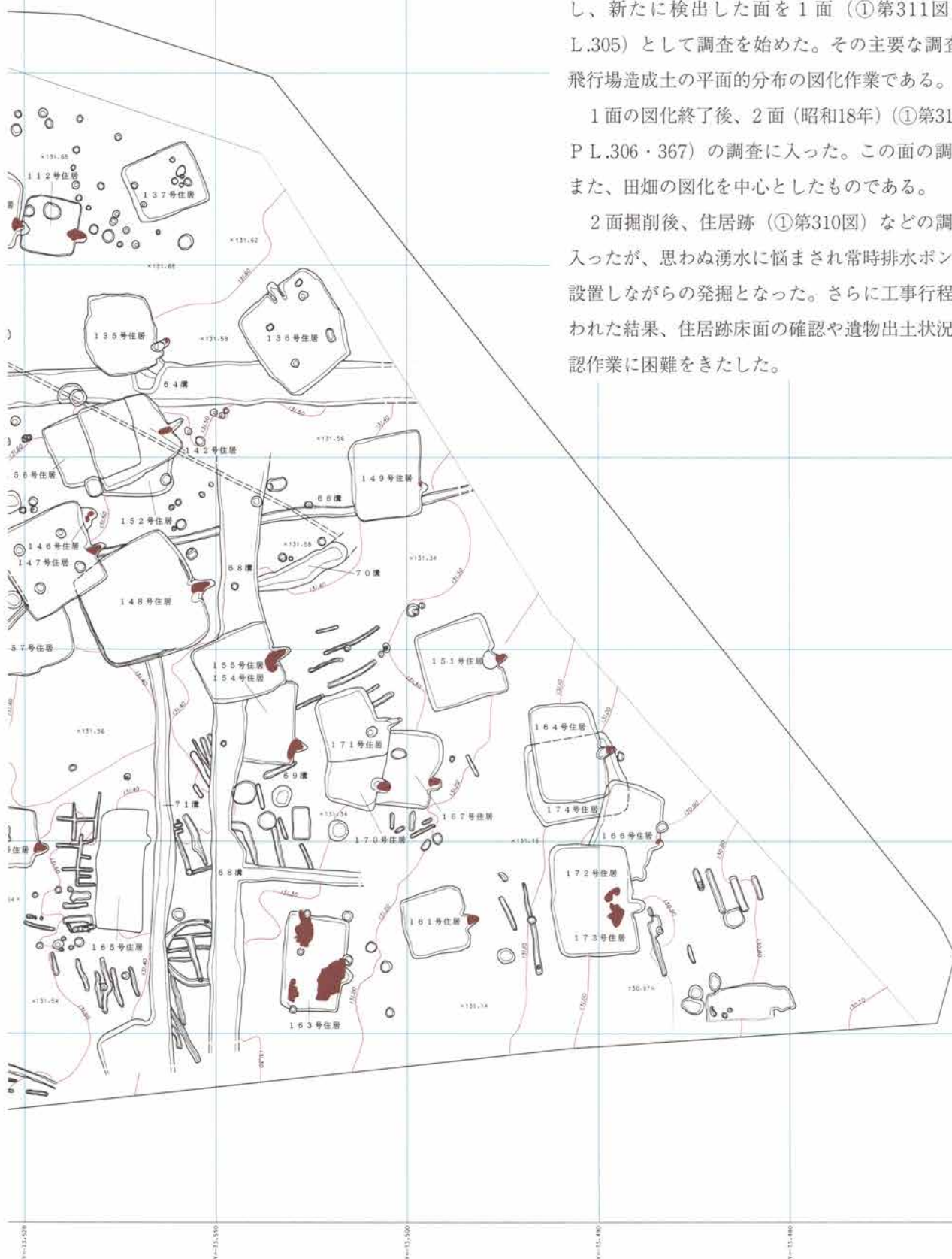
80

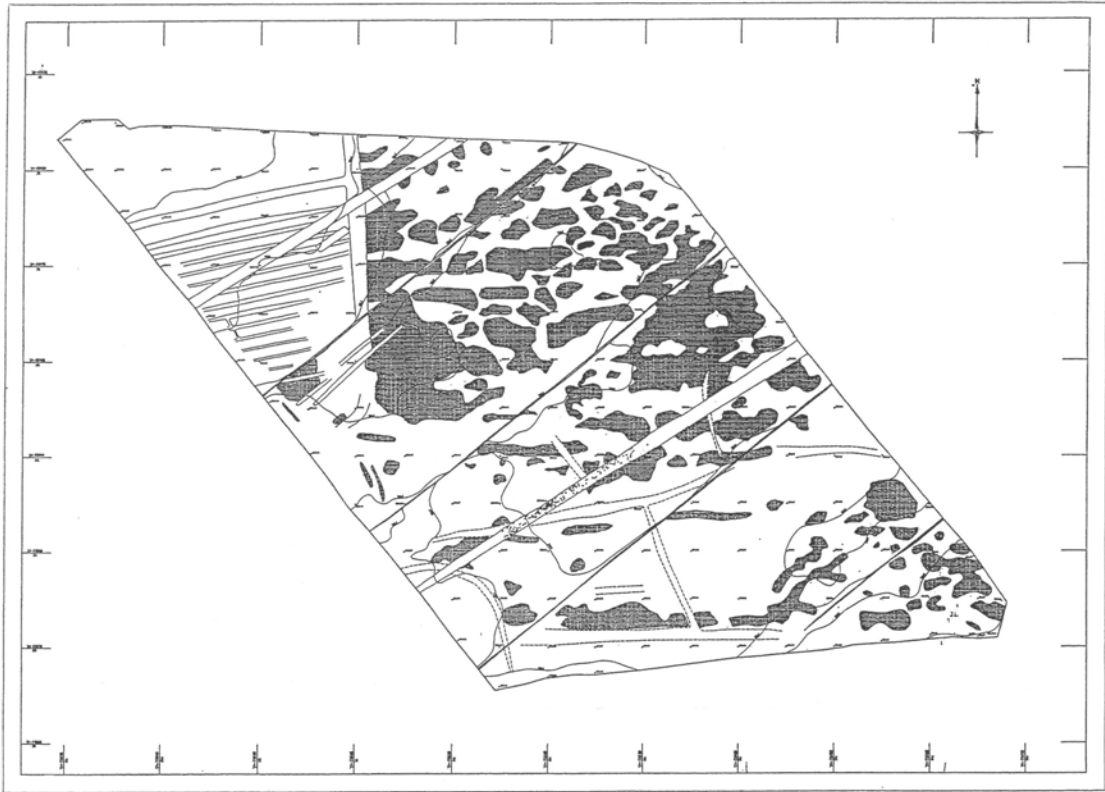
82

84

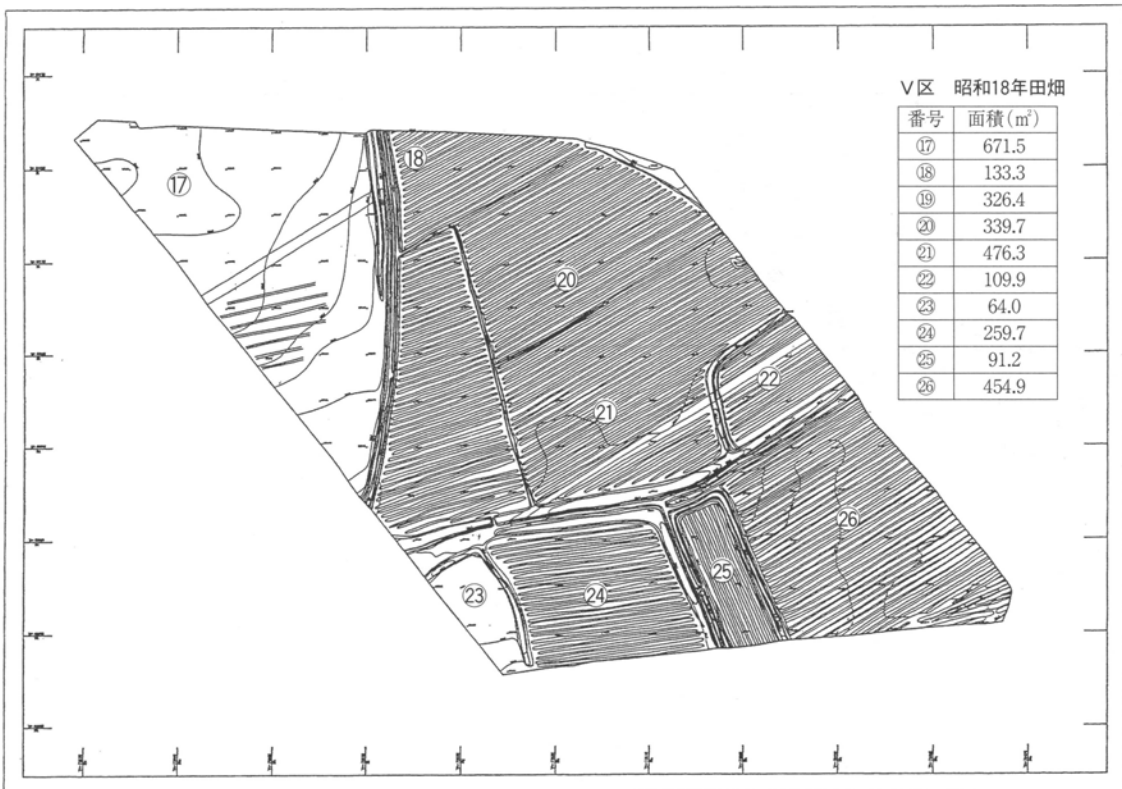
86

88





第311図 1面全体図 (1/800)



第312図 2面全体図 (1/800)

(1) 竪穴住居跡

105号住居跡 (①第313図②第304図、P.L.307・352)

位置 Nf-81・82グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.6m、短辺約3.1mの隅丸長方形。

方位 N-94° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約25~30cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。粘性のある土壌で床面を貼る。面積は12.1m²。中央部に床上から確認できる土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁のやや南寄りに構築されていた。左右の袖から構築材として使われた礫が出土した。燃烧部の幅は50cm、奥行きまでの長さは140cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどない。

時期 150号住居を壊していることにより、9世紀以降と考えられる。

備考 150号住居、66号溝、169号土坑を壊している。

106号住居跡 (①第314図②第305・306図、P.L.308・352)

位置 Ng・Nh-83・84グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.1m、短辺(検出範囲)で、約3.4mの方形を呈するものと思われる。南西側は調査区外になり、北側は土坑によって壊されているため、全容は不明である。

方位 N-87° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は、13.4m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されていた。燃烧部の幅は60cm、奥行きまでの長さは80cm。先端の一部は480号ピットによって壊されていた。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 南壁付近から須恵器の埴・羽釜が出土している。

時期 10世紀前半。

備考 197号土坑を壊していた。

107号住居跡 (①第315図②第307・308、P.L.309・352)

位置 Ng・Nh-83グリッドにかけて検出。

形状 110号住居に壊されており、全容は不明であるが、長方形を呈すると思われる。

方位 N-88° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約28cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は34cm、奥行きまでの長さは112cm。

柱穴 掘り方の段階で、ピット4基を検出した。ピット1の深さ16cm、2は60cm、3は33cm、4は35cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 南壁付近から土師器の坏、須恵器の蓋が出土した。覆土からは土師器の坏が出土している。

時期 7世紀後半。

備考 110号住居に壊されている。

110号住居跡 (①第315図②第312図、P.L.309・353)

位置 Ng・Nh-82・83グリッドにかけて検出。

形状 107号住居、111号住居と重複しており、本住居が一番新しい。形状は方形と考えられる。

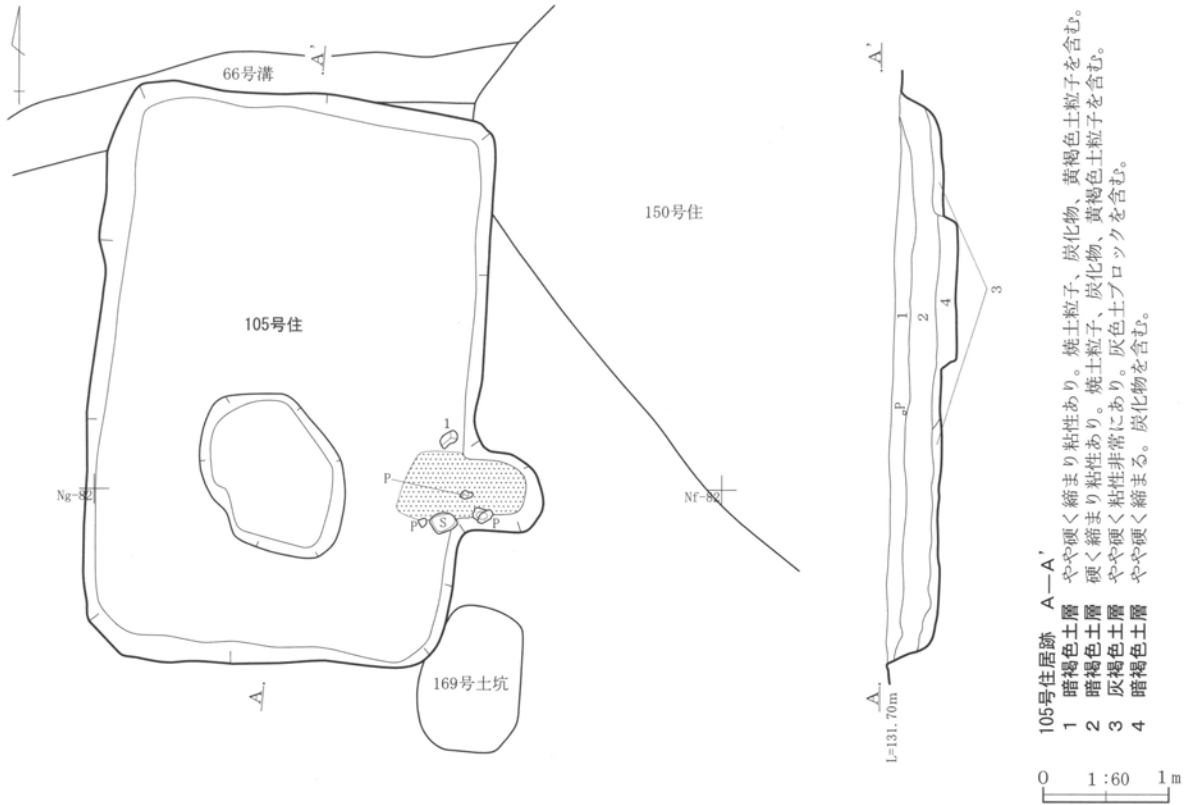
方位 N-88° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

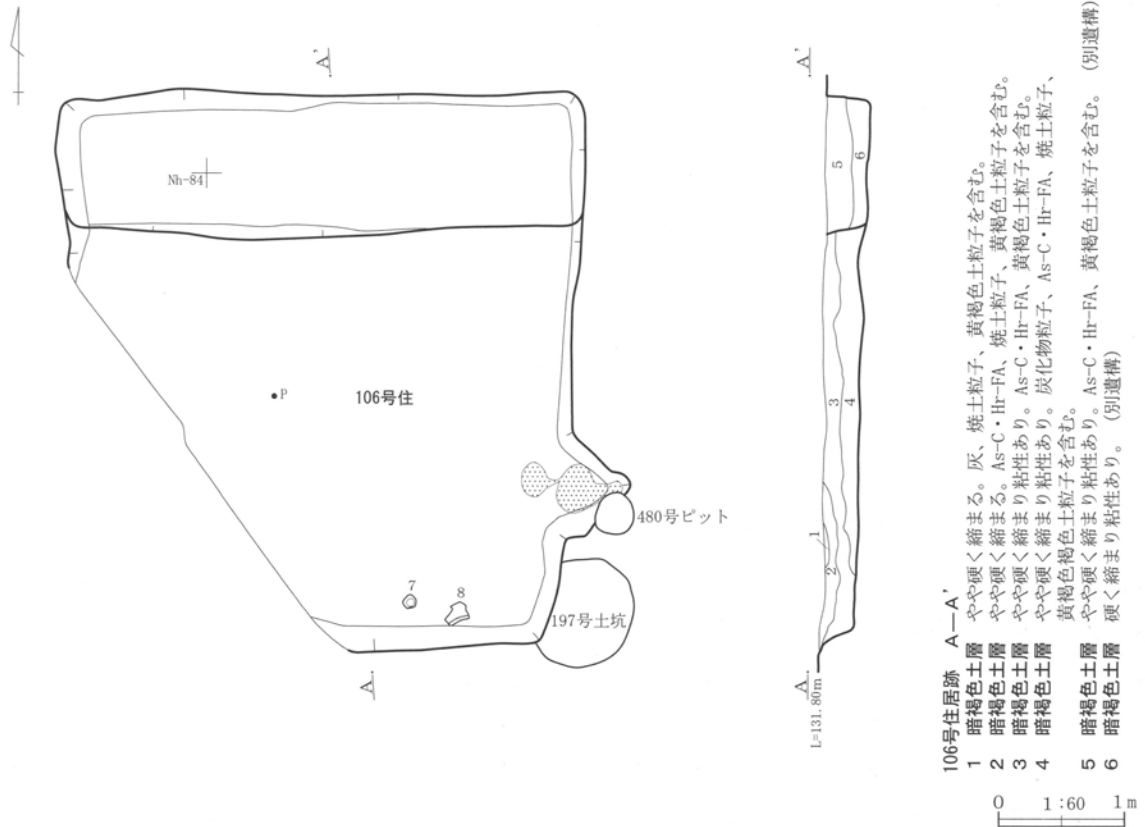
壁高 住居跡確認面より約30~36cmで床面。

床面 平坦である。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

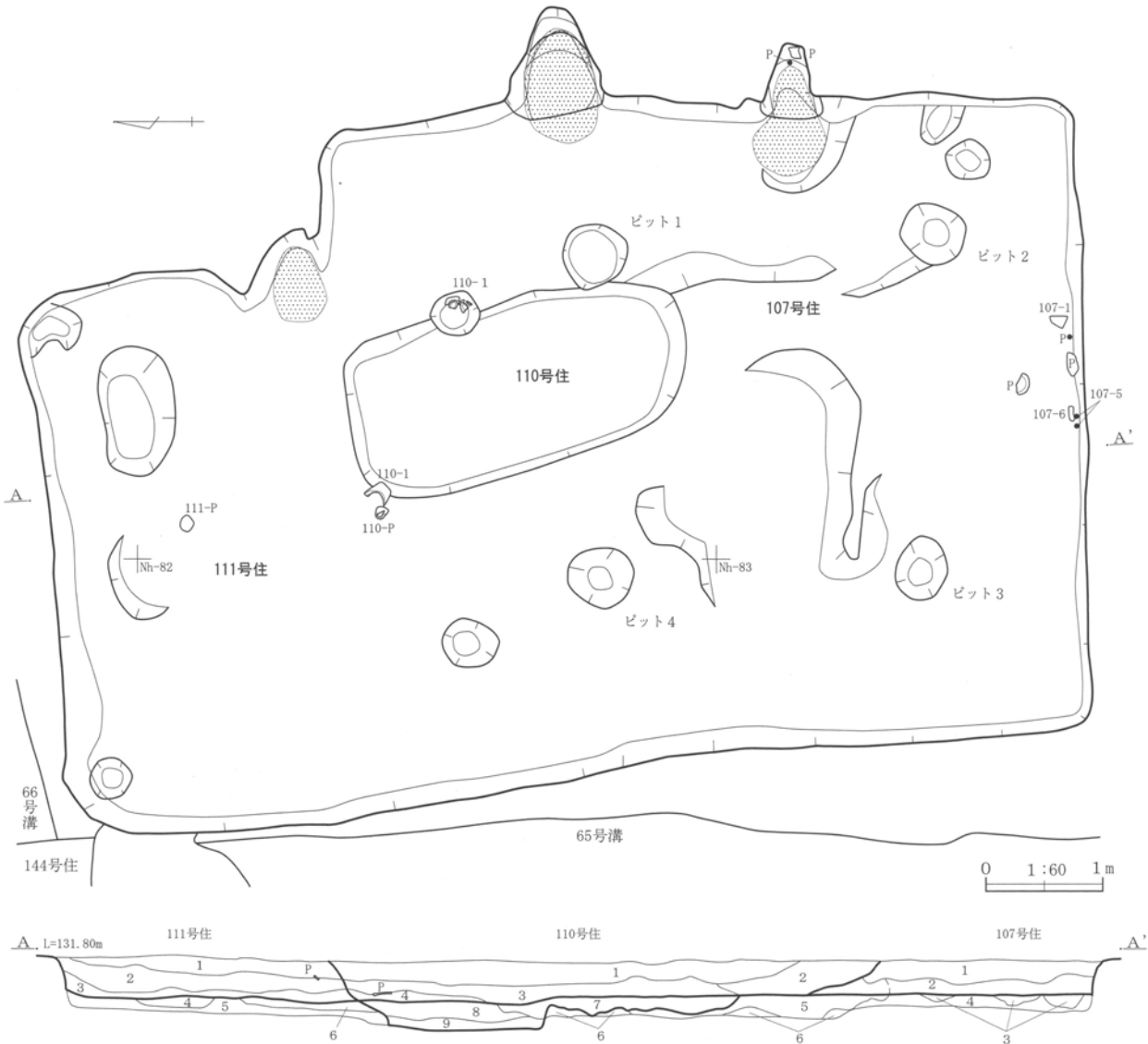


第313図 105号住居跡



第314図 106号住居跡

(1) 竪穴住居跡



107・110・111号住居跡 A-A'

107号住居跡

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 やや軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 硬く縮まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。

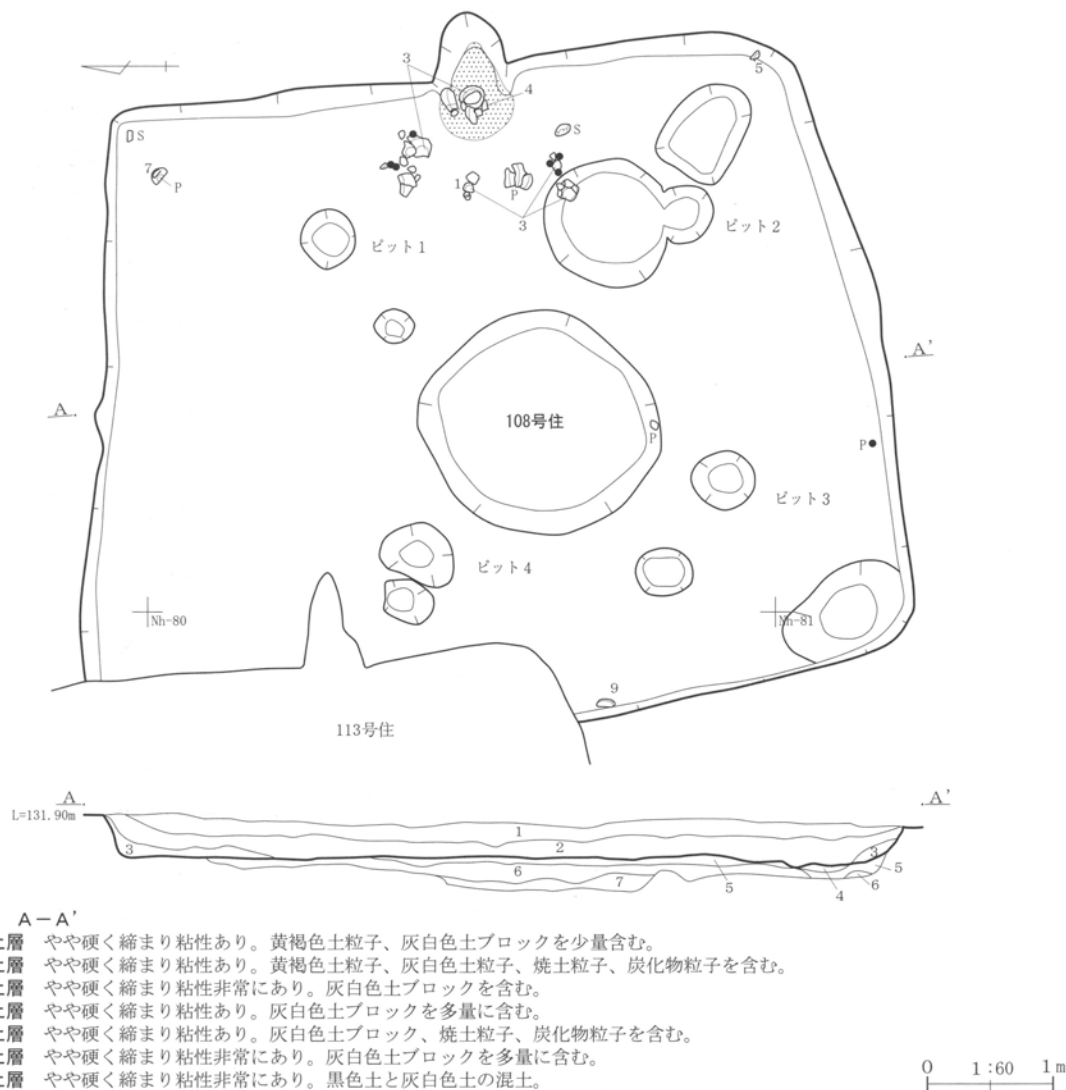
110号住居跡

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、As-C・Hr-FAを含む。
- 2 黒褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性非常にあり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。炭化物、灰白色土ブロックを含む。
- 5 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック多量に含む。
- 6 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土を多量に含む。
- 7 灰褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。炭化物粒子を少量含む。

111号住居跡

- 1 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。灰白色土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。灰白色土粒子を大量に含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。炭化物、灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを大量に焼土粒子を含む。
- 5 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを大量に含む。
- 6 灰褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。

第315図 107号住居跡・110号住居跡・111号住居跡



第316図 108号住居跡

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は64cm、奥行きまでの長さは116cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 中央部より土師器の甕を出土した。

時期 不明。

備考 107号住と111号住を壊している。

方位 N-83° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竈穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約32cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は40cm、奥行きまでの長さは80cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどなかった。

時期 不明。

111号住居跡 (①第315図、P.L.309)

位置 Ng・Nh-81・82グリッドにかけて検出。

形状 110号住居に壊されており、全容は不明であるが、方形を呈すると思われる。

(1) 竪穴住居跡

備考 110号住に壊される。

108号住居跡 (①第316図②第309・310図、P.L.310・352・353)

位置 Ng・Nh-79～81グリッドにかけて検出。

形状 長辺約5.8～6.7m、短辺約5.3mの東壁より西壁が広い台形を呈する。113号住居により西壁の一部が壊されている。

方位 N-76° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 やや堅く締まる。粘性のある土壌により床面を貼る。床面積27.8m²。床下土坑2基検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部に構築されている。燃焼部の幅は70cm、奥行きまでの長さは100cm。

柱穴 ピット7基を検出、そのうちピット4基(ピット1～4)は支柱穴と考えられる。ピット1の深さ32cm、2は18cm、3は30cm、4は26cmである。

貯蔵穴 南東隅に検出した。形状は直径90cm、短径80cmの楕円形を呈する。

遺物 竈から土師器の甕、床面からは土師器の甕、須恵器の壺を出土した。

時期 8世紀前半。

備考 113号住に壊されている。

109号住居跡 (①第317図②第311図、P.L.311・353)

位置 Nf・Ng-78・79グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.4～4.6m、短辺約4.0mの隅丸方形を呈する。114号住居に北西コーナーが壊されている。

方位 N-91° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦であり、堅く締まる。粘性のある

土壌で床面を貼る。面積は15.1m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部に構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは110cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺に土師器の甕・坏が、その南側の東壁に土師器の坏が出土した。

時期 7世紀後半。

備考 114号住に壊されている。

112号住居跡 (①318図②第313図、P.L.312・353)

位置 Nd-77グリッドにおいて検出。

形状 長辺約3.0m、短辺約2.9mの方形を呈する。

方位 N-112° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約10～18cmで床面。

床面 やや凹凸はあるが、堅く締まる。面積は7.9m²。床下土坑2基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されていた。燃焼部の幅は50cm、奥行きまでの長さは110cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から土師器の甕・高坏、須恵器の壺を出土している。

時期 8世紀前半。

備考 128号住に壊されている。

128号住居跡 (①318図②第328・329図、P.L.319・356)

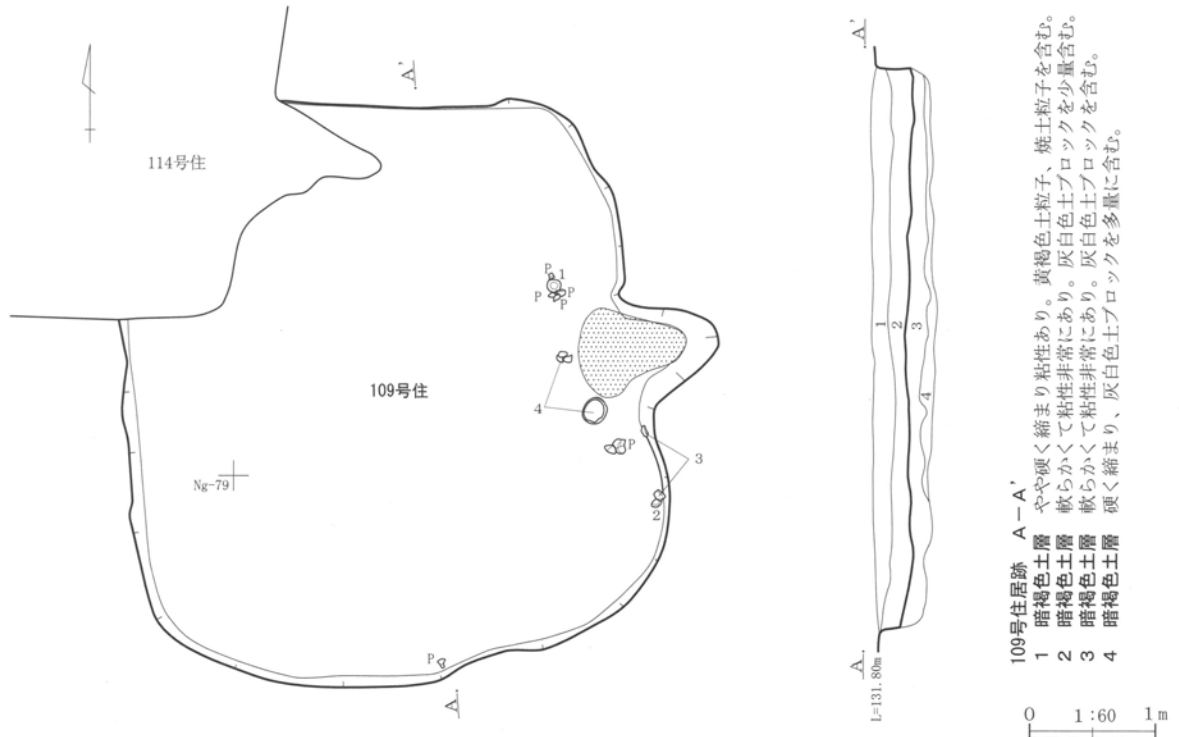
位置 Ne-77グリッドにおいて検出。

形状 長辺約3.9～4.1m、短辺約3.2～3.4mの北側が丸く張り出した隅丸方形を呈する。

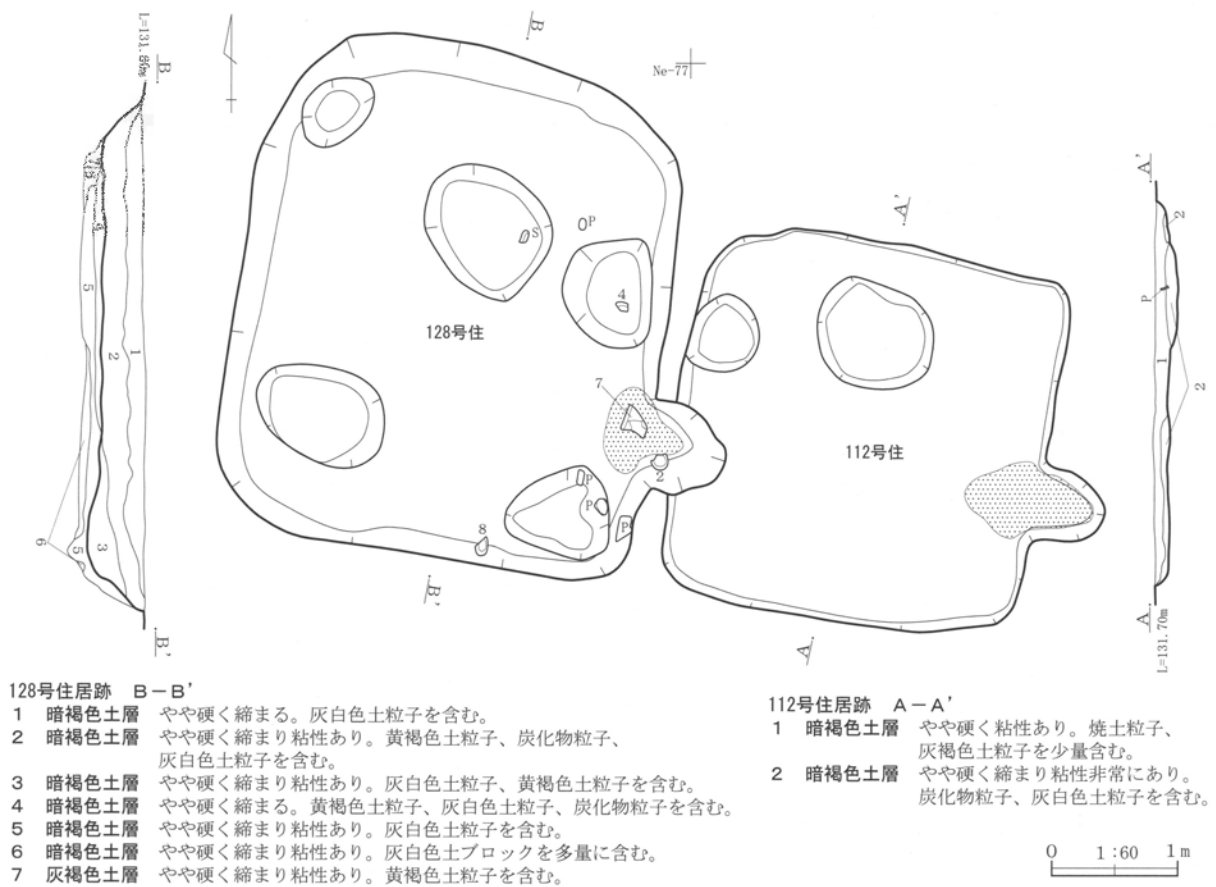
方位 N-100° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

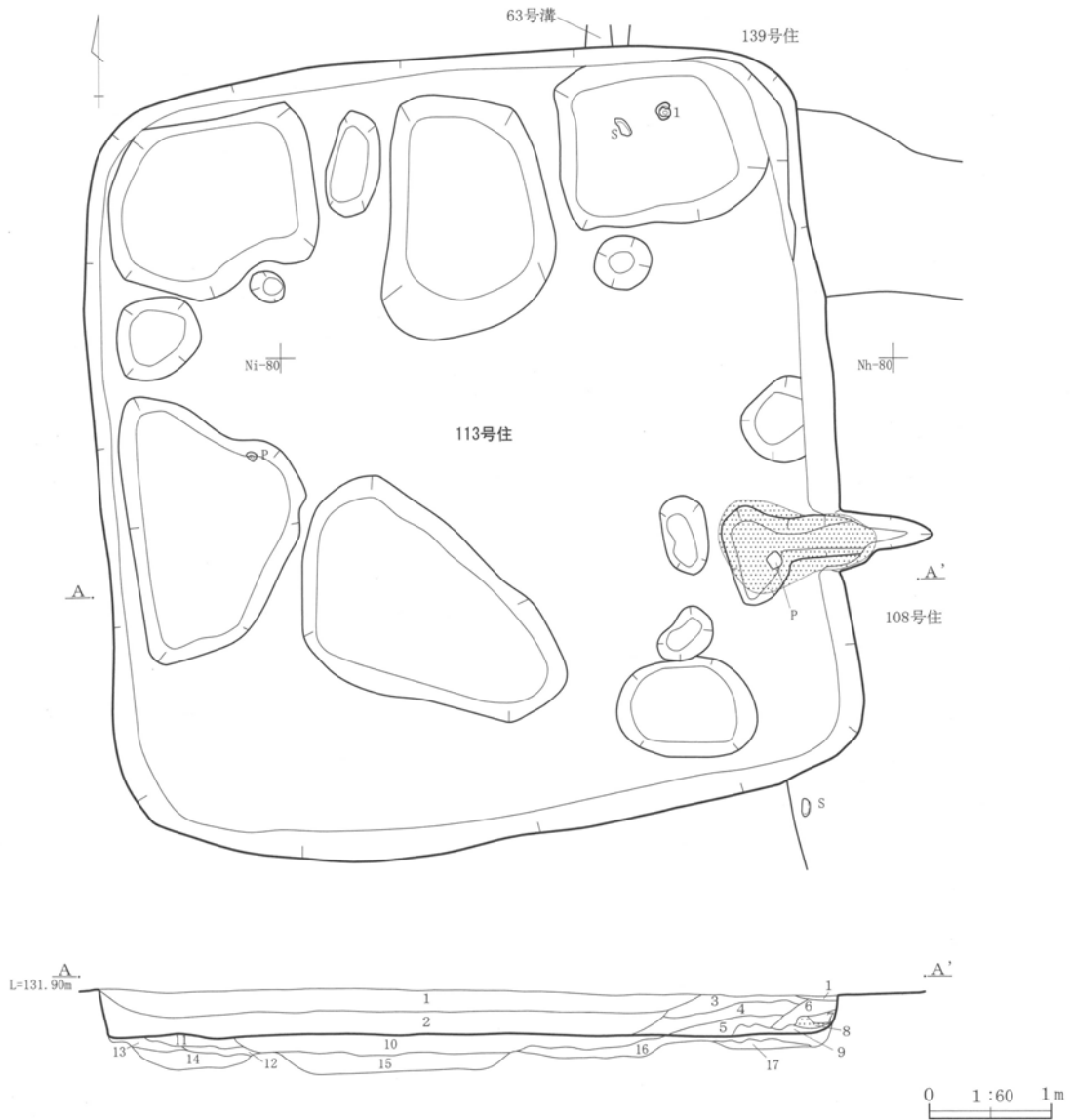
壁高 住居跡確認面より約30～44cmで床面に達



第317図 109号住居跡



第318図 112号住居跡・128号住居跡



113号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子、As-C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 上層より暗い色調。やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、炭化物、灰白色土粒子を含む。
- 6 灰褐色粘質土層 炭化物、焼土を含む。カマド粘土崩落土。
- 7 灰褐色土層 粘性非常にあり。焼土、炭化物を含む。
- 8 灰層
- 9 灰褐色粘質土層 焼土粒子、炭化物を少量含む。カマド粘土崩落土。
- 10 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 11 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 12 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 13 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを少量含む。
- 14 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 15 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を少量含む。
- 16 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰を多量に、灰白色土ブロックを含む。
- 17 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。

第319図 113号住居跡

第7章 V区 検出の遺構

する。床面から緩やかに立ち上がる。

床 面 ほぼ平坦である。面積は10.9m²。床下土坑4基を検出した。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは100cm。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 南東コーナー部に検出した。形状は長径84cm、短径74cmの楕円形を呈する。

遺 物 竈から土師器の坏・甕、東壁付近から土師器の坏、南壁から土師器の甕が出土している。

時 期 8世紀後半。

備 考 112号住を壊している。

113号住居跡 (①319図②第314・315図、P.L.312・353)

位 置 Nh・Ni-79・80グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約6.4m、短辺約6.1mの隅丸長方形。

方 位 N-79° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は17層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約32~38cmで床面。

床 面 ほぼ平坦であり、やや堅く締まる。粘性のある土壌で床面を貼る。床下土坑5基を検出した。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは170cm。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 南東隅に検出した。長径102cm、短径80cmの楕円形を呈する。

遺 物 北東コーナーから土師器の台付甕、こも編み石を出土した。覆土からは須恵器の埴を出土している。

時 期 9世紀前半。

備 考 108号住と139号住、63号溝を壊している。

114号住居跡 (①320図②第316図、P.L.313・354)

位 置 Nf・Ng-78グリッドにかけて検出。

形 状 116号住居と重複しており、本住居が新し

い。方形を呈すると思われる。

方 位 N-90° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は9層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約30~36cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は42cm、奥行きまでの長さは150cm。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土からは土師器の坏、須恵器の坏、灰釉陶器の皿を出土している。

時 期 9世紀後半。

備 考 116号住より新しい。

116号住居跡 (①第320図②318・319図、P.L.313・354)

位 置 Nf・Ng-77グリッドにかけて検出。

形 状 114号住居と重複しており、本住居が古い。方形を呈すると思われる。

方 位 N-61° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土を114号住と明瞭に分層することはできなかった。

壁 高 住居跡確認面より約30~38cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。床下土坑1基を検出した。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は36cm、奥行きまでの長さは92cm。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土からは土師器の坏・甕、須恵器の坏・埴、砥石が出土している。

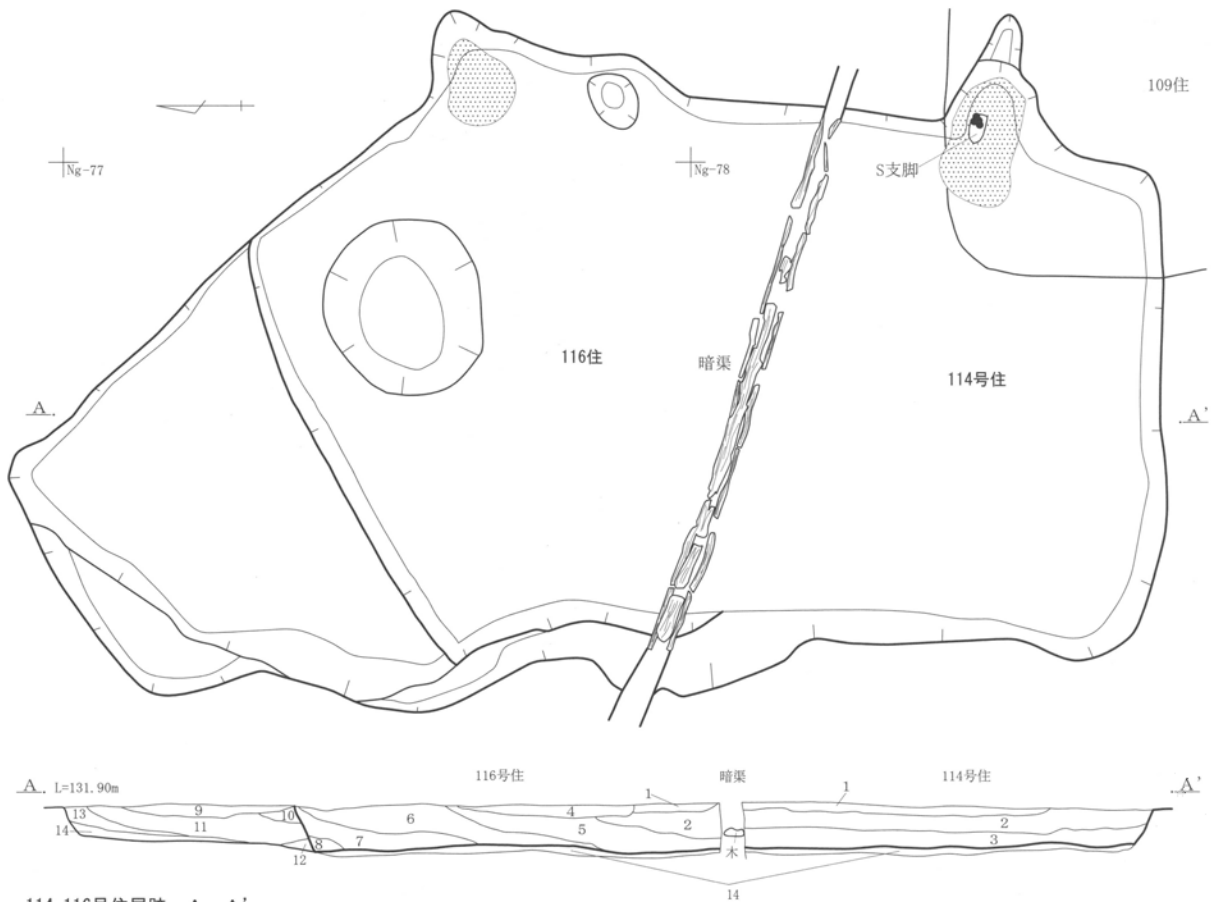
時 期 9世紀前半。

備 考 114号住より古い。

115号住居跡 (①第321図②第317図、P.L.313・354)

位 置 Nf-77グリッドにおいて検出。

(1) 竪穴住居跡



- 114・116号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子を少量含む。
 - 4 茶褐色土層 やや硬く締まる。
 - 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 7 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄色褐色土粒子、焼土粒子を含む。
 - 8 黒褐色粘質土層
 - 9 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子、灰を含む。
 - 10 暗褐色土層 焼土粒子を含む。
 - 11 灰褐色粘質土層 焼土粒子を含む。
 - 12 灰白色粘質土層
 - 13 暗褐色粘質土層
 - 14 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。

0 1:60 1m

第320図 114号住居跡・116号住居跡

形状 長辺約3.6~3.8m、短辺約2.4~2.6mの東壁と南壁の張り出した隅丸長方形を呈する。

方位 N-89°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20~24cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。面積は8.7㎡。床下土坑を1基検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに壁を掘り込んで構築されて

いた。燃烧部の幅は60cm、奥行きまでの長さは110cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

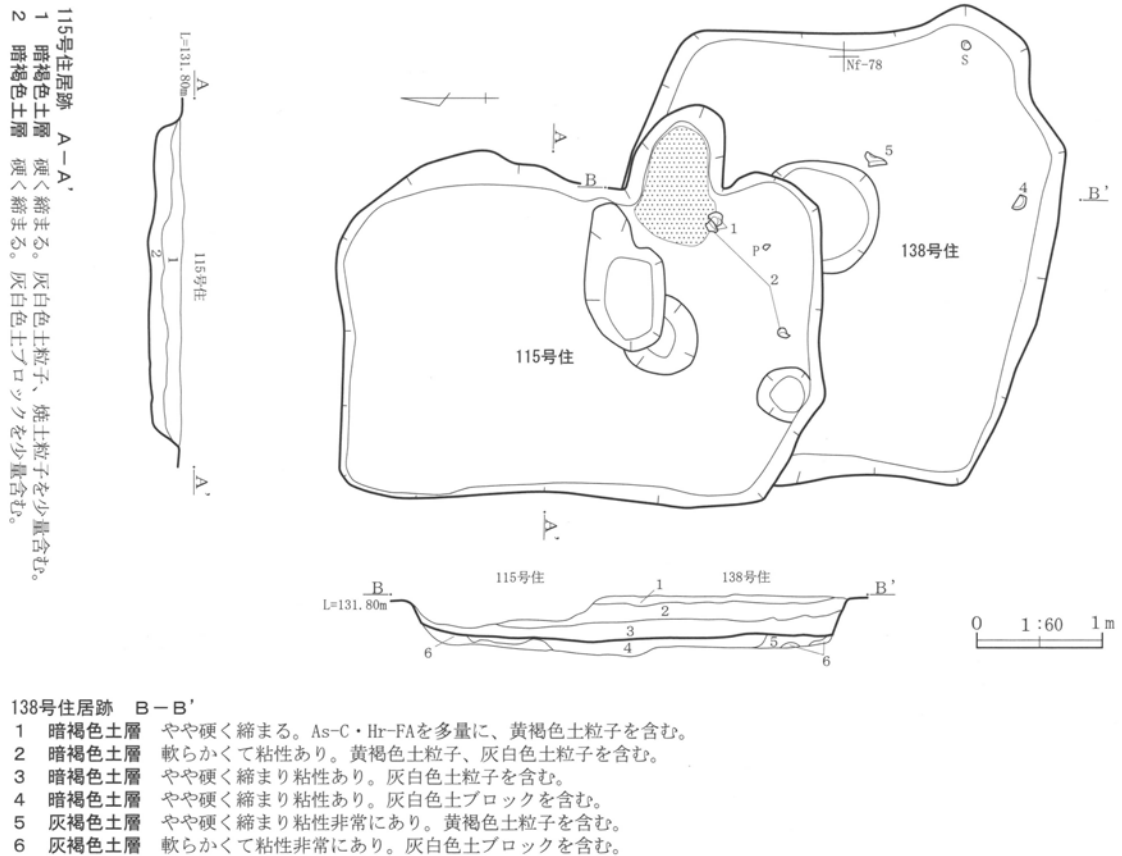
遺物 竈周辺より須恵器の坏2点を出土した。

時期 9世紀。

備考 138号住を壊している。

138号住居跡 (①第321図②第340図、P L 324・358)

位置 Ne・Nf-77・78グリッドにかけて検出。



形状 長辺約3.5m、短辺約3.2m方形を呈すると思われる。北西部を115号住に壊されているため全容は不明である。

方位 N-102° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約8~32cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で6.4㎡。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに検出された。燃烧部の幅は60cm、奥行きまでの長さは40cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 床面より土師器の甕、須恵器の坏を出土した。覆土からは土師器の坏が3点出土している。

時期 8世紀前半。

備考 138号住に壊されている。

117号住居跡 (①第322図②第320図、P.L.314・354)

位置 Nm・Nn-76・77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.6m、短辺(検出範囲)約3.0mの方形を呈すると思われる。西側半分が調査区外となるため全容は不明である。

方位 N-87° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30~34cmで床面。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で8.8㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は40cm、奥行きまでの長さは86cm。

(1) 竪穴住居跡

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 南東コーナーより土師器の坏が出土。覆土からは土師器の坏・甕が出土している。

時 期 6世紀後半。

118号住居跡 (①第323図②第321図、P L.315・354)

位 置 Nm-75グリッドにおいて検出。

形 状 長辺約4.2m、短辺約4.1mの方形。

方 位 N-72° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約38cmで床面。

床 面 平坦であり、やや堅く締まる。面積は15.2m²。床は粘質土である。

周 溝 検出できなかった。

竈 竈を2つ検出した。両竈とも壁を掘り込んで構築されていた。竈1は、東壁の中央で検出。燃烧部の幅は18cm、奥行きまでの長さは94cmであった。竈2は、東壁の南寄りに検出。燃烧部の幅は26cm、奥行きまでの長さは100cm。竈2は竈1に比べ残存状態は不良であった。竈1は竈2より新しいと考えられる。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 竈1前部に土師器の甕2点、竈1と竈2との間の壁際に土師器の坏1点が出土した。

時 期 6世紀後半。

119号住居跡 (①第322図②第322図、P L.315・355)

位 置 Nn・No-75にかけて検出。

形 状 竈周辺のみ検出。他は調査区外となるため全容は不明である。

方 位 N-87° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築されていた。

壁 高 住居跡確認面より約40~42cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。面積は現状で1.4m²。

周 溝 不明。

竈 壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は38cm、奥行きまでの長さは106cmであった。

柱 穴 不明。

貯蔵穴 不明。

遺 物 竈前部周辺に土師器の甕4点、須恵器1点が出土した。

時 期 7世紀前半。

120号住居跡 (①第324図②第323図、P L.316・354)

位 置 Nj・Nk-75グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約2.6m、短辺(検出範囲)約1.5mの方形を呈すると思われる。北側半分が調査区外となるため全容は不明である。

方 位 N-72° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層である。

壁 高 住居跡確認面より約10cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。面積は現状で3.3m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の検出範囲の幅は約64cm、奥行きまでの長さは64cm。竈の北部分1/4は調査区外である。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径57cm、短径52cmの楕円形を呈する。

遺 物 竈から灰釉陶器の塊1点が出土した。覆土からは須恵器の坏・塊を出土している。

時 期 10世紀前半。

121号住居跡 (①第324図②第324図、P L.316・354)

位 置 Nl-75・76、Nm-76グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約5.5m、短辺約3.8mの長方形を呈する。

方 位 N-82° - E。

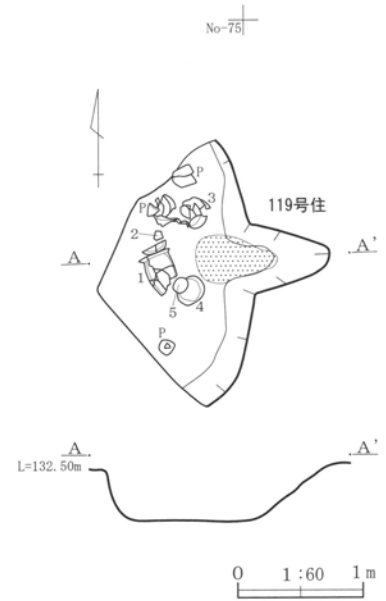
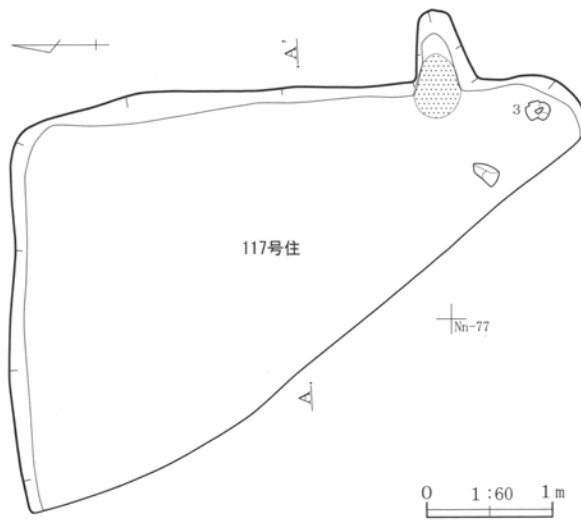
覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は1層である。

壁 高 住居跡確認面より約8~12cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。面積は19.0m²。

周 溝 検出できなかった。

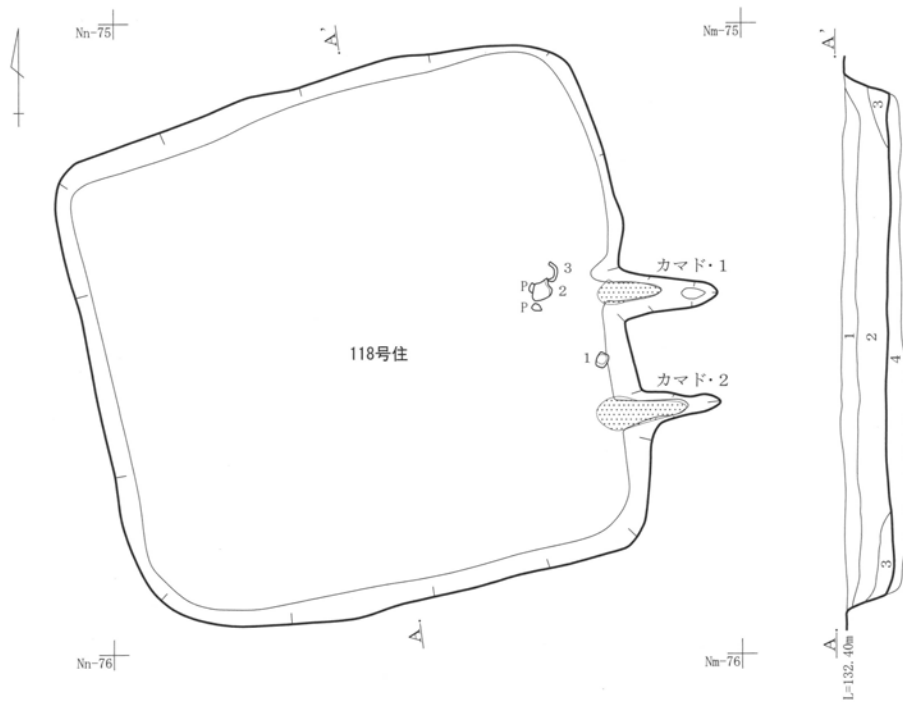
第7章 V区 検出の遺構



117号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。

第322図 117号住居跡・119号住居跡

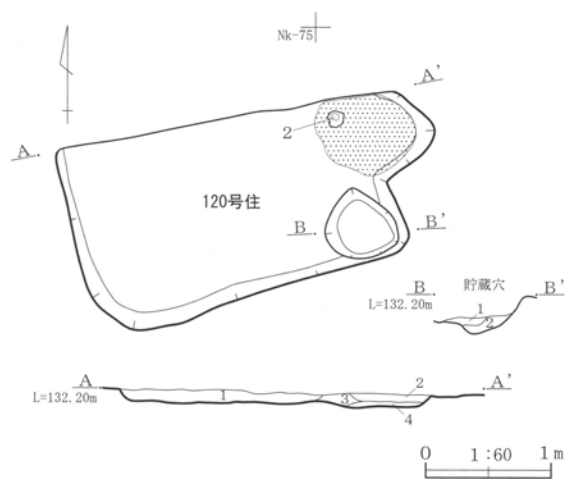


118号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物を含む。
- 3 黒褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。

第323図 118号住居跡

(1) 竪穴住居跡



120号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかい。焼土粒子を多量に、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰を多量に含む。

貯蔵穴 B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 2 暗褐色土層 非常に軟らかい。炭化物を含む。

竈 東壁の南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は28cm、奥行きまでの長さは検出範囲で55cm。竈の先端部を122号住居によって壊されている。

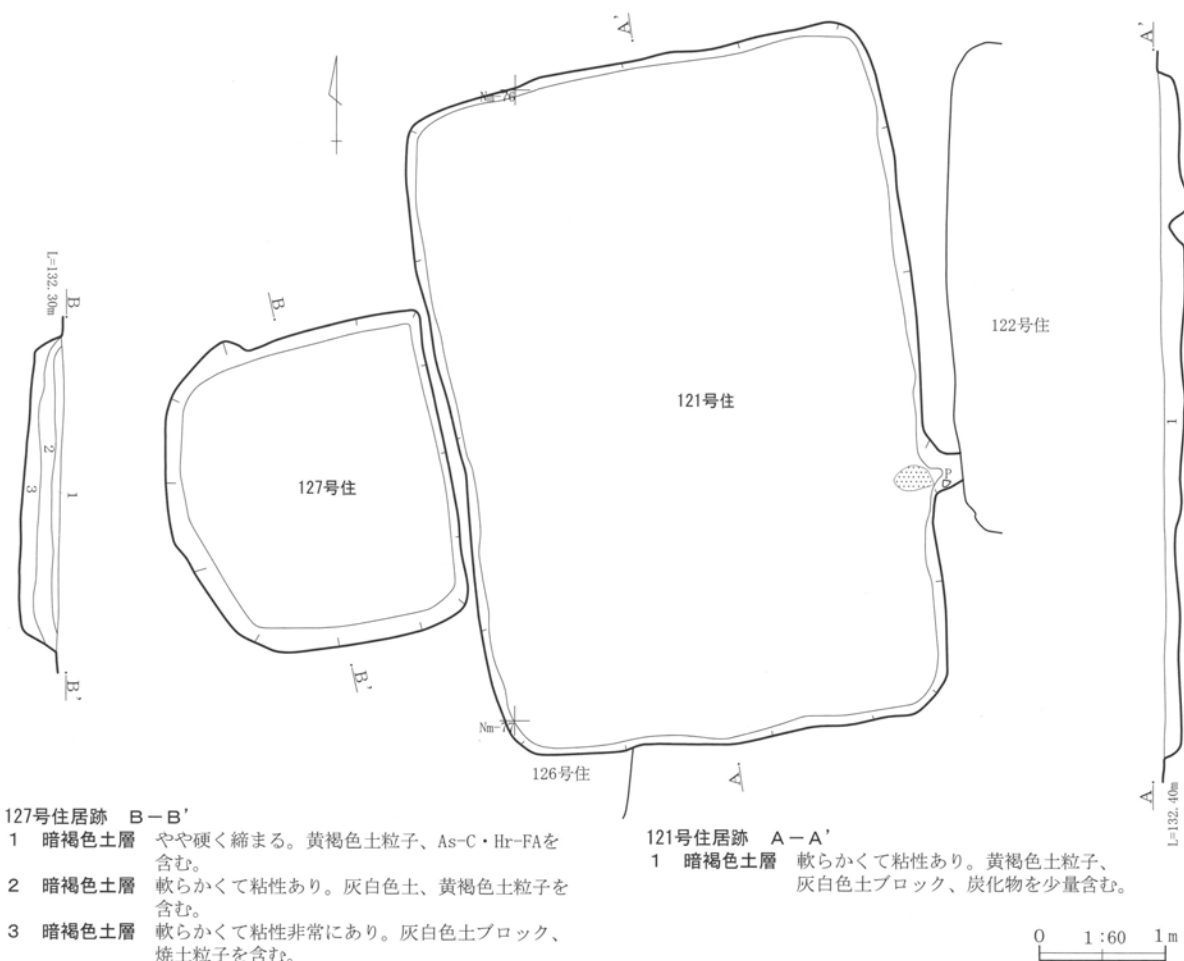
柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどない。覆土から土師器の坏を出土している。

時期 9世紀か。

備考 122号住に壊されている。



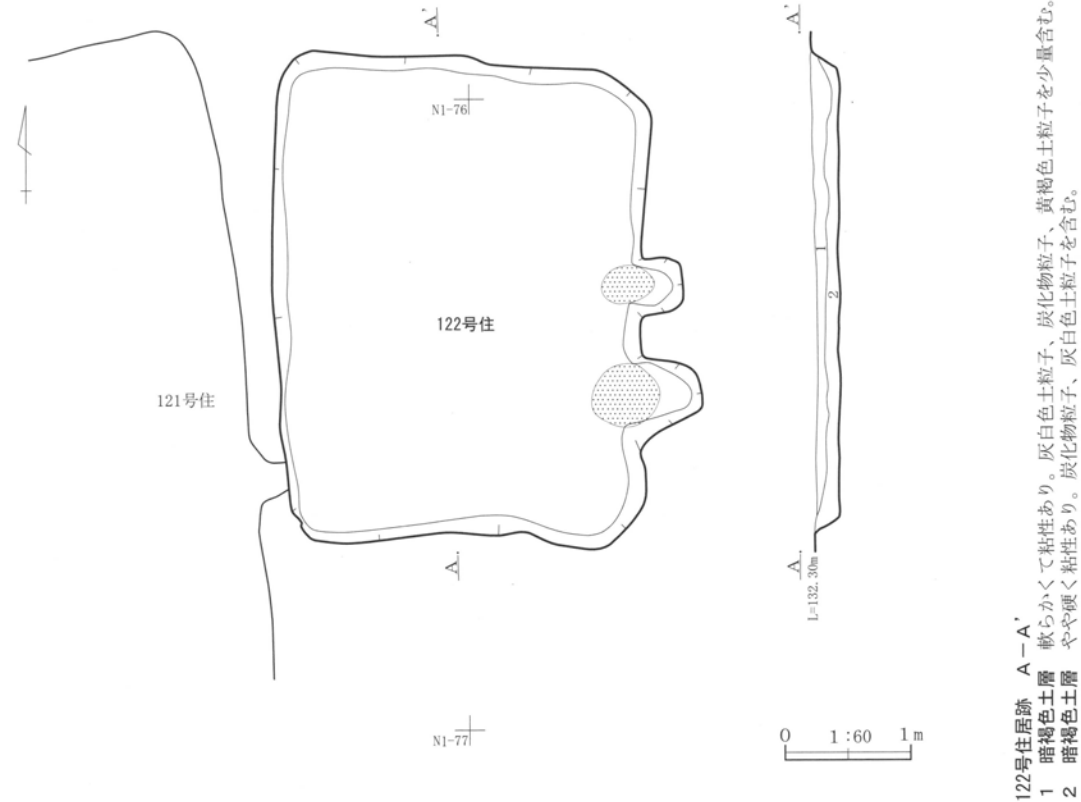
127号住居跡 B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。

121号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロック、炭化物を少量含む。

第324図 120号住居跡・121号住居跡・127号住居跡



第325図 122号住居跡

127号住居跡 (①第324図、P.L.319)

- 位置 Nm-76グリッドにおいて検出。
- 形状 長辺2.5m、短辺2.2mの不定形を呈する。
- 方位 不明。
- 壁高 住居跡確認面より約28~30cmで床面。
- 床面 ほほ平坦である。面積は4.2m²。
- 周溝 検出できなかった。
- 竈 検出できなかった。
- 柱穴 検出できなかった。
- 貯蔵穴 検出できなかった。
- 遺物 出土なし。
- 時期 不明。住居跡とはならないかもしれない。

122号住居跡 (①第325図②第324図、P.L.316・354)

- 位置 Nk・Nl-75・76グリッドにかけて検出。
- 形状 長辺約3.8m、短辺約2.9mの方形。
- 方位 N-95° - E。
- 覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築さ

れ、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

- 壁高 住居跡確認面より約20cmで床面。
- 床面 平坦である。面積は10.1m²。
- 周溝 検出できなかった。

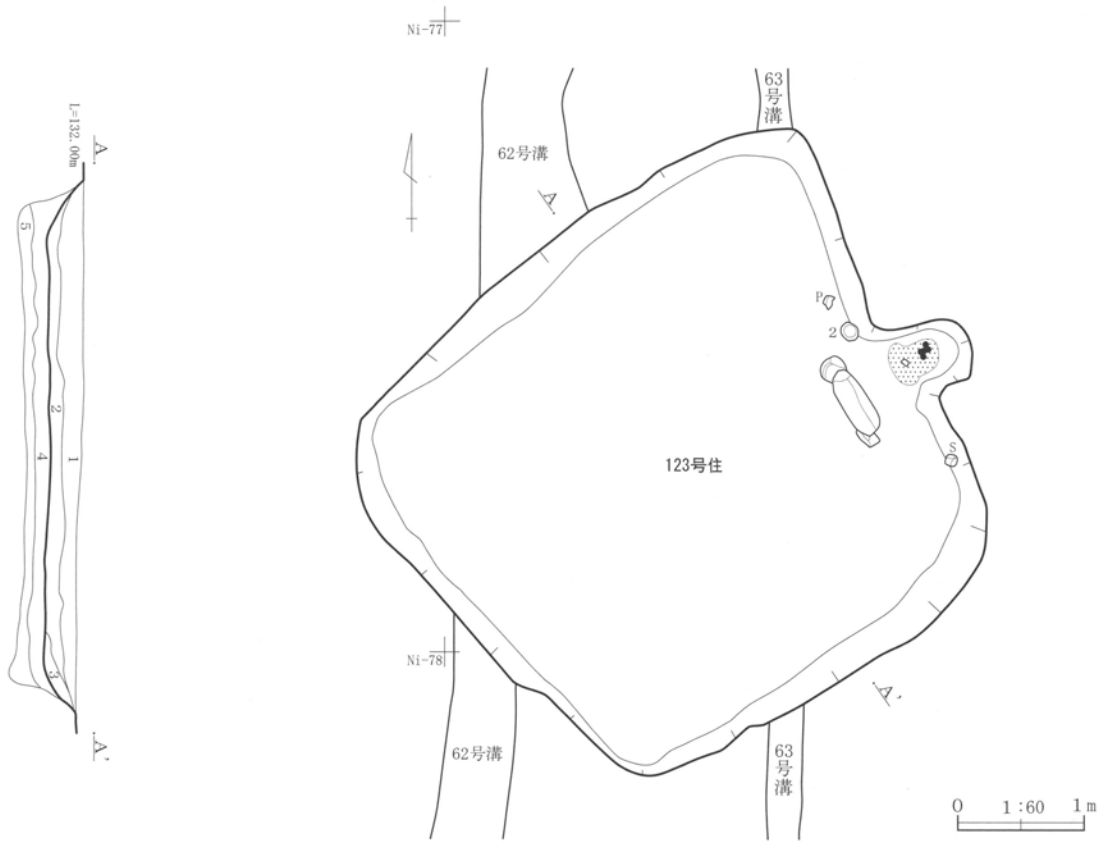
竈 竈を2つ検出した。両方とも東壁を掘り込んで構築されていた。竈1は、東壁の南寄りに検出された。燃焼部の幅は50cm、奥行きまでの長さは88cm。竈2は、東壁の中央に検出された。燃焼部の幅は28cm、奥行きまでの長さは64cm。新旧は不明である。

- 柱穴 検出できなかった。
- 貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどない。覆土から須恵器の蓋1点が出土した。

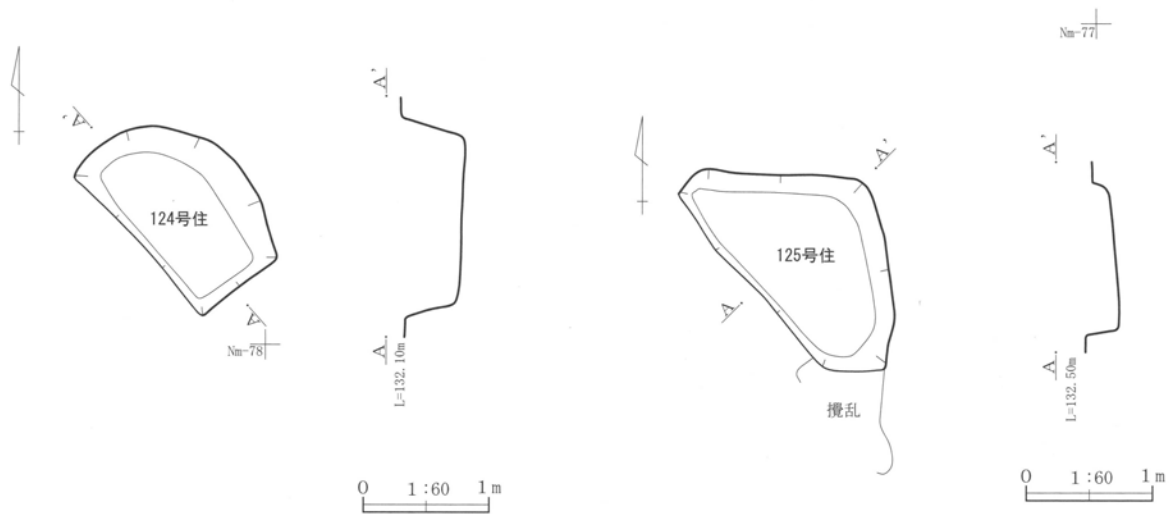
- 時期 9世紀。
- 備考 121号住を壊している。

(1) 竪穴住居跡



123号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロック、黒色土ブロック、炭化物粒子を含む。



第326図 123号住居跡・124号住居跡・125号住居跡

第7章 V区 検出の遺構

123号住居跡 (①第326図②第325図、P.L.317・355)

位置 Nh-77・78、Ni-77グリッドにかけて検出。
 形状 東壁3.9m、北壁4.6mの北東部分の張り出す隅丸台形を呈する。
 方位 N-50°-E。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約24~30cmで床面。
 床面 ほぼ平坦である。面積は13.9m²。床面は粘性のある土壌である。
 周溝 検出できなかった。
 竈 東壁の中央に検出された。壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は60cm、奥行きまでの長さは66cmであった。竈前部に構築材の礫が出土した。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 竈から土師器の坏1点が出土。覆土からは

土師器の坏、須恵器の皿が出土している。
 時期 9世紀。
 備考 62・63号溝を壊している。

124号住居跡 (①第326図②第326図、P.L.318・355)

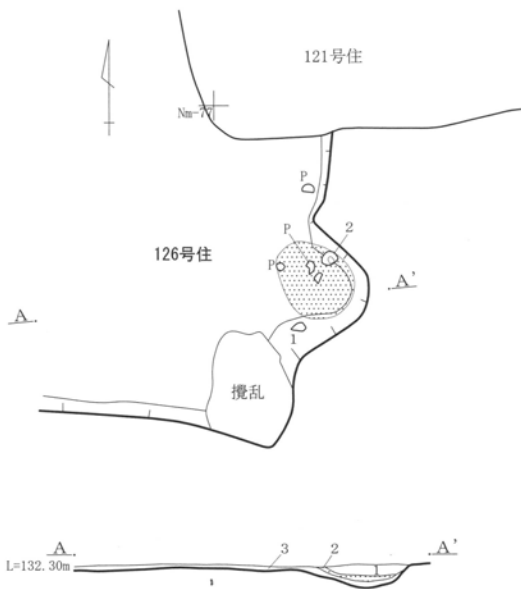
位置 Nm-77グリッドにおいて検出。
 形状 コーナー部を除き他は調査区外となるため全容は不明である。
 方位 不明。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んでいる。
 壁高 住居跡確認面より約50cmで床面に達する。
 床面 平坦である。
 周溝 検出できなかった。
 竈 不明。
 柱穴 不明。
 貯蔵穴 不明。
 遺物 土師器の坏1点が出土した。
 時期 古墳時代後期か。

125号住跡 (①第326図、P.L.318)

位置 Nm-77グリッドにおいて検出。
 形状 コーナー部を除き他は調査区外となるため全容は不明である。
 方位 不明。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んでいる。
 壁高 住居跡確認面より約14~26cmで床面。
 床面 北に向かってやや上がっている。
 周溝 検出できなかった。
 竈 不明。
 柱穴 不明。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 出土遺物はなかった。
 時期 不明。

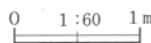
126号住居跡 (①第327図②第327図、P.L.319・356)

位置 Ni・Nm-77グリッドにかけて検出。
 形状 西側を削平され、北側を121号住居により壊され、竈部分とその周辺のみを検出となった。



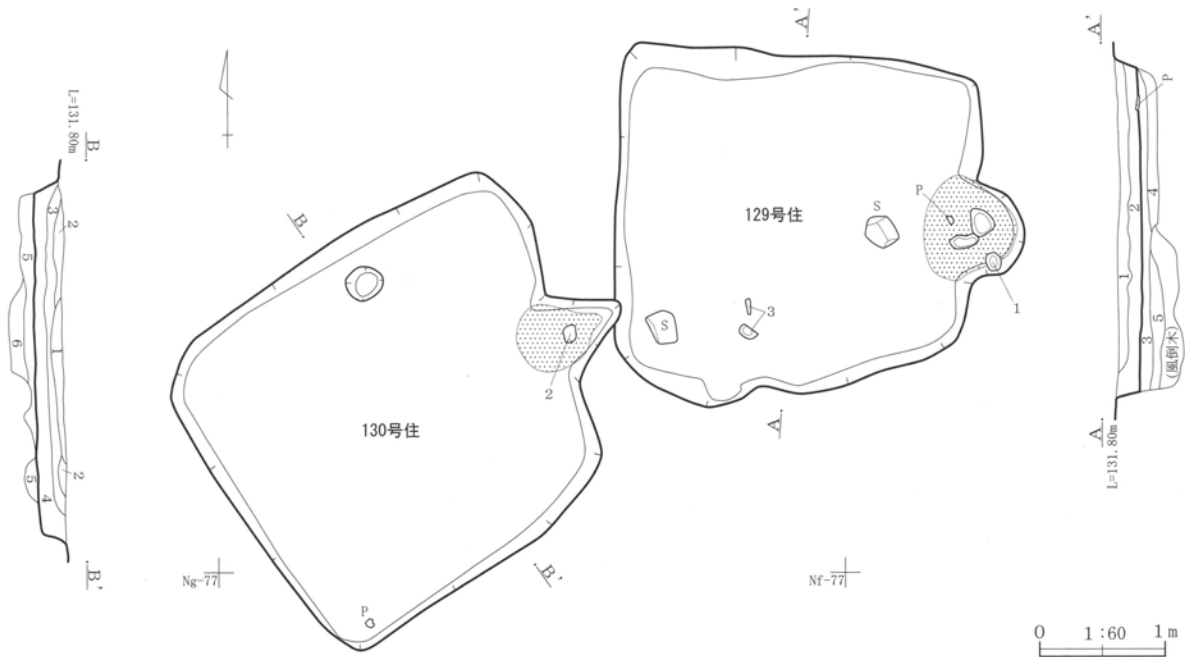
126号住居跡 A-A'

- 1 明褐色土層 硬く締まる。焼土、灰白色土粒子を含む。
- 2 灰層 軟らかい。灰白色土粒子を含む。
- 3 明褐色土層 硬く締まる。焼土、黄白色土粒子を含む。



第327図 126号住居跡

(1) 竪穴住居跡



130号住居跡 B-B'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、灰白色土ブロックを多量を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり。As-C・Hr-FAを多量に、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。

129号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。As-C・Hr-FAを少量、黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性にあり。灰白色土ブロックを含む。

第328図 129号住居跡・130号住居跡

方位 N-96° - E。

覆土 わずかに焼土粒を含んだ暗褐色土で埋まる。

壁高 住居跡確認面より約4~6cmで床面。

床面 ほとんど削平されていた。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁に検出された。燃焼部の幅は80cm、奥行きまでの長さは70cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から須恵器の坏・皿が出土している。

時期 9世紀。

備考 121号住に壊される。

129号住居跡 (①第328図②第330図、P.L.320・356)

位置 Ne・Nf-76グリッドにかけて検出。

形状 長辺約2.9m、短辺約2.4~2.8mの南壁が不規則に張り出した方形状を呈する。

方位 N-93° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約16~18cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。面積は6.7m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央に検出された。壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は84cm、奥行きまでの長さは80cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈と住居中央部からそれぞれ土師器の坏が出土した。覆土からは土師器の坏・甕が出土している。

時期 8世紀後半。

130号住居跡 (①第328図②第331図、P.L.320・356)

位置 Nf-76・77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約2.8~3.2m、短辺約2.9mの東壁の北部分が張り出した台形を呈する。

方位 N-56° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は7.3m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央に検出された。壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は60cm、奥行きまでの長さは90cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から土師器の甕が出土した。覆土からは土師器の坏を出土している。

時期 6世紀後半~7世紀前半。

131号住居跡 (①第329図②第332図、P.L.321・322・356・357)

位置 Ni-76・77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約2.8m、短辺約2.1mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-114° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約10~16cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は5.2m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに検出された。壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は40cm、奥行きまでの長さは40cmであった。竈の両脇・竈前部より構築材に使用した石が出土した。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から須恵器の碗、竈前部・南東コーナーより須恵器の坏、南壁付近より須恵器の坏を出土した。覆土からは土師器の甕、須恵器の碗を出土している。

時期 9世紀後半。

備考 133号住を壊し、134号住に壊されている。

133号住居跡 (①第329図②第334図、P.L.322・357)

位置 Ni・Nj-77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.3m、短辺(検出範囲)約2.6mの隅丸長方形を呈すると思われる。北側を131号住居と134号住居に壊されていたため、全容は不明である。

方位 N-93° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約18~26cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で8.9m²。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は68cm、奥行きまでの長さは116cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈との周辺から土師器の甕が出土した。

時期 8世紀。

備考 131号住と134号住に壊されている。

134号住居跡 (①第329図②第335図、P.L.322・357)

位置 Ni・Nj-76・77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.7~4.1m、短辺は約3.1mの北壁が張り出した方形を呈する。

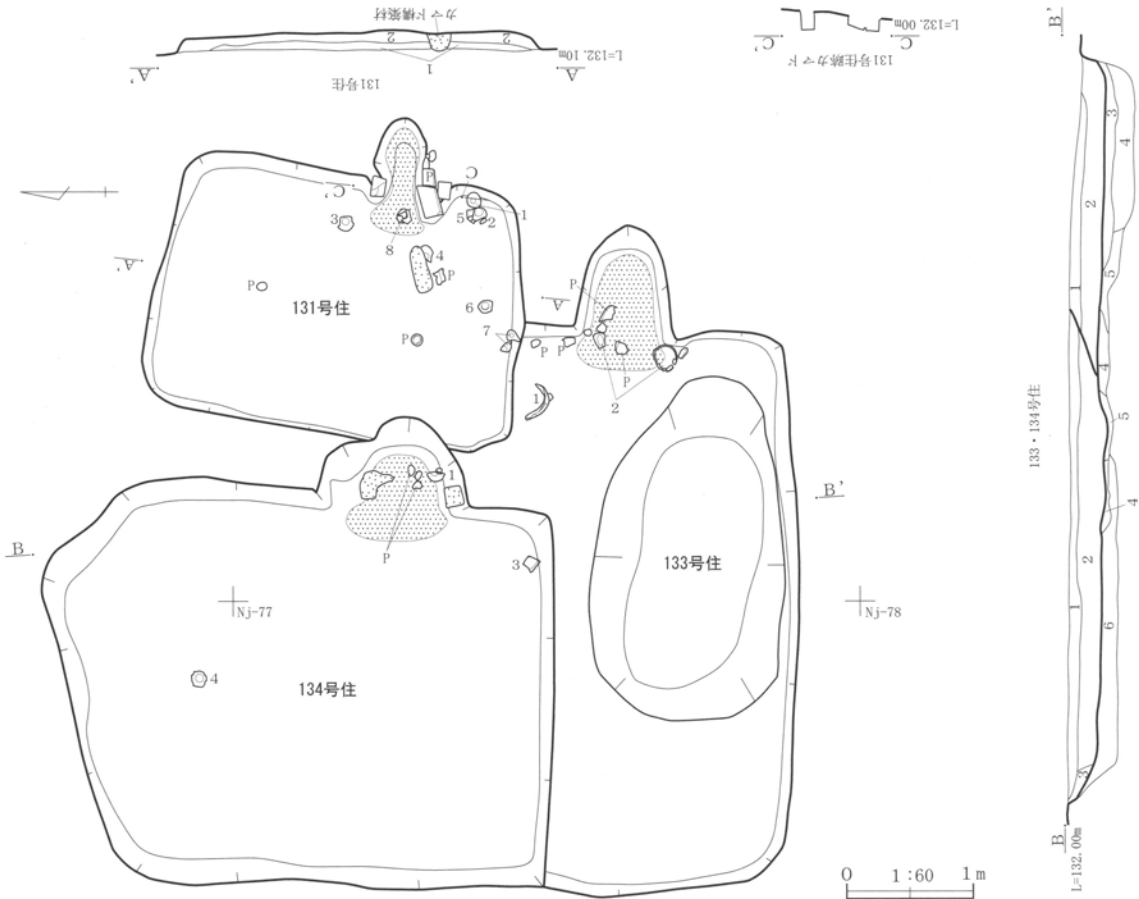
方位 N-93° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約18~26cmで床面に達する。北壁は床から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は10.4m²。

(1) 竪穴住居跡



131号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子、焼土粒子を少量含む。

133号住居跡 B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を少量含む。上層よりも明るい色調。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを少量含む。

134号住居跡 B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を少量含む。
- 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 5 灰褐色土層 焼土を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。

第329図 131号住居跡・133号住居跡・134号住居跡

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は100cm、奥行きまでの長さは100cmであった。竈両側に構築材である石を検出した。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から須恵器の坏、南東コーナーから須恵器の壺、住居中央部から須恵器の皿が出土してい

る。

時期 9世紀後半～10世紀前半。

備考 133号住と131号住を壊している。

135号住居跡 (①第330図②第336・337図、P.L.323・357・358)

位置 Nc・Nd-78・79グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.9～4.2m、短辺約3.3～3.9mの不定形状を呈する。2軒重複の可能性が考えられる。

方位 N-71°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は10層に分かれた。上の2層が135号住居の覆土と考えられる。それより下層は別の住居の覆土と考えられる。

壁高 住居跡確認面より約12~18cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は13.0m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は46cm、奥行きまでの長さは100cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 南東コーナーに須恵器の坏2点、壺2点、碗、皿それぞれ1点ずつ、中央と竈の北側から土師器の坏が出土した。

時期 9世紀後半。

備考 住居2軒の重複と思われる。

136号住居跡 (①第331図②第338図、P.L.323・358)

位置 Na・Nb-78~79グリッドにかけて検出。

形状 長辺約5.2m、短辺約5.0mの方形を呈する。

東コーナーは調査区外となる。

方位 N-36°-W。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床面 やや堅く締まり、平坦である。面積は現状

で21.4m²。粘性のある土壌で床を貼っている。

周溝 検出できなかった。

竈 北壁の中央を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は36cm、奥行きまでの長さは120cmであった。

柱穴 柱穴4基を検出した。ピット1の深さは9cm、2は27cm、3は30cm、4は28cmである。

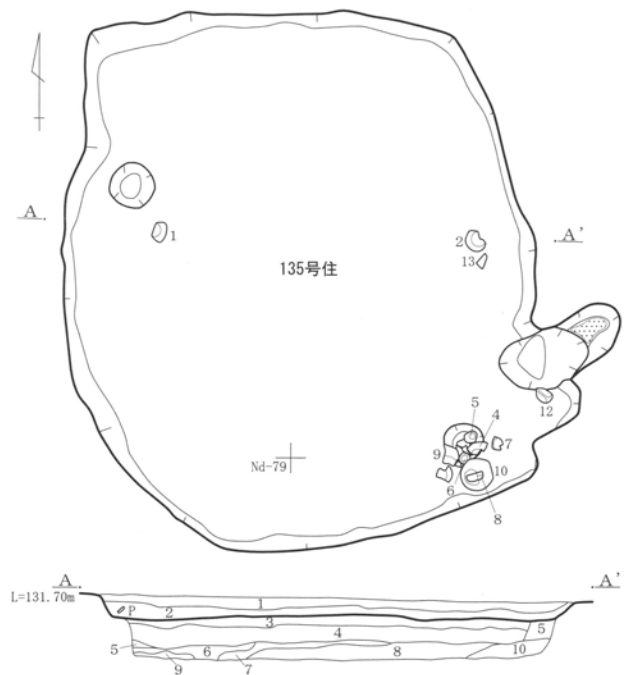
貯蔵穴 北東コーナーに検出した。長径40cm、短径30cmの楕円形を呈する。

遺物 竈前部から土師器の甕が出土した。

時期 7世紀前半。

137号住居跡 (①第332図②第339図、P.L.324)

位置 Nc-76・77グリッドにかけて検出。

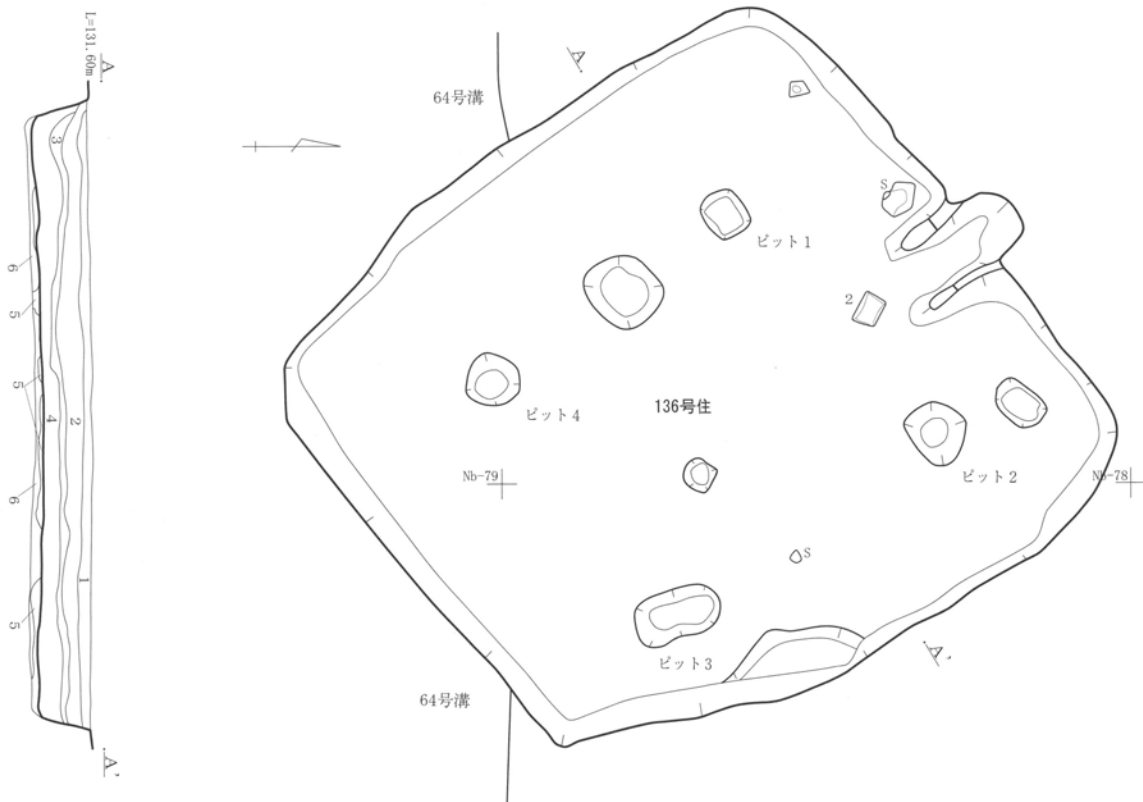


135号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 6 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり。焼土粒子、灰白色土を少量含む。
- 7 茶褐色土層 硬く締まる。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 8 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子を含む。

0 1:60 1m

第330図 135号住居跡



136号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 3 褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土を多量に、炭化物粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、灰白色土ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、As-C・Hr-FA、炭化物粒子を含む。
- 6 灰褐色土層 硬く締まり粘性非常にあり。

0 1:60 1m

第331図 136号住居跡

形状 長辺約3.8m、短辺約3.4mの方形を呈する。

方位 N-66° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約28~34cmで床面に達する。

床面 平坦である。面積は10.8m²。

周溝 検出できなかった。

炉 長径68cm、短径44cm、深さ6~12cmの楕円形を呈する。

柱穴 ピット6基を検出した。ピット1~4が支柱穴になる。ピット1の深さは34cm、ピット2は21cm、ピット3は24cm、ピット4は23cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から打製石斧1点が出土した。

時期 古墳時代前期か。

139号住居跡 (①第333図②第341図、P.L.325・359)

位置 Ng・Nh-78・79グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.6~4.8m、短辺約4.1~4.4mの北壁の一部が不定型に張り出す台形状を呈する。113号住により南西コーナーが壊される。

方位 N-96° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は10層に分かれた。

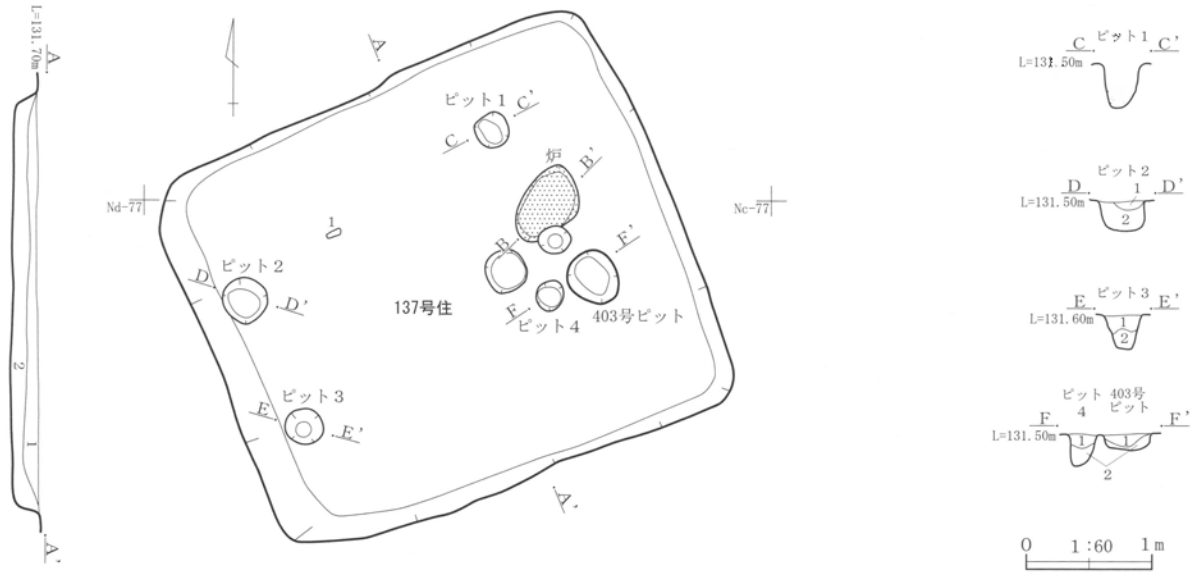
壁高 住居跡確認面より約28~34cmで床面。

床面 やや強く締まり、平坦である。面積は現状で18.9m²。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部を掘り込んで構築されている。

第7章 V区 検出の遺構



137号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて締まり良い。As-Cを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、As-Cを少量含む。

炉 B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。焼土粒子を含む。
- 2 赤褐色土層 焼土主体の層。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄褐色土粒子を少量含む。

ピット2 D-D'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む

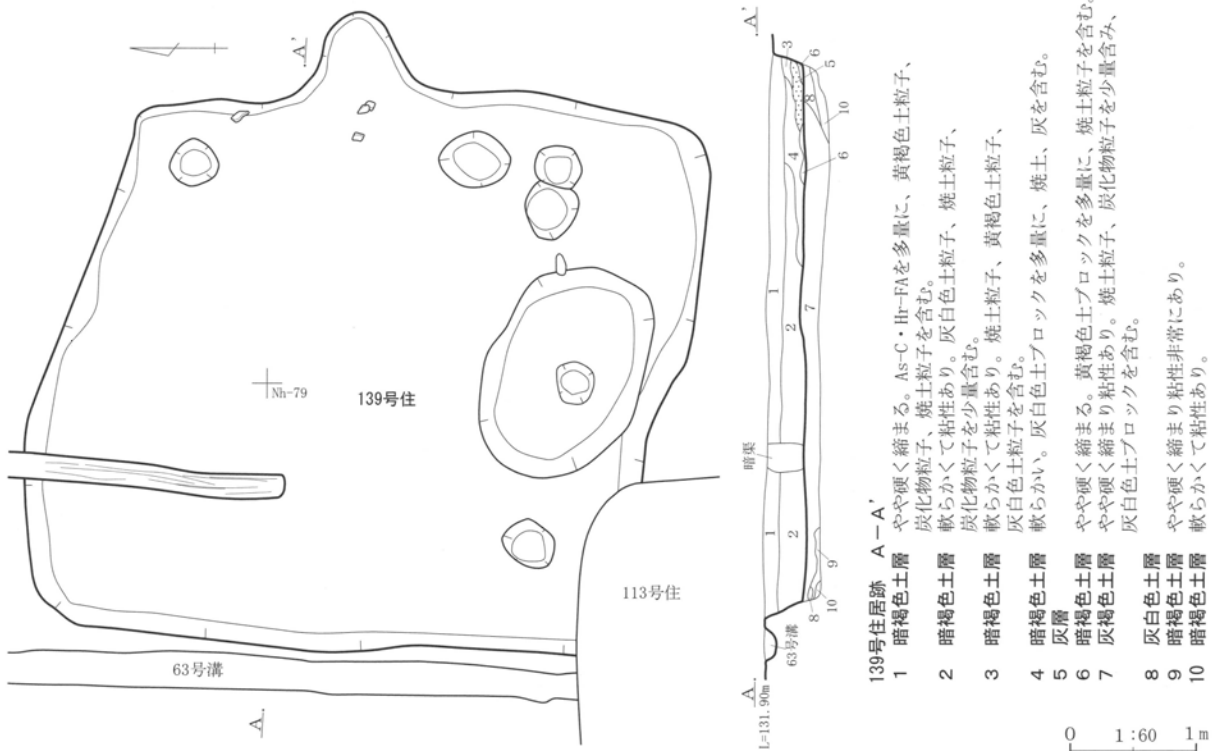
ピット3 E-E'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。

ピット4・403号ピット F-F'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。

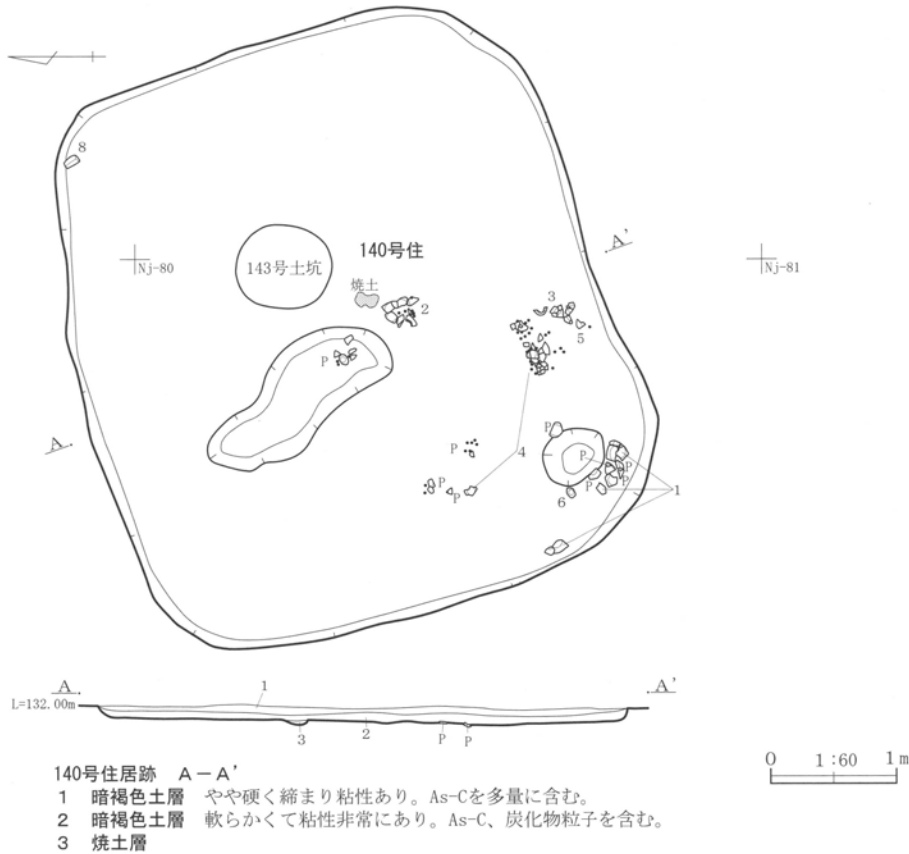
第332図 137号住居跡



139号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土ブロックを多量に、焼土、灰を含む。
- 5 灰層 やや硬く締まる。黄褐色土ブロックを多量に、焼土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む、灰白色土ブロックを含む。
- 7 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。
- 8 灰白色土層 軟らかくて粘性あり。
- 9 暗褐色土層
- 10 暗褐色土層

第333図 139号住居跡



第334図 140号住居跡

た。燃焼部の幅は66cm、奥行きまでの長さは50cm。
 柱 穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺 物 覆土から土師器の坏・甕、須恵器の蓋、灰
 釉陶器の皿が出土している。
 時 期 8世紀前半。
 備 考 113号住に壊される。

140号住居跡 (①第334図②第342・343図、P L.325・359)
 位 置 Ni・Nj-79・80グリッドにかけて検出。
 形 状 長辺約4.7m、短辺約4.2mの隅丸長方形を
 呈する。
 方 位 不明。
 覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築さ
 れ、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。
 壁 高 住居跡確認面より約10~12cmで床面に達
 する。

床 面 平坦である。面積は10.8m²。床下土坑1基
 を検出した。
 周 溝 検出できなかった。
 炉 明瞭に検出できなかった。しかし床面中央
 部にわずかな焼土の分布があった。これが炉になる
 可能性がある。
 柱 穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺 物 土師器台付甕が南西コーナーから2点、中
 央部から2点、南壁付近から2点出土した。
 時 期 4世紀末~5世紀初頭。

141号住居跡 (①第335図②第344図、P L.326・359)
 位 置 Ne・Nf-79・80グリッドにかけて検出。
 形 状 長辺約6.4m、短辺約6.0mの隅丸方形を呈
 する。
 方 位 N-76° - E。

第7章 V区 検出の遺構

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は16層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約38cmで床面に達する。

床面 平坦である。面積は34.2m²。床面は粘性のある土壌である。

周溝 全周している。幅17~30cm、深さ5~10cmである。西壁から20cm内側に周溝1条を検出した。幅は、14~27cm。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。165号土坑により竈先端部を壊されてる。全容を確認できなかった。燃焼部の幅は60cm、検出範囲の奥行きまでの長さは80cmであった。

柱穴 ピット4基を検出した。ピット1の深さ30cm、ピット2の深さ34cm、ピット3の深さは24cm、ピット4の深さは29cmであった。

貯蔵穴 南東コーナーに検出した。長径90cm、短径62cm、深さ36cmの円形を呈している。

遺物 中央部から土師器の坏を出土した。覆土からは土師器の坏・甕、須恵器の甕が出土している。

時期 7世紀前半。

備考 165号土坑に壊されている。

142号住居跡 (①第336図第345図、P.L.326・327・360)

位置 Nc・Nd-79・80グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.8m~4.6m、短辺約3.8~4.5mの西壁のやや広い隅丸台形を呈する。

方位 N-71°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は13層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30~38cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は15.9m²。床下土坑3基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は40cm、奥行きまでの長さは100cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 東コーナーに検出した。長径50cm、短径30cmの楕円形を呈する。

遺物 東コーナー周辺から土師器の坏・小甕を出土した。覆土からは土師器の坏・甕が出土している。

時期 8世紀後半~9世紀初頭。

備考 156号住と152号住を壊している。145号住居は欠番となり、本住居の一部である。

152号住居跡 (①第336図②第358図、P.L.327・332・363)

位置 Nc・Nd-80グリッドにかけて検出。

形状 南東コーナー部以外は、142号住と156号住に壊されており、全容は不明である。

方位 不明。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約18cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で2.5m²。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 東壁周辺より須恵器の壺が出土した。

時期 不明。

備考 142号住に壊される。

156号住居跡 (①第336図、P.L.327)

位置 Nd-79・80にかけて検出。

形状 東側半分が142号住に壊されており、全容は、不明である。

方位 不明。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で6.1m²。

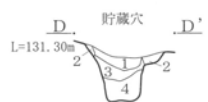
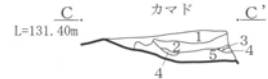
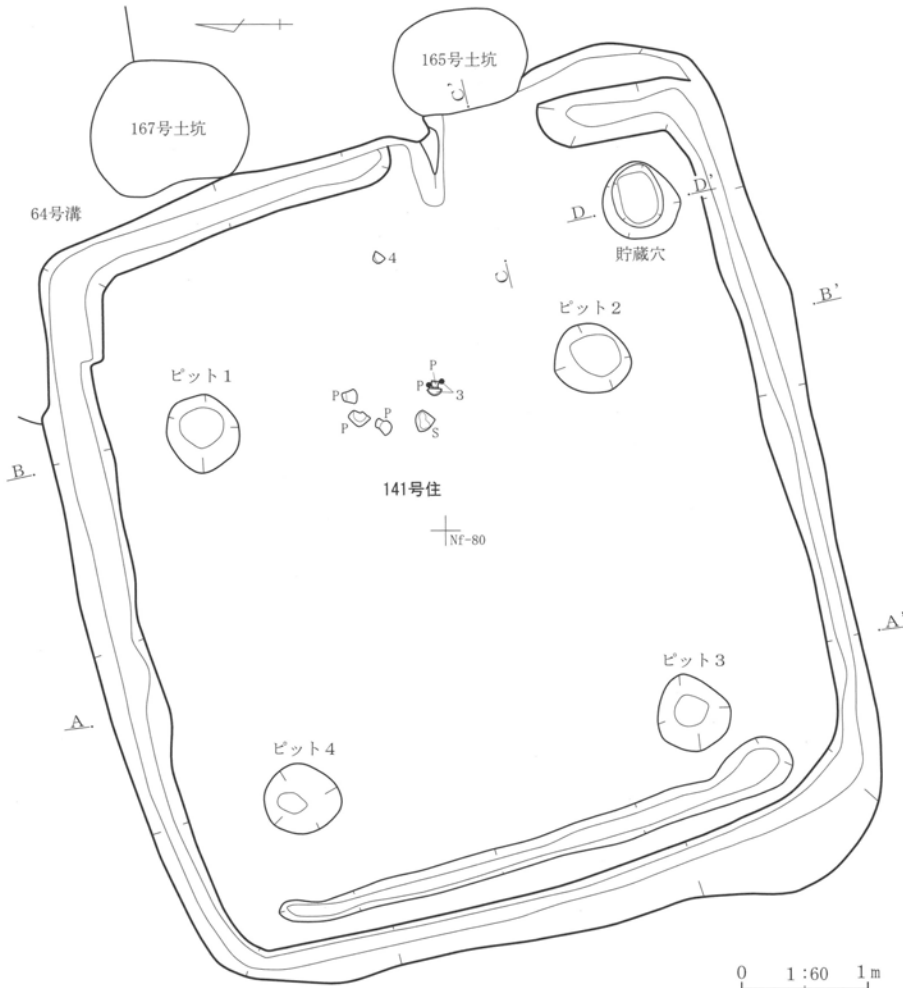
周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

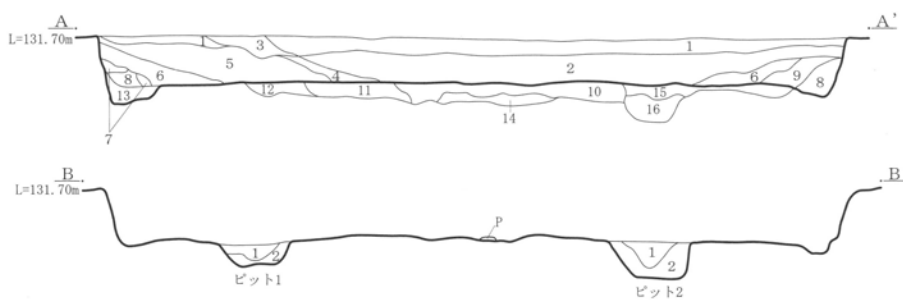
柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

(1) 竪穴住居跡



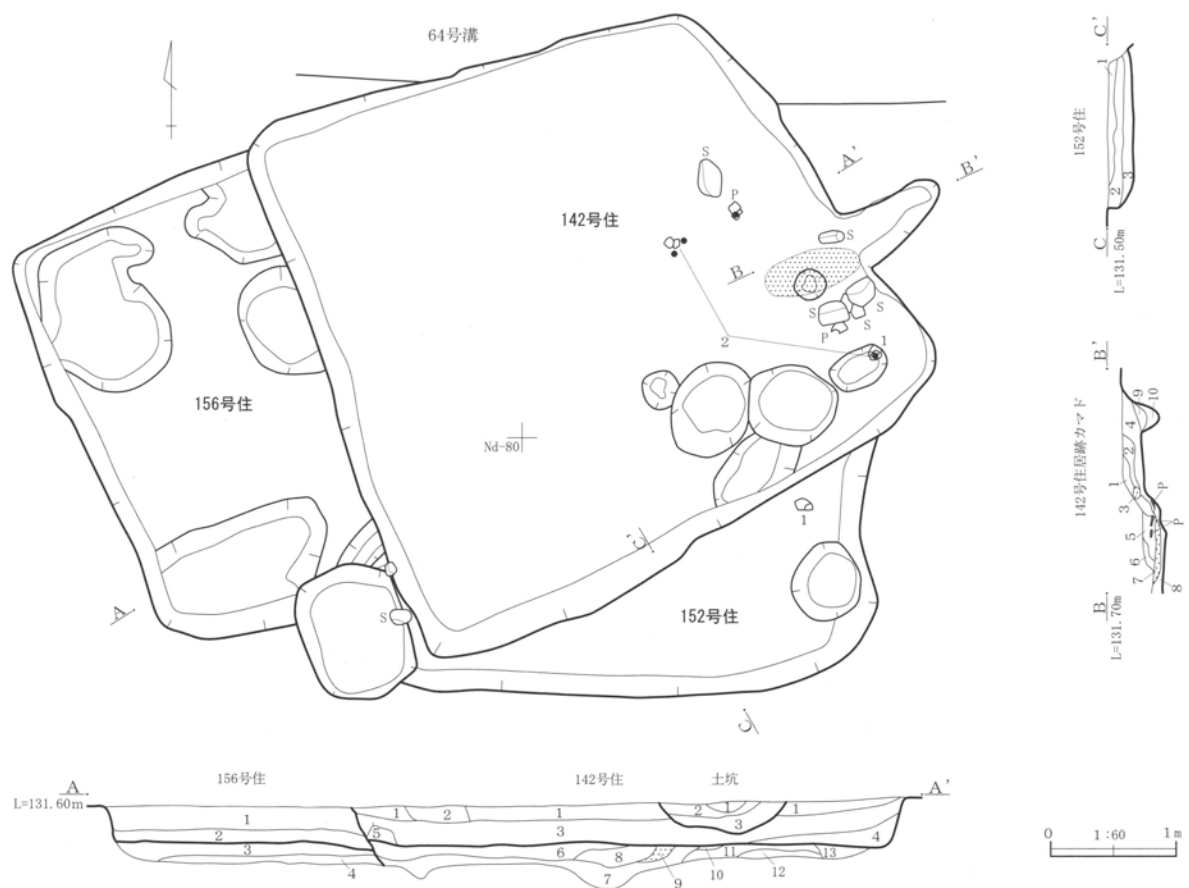
- カマド C-C'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。灰褐色土ブロック、焼土粒子、灰を含む。
 - 3 灰層 焼土を多量に、灰を含む。
 - 4 灰褐色土層 粘性非常にあり。焼土、灰を少量含む。
 - 5 灰褐色土層



- 141号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。黄褐色土粒子を含む。
 - 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。黄褐色土粒子を少量含む。
 - 5 暗褐色土層 軟らかく粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 - 6 暗褐色土層 軟らかく粘性あり。灰白色土粒子を含む。
 - 7 黒色粘質土 壁の崩れ。
 - 8 暗褐色土層 軟らかく粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 9 暗褐色土層 軟らかく粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 10 暗褐色土層 軟らかく粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 - 11 灰褐色土層 やや硬く粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 12 灰褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 13 灰褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。灰白色土を多量に含む。
 - 14 灰褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 15 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 16 暗褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。

- カマド C-C'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子を少量含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。灰褐色土ブロック、焼土粒子、灰を含む。
 - 3 灰層 焼土を多量に、灰を含む。
 - 4 灰褐色土層 粘性非常にあり。焼土、灰を少量含む。
 - 5 灰褐色土層
- ピット1・2 B-B'
- 1 暗褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。炭化物、焼土粒子、黄褐色土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。灰白色土粒子を含む。
- 貯蔵穴 D-D'
- 1 暗褐色土層 軟らかく粘性あり。焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 4 暗褐色土層 軟らかく粘性非常にあり。

第335図 141号住居跡



142・156号住居跡 A-A'

142号住居跡

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子を少量含む。
 - 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
 - 5 灰白色土層 壁の崩れ。
 - 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
 - 7 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
 - 8 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土ブロック、灰、焼土を多量に含む。
 - 9 灰層
 - 10 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
 - 11 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
 - 12 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常あり。
 - 13 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを少量含む。
- 156号住居跡
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を少量含む。
 - 4 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常あり。灰白色土を多量に含む。
- 土坑
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
 - 2 灰白色土層 やや硬く締まる。灰白色土と暗褐色土の混土。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。

142号住居跡カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を多量に、焼土粒子を含む。
- 2 赤褐色土層 やや硬く締まる。焼土を多量に灰を含む。
- 3 灰層
- 4 暗褐色土層 やや硬く粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 5 灰白色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 7 灰層
- 8 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
- 9 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を少量含む。
- 10 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を含む。

152号住居跡 C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土ブロック・焼土粒子を含む。

第336図 142号住居跡・152号住居跡・156号住居跡

(1) 竪穴住居跡

遺物 遺物の出土はほとんどなかった。

時期 不明。

備考 142号住に壊されている。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 北東コーナーから須恵器の短頸壺が出土した。

時期 不明。

143号住居跡 (①第337図②第345図、P.L.327・360)

位置 Nk・Ni-78・79グリッドにかけて検出。

形状 長辺4.1m、短辺3.8mの不定形。

方位 N-91°-E。

覆土 焼土粒子・炭化物を含んだ暗褐色土層で埋まる。

壁高 住居跡確認面より約6cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。面積は12.7m²。南東部に焼土・灰が分布している。

144号住居跡 (①第338図②第346・347図、P.L.328・360)

位置 Nh・Ni-81・82グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.8m、短辺約3.5mの方形を呈する。

方位 不明。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約22cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は10.8m²。

周溝 検出できなかった。

竈 不明。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から須恵器の壺が出土した。

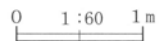
時期 9世紀。

備考 65・66号溝により壊されている。

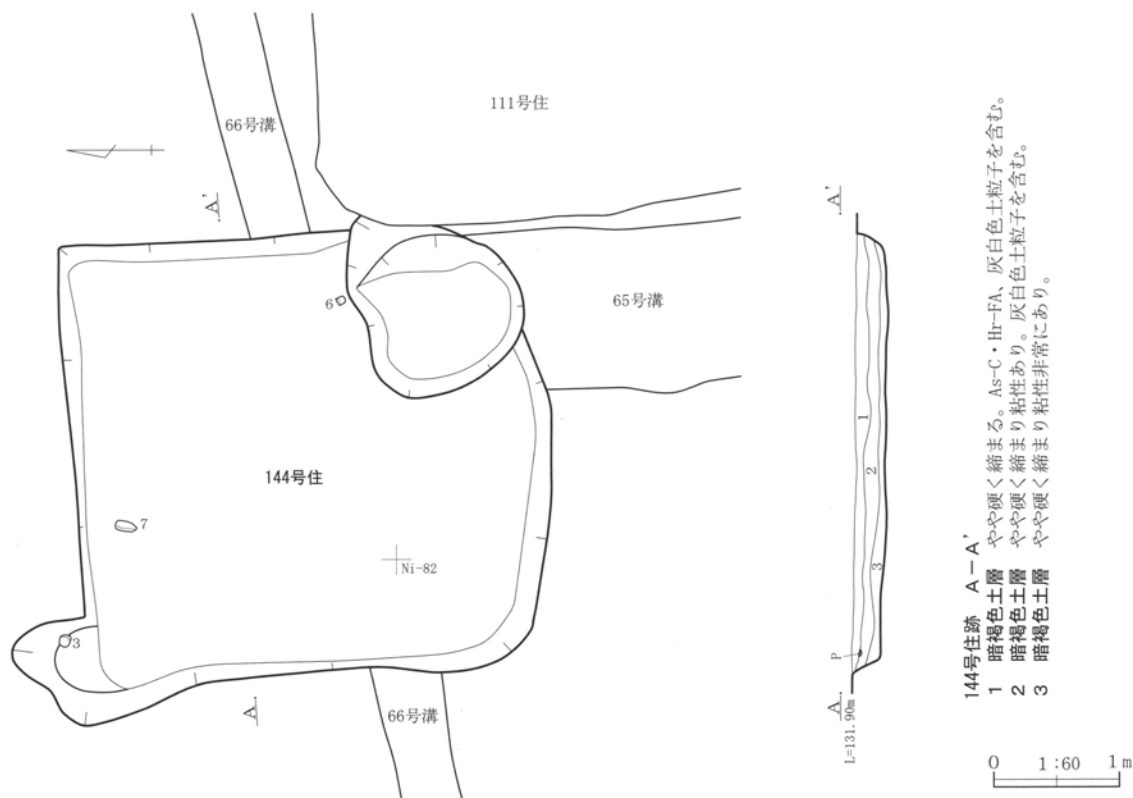


143号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、黄褐色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 4 灰層
- 5 焼土層
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰、黄褐色土粒子を含む。



第337図 143号住居跡



第338図 144号住居跡

146号住居跡 (①第339図②第348・349図、P.L.328・360)

- 位置 Nd-80グリッドにおいて検出。
- 形状 不明。
- 方位 不明。
- 覆土 焼土粒子や炭化物を含んだ暗褐色土により埋まる。
- 壁高 住居跡確認面より約6cmで床面に達する。
- 床面 ほぼ平坦である。
- 周溝 検出できなかった。
- 竈 形状は不明である。
- 柱穴 検出できなかった。
- 貯蔵穴 検出できなかった。
- 遺物 須恵器の埴、丸瓦が出土した。
- 時期 不明。
- 備考 147号住に壊されている。

147号住居跡 (①第339図②第350・351図、P.L.329・361)

- 位置 Nd・Ne-80・81グリッドにかけて検出。
- 形状 長辺約5.0m、短辺約4.5mの方形を呈する。

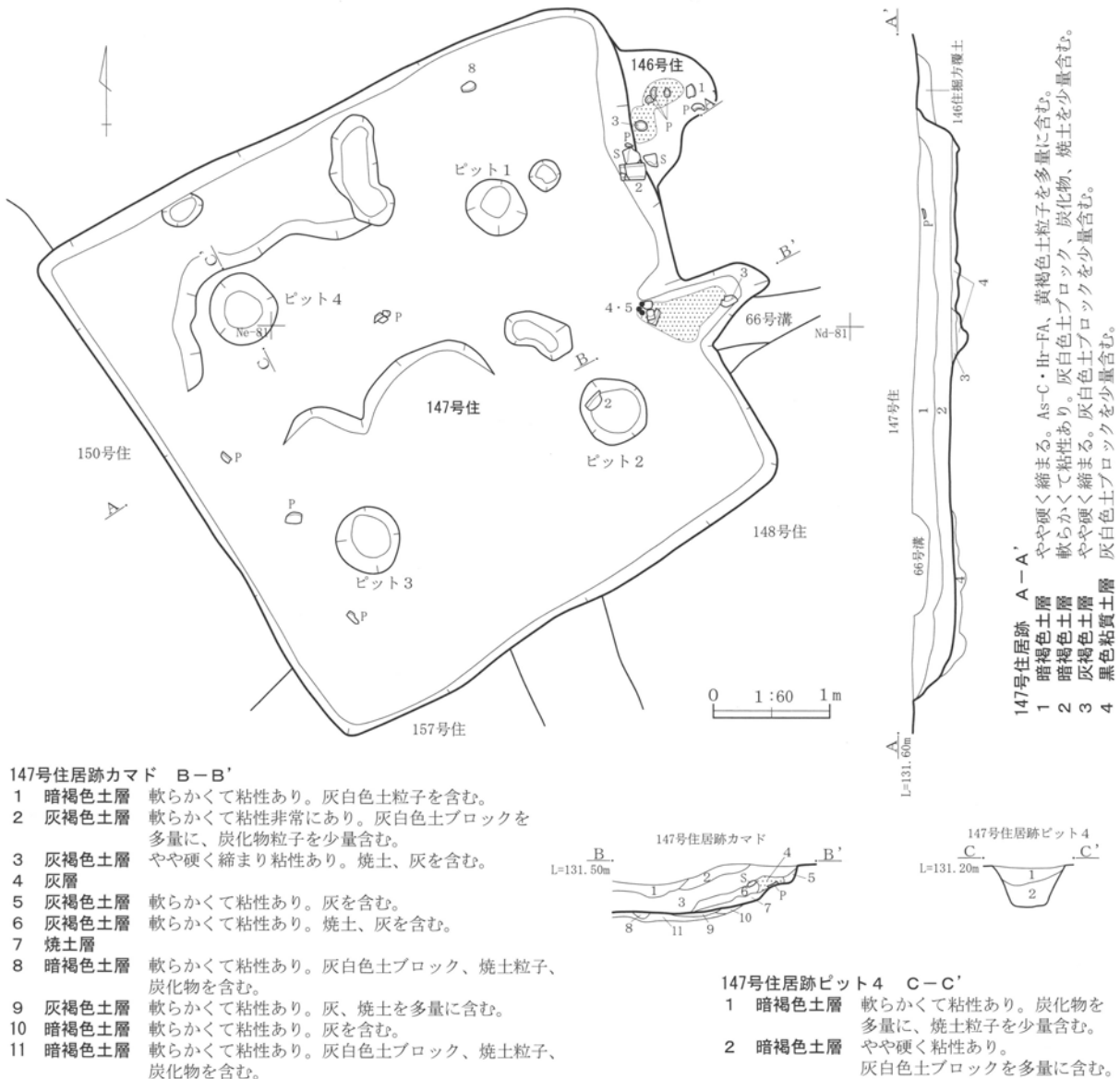
方位 N-56°-E。

- 覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。
- 壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。
- 床面 ほぼ平坦である。面積は21.5m²。
- 周溝 検出できなかった。
- 竈 東壁の南寄り掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は52cm、奥行きまでの長さは102cm。
- 柱穴 ピット4基を検出した。ピット1の深さは24cm、ピット2は25cm、ピット3は33cm、ピット4は33cmである。
- 貯蔵穴 検出できなかった。
- 遺物 竈から土師器の甕3点、ピット2から土師器の甕1点出土した。覆土からは土師器の埴、須恵器の蓋が出土している。

時期 8世紀後半。

備考 146号住を壊している。

(1) 竪穴住居跡



第339図 146号住居跡・147号住居跡

148号住居跡 (①第340図②第352図、P L.330・361)

位置 Nc・Nd-80~82グリッドにかけて検出。

形状 長辺約5.9~6.3m、短辺約6.0mの方形を呈する。147号住により北西コーナーを壊されていた。

方位 N-73°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は12層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約32cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は30.7m²。

周溝 竈の北側東壁と南壁の中央から西壁沿いに検出した。幅は9~15cm、深さは5cmである。

竈 東壁の南寄り掘り込んで構築されてい

た。燃焼部の幅は40cm、奥行きまでの長さは140cmであった。

柱穴 ピット4基を検出した。ピット1の深さは17cm、2は11cm、3は24cm、4は27cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 中央部から須恵器の壺を検出した。覆土からは土師器の坏・甕が出土している。

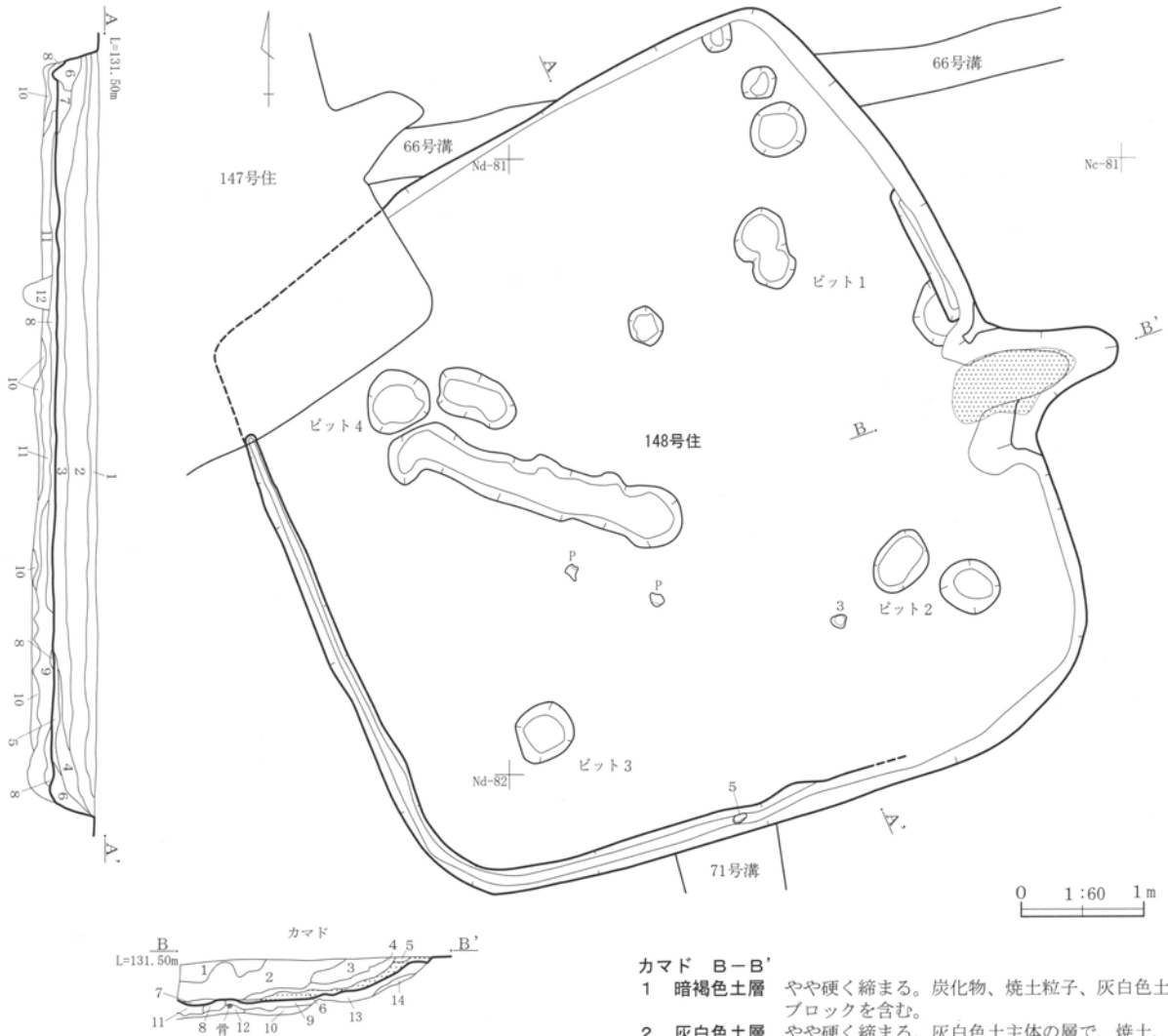
時期 6世紀後半~7世紀初頭。

備考 147号住に壊されている。

149号住居跡 (①第341図②第353・354図、P L.331・361・362)

位置 Mt・Na-79・80グリッドにかけて検出。

第7章 V区 検出の遺構



148号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子を多量に、灰白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物を含む。
- 5 炭化物層
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。炭化物、灰白色土粒子を含む。
- 7 黒褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黒色粘質土と暗褐色土の混土。
- 8 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。(張り床)
- 9 暗褐色土層 やや硬く粘性あり。灰白色ブロックを含む。
- 10 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。
- 11 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 12 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。

カマド B-B'

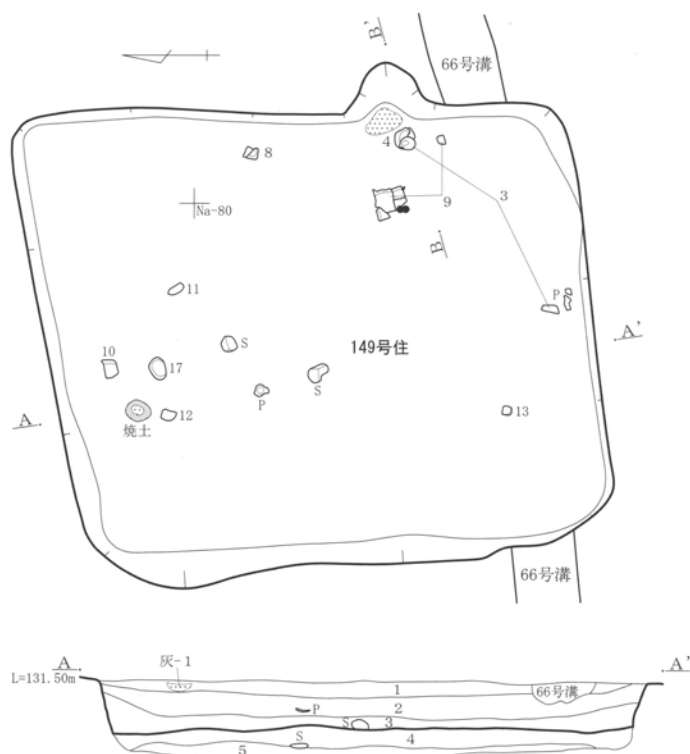
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物、焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 2 灰白色土層 やや硬く締まる。灰白色土主体の層で、焼土、炭化物を含む。
- 3 灰褐色土層 やや硬く締まる。粘性あり。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 4 焼土層 灰を含む。
- 5 灰白色土層 焼土、灰を含む。
- 6 灰層
- 7 灰白色土層 硬く締まる。灰、焼土を含む。
- 8 灰褐色土層 やや硬く粘性非常にあり。灰白色土、炭化物粒子を含む。
- 9 褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土、灰を多量に含む。
- 10 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 11 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 12 灰褐色土層 やや硬く粘性あり。灰白色土、焼土粒子を含む。
- 13 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土、焼土粒子、灰を含む。
- 14 灰褐色土層 軟らかい。灰を多量に焼土粒子を含む。

第340図 148号住居跡

形状 長辺約4.4m、短辺約3.8mの方形を呈する。
 方位 N-83° - E。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約36~42cmで床面に達する。
 床面 ほぼ平坦である。面積は14.2m²。
 周溝 検出できなかった。

(1) 竪穴住居跡

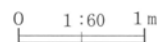


カマド B-B'

- 1 赤褐色土層 やや硬く締まる。焼土、灰白色土を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。焼土主体の層。
- 4 赤褐色土層 焼土主体の層。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 7 赤褐色土層 焼土を主体に灰を含む。
- 8 灰層
- 9 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を含む。
- 10 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
- 11 灰層
- 12 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。

149号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰褐色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 5 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰褐色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。



第341図 149号住居跡

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は42cm、奥行きまでの長さは58cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から土師器の甕・坏・鉢が出土した。覆土からは、土師器の坏・台付甕、須恵器の塊を出土している。

時期 8世紀前半。

備考 66号溝によって壊されている。

れ、そこに堆積した覆土は15層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20～34cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は、30.9m²。

周溝 全周している。幅約16～30cm、深さ約5cmである。

竈 東壁の南寄りに痕跡を残している。147号住居に壊されている。

柱穴 ピット4基を検出した。ピット1の深さは41cm、2は22cm、3は29cm、4は29cm、5は18cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から土師器の坏6点、高坏1点、須恵器の高坏3点などが出土している。

時期 6世紀後半

備考 147号住と66号溝に壊され、105号住と157号住を壊している。

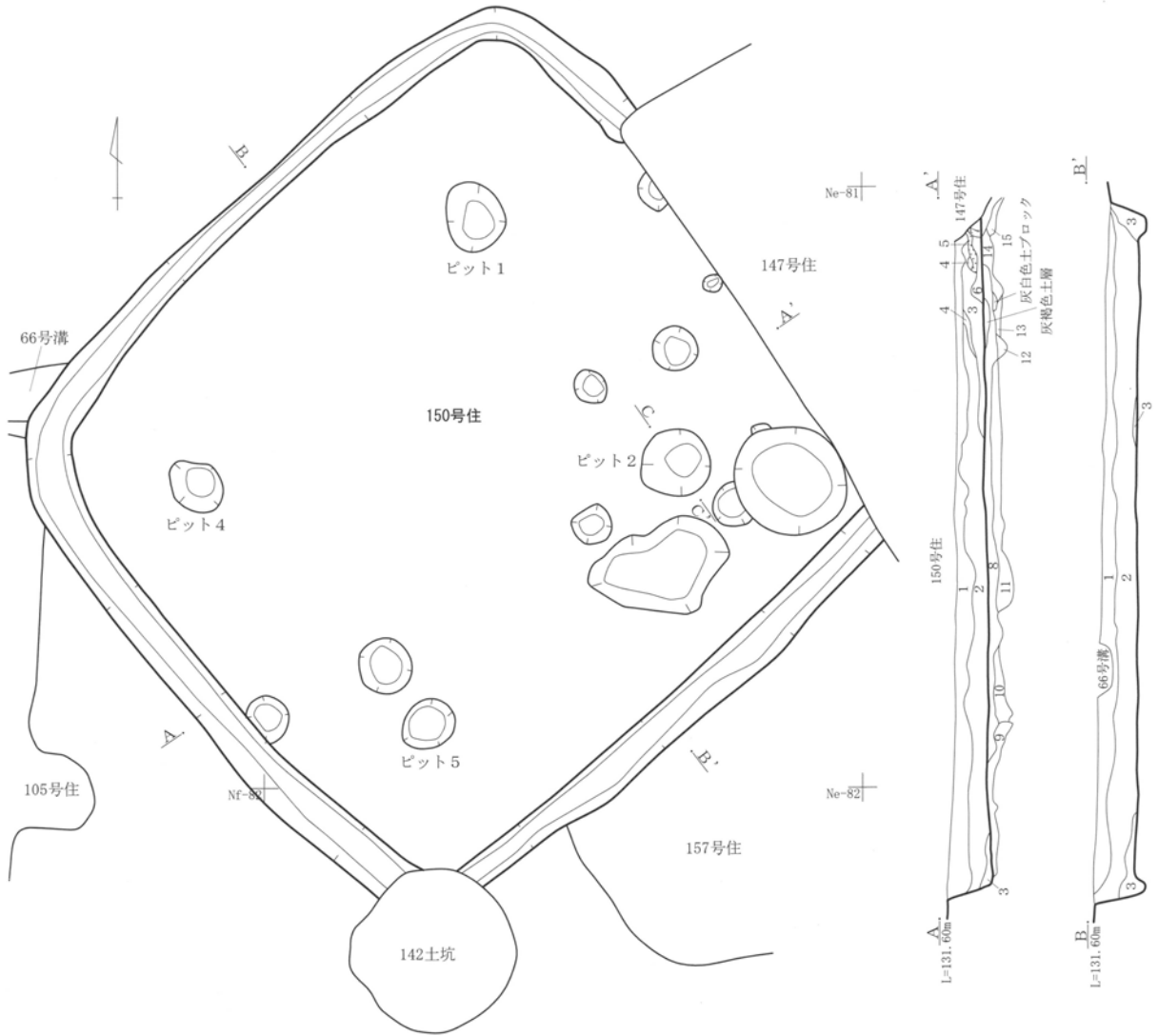
150号住居跡 (①第342図②第355・356図、P.L.331・362)

位置 Ne・Nf-80～82グリッドにかけて検出。

形状 長辺約6.0m、短辺約5.8mの正方形を呈する。147号住に東コーナー部を壊される。

方位 N-48°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築さ



- 150号住居跡 A-A' B-B'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
 - 2 黒褐色土層 軟らかい。焼土、炭化物を多量に、灰白色土ブロックを少量含む。
 - 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。炭化物、焼土を多量に含む。
 - 4 炭化物層
 - 5 灰層
 - 6 赤褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土を多量に、灰を含む。
 - 7 灰色土層 カマド構築材。
 - 8 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 9 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 10 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
 - 11 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 12 灰褐色土層 やや硬く締まる。焼土、灰を含む。
 - 13 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。
 - 14 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
 - 15 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。

- ピット2 C-C'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土を多量に含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土を含む。

第342図 150号住居跡

151号住居跡 (①第343図②第357図、P.L.332・363)

位置 Ms-82、Mt-81・82グリッドにかけて検出。
 形状 長辺約4.3m、短辺約4.0mの方形を呈する。
 方位 N-73°-E。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築さ

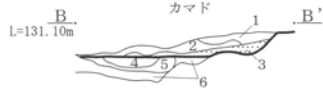
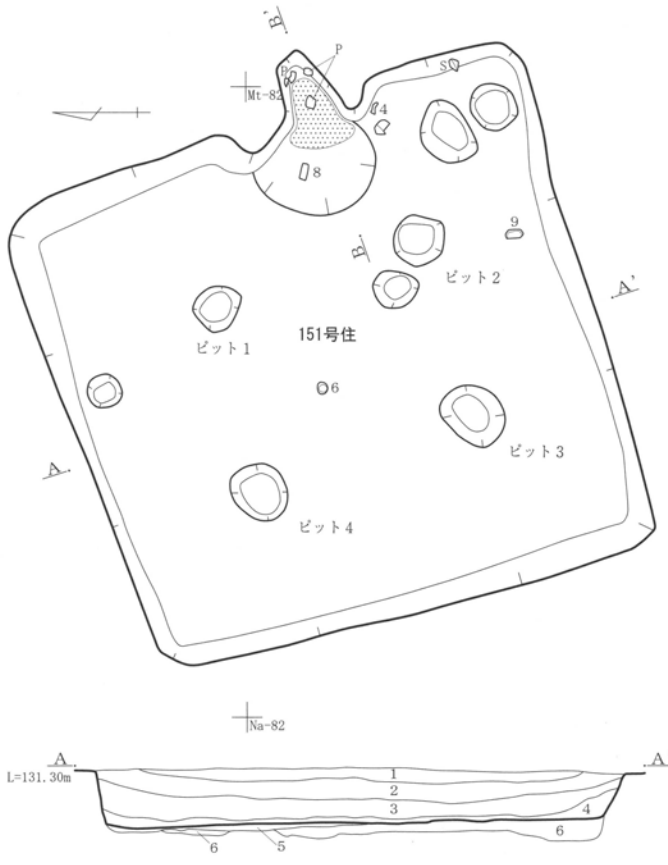
れ、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約36~42cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は14.8m²。

周溝 検出できなかった。

(1) 竪穴住居跡



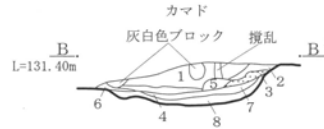
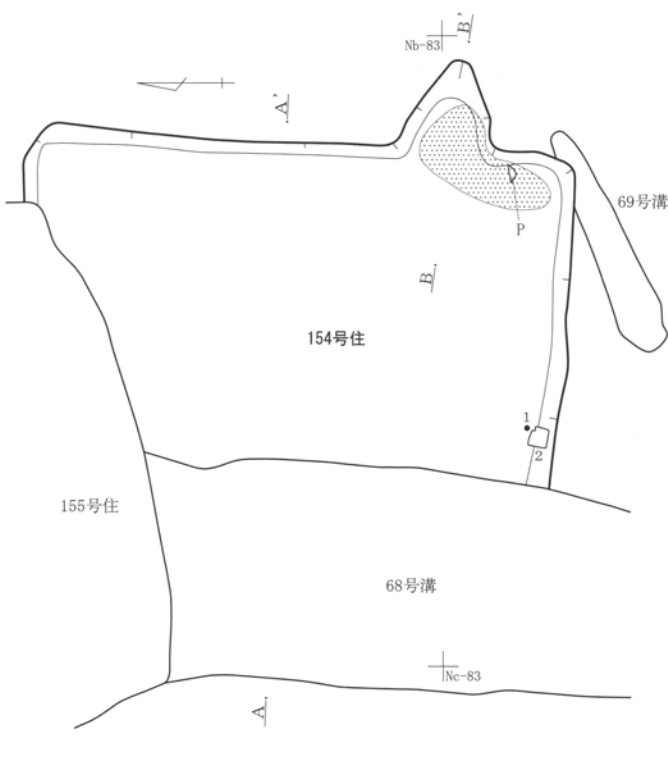
カマド B-B'

- 1 褐灰色土層 軟らかくてボソボソしている。炭化物、灰が混じる。
- 2 黄褐色土層 カマド構築材の混土。
- 3 灰層
- 4 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土、焼土粒子、灰を含む。
- 5 褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を多量に含む。
- 6 灰褐色粘質土層 灰白色土ブロックを含む。

151号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を少量含む。
- 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて締まり、粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 5 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 6 灰褐色粘質土層 灰白色土ブロックを多量に含む。

第343図 151号住居跡



カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 焼土層 灰を含む。
- 3 灰層
- 4 灰褐色土層 やや硬くて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 5 灰白色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土を中心に焼土を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかく締まる。粘性あり。
- 7 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰を多量に、焼土を含む。
- 8 暗褐色土層 軟らかく締まり、粘性非常にあり。炭化物粒子、焼土粒子を含む。

154号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 硬く締まり粘性非常にあり。

第344図 154号住居跡

第7章 V区 検出の遺構

竈 東壁のやや南寄りを掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は30cm、奥行きまでの長さは78cmである。

柱 穴 8基のピットを検出した。うち4基が主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 ピット1の深さは11cm、2は9cm、3は35cm、4は22cmである。

遺 物 竈周辺から土師器の坏、住居中央から須恵器の埴が出土した。覆土からは土師器の坏4点と土師器の甕が出土している。

時 期 7世紀前半。

154号住居跡 (①第344図②第358図、P.L.333・363)

位 置 Nb-82・83グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約4.4m、短辺(検出範囲)約2.6mの長方形を呈するものと思われる。住居北西部を155号住居により壊され、西部を68号溝に壊されていたため、その全形は不明である。

方 位 N-95°-E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は現状9.3m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は58cm、奥行きまでの長さは96cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 南壁付近より土師器の坏が出土した。

時 期 9世紀。

備 考 155号住、68号溝によって壊されてる。

155号住居跡 (①第345図②第359図、P.L.334・363)

位 置 Nb・Nc-81・82グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約4.3m、短辺は東壁で約3.6m、西壁で約3.2mの方形を呈する。

方 位 N-65°-E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は、12.7m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は66cm、奥行きまでの長さは156cmである。

柱 穴 ピット3基を検出した。柱穴になるかどうかは不明である。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 竈周辺から土師器の甕が出土した。覆土からは土師器の坏と須恵器の埴が出土している。

時 期 10世紀。

備 考 68号溝に壊されている。

157号住居跡 (①第346図、P.L.335)

位 置 Nd・Ne-81・82グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約5.1m、短辺(検出範囲)約3.1mの隅丸方形を呈すると思われる。住居北部を147号住居と150号住居により壊されていたため全容は不明である。

方 位 不明。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約14cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は現状で、10.9m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 検出できなかった。

時 期 不明(150号住居より古い)。

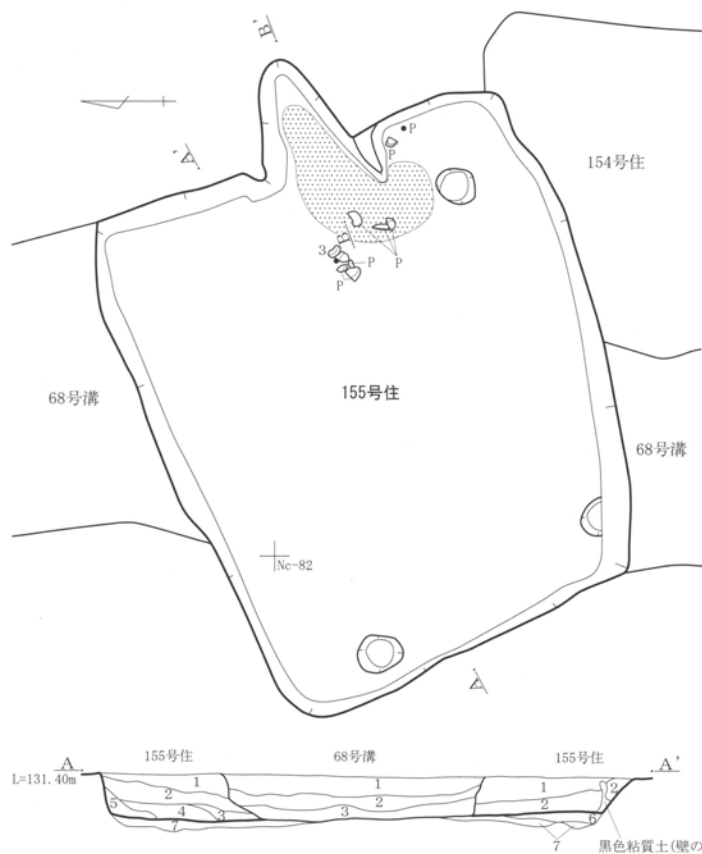
備 考 147号住と150号住によって壊されている。

158号住居跡 (①第347図②第360図、P.L.335・364)

位 置 Nd・Ne-83・84グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約3.5m、短辺約3.2mの方形を呈する。

(1) 竪穴住居跡



カマド B-B'

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 1 暗褐色土層 | やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを少量含む。 |
| 2 灰白色土層 | やや硬く締まる。灰白色土主体の層。 |
| 3 灰白色土層 | やや硬く締まり粘性あり。焼土ブロックを少量含む。 |
| 4 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。 |
| 5 焼土層 | 灰白色土を含む。 |
| 6 暗褐色土層 | やや硬く締まる。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。 |
| 7 灰層 | 焼土を含む。 |
| 8 焼土層 | |
| 9 灰褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。 |

155号住居跡 A-A'

- | | |
|---------|--|
| 1 暗褐色土層 | やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。 |
| 2 暗褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。 |
| 3 暗褐色土層 | 軟らかい。黄褐色土粒子を少量含む。 |
| 4 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。 |
| 5 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。 |
| 6 暗褐色土層 | やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。 |
| 7 灰白色土層 | やや硬く締まり粘性あり。 |

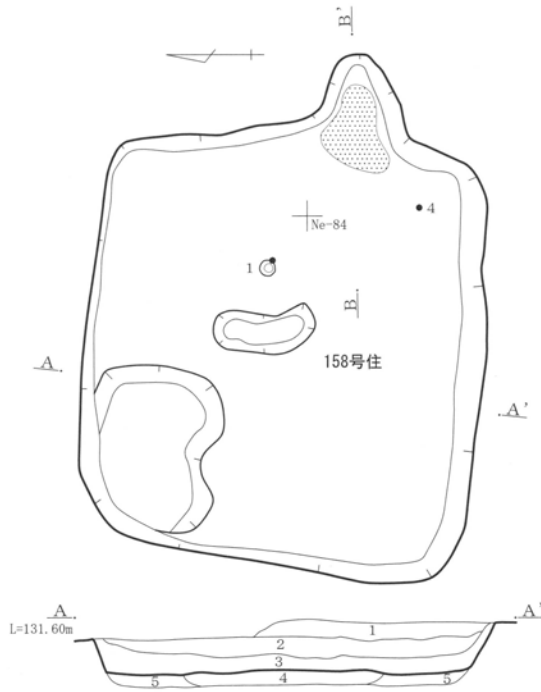
第345図 155号住居跡



157号住居跡 A-A'

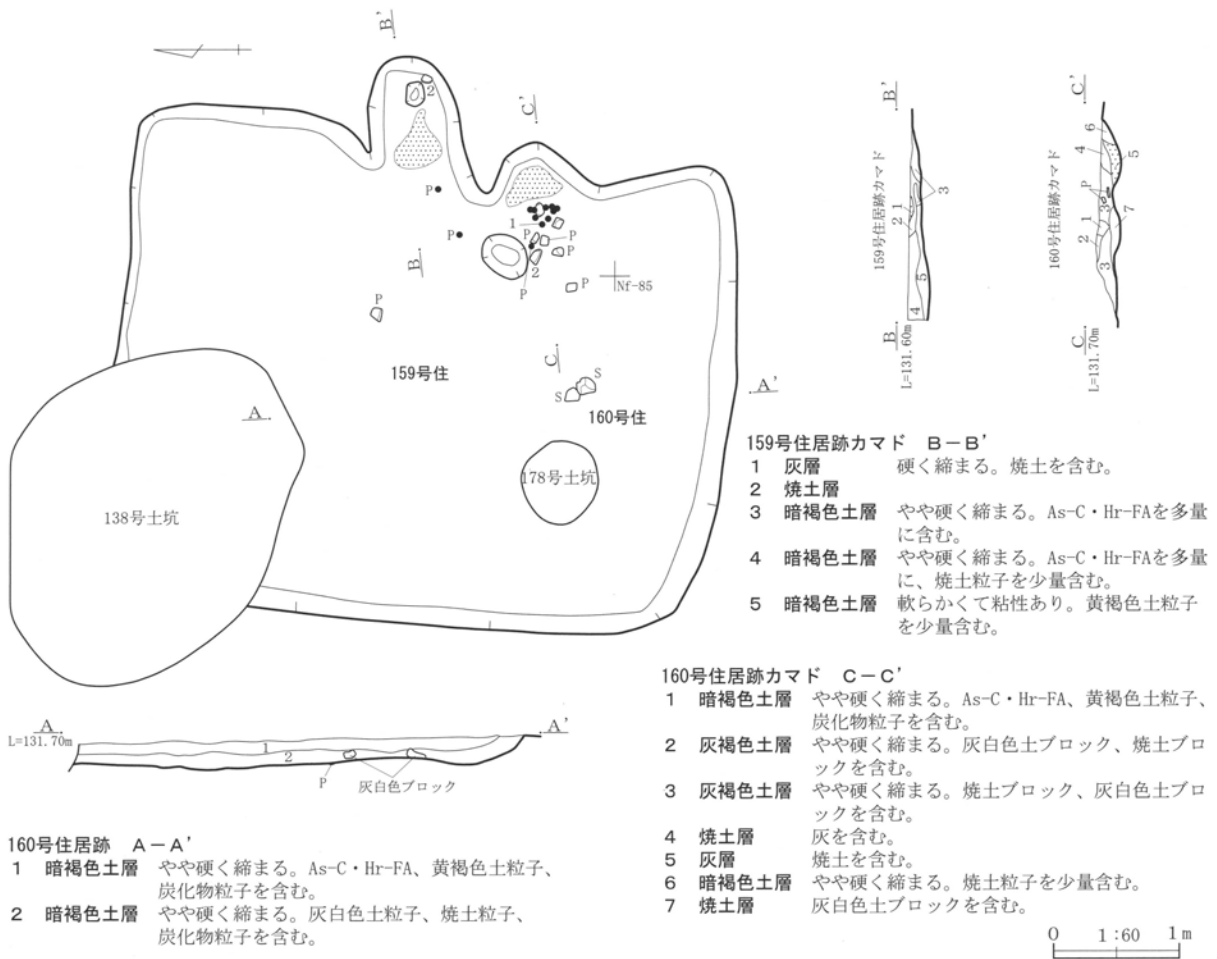
- | | |
|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色土層 | やや硬く締まる。灰白色土粒子を多量に含む。 |
| 2 暗褐色土層 | やや硬く締まる。As-Cを多量に含む。 |

第346図 157号住居跡



- カマド B-B'**
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 3 灰褐色土層 灰白色土を多量に含み、焼土粒子を含む。
 - 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
 - 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。白色粒子、焼土粒子を含む。
 - 6 焼土層
 - 7 灰層
 - 8 暗褐色土層 軟らかい。灰と焼土を含む。
 - 9 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロックを少量含む。
- 158号住居跡 A-A'**
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物を含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。
 - 4 灰褐色粘質土層 灰白色土ブロックを含む。
 - 5 灰白色土層

第347図 158号住居跡



- 159号住居跡カマド B-B'**
- 1 灰層 硬く締まる。焼土を含む。
 - 2 焼土層
 - 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に含む。
 - 4 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、焼土粒子を少量含む。
 - 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。
- 160号住居跡カマド C-C'**
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 灰褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土ブロックを含む。
 - 3 灰褐色土層 やや硬く締まる。焼土ブロック、灰白色土ブロックを含む。
 - 4 焼土層 灰を含む。
 - 5 灰層 焼土を含む。
 - 6 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子を少量含む。
 - 7 焼土層 灰白色土ブロックを含む。

- 160号住居跡 A-A'**
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。

第348図 159号住居跡・160号住居跡

(1) 竪穴住居跡

方位 N-97° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は9.3m²。床下土坑2基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は50cm、奥行きまでの長さは90cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 住居中央部から土師器の坏が出土した。覆土からは土師器の甕・台付甕が出土している。

時期 7世紀後半。

159号住居跡 (①第348図②第361図、P.L.336・364)

位置 Ne・Nf-84・85グリッドにかけて検出。

形状 160号住居と重複しており、全容は不明である。

方位 N-96° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、160号住居の覆土とは、明瞭に分層できなかった。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は50cm、奥行きまでの長さは90cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から土師器の坏が出土した。

時期 9世紀。

備考 160号住より古い。

160号住居跡 (①第348図②第362図、P.L.336・364)

位置 Ne・Nf-84・85グリッドにかけて検出。

形状 159号住居と重複しており、全容は不明である。

方位 N-96° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は50cm、奥行きまでの長さは40cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から土師器の甕が出土した。

時期 9世紀後半。

備考 159号住より新しい。

161号住居跡 (①第349図②第363図、P.L.336・364)

位置 Mt-84・85、Na-84グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.4m、短辺約3.3mのほぼ正方形を呈する。

方位 N-71° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 凹凸がある。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は62cm、奥行きまでの長さは80cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは土師器の坏、須恵器の埴・坏が出土している。

時期 7～8世紀。

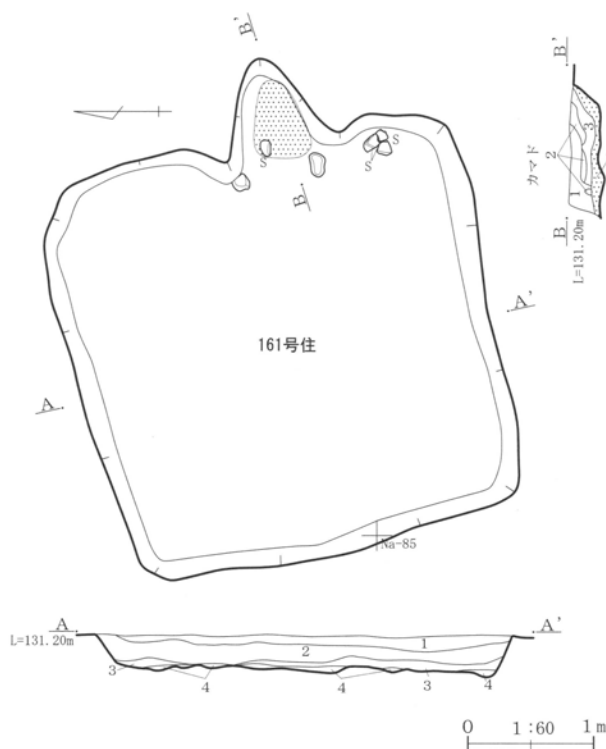
162号住居跡 (①第350図②第364図、P.L.337・364)

位置 Nf-85グリッドにおいて検出。

形状 不明。

方位 不明。

覆土 焼土粒子、炭化物を含む暗褐色土で埋まる。



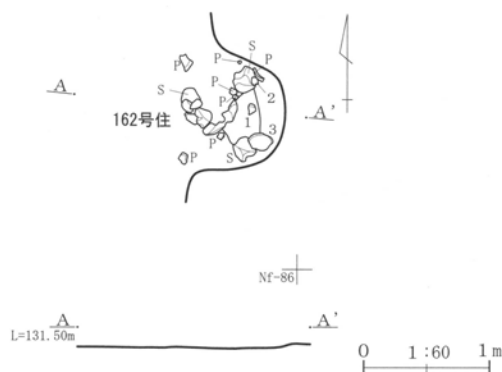
161号住居跡 A-A'

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | やや硬く締まる。灰白色土粒子、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。 |
| 2 暗褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。 |
| 3 暗褐色土層 | やや硬く締まる。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。 |
| 4 暗褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子を含む。 |

カマド B-B'

- | | |
|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色土層 | やや硬く締まる。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。 |
| 2 灰白色土層 | 軟らかくて粘性あり。焼土、炭化物を少量含む。 |
| 3 褐色土層 | やや硬い。焼土、灰白色土を多量に含む。 |
| 4 灰層 | 焼土を含む。 |

第349図 161号住居跡



第350図 162号住居跡

壁 高 不明

床 面 不明。

周 溝 不明。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は100cm、奥行きまでの長さは90cmである。

柱 穴 不明。

貯蔵穴 不明。

遺 物 土師器の甕、須恵器の壺が出土した。

時 期 8世紀。

163号住居跡 (①第351図②第365図、P.L.337・364)

位 置 Na・Nb-84・85グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約5.2m、短辺は北壁で約3.1m、南壁で約3.3mの長方形を呈する。

方 位 N-92°-E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は8層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。

床 面 やや堅く締まり、焼土や灰が分布する。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は78cm、奥行きまでの長さは82cmである。左右の袖部分に袖構築材を検出した。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 竈から土師器の坏2点、南東コーナーから土師器の坏、須恵器の坏、中央部から土師器の甕、須恵器の坏が出土した。

時 期 9世紀後半。

164号住居跡 (①第352図②第366図、P.L.337・365)

位 置 Mr・Ms-82・83グリッドにかけて検出。

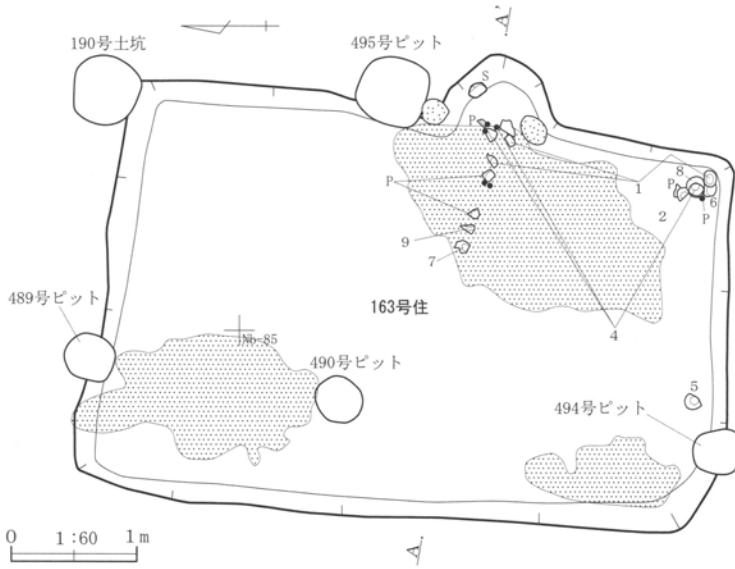
形 状 長辺約3.7m、短辺約3.5mの長方形を呈する。

方 位 N-85°-E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約26cmで床面に達する。

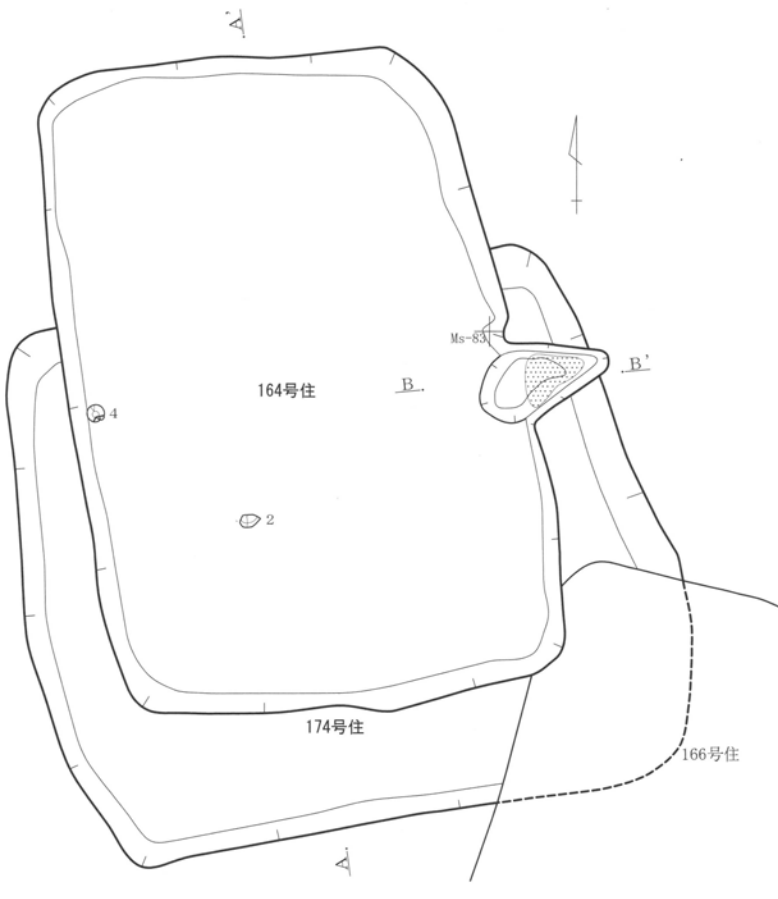
(1) 竪穴住居跡



第351図 163号住居跡



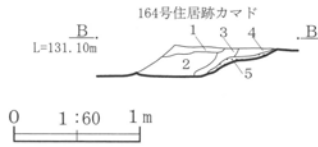
- 163号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 - 2 炭化物層 軟らかい。焼土を含む。
 - 3 灰層 軟らかい。炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
 - 4 炭化物層 軟らかい。
 - 5 灰褐色土層 軟らかい。焼土、炭化物を含む。
 - 6 焼土層 軟らかい。
 - 7 炭化物層 やや硬く締まる。焼土粒子を含む。
 - 8 暗褐色土層 焼土粒子を含む。



第352図 164号住居跡・174号住居跡



- 164号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
 - 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。炭化物粒子、焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
 - 5 灰褐色粘質土層
- 174号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
 - 2 黒褐色土層 軟らかい。壁の崩れ。
 - 3 黒褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。



- 164号住居跡カマド B-B'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
 - 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に、焼土、炭化物粒子を含む。
 - 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、炭化物粒子を含む。
 - 5 灰層 焼土を含む。

第7章 V区 検出の遺構

床 面 ほぼ平坦である。面積は16.0㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は54cm、奥行きまでの長さは110cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 住居中央から土師器の坏、西壁付近から須恵器の蓋が出土した。

時 期 8世紀後半。

備 考 174号住を壊している。

174号住居跡 (①第352図、P.L.339)

位 置 Mr・Ms-82・83グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約5.0m、短辺約4.4mの方形を呈する。住居のほとんどを164号住居によって壊されている。

方 位 不明。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約22~28cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は現状6.0㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 出土していない。

時 期 不明(164号住居より古い)

165号住居跡 (①第353図②第367図、P.L.338・365)

位 置 Nc・Nd-83・84グリッドにかけて検出。

形 状 不明。

方 位 不明。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。

周 溝 検出できなかった。

炉 床面に焼土の堆積が認められた。炉に該当するか。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 中央部から須恵器の坏が出土した。

時 期 不明。

166号住居跡 (①第354図②第368・369図、P.L.338・365)

位 置 Mr・Ms-83・84グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約4.6m、短辺約3.3mの長方形を呈すると思われる。住居南西部分1/4を172号住によって壊されている。

方 位 N-111° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦であるが、北がやや高くなっている。面積は0.67㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は50cm、奥行きまでの長さは50cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 竈から須恵器の坏2点、手捏ね土器1点、北東コーナーと北壁から須恵器の坏それぞれ1点が出土した。

時 期 9世紀末から10世紀初頭。

備 考 172号住に壊される。174号住を壊している。

167号住居跡 (①第355図②第370図、P.L.339・365・366)

位 置 Mt・Na-82・83グリッドにかけて検出。

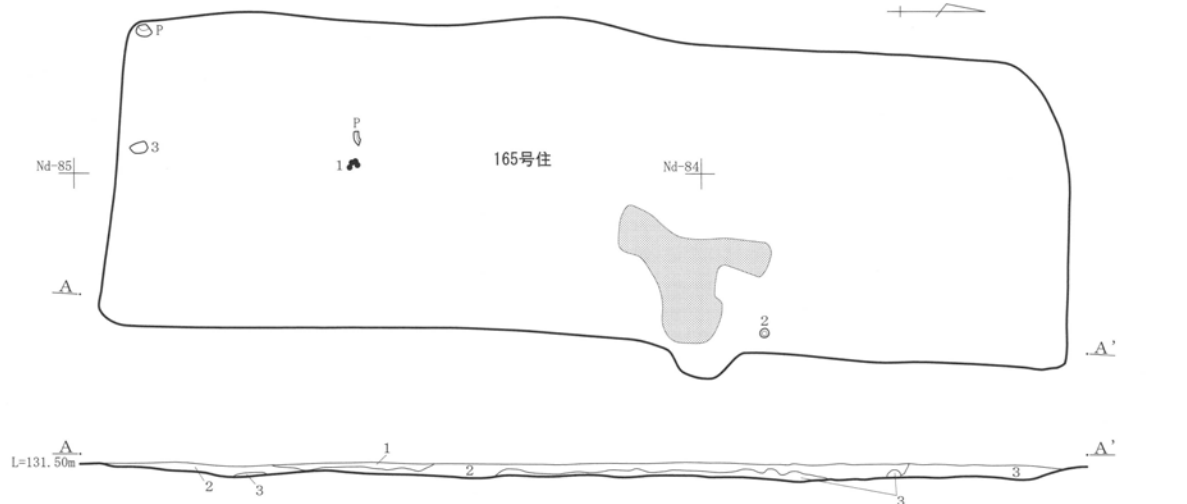
形 状 長辺約3.9m、短辺(検出範囲)約2.8mの隅丸方形を呈すると思われる。西側を170、171号住居によって壊されているため、全容は不明である。

方 位 N-95° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

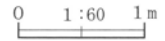
壁 高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

(1) 竪穴住居跡

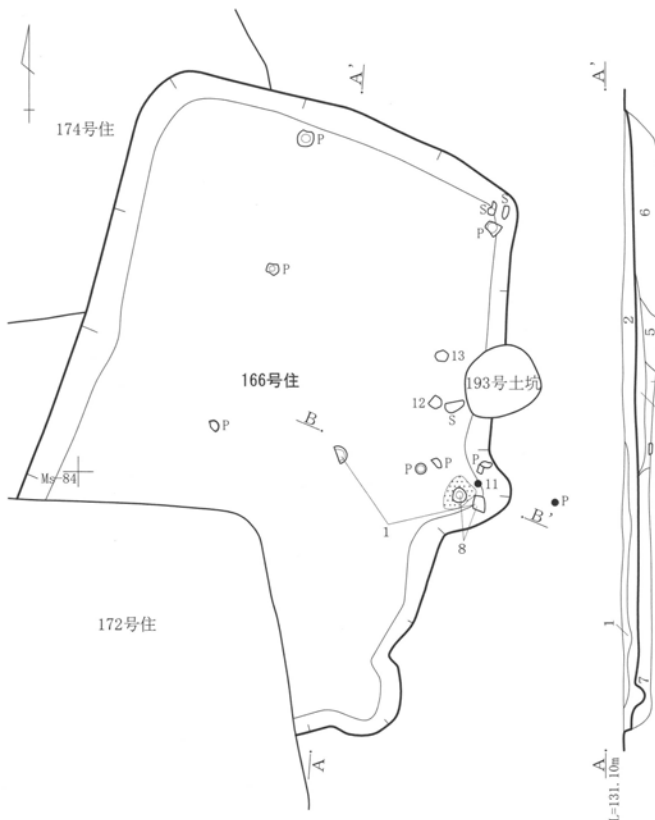


165号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土ブロック、炭化物、As-C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
- 3 黒色土層 軟らかい。As-Cを含む。



第353図 165号住居跡

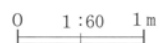


カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物、黄褐色土粒子を含む。
- 2 灰層 焼土を含む。
- 3 灰層
- 4 焼土層
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子を少量含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。

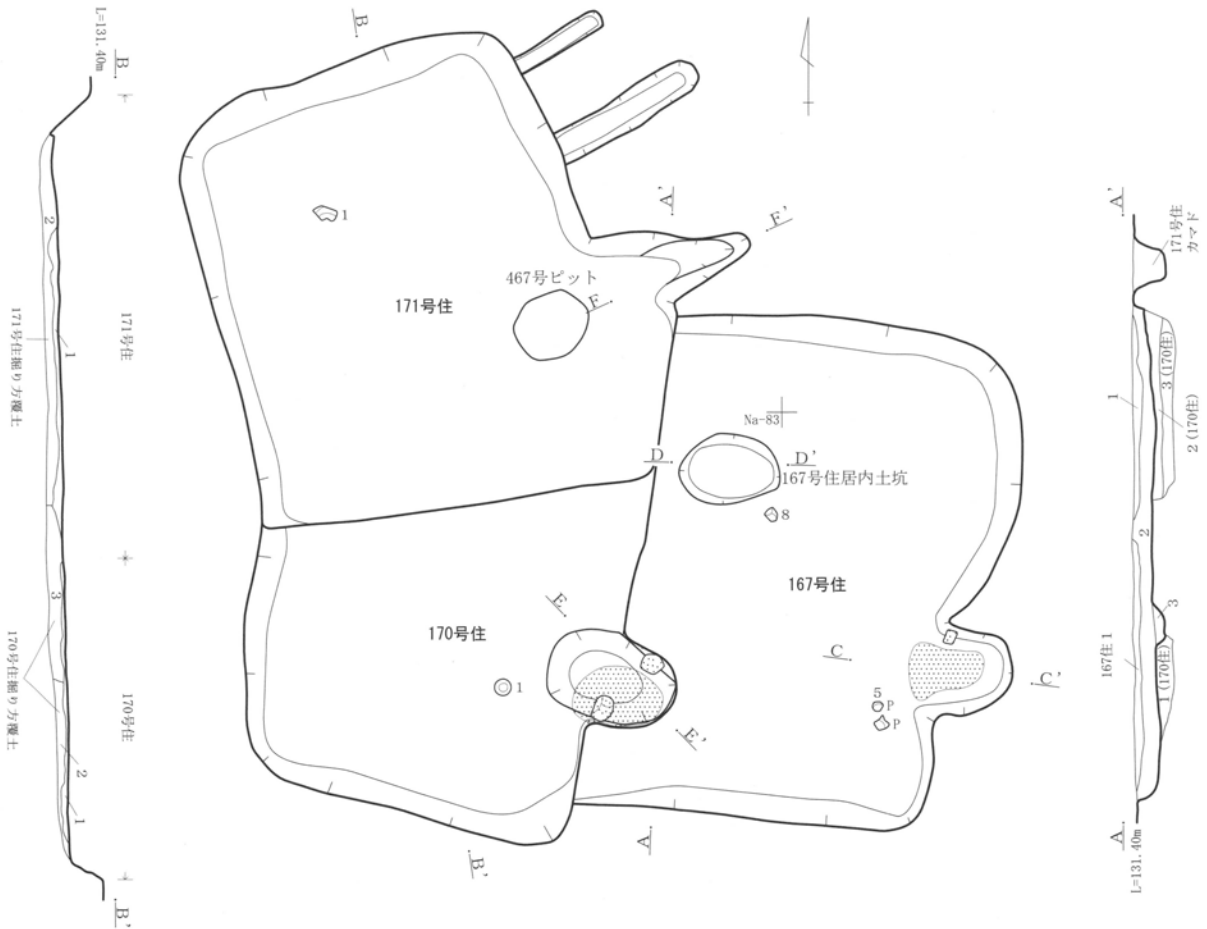
166号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色粘質土層
- 7 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロックを少量含む。



第354図 166号住居跡

第7章 V区 検出の遺構



170・171号住居跡 B-B'

170号住居跡

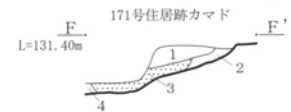
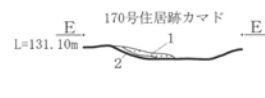
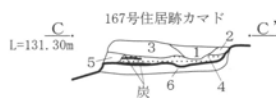
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 灰白色粘質土層 黒色土、灰白色土の混土。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土を多量に含む。

171号住居跡

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。炭化物粒子、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色粘質土層 灰白色土ブロックを多量に含む。

167号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。



167号住居跡カマド C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-AF、炭化物、焼土を含む。
- 2 焼土層 灰を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
- 4 灰層
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土、灰を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。

170号住居跡カマド E-E'

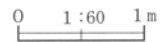
- 1 灰層
- 2 暗褐色土層 茶褐色土粒子、灰を含む。

171号住居跡カマド F-F'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかい。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 3 灰層 焼土を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子と黄褐色土粒子を含む。

167号住居内土坑 D-D'

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 2 黒褐色粘質土層 灰白色土ブロックを含む。
- 3 灰白色粘質土層



第355図 167号住居跡・170号住居跡・171号住居跡

(1) 竪穴住居跡

床 面 ほぼ平坦である。面積は現状で9.4m²。床下土坑1基を検出した。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは82cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 竈周辺から須恵器の壺、中央部から須恵器の壺が出土。覆土からは土師器の坏、須恵器の坏、土師器の甕が出土した。

時 期 8世紀後半。

備 考 170、171号住に壊されている。

170号住居跡 (①第355図②第371図、P L.339・366)

位 置 Na-83グリッドにおいて検出。

形 状 長辺約3.0m、短辺(検出範囲)約2.9mの隅丸方形を呈すると思われる。北側を171号住に壊されているため全容は不明である。

方 位 N-115° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は現状で6.5m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は70cm、奥行きまでの長さは104cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 竈周辺から土師器の坏が出土した。

時 期 7世紀後半。

備 考 171号住に壊され、167号住を壊している

171号住居跡 (①第355図②第371図、P L.339・366)

位 置 Na-82・83グリッドにかけて検出。

形 状 長辺(検出範囲)約3.7m、短辺約3.0mの隅丸長方形を呈する。

方 位 N-70° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約12~14cm

で床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は、10.0m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は30cm、奥行きまでの長さは98cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 中央部から土師器の甕が出土した。

時 期 7世紀後半。

備 考 167号住と170号住を壊している。

172号住居跡 (①第356図②第372図、P L.339・366)

位 置 Mr・Ms-84・85グリッドにかけて検出。

形 状 住居の大半が173号住居と重複するため、その全容は不明である。

方 位 不明。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約28cmで床面に達する。

床 面 平坦であるが、踏み締まりが弱い。

周 溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 出土遺物はほとんどない。

時 期 不明。

備 考 173号住に壊されている。

173号住居跡 (①第356図②第372図、P L.339・366)

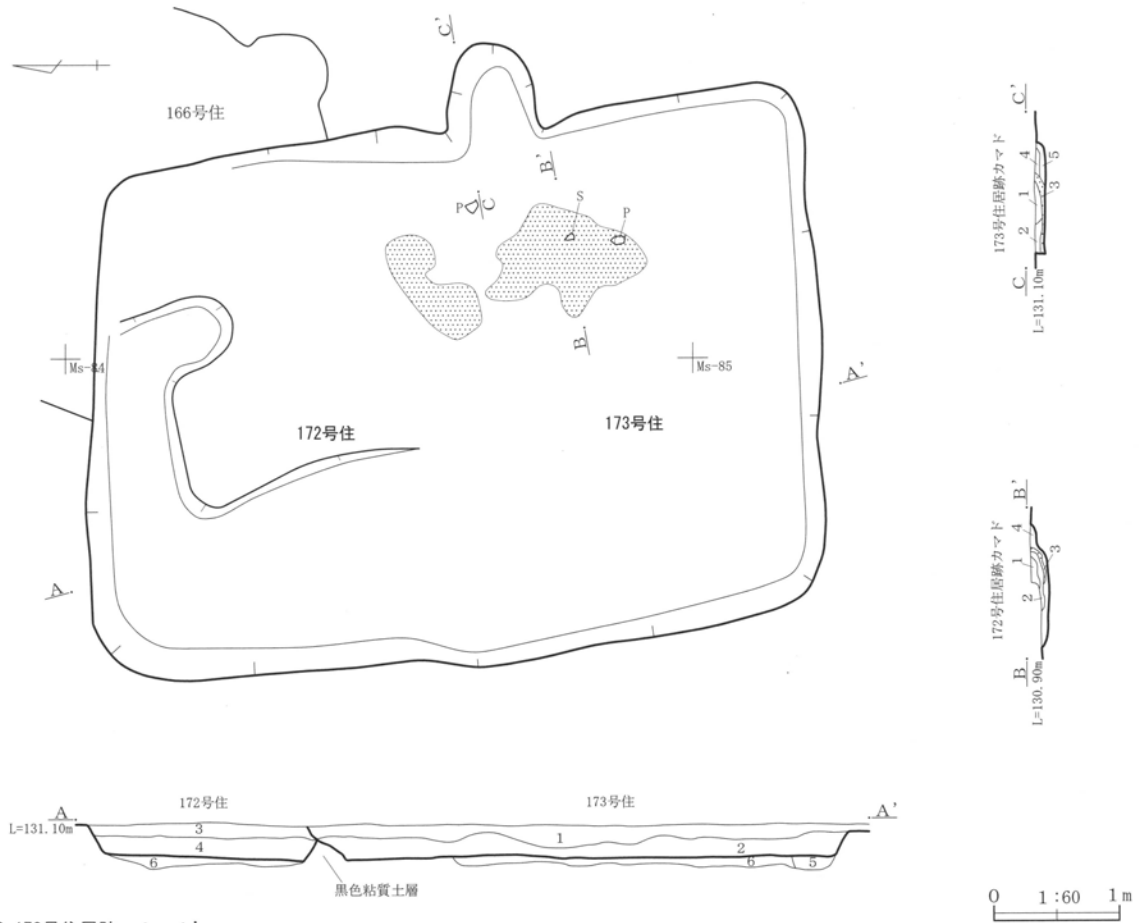
位 置 Mr・Ms-84・85グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約4.4m、短辺(検出範囲)約4.3mの方形を呈する。

方 位 N-97° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築さ

第7章 V区 検出の遺構



172・173号住居跡 A-A'

- | | |
|---------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | やや硬く締まる。炭化物、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。 |
| 2 暗褐色土層 | 上層より暗い色調。やや硬く締まる。炭化物、焼土粒子、灰白色土粒を含む。 |
| 3 暗褐色土層 | やや硬く締まる。炭化物、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。 |
| 4 暗褐色土層 | やや硬く粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を含む。 |
| 5 灰褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。砂状土を含む。 |
| 6 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。 |

172号住居跡カマド B-B'

- | | |
|---------|---------------------------|
| 1 暗褐色土層 | やや硬く締まる。焼土粒子、黄褐色土粒子を少量含む。 |
| 2 焼土層 | |
| 3 灰層 | |
| 4 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を含む。 |

173号住居跡カマド C-C'

- | | |
|---------|--------------------|
| 1 暗褐色土層 | やや硬く締まる。焼土、灰を少量含む。 |
| 2 焼土層 | 灰を含む。 |
| 3 灰層 | 焼土を少量含む。 |
| 4 暗褐色土層 | 灰、焼土を含む。 |
| 5 暗褐色土層 | 軟らかい。焼土粒子、灰を少量含む。 |

第356図 172号住居跡・173号住居跡

れ、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約24~28cmで床面に達する。

床 面 平坦であるが踏み締まりが弱い。竈の周辺に焼土が分布している。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁のやや南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は52cm、奥行きまでの長さは96cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土から土師器の坏・甕、須恵器の坏・高坏、灰釉陶器の壺が出土している。

時 期 9世紀。

備 考 172号住を壊している。

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット

掘立柱建物跡

2号・3号掘立柱建物跡は、当初個別の土坑として調査をした。しかし調査の進展にともない、これらの土坑は掘立柱建物跡を構成することが判明した。

土坑-覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|----------|------|--------------|--------------------|------------|---------|-------|-------------|
| 137 | Nf・Ng-84 | 楕円形 | 75×68×16 | | 377号ピットと重複 | 第360図 | | 342 |
| 138 | Nf-84 | 楕円形 | 292×214×61 | 土師器片29・須恵器片5・陶磁器5 | | 360 | | 342 |
| 139 | 3号掘立 | 楕円形 | 115×100×30 | | | 358・359 | | 340・341 |
| 140 | 3号掘立 | 楕円形 | 110×75×30 | | | 358・359 | | 340・341 |
| 141 | 3号掘立 | 円形 | 95×110×23 | 土師器片1 | | 358・359 | 第373図 | 340・341・366 |
| 142 | 3号掘立 | 不定形 | 140×135×40 | 土師器片3 | | 358・359 | | 340・341 |
| 143 | Ni・Nj-80 | 楕円形 | 78×66×40 | 土師器片2・須恵器片1 | | 360 | | 342 |
| 144 | Nk-75 | 楕円形 | 54×37×32 | 土師器片1・須恵器片2 | 390ピットに接近 | 360 | | 342 |
| 145 | Nk-75 | 楕円形 | 85×62×11 | 土師器片2 | | 360 | | 342 |
| 146 | Nk-76 | 楕円形 | 50×45×51 | 土師器片2 | | 361 | | 342 |
| 147 | Nl-75 | 楕円形 | 52×42×26 | 土師器片4 | | 361 | | 342 |
| 148 | Nl-75 | 楕円形 | 50×46×39 | | | 361 | | 342 |
| 149 | Nj・Nk-75 | 楕円形 | 104×91×6 | | 150号土坑と重複 | 361 | | 343 |
| 150 | Nj-75 | 楕円形 | 113×59×14 | 須恵器片1・石田川片2 | 149号土坑と重複 | 361 | | 343 |
| 151 | Nl-77 | 長方形 | 96×52×14 | 土師器片5 | 391号ピットに接近 | 361 | | 343 |
| 152 | Nd-77 | 楕円形 | 68×62×17 | 土師器片1・須恵器片1 | 398号ピットに接近 | 361 | | 343 |
| 153 | Nd-77 | 円形 | 50×45×15 | 土師器片1 | | 361 | | 343 |
| 154 | Nc-77 | 円形 | 85×75×15 | 土師器片5 | | 361 | | 343 |
| 155 | Nf-78 | 円形 | 81×71×20 | | | 361 | | 343 |
| 156 | Ni-77 | 楕円形 | 111×92×12 | 土師器片9 | | 362 | | 343 |
| 157 | Ne-76 | 円形 | 104×104×43 | | | 362 | | 343 |
| 158 | Ne-76 | 楕円形 | 56×47×51 | | | 362 | | 343 |
| 159 | Ne-76 | 楕円形 | 62×54×47 | | 411号ピットに接近 | 362 | | 343 |
| 160 | Ne・Nf-78 | 楕円形 | 89×74×24 | | | 362 | | 343 |
| 161 | Nc-80 | ほぼ円形 | 60×54×27 | | 421号ピットに接近 | 362 | | 344 |
| 162 | Nc-79 | 楕円形 | 54×50×15 | | 426号ピットに接近 | 362 | | 344 |
| 163 | Ng-79 | 円形 | 52×50×30 | 須恵器片2 | | 362 | | 344 |
| 164 | Nb-80 | 楕円形 | 107×65×18 | | | 362 | 373 | 344・366 |
| 165 | 2号掘立 | 楕円形 | 104×80×72 | 須恵器片2 | | 357 | | 329 |
| 166 | 2号掘立 | 楕円形 | 106×80×72 | | | 357 | | 329 |
| 167 | 2号掘立 | 楕円形 | 123×100×80 | | | 357 | | |
| 168 | Mt-81 | 円形 | 68×61×20 | | 446号ピットに接近 | 362 | | 344 |
| 169 | 3号掘立 | 楕円形 | 115×87×70 | | | 358・359 | | 340・344 |
| 170 | 3号掘立 | 楕円形 | 95×80×40 | 土師器片1・須恵器片1・縄文土器片1 | | 358・359 | | 340・344 |
| 171 | 3号掘立 | 楕円形 | 110×110×62 | | | 358・359 | | 340・344 |
| 172 | 3号掘立 | ほぼ円形 | 100×95×60 | | | 358・359 | | 340・345 |
| 173 | 3号掘立 | ほぼ円形 | 95×95×80 | 土師器片4 | | 358・359 | | 340・345 |
| 174 | Nc-80・81 | 楕円形 | 58×57×64 | 土師器片1 | | 362 | | 345 |
| 175 | 2号掘立 | | 91×90×90 | 土師器片1 | | 357 | | 341 |
| 176 | Nb-83 | 楕円形 | 110×99×19 | 須恵器片4 | 69号溝に接近 | 363 | | |
| 177 | Ne-83 | 楕円形 | 61×55×9 | | | 363 | | |
| 178 | Nf-84 | 楕円形 | 71×61×27 | 土師器片2 | | 363 | | 336 |
| 179 | Nb-83 | 楕円形 | 124×105×25 | 土師器片21・須恵器片1・石田川片1 | 68号溝と重複 | 363 | | |
| 180 | Nb-80 | 円形 | 56×55×56 | | | 363 | | |
| 181 | Ng-85 | 円形 | 64×62×15 | | | 363 | | 345 |
| 182 | Na-83 | 楕円形 | 108×101×31 | | | 363 | | 345 |
| 183 | Na-85 | 円形 | 57×55×10 | | | 363 | | 345 |
| 184 | Na-85 | 円形 | 62×60×22 | | | 363 | | 345 |
| 185 | Nb-83 | 円形 | 99×96×10 | | | 363 | | 345 |
| 186 | Nb-83 | 長方形 | 173×97×9 | 土師器片8 | | 363 | | 345 |
| 187 | Nc-84 | 楕円形 | 65×65×16 | 石田川片1 | | 363 | | 346 |
| 188 | Mt-83・84 | 楕円形 | 65×35×15 | | 189号土坑に接近 | 364 | | |
| 189 | Mt-83・84 | 楕円形 | 55×51×11 | | 188号土坑に接近 | 364 | | |
| 190 | Na-84 | 円形 | 55×52×44 | 須恵器片1 | | 364 | | 337 |
| 191 | Mq-84 | 方形 | 105×98×15 | | | 364 | | 346 |
| 192 | Mq-85 | 楕円形 | 99×60×4 | 土師器片1 | | 364 | | |
| 193 | Mr-83 | 楕円形 | 60×52×15 | | | 364 | | |
| 194 | Mq・Mr-85 | 楕円形 | 114×78×14 | 土師器片10・須恵器片3 | 195号土坑と重複 | 364 | | 346 |
| 195 | Mq・Mr-85 | 楕円形 | 75×72×30 | | 194号土坑と重複 | 364 | | 346 |

第7章 V区 検出の遺構

土坑一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|----------|-----|--------------|----------------|-----------|-------|------|------|
| 196 | Ms・Mt-85 | 楕円形 | 92×80×26 | | | 第364図 | | 346 |
| 197 | Ng-84 | 楕円形 | 90×63×14 | | 106号住居と重複 | 364 | | 346 |
| 198 | Mp・Mq-85 | 長方形 | 461×196×14 | | | | | |

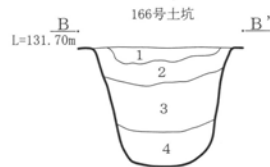
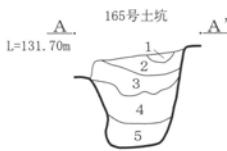
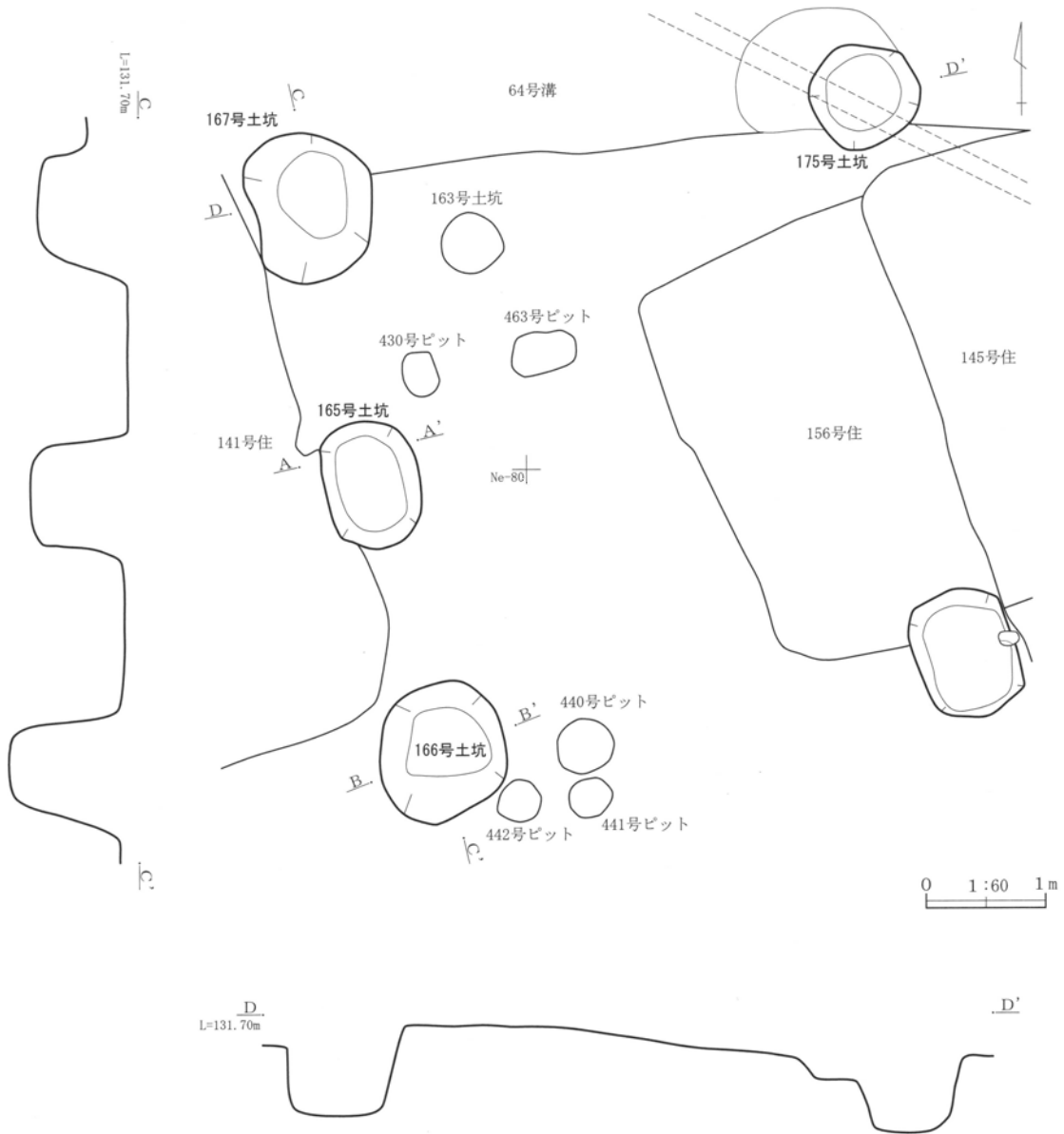
ピット一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|----------|-----|--------------|--------------------|------------|-------|------|------|
| 377 | Nf・Ng-84 | 円形 | 36×32×16 | | 137号土坑と重複 | 第360図 | | 347 |
| 378 | Nk-75 | 円形 | 38×38×26 | | | 365 | | 347 |
| 379 | Nj-75 | 円形 | 35×32×24 | | 380号ピットに接近 | 365 | | 347 |
| 380 | Nj-75 | 円形 | 32×30×33 | 土師器片2・須恵器片1・縄文土器片1 | | 365 | | 347 |
| 381 | Nj-75 | 円形 | 32×28×37 | | | 365 | | 347 |
| 382 | Nj-75 | 楕円形 | 26×20×20 | | | 365 | | 347 |
| 383 | Nl-75 | 円形 | 24×24×17 | 土師器片2 | | 365 | | 347 |
| 384 | Nl-75 | 楕円形 | 42×30×8 | 土師器片1・石田川片2 | 385号ピットに接近 | 365 | | 347 |
| 385 | Nl-75 | 楕円形 | 57×32×17 | | 383号ピットに接近 | 365 | | 347 |
| 386 | Nl-75 | 円形 | 31×29×15 | | 147号土坑に接近 | 361 | | 347 |
| 387 | Nl-75 | 円形 | 37×37×36 | | | 365 | | 347 |
| 388 | Nk-75 | 楕円形 | 28×27×12 | | | | | 347 |
| 389 | Nk-76 | 楕円形 | 37×35×33 | | | 365 | | 347 |
| 390 | Nk-75 | 楕円形 | 34×27×29 | | 144号土坑に接近 | 360 | | 347 |
| 391 | Nl-77 | 円形 | 30×27×17 | | 151号土坑に接近 | 361 | | 347 |
| 392 | Nd-77 | 円形 | 25×24×20 | | | 366 | | 347 |
| 393 | Nd-77 | 円形 | 40×39×20 | | | 366 | | 347 |
| 396 | Nc-77 | 楕円形 | 26×22×25 | | | | | 347 |
| 397 | Nc・Nd-77 | 楕円形 | 40×35×15 | 土師器片2 | 152号土坑に接近 | 361 | | 347 |
| 398 | Nd-77 | 楕円形 | 44×36×16 | | 152号土坑に接近 | 361 | | 347 |
| 399 | Nc-77 | 円形 | 35×35×34 | 土師器片3 | | 365 | | 347 |
| 400 | Nc-77 | 円形 | 40×37×20 | 土師器片1・須恵器片3 | | 365 | | 347 |
| 401 | Nc・Nd-77 | 円形 | 39×32×11 | | | 365 | | 347 |
| 403 | Nc-76 | 円形 | 44×39×14 | | 137号住居内 | 332 | | 347 |
| 404 | Nd-77 | 円形 | 35×35×18 | | | 366 | | 347 |
| 405 | Nd-77 | 円形 | 40×40×40 | | | 366 | | 347 |
| 406 | Nd-76・77 | 楕円形 | 31×25×15 | | | 366 | | 347 |
| 407 | Nd-76 | 円形 | 38×37×15 | | | 366 | | 347 |
| 408 | Nd-76 | 円形 | 38×35×25 | | | 366 | | 347 |
| 409 | Nc・Nd-76 | 円形 | 35×34×26 | | | 366 | | 324 |
| 410 | Nd-76 | 楕円形 | 50×43×16 | | | 366 | | 347 |
| 411 | Ne-76 | 円形 | 39×34×29 | | 159号土坑に接近 | 362 | | 347 |
| 412 | Nf・Ng-77 | 円形 | 43×43×23 | 須恵器片1 | | 366 | | 347 |
| 413 | Nd-76 | 楕円形 | 49×47×54 | | | 366 | | 347 |
| 414 | Nh-78 | 円形 | 47×46×51 | | | 366 | | 325 |
| 415 | Ne-77 | 円形 | 45×43×45 | | | 367 | | 348 |
| 416 | Nf-78 | 楕円形 | 34×30×34 | 須恵器片1 | | 367 | | 347 |
| 417 | Ne-77 | 円形 | 50×50×35 | 土師器片4 | 141号住居に接近 | 367 | | 325 |
| 418 | Ng-79 | 円形 | 22×22×22 | 土師器片5・須恵器片1 | | 367 | | 348 |
| 419 | Ne-76 | 楕円形 | 47×40×51 | 土師器片4 | | 367 | | 348 |
| 420 | Ne-76 | 円形 | 41×41×50 | | | 367 | | 348 |
| 421 | Nc-80 | 楕円形 | 26×23×17 | | 161号土坑に接近 | 362 | | 348 |
| 422 | Nc-80 | 楕円形 | 32×27×18 | | | 367 | | 348 |
| 423 | Nc-80 | 円形 | 35×34×22 | | | 367 | | 348 |
| 424 | Nc-80 | 楕円形 | 32×30×30 | | | 367 | | 348 |
| 425 | Nc-80 | 楕円形 | 25×23×30 | | | 367 | | 348 |
| 426 | Nc-79 | 楕円形 | 42×35×32 | | 162号土坑に接近 | 362 | | 348 |
| 427 | Nb・Nc-79 | 円形 | 36×36×29 | | | 367 | | 348 |
| 428 | Nb-79 | 円形 | 30×26×24 | | | 367 | | 348 |
| 429 | Nb-79 | 円形 | 30×30×34 | | | 367 | | 348 |
| 430 | Ng-79 | 楕円形 | 37×29×25 | | | 367 | | 348 |
| 431 | Nk-77 | 円形 | 21×21×9 | | | 368 | | 348 |
| 432 | Nk-77 | 円形 | 31×29×25 | | | 368 | | 348 |
| 433 | Nk-77 | 楕円形 | 32×27×25 | | | 368 | | 348 |
| 434 | Nk・Nl-77 | 円形 | 26×23×29 | | | 368 | | 348 |
| 435 | Nk-77 | 楕円形 | 46×39×28 | 土師器片2 | | 368 | | 348 |
| 436 | Nk-77 | 円形 | 41×40×25 | | | 368 | | 348 |
| 437 | Nk-77 | 円形 | 42×41×26 | 土師器片2・石田川片4 | | 368 | | 348 |

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット

ピット一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|-----|-------------|------|--------------|----------------|------------|---------|-------|---------|
| 438 | Nl-78 | 円形 | 48×42×23 | | | 第368図 | | 348 |
| 439 | Na・Nb-80 | 楕円形 | 44×34×44 | | | 368 | | 348 |
| 440 | Nd-80 | 円形 | 47×45×47 | | | 368 | | 329 |
| 441 | Nd-80 | 円形 | 37×31×44 | | | 368 | | 329 |
| 442 | Nd・Ne-80 | 円形 | 39×35×44 | 土師器片2 | | 368 | | 329 |
| 443 | Nb-81 | 楕円形 | 43×43×30 | 土師器片3・石田川片1 | | 368 | | 348 |
| 444 | Nb-81 | 円形 | 22×22×34 | | | 368 | | 348 |
| 445 | Na-80 | 円形 | 45×42×24 | | | 368 | | 348 |
| 446 | Mt-81 | 円形 | 30×30×15 | | 168号土坑に接近 | 362 | | 348 |
| 447 | Nf-84・Ng-83 | 楕円形 | 49×38×10 | 土師器片1 | | 369 | | 349 |
| 448 | Nf-84 | 円形 | 32×32×36 | | | 369 | | 349 |
| 449 | Ne-83 | 楕円形 | 30×25×15 | 土師器片2・石田川片2 | | 358・359 | | 340 |
| 450 | Ne-83 | 楕円形 | 30×25×7 | 土師器片1 | | 358 | | |
| 451 | Ne-83 | 円形 | 30×29×12 | 土師器片2 | | 369 | | 340 |
| 452 | Ne・Nf-83 | 円形 | 29×25×13 | 土師器片2 | 170号土坑と接近 | 369 | | 344・349 |
| 453 | Nd-83 | 楕円形 | 40×32×26 | 土師器片2 | | 369 | | |
| 454 | Ne-82 | 楕円形 | 35×35×45 | 土師器片1 | | 369 | | 349 |
| 455 | Ne・Nf-82.83 | 円形 | 40×37×18 | | | 369 | | 349 |
| 456 | Ne・Nf-82 | 円形 | 37×37×38 | 土師器片5 | | 369 | | 349 |
| 457 | Nf-82 | 楕円形 | 30×24×16 | 土師器片3 | | 369 | | 349 |
| 458 | Nf-84 | 楕円形 | 26×25×15 | | | 358 | | 349 |
| 459 | Nf-82 | 楕円形 | 32×32×20 | 土師器片1・縄文土器片1 | 169号土坑に接近 | 369 | | 349 |
| 460 | Nf-82 | 楕円形 | 40×39×16 | 土師器片4 | | 369 | | 349 |
| 461 | Nf-82 | 楕円形 | 22×22×12 | | 169号土坑に接近 | 369 | | 349 |
| 462 | Nf-82 | 楕円形 | 22×20×10 | | 172号土坑と重複 | 369 | | 349 |
| 463 | Nf・Ng-79 | 楕円形 | 57×35×25 | | | 367 | | 349 |
| 464 | Na-81・82 | 楕円形 | 35×35×24 | | | 370 | | 349 |
| 465 | Na-82 | 楕円形 | 32×27×19 | | | 370 | | 349 |
| 466 | Na-81・82 | 楕円形 | 51×35×35 | 土師器片1 | | 370 | | 349 |
| 467 | Na-82 | 楕円形 | 57×55×49 | 土師器片8・須恵器片5 | | 370 | | 349 |
| 468 | Nd-85 | 楕円形 | 61×45×14 | | 469号ピットと重複 | 370 | | |
| 469 | Nd-85 | 楕円形 | 20×19×10 | | | 370 | | |
| 470 | Ne-83 | 楕円形 | 61×44×11 | 土師器片10・須恵器片5 | | 370 | | |
| 471 | Nc-83 | 楕円形 | 36×32×33 | | | 370 | | |
| 472 | Nf-85 | 方形 | 72×57×10 | | | 371 | | 349 |
| 473 | Nf・Ng-85 | 円形 | 26×26×23 | | | 371 | | 349 |
| 474 | Nf-84・85 | 円形 | 27×26×25 | | | 371 | | 349 |
| 475 | Nf-84 | 方形 | 34×34×25 | | | 371 | | 349 |
| 476 | Ng-84 | 楕円形 | 23×21×25 | | | 371 | | 349 |
| 477 | Nf・Ng-84 | 円形 | 28×28×26 | | | 371 | | 349 |
| 478 | Nf-84 | 楕円形 | 37×32×36 | | | 371 | | 349 |
| 479 | Nd-84 | 楕円形 | 34×34×8 | | | 370 | | |
| 480 | Ng-84 | 円形 | 34×32×22 | | | 364 | | 349 |
| 481 | Nd-84 | 円形 | 30×27×15 | | | 370 | | |
| 482 | Nd-85 | 楕円形 | 37×35×24 | | | 371 | | |
| 483 | Nd-85 | 隅丸方形 | 26×21×18 | | | 370 | | |
| 484 | Nd-85 | 楕円形 | 38×22×15 | | | 370 | | |
| 485 | Nd-85 | 隅丸方形 | 50×48×25 | | | 370 | | |
| 486 | Na-85 | 楕円形 | 50×45×18 | | | 371 | | 349 |
| 487 | Nd-84 | 円形 | 35×35×23 | | | 371 | | 349 |
| 488 | Nc-85 | 円形 | 41×39×12 | | | 371 | | |
| 489 | Nb-84 | 隅丸方形 | 40×35×29 | 土師器片3 | | 371 | | 337 |
| 490 | Nb-85 | 円形 | 39×37×21 | | | 371 | | 337 |
| 491 | Ms・Mt-84 | 楕円形 | 56×28×21 | | | 371 | | 349 |
| 492 | Ms-84 | 楕円形 | 45×37×10 | | | 371 | | 349 |
| 493 | Mr-84 | 楕円形 | 39×34×24 | | | 372 | | |
| 494 | Nb-85 | 隅丸方形 | 40×35×29 | 須恵器片2 | | 372 | | |
| 495 | Na-84 | 隅丸方形 | 55×55×9 | 土師器片1 | | 372 | 第373図 | 366 |
| 496 | Nr-83 | 楕円形 | 50×35×17 | 土師器片1 | | 372 | | |
| 497 | Mt-83 | 楕円形 | 32×23×25 | | | 372 | | |



165号土坑 A-A'

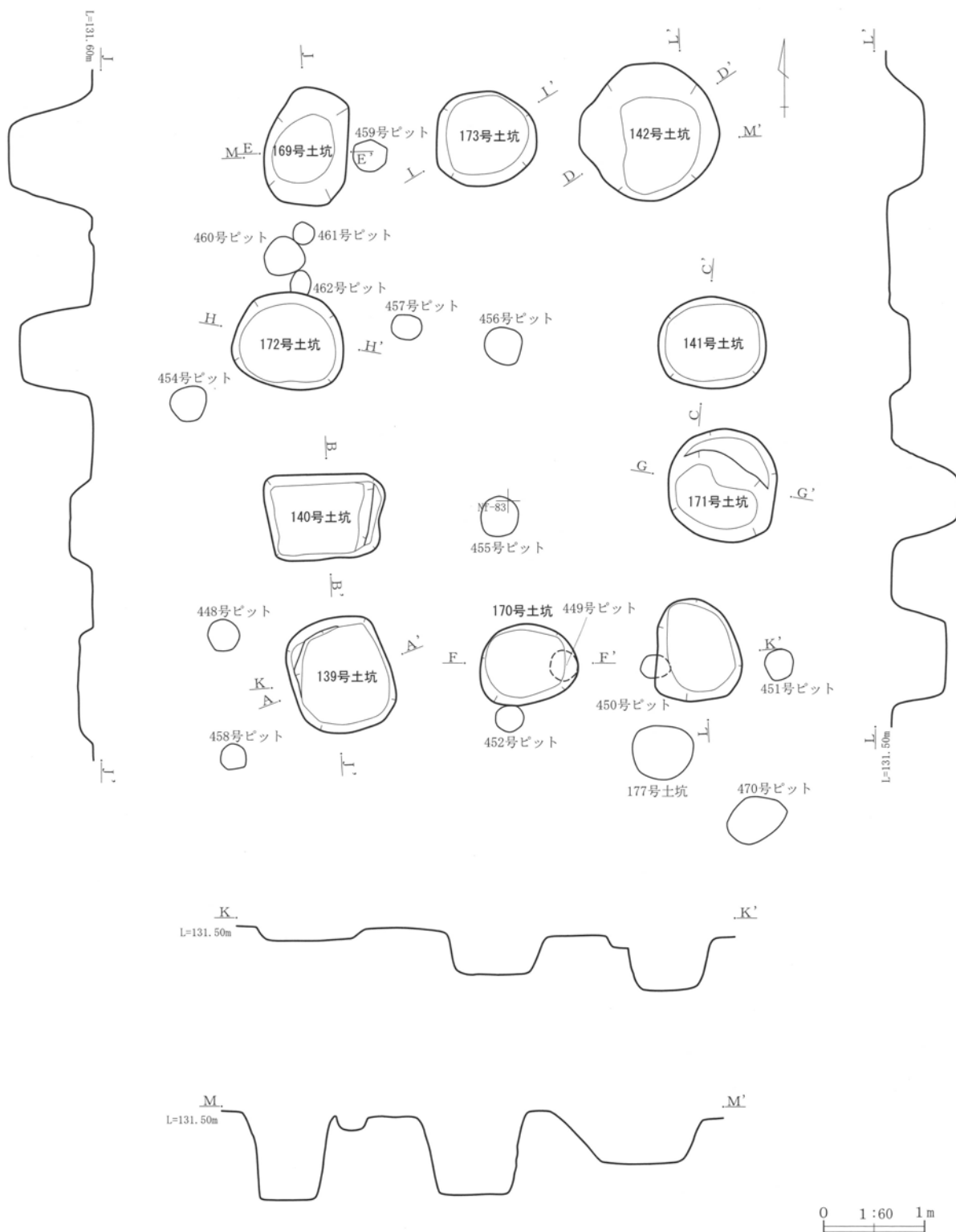
- 1 灰白色土ブロック層
- 2 暗褐色土層 軟らかく締まる。灰白色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。

166号土坑 B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかく締まり粘性あり。上層より暗い色調、灰白色土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを多量に含む。

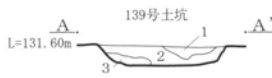
第357図 2号掘立柱建物跡

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット

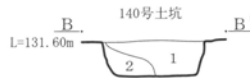


第358図 3号掘立柱建物跡(1)

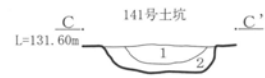
第7章 V区 検出の遺構



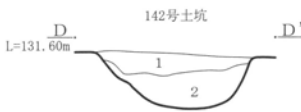
- 139号土坑 A-A'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを多量に含む。



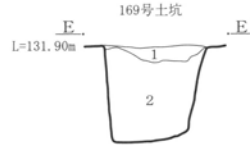
- 140号土坑 B-B'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。



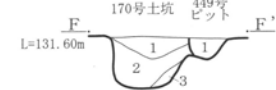
- 141号土坑 C-C'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。



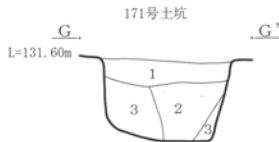
- 142号土坑 D-D'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを少量含む。



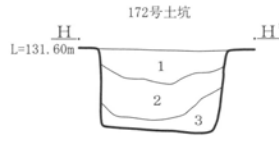
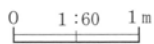
- 169号土坑 E-E'
- 1 暗褐色土層 硬く縮まる。白色土粒子、黄褐色土ブロックを含む。
 - 2 褐灰色土層 硬く縮まり粘性あり。黄褐色土ブロックと粘性のある黒色土の混土。



- 170号土坑・449号ビット F-F'
- 170号土坑
- 1 暗褐色土層 硬く縮まる。As-C・Hr-FA、橙色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
 - 3 黒褐色土層 粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 449号ビット
- 1 明褐色土層 硬く縮まる。As-C・Hr-FAを含む。



- 171号土坑 G-G'
- 1 暗褐色土層 硬く縮まる。黄褐色土ブロック、灰白色土を含む。
 - 2 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土ブロックを多量に含む。
 - 3 暗褐色砂質土層 軟らかい。



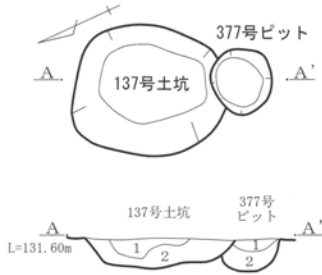
- 172号土坑 H-H'
- 1 暗褐色土層 硬く縮まる。灰白色土、As-C・Hr-FA、灰白色土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土層 やや軟らかい。黄白色土ブロックを含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色土ブロックを含む。



- 173号土坑 I-I'
- 1 暗褐色土層 やや硬く縮まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
 - 4 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 5 暗褐色土層 軟らかく縮まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
 - 6 暗褐色土層 軟らかくて縮まりよい。粘性非常にあり。

第359図 3号掘立柱建物跡(2)

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



137号土坑・377号ピット A-A'

137号土坑

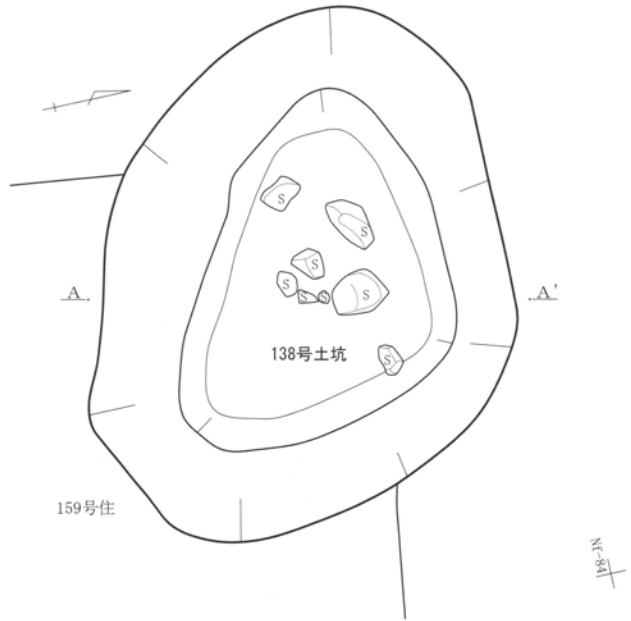
1 暗褐色土層 軟らかい。黄褐色土粒子、軽石を少量含む。

2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

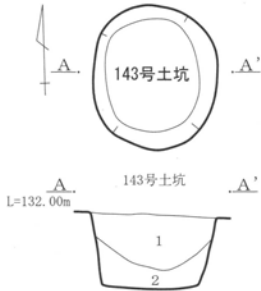
377号ピット

1 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。



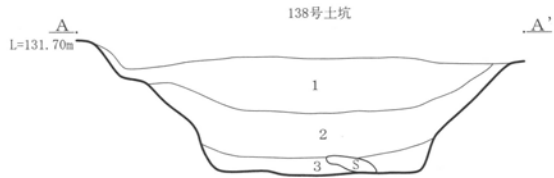
159号住



143号土坑 A-A'

1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を少量含む。

2 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。

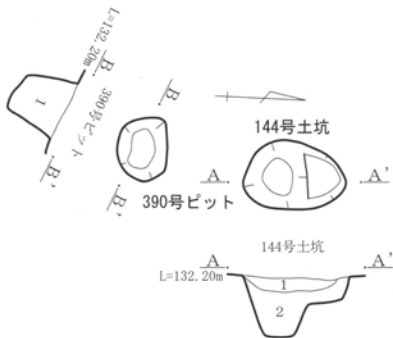


138号土坑 A-A'

1 灰褐色土層 軟らかい。砂利を含む。

2 灰褐色粘質土層

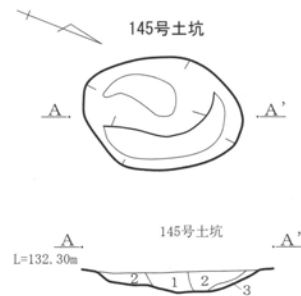
3 灰色粘質土層



144号土坑 A-A'

1 暗褐色土層 軟らかくて締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。

2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。



145号土坑 A-A'

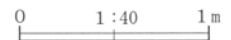
1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。

2 暗褐色土層 軟らかくて締まる。灰白色土粒子、焼土粒子を含む。

3 黒褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。

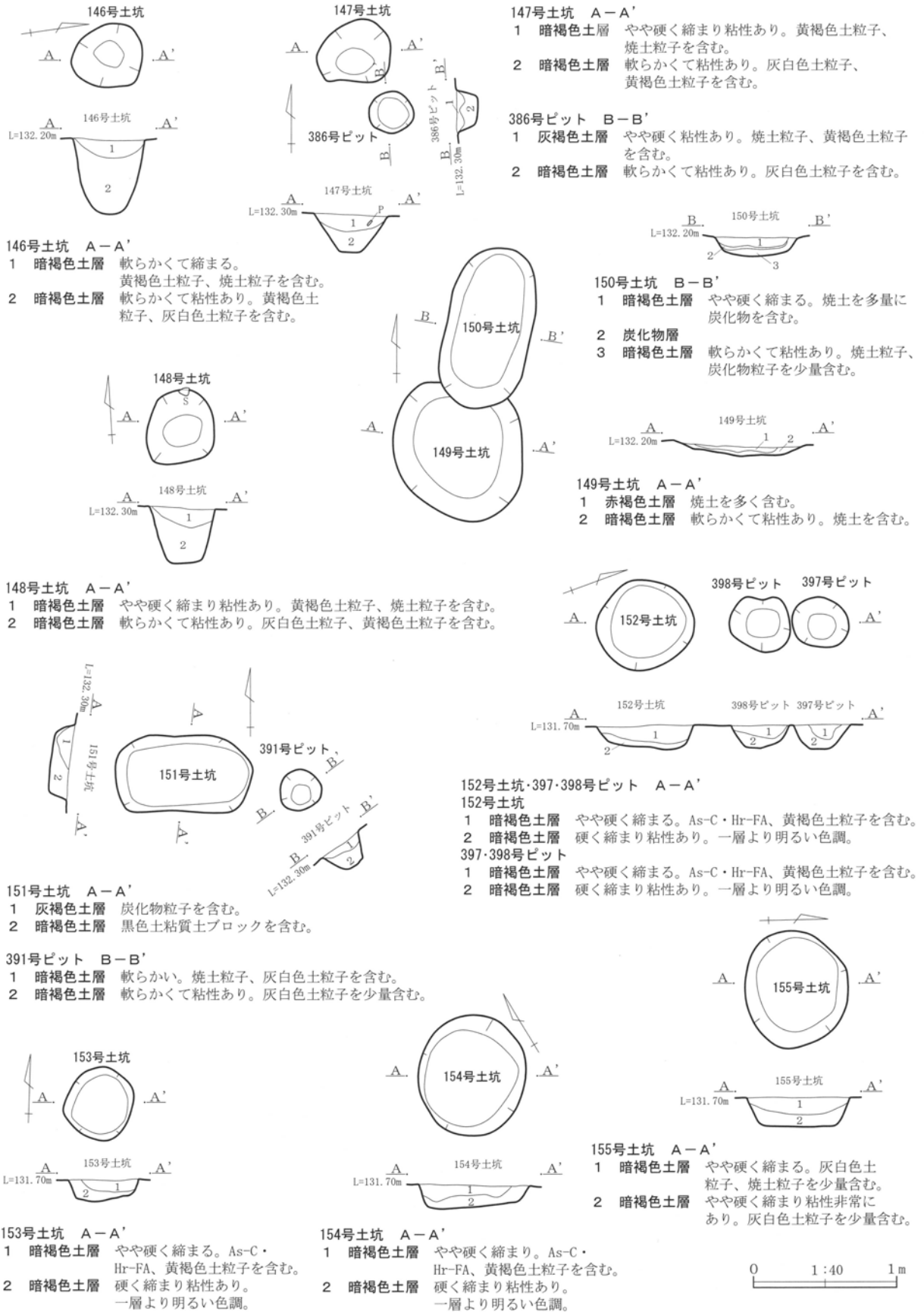
390号ピット B-B'

1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。



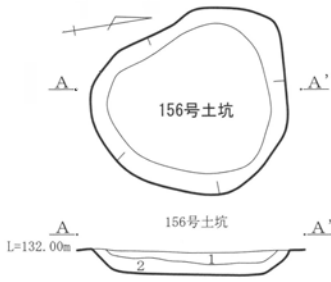
第360図 137・138・143～145号土坑、377・390号ピット

第7章 V区 検出の遺構

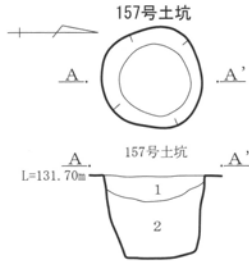


第361図 146~155号土坑、386・391・397・398号ピット

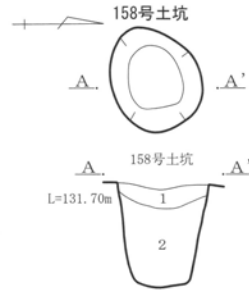
(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



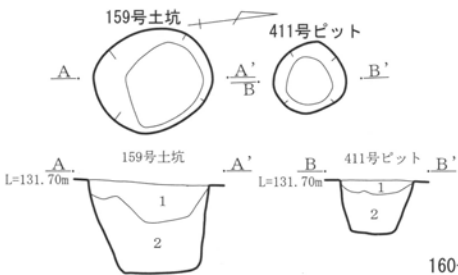
156号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロックを多量に炭化物、灰を少量含む。
 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子を少量含む。



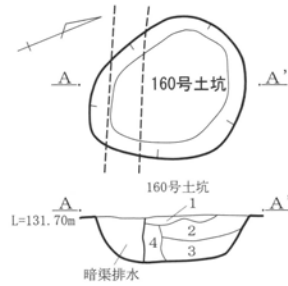
157号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 軟らかい。炭化物粒子、灰白色土ブロックを含む。
 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。



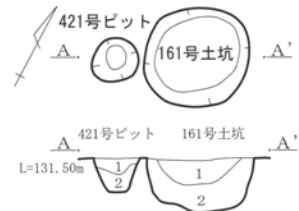
158号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を少量含む。



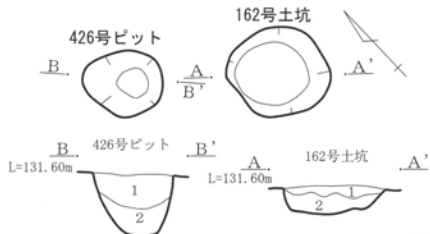
159号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。
 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を少量含む。
411号ピット B-B'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。



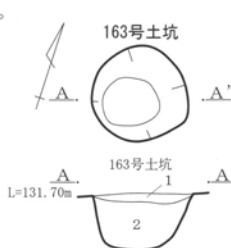
160号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。白色粒子を少量含む。
 4 灰白色土層 軟らかくて粘性非常にあり。



161号土坑・421号ピット A-A'
161号土坑
 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック含む。
 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
421号ピット
 1 黄褐色土層 やや硬く締まり。黄褐色土粒子を含む。
 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。



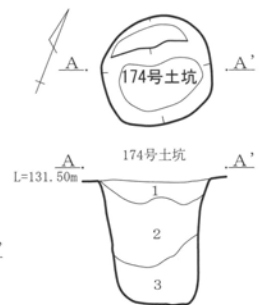
162号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
 2 暗褐色土層 硬く粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。
426号ピット B-B'
 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
 2 暗褐色土層 硬く粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。



163号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を少量含む。

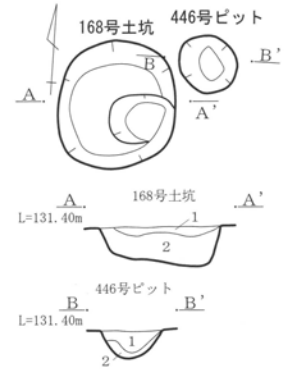


164号土坑 A-A'
 1 黒褐色土層 炭化物、焼土を多量に含む。(炭化物層)
 2 褐色土層 炭化物を多量に焼土粒子を含む。
 3 炭化物層 炭化物を主体に焼土を含む。
 4 茶褐色土層 炭化物、焼土を含む。

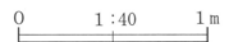


168号土坑 A-A'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。黄褐色土粒子、焼土粒子を極少量含む。

174号土坑 A-A'
 1 灰褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、橙色土粒子を多量に含む。
 2 暗褐色土層 灰白色土ブロックを含む。
 3 黒褐色土層 粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。

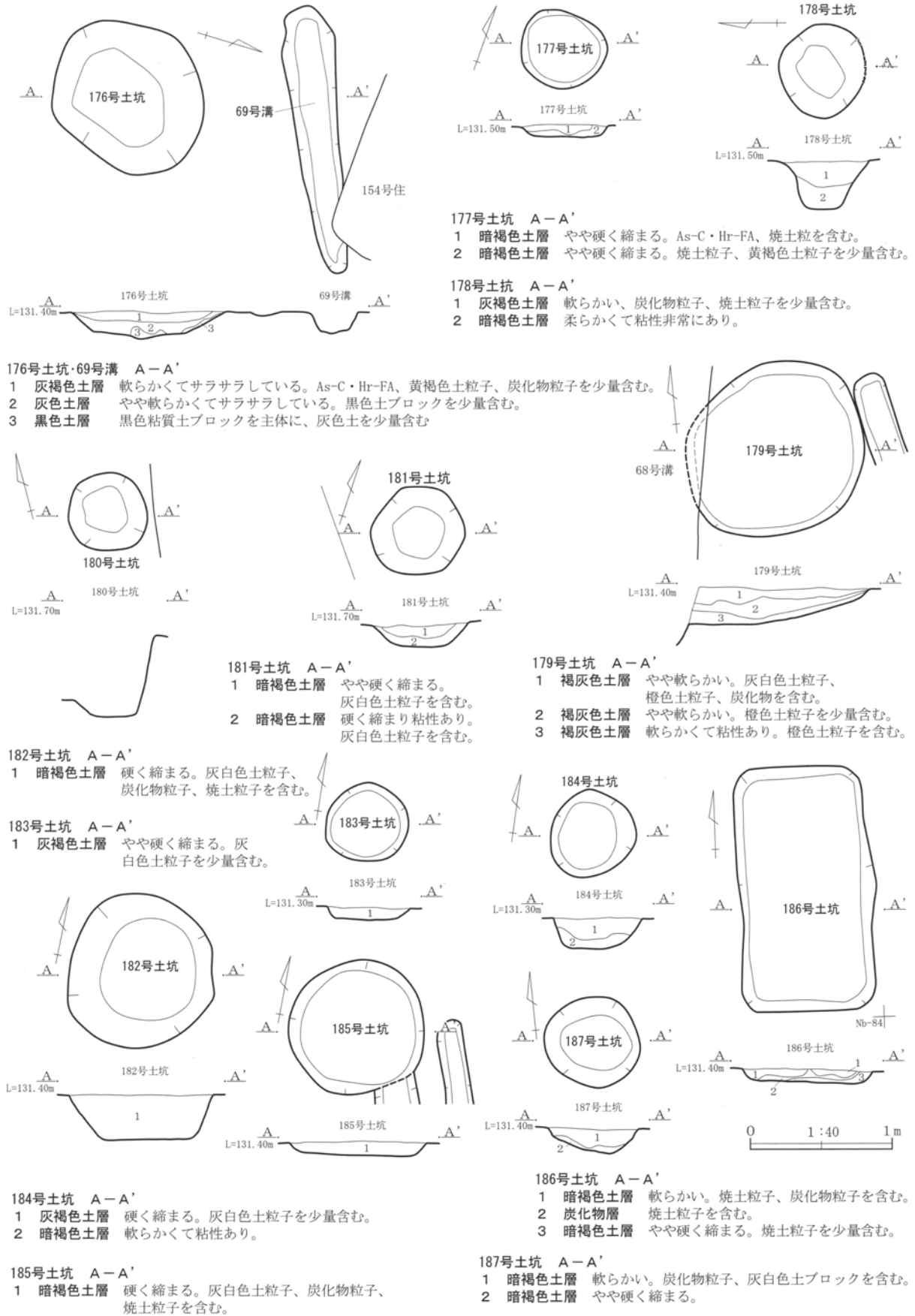


446号ピット B-B'
 1 灰褐色土層 軟らかい。灰白色土ブロックを含む。
 2 黒褐色土層 軟らかくて粘性あり。



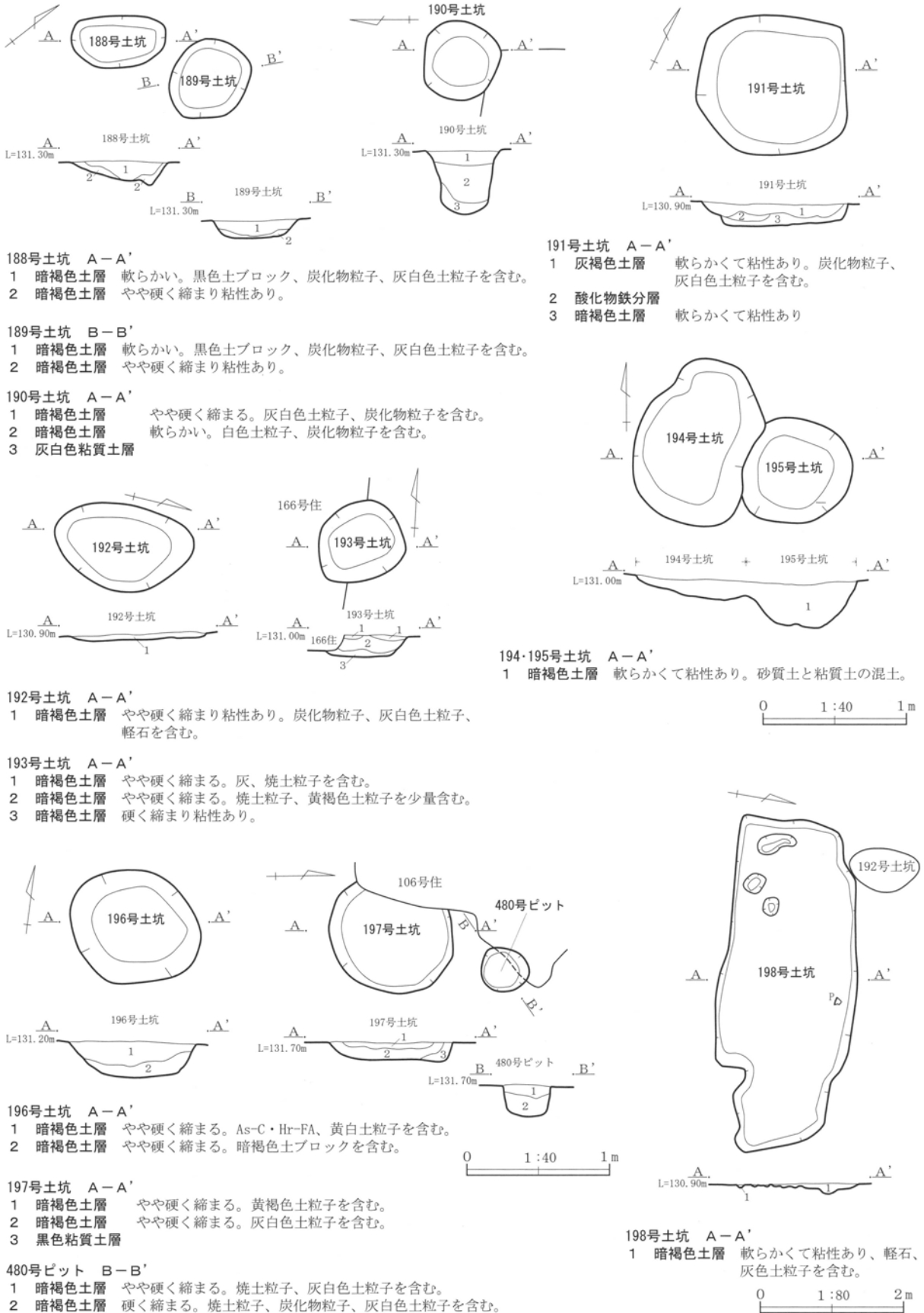
第362図 156~164・168・174号土坑、411・421・426・446号ピット

第7章 V区 検出の遺構



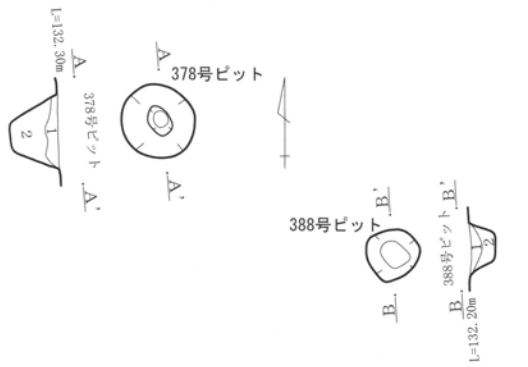
第363図 176~187号土坑、69号溝

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



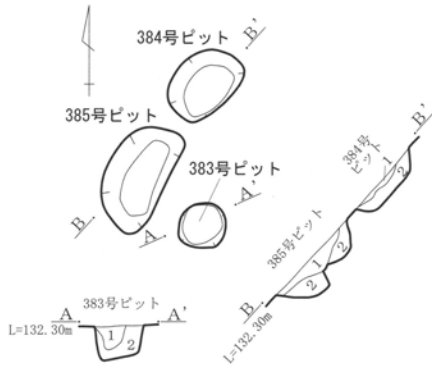
第364図 188~198号土坑、480号ピット

第7章 V区 検出の遺構



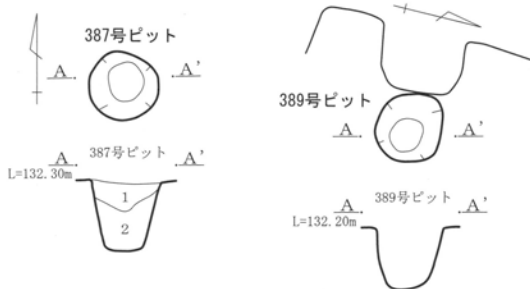
- 378号ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

- 388号ピット B-B'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 1層より暗い色調。黄褐色土粒子を含む。



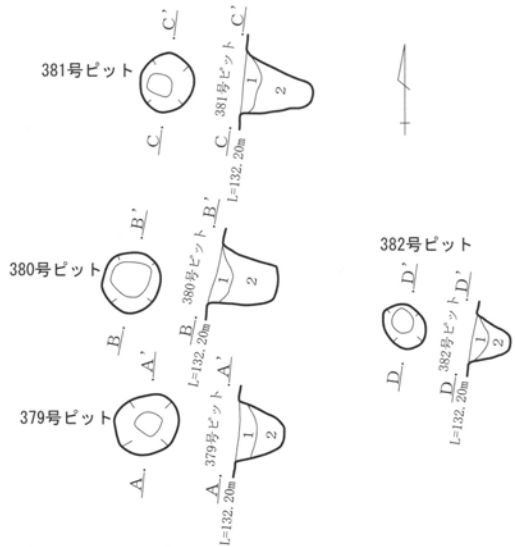
- 383号ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

- 384・385号ピット B-B'
- 1 灰褐色土層 やや硬く粘性あり。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。



- 387号ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 1層より暗い色調。黄褐色土粒子を含む。

- 389号ピット
暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。(上層)
暗褐色土層 1層より暗い色調、黄褐色土粒子を含む。(下層)

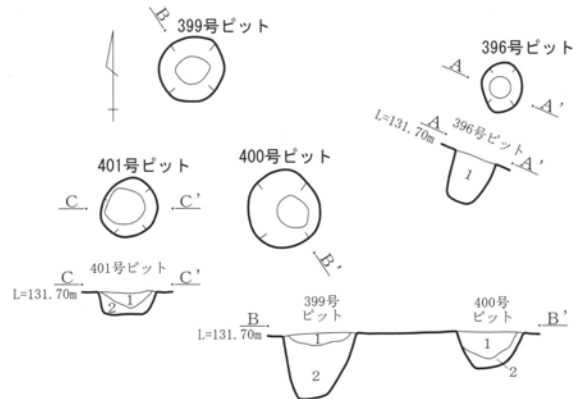


- 379号ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

- 380号ピット B-B'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒、As-C・Hr-FAを少量含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

- 381号ピット C-C'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

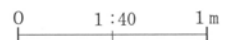
- 382号ピット D-D'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。



- 396号ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く縮まり。炭化物粒子を含む。

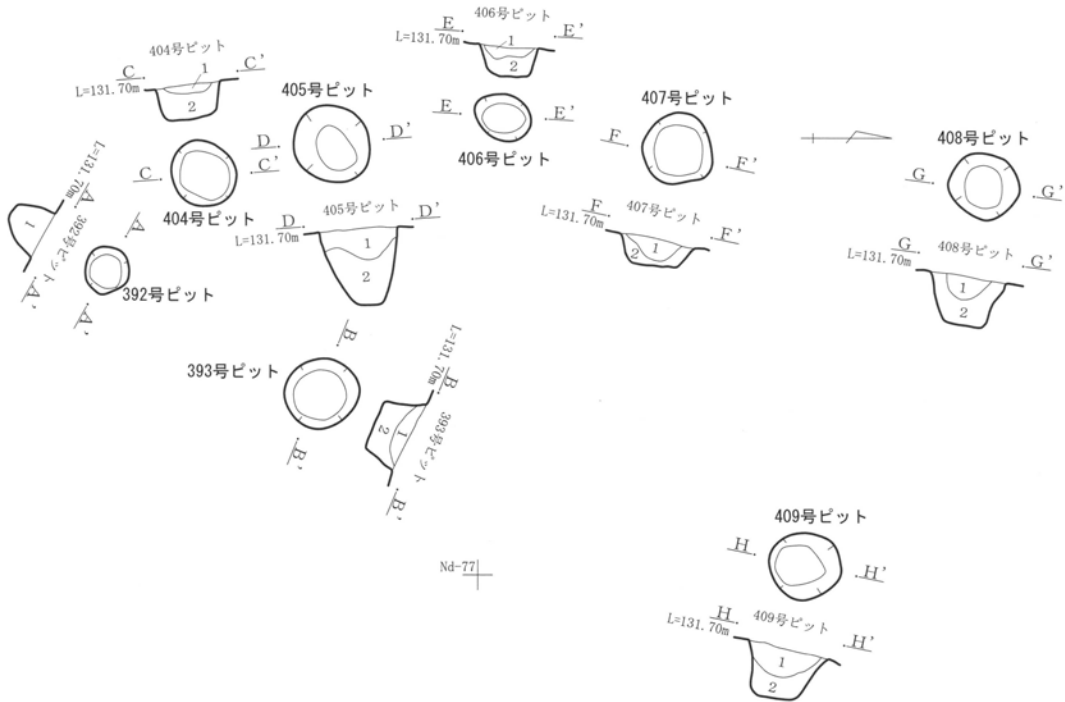
- 399・400号ピット B-B'
- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。白色土ブロック、炭化物粒子を含む。

- 401号ピット C-C'
- 1 暗褐色土層 やや硬く縮まる。灰白色土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。



第365図 378~385・387・389・396・399~401号ピット

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



392号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子を含む。

393号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。

404号ピット C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層より軟らかい。黄褐色土粒子を含む。

405号ピット D-D'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層より軟らかい。黄褐色土粒子を含む。

406号ピット E-E'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

407号ピット F-F'

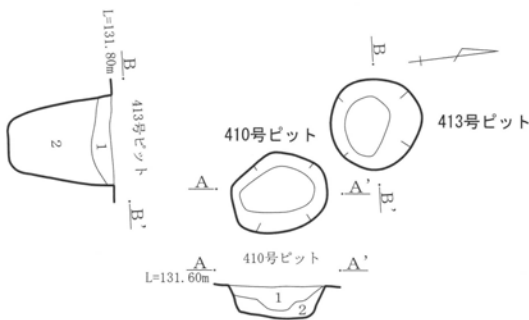
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層より軟らかい。黄褐色土粒子を含む。

408号ピット G-G'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。

409号ピット H-H'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

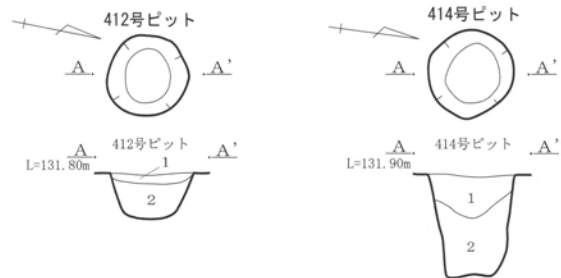


410号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。炭化物粒子、灰白色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。

413号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 上層より暗い色調。軟らかくて粘性あり。

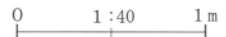


412号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

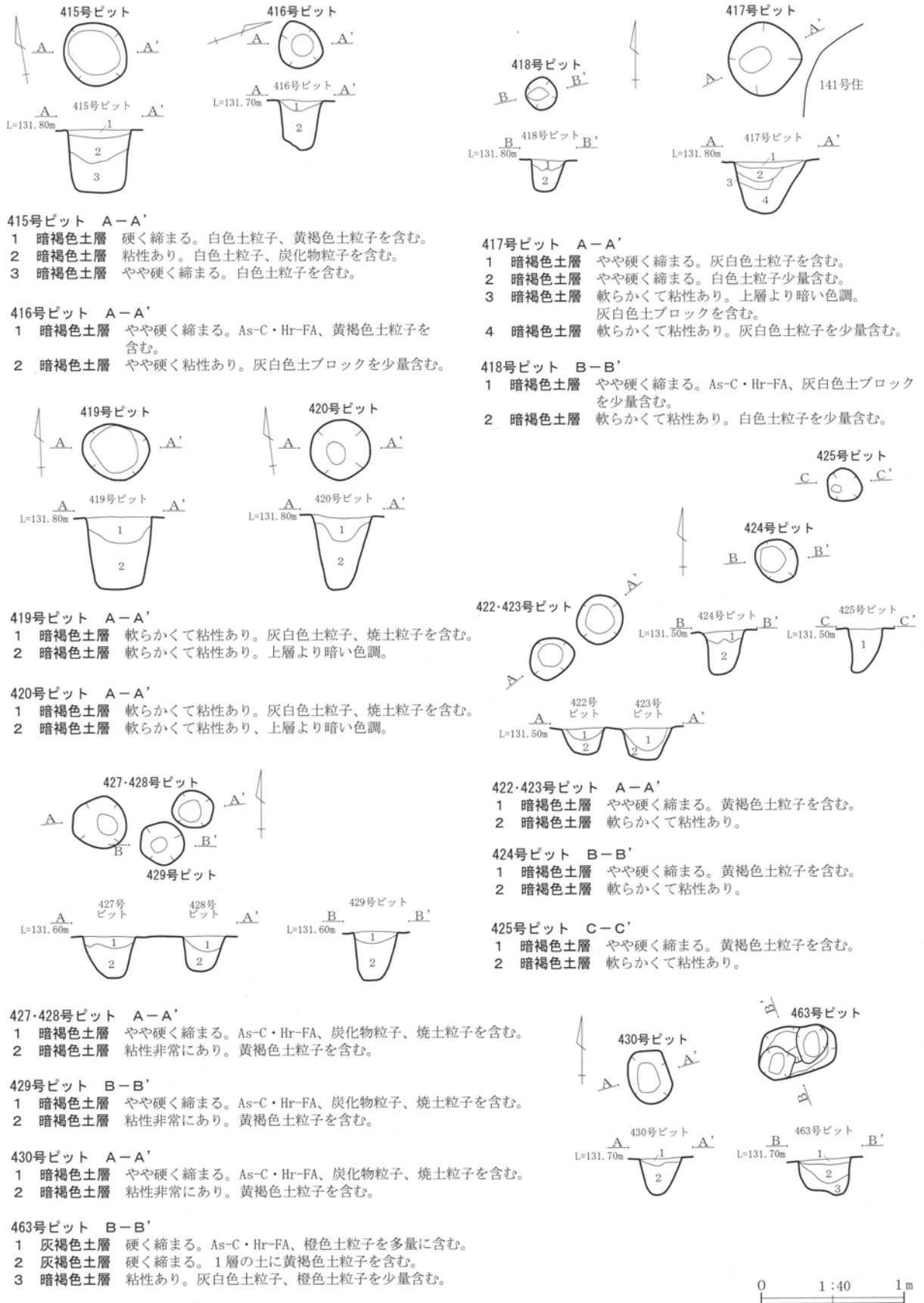
414号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く粘性非常にあり。



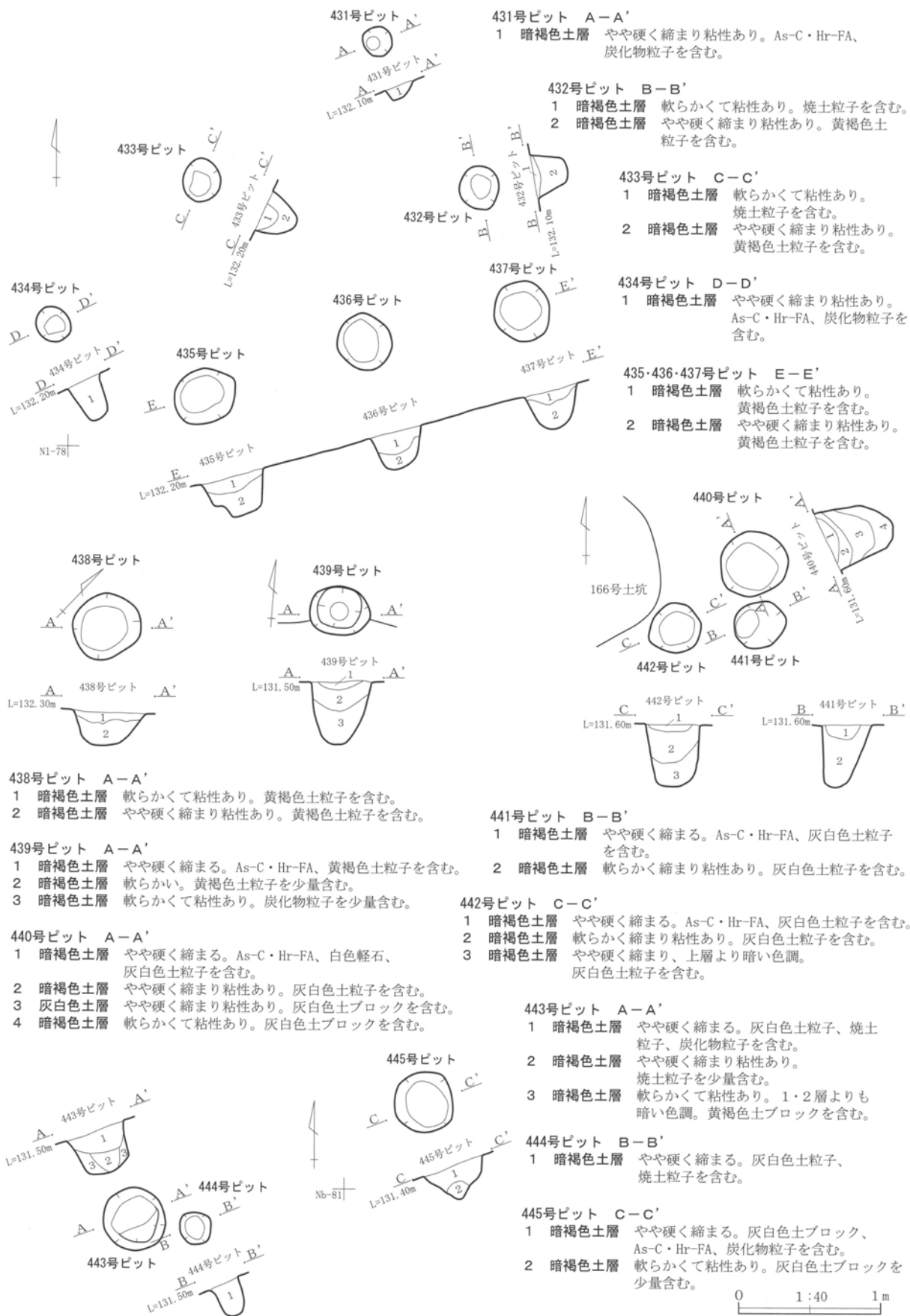
第366図 392・393・404~410・412~414号ピット

第7章 V区 検出の遺構



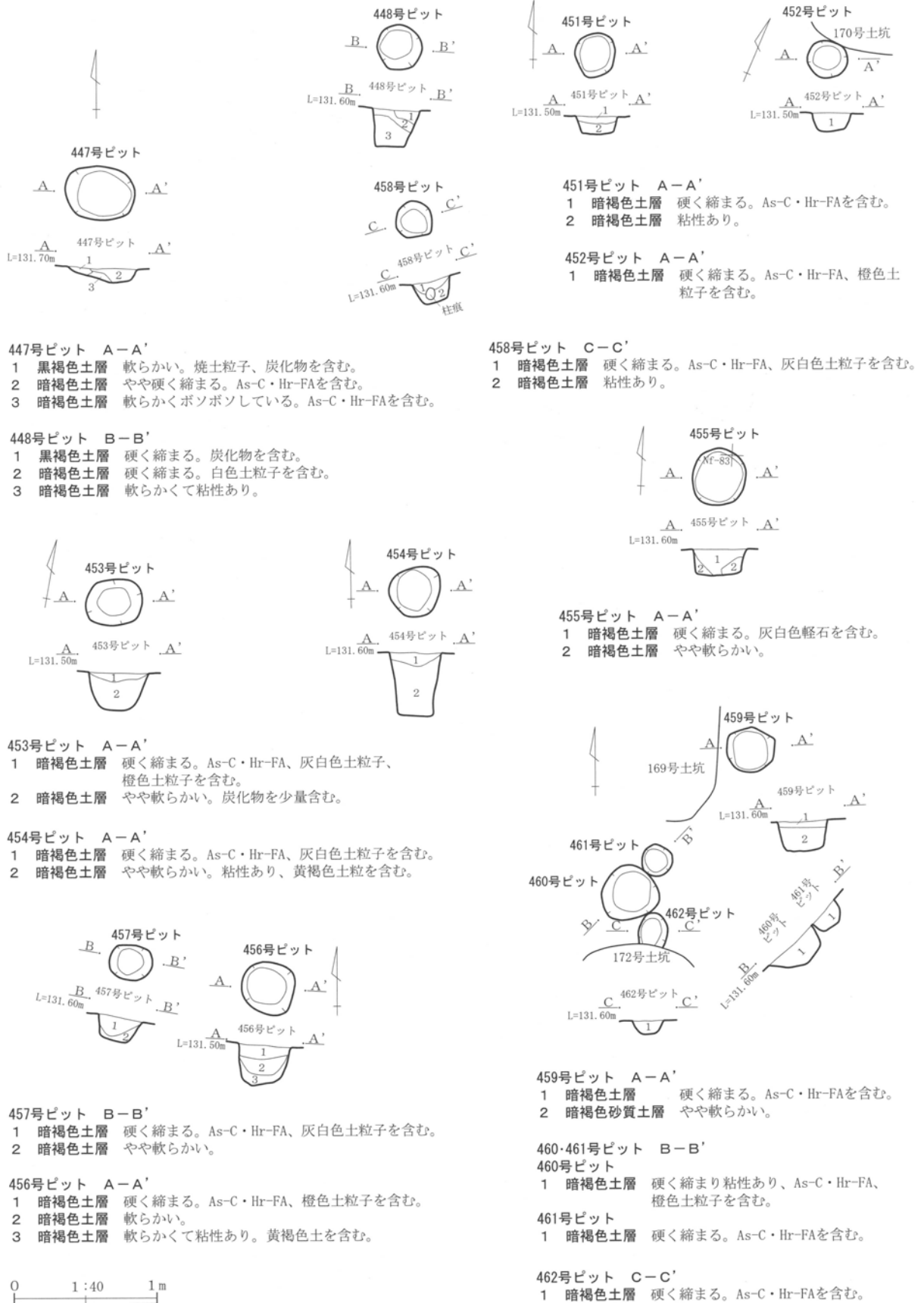
第367図 415~420・422~425・427~430・463号ピット

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



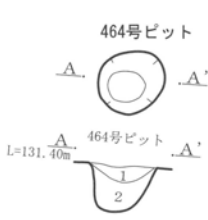
第368図 431~445号ピット

第7章 V区 検出の遺構



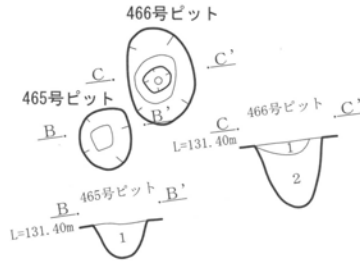
第369図 447・448・451～457・459～462号ピット

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



464号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子を少量含む。

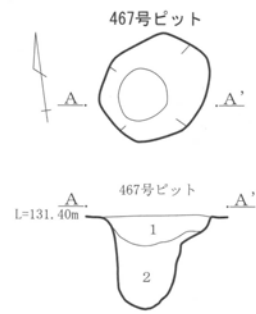


465号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。

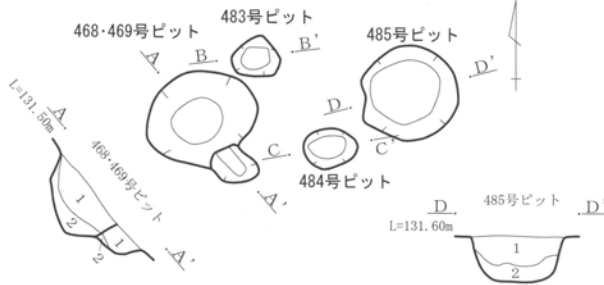
466号ピット C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子を含む。



467号ピット A-A'

- 1 灰褐色土層 軟らかくてサラサラしている。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくてサラサラしている。



468・469号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 2 黒色土層 軟らかくて粘性あり。

483号ピット B-B'

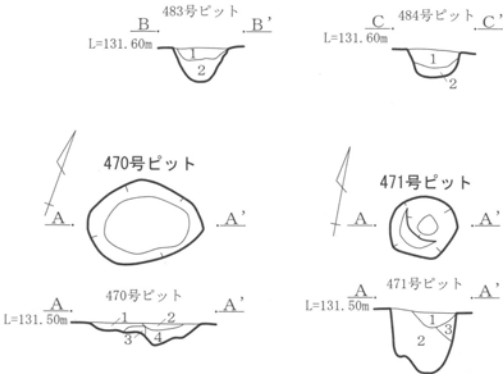
- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。

484号ピット C-C'

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。

485号ピット D-D'

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。

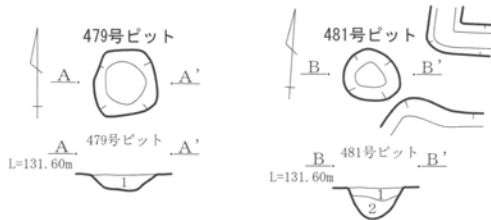


470号ピット A-A'

- 1 褐色土層 硬く締まる。焼土、炭化物、灰白色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子、As-C・Hr-FAを含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
- 4 褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土、灰白色土ブロックを多量に炭化物粒子を含む。

471号ピット A-A'

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。焼土ブロック、灰白色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子を多量に、灰白色土ブロックを少量含む。
- 3 黒褐色土層 焼土粒子を少量含む。

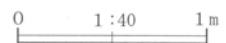


479号ピット A-A'

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。

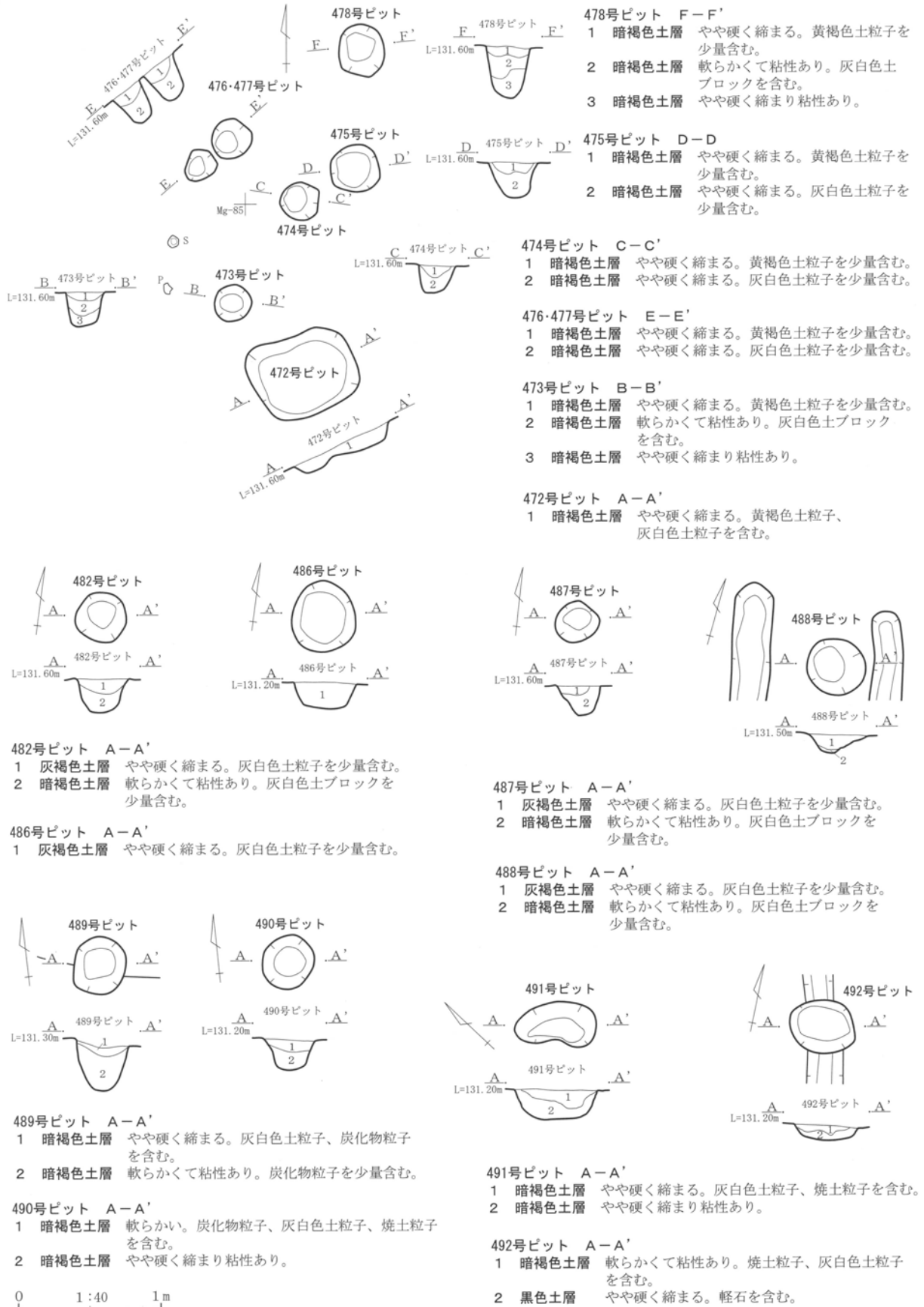
481号ピット A-A'

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。



第370図 464~471・479~481・483~485号ピット

第7章 V区 検出の遺構



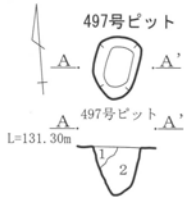
第371図 472~478・482・486~492号ビット

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット

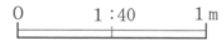


- 493号ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。

- 496号ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。



- 497号ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかい。黄褐色土粒子を含む。



第372図 493～497号ピット

2号掘立柱建物跡 (①第357図、P.L.329・341)

位置 Nd・Ne-79・80グリッドにかけて検出。

形状 方形。

規模 西側の柱間は約2.5mである。柱穴の径は約91～123cm、深さ約72～90cmである。

所見 当初、柱穴を土坑として調査を始めた。覆土は4～5層に分かれた。出土遺物は土師器・須恵器片など極少量である。

3号掘立柱建物跡 (①第358・359図②第373図、P.L.340・341・

344・345・366)

位置 Ne・Nf-82・83グリッドにかけて検出。

形状 長方形。

規模 柱間は約1.5～2mである。柱穴の径は約95～140cm、深さ約23～80cmである。ただし、139

～142号土坑は完掘されていない。実際は、他の柱穴と同様な深さがあったものと思われる。

所見 出土遺物は土師器・須恵器片など極少量。

土坑 (①第360～364図②第373図、P.L.336・337・342～346・366)

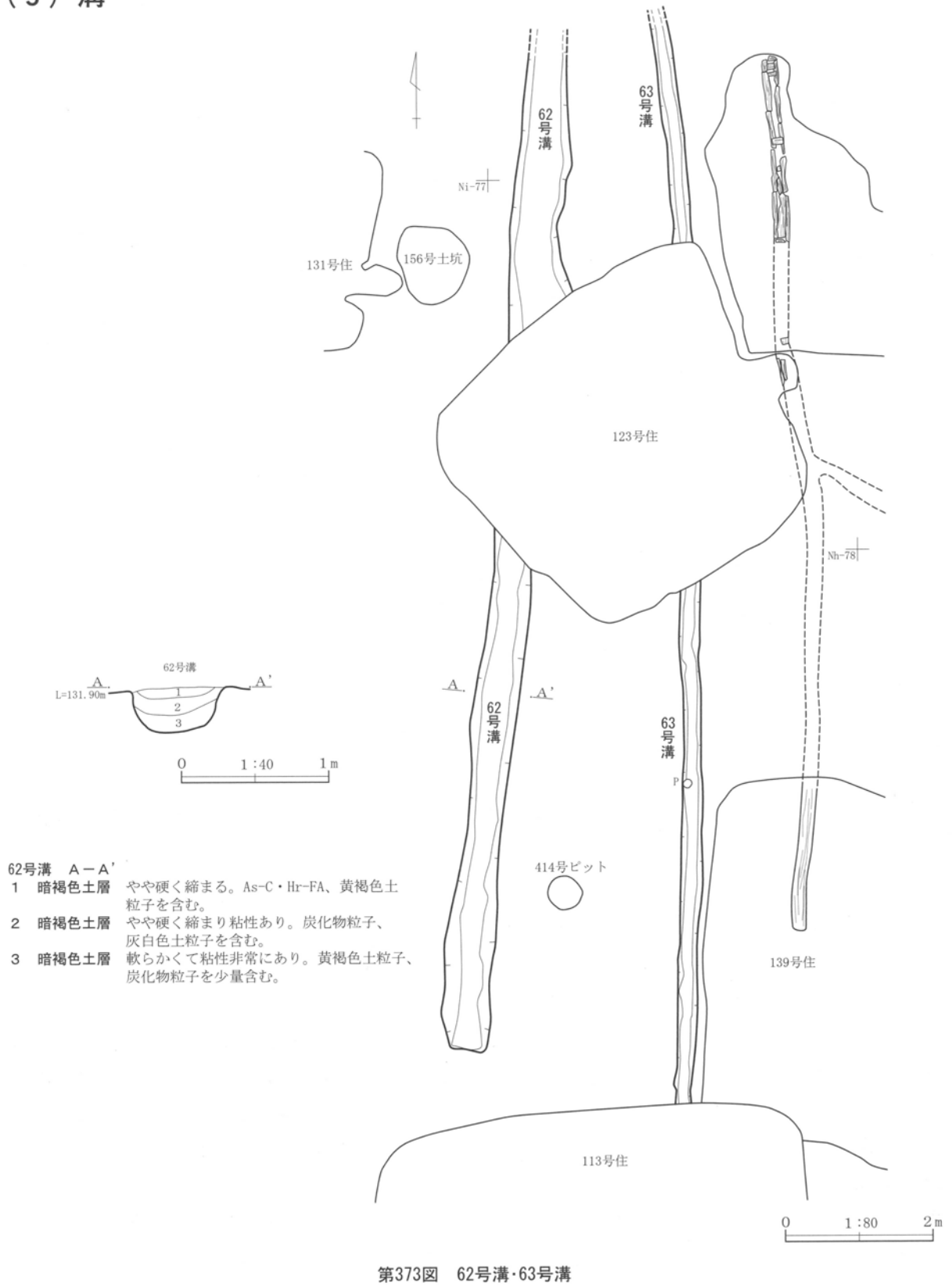
V区から検出した番号の付された土坑は、計62基である。しかし、139～142号、169～173号の計9基は、3号掘立柱建物跡となり、また165～167・175号の計4基は、2号掘立柱建物跡となる。したがって計49基が土坑と確定できるものである。

ピット (①第360～362・364～372図②第373図、P.L.324・325・

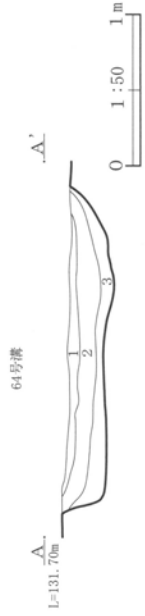
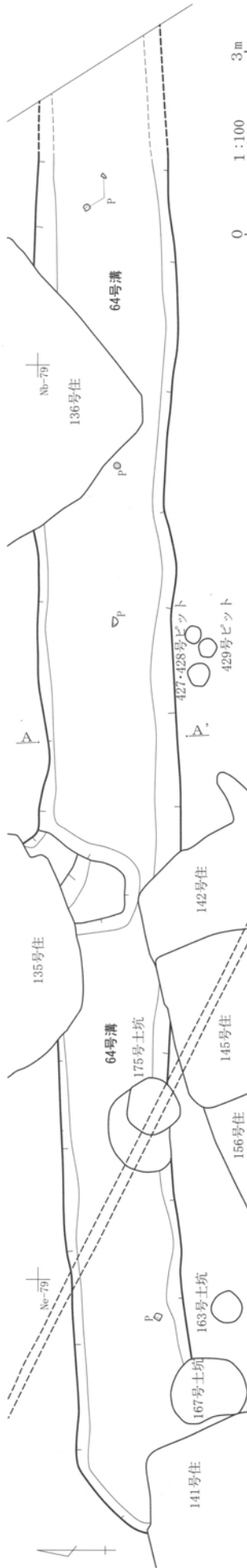
329・337・340・344・347～349・366)

ピットは総計118基を検出した。

(3) 溝



第373図 62号溝・63号溝



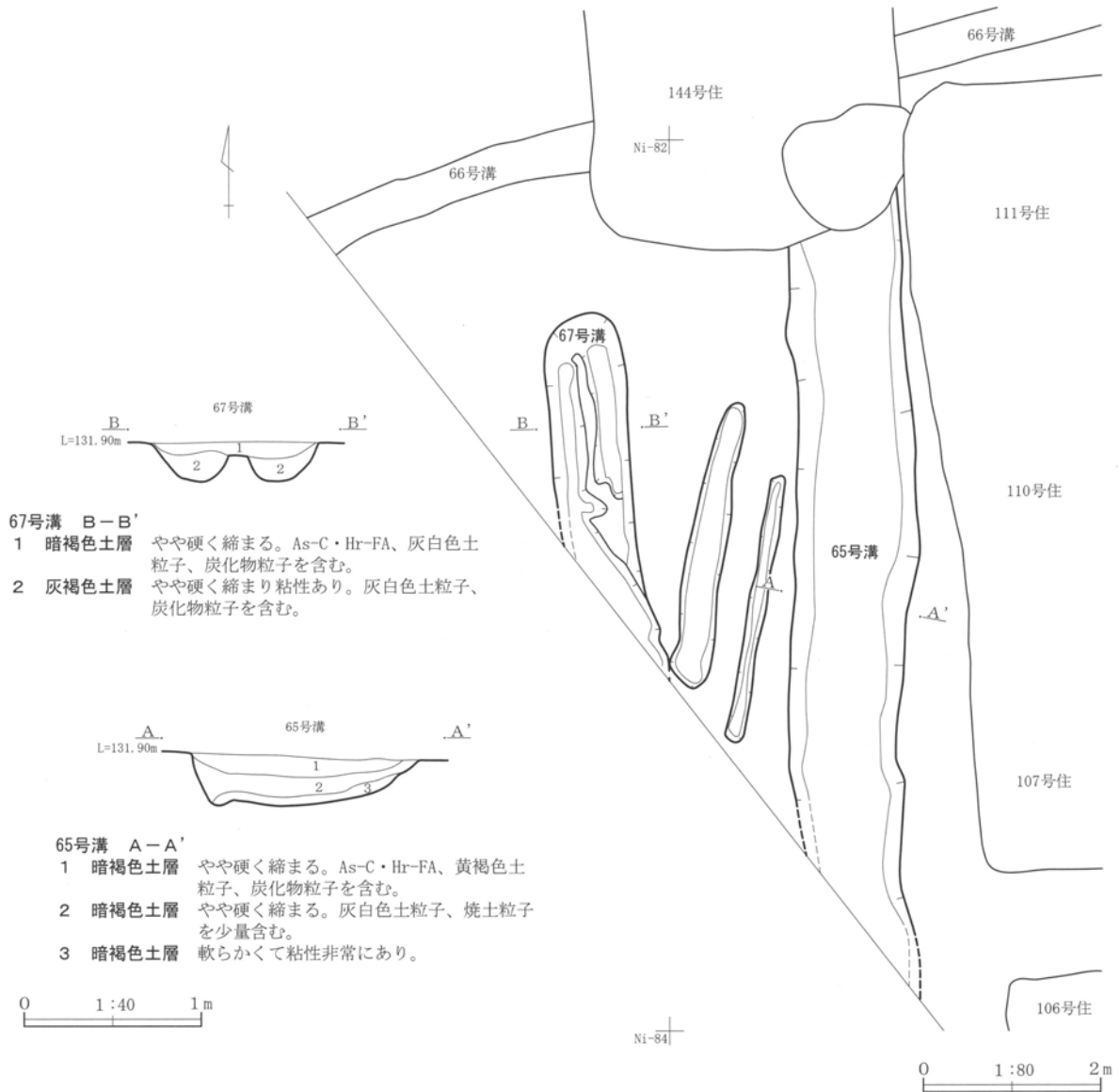
第374図 64号溝

64号溝 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。As-C・Hr-FA、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く縮まり粘性あり。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 3 灰白色土層 硬く縮まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

溝一覧表

| 番号 | 位置 | 長さ×幅×深さ(m) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|----|-------------|--------------------|----------------|----|-------|-------|---------|
| 62 | Nh-76~Hr-79 | 14.0×0.4~0.8×0.3 | | | 第373図 | 第374図 | 350・366 |
| 63 | Nh-76~Hr-79 | 14.9×0.2~0.3×0.10 | | | 373 | 374 | 350・366 |
| 64 | Na-79~Nf-79 | 24.0×1.9~2.3×0.3 | | | 374 | 375 | 350・366 |
| 65 | Nh-82~Nh-83 | 9.0×1.1~1.3×0.29 | | | 375 | 376 | 350・367 |
| 66 | Nb-81~Ni-82 | 47.2×0.4~0.5×0.21 | | | 376 | 376 | 328・367 |
| 67 | Ni-82~Ni-83 | 3.5×0.9~0.82×0.08 | | | 375 | | 351 |
| 68 | Nb-80~Nb-86 | 31.5×6×0.8~2.4×0.4 | | | 379 | 376 | 351・367 |
| 69 | Nb-83 | 1.9×0.4~0.2×0.13 | | | 363 | | 333 |
| 70 | Na-80~Nb-81 | 5.0×0.8~1.2×0.4 | | | 377 | | |
| 71 | Nc-82~Nd-86 | 21.9×0.7~3.8×0.2 | | | 379 | 376 | 351・367 |
| 72 | Nd-86~Nf-85 | 8.3×0.4~0.5×0.6 | | | 378 | 376 | 367 |



第375図 65号溝・67号溝

(1) N-10° ~ 20° -W走向の溝

66号溝 (①第376図②第376図、P L.328・367) は、調査区中央で検出された。幅50cm、深さ10cmである。東西に調査区を横切る。走向と位置から36号溝につながるものと思われる。出土遺物は無い。時期は、14号溝・36号溝と同一のものと考えれば、15世紀である。

(2) N-70° ~ 80° -E走向の溝

該当する溝の検出は無し。

(3) 直角方向に曲がる溝

該当する溝の検出は無し。

(4) その他の方向の溝

64号溝 (①第374図②第375図、P L.350・366) 位置：調査区中央。幅210cm。深さ25cm。検出された長さ12m。出土遺物：無し。時期：不明。走向：N-85° -E。

65号溝 (①第375図②第376図、P L.350・367) 位置：調査区南西。幅120cm。深さ25cm。検出された長さ7.8m。出土遺物：無し。時期：不明。走向：N-0° -E。

67号溝 (①第375図、P L.351) 位置：調査区南西。幅100cm。深さ20cm。検出された長さ3m。出

(3) 溝

土遺物：無し。時期：不明。走向：N-2°-W。

68号溝 (①第379図②第376図、P L.351・367)
位置：調査区中央。幅200cm。深さ不明。長さ不明。
出土遺物：無し。時期：不明。

70号溝 (①第377図) 位置：調査区中央東部。幅
120cm。深さ40cm。検出された長さ2.5m。出土遺
物：無し。時期：不明。走向、N-60°-W。

72号溝 (①第378図②第376図、P L.367) 位置：
調査区中央。幅40cm。深さ12cm。検出された長さ
8m。出土遺物：無し。時期：不明。走向：N-70°
-W。

中世の水路

(1) 方形区画

以上述べてきたように調査区の溝群の中には、走
向に規則性を持ったものがあり、方形の区画を指向
していることが伺える。方形を指向するので、その
走向は2つになる。一つは東西走向で約N-75°-
Eであり、もう一つは南北走向で約N-15°-Wで
ある。ゆえに、同方向の溝は平行をなし、異方向の
溝は直角に交わる。さらには溝は直線になる。

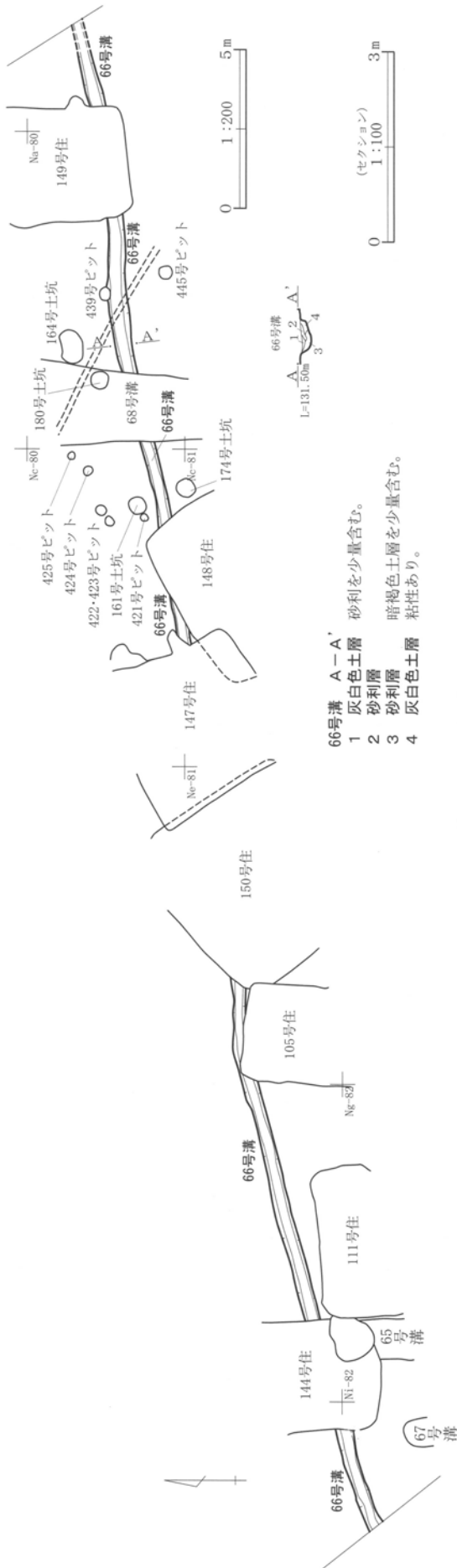
上記に記した溝群の(1) N-10°~20°-W走
向の溝。(2) N-70°~80°-E走向の溝。(3) 直
角方向に曲がる溝が直線を指向し、方向を規定して
いる。そして、それらの溝群は、出土遺物と埋没土
から15世紀が中心になるものである。出土遺物の多
くは、軟質陶器の内耳鍋と同じく軟質陶器搦り鉢、
カワラケ、茶臼や石臼である。14世紀末から15世紀
後半までが出土している。つまり、室町時代の溝群
である。そこに集落や生産域を形成したといえる。

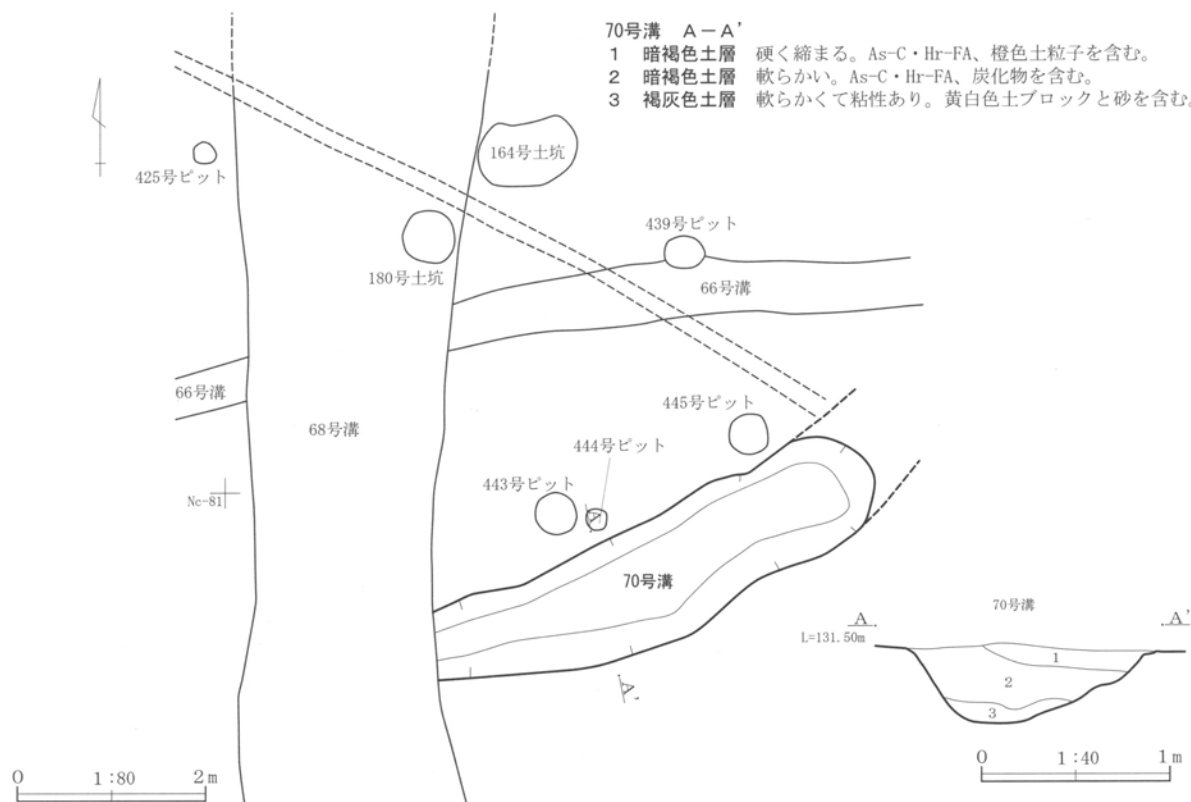
(2) 二つの水路

その方形区画の基準をなしているのが調査区全区
を東西に横切る幹線水路と考えられる2つの溝であ
る。

一つはⅦ区の14号溝・Ⅵ区の36号溝・Ⅴ区の66号
溝である。この3条の溝は同一のものであり、この
地区を一直線に貫いている。

もう一つは52A・52B号溝である。この溝は、Ⅵ





第377図 70号溝

区だけの検出ではあるが、36号溝と方向も形態も似ており、同様の機能を持つものと考えられる。Ⅶ区では飛行場造成で削平され、またⅤ区では近世～近代にかけての時間の流れの中で、その痕跡がとどまらなかったものと思われる。

この2つの溝にそれぞれ南北走向の溝が接続する。14号溝には、10・19号溝が接続し、52号溝には39・42・56号溝が接続する。しかし、52号溝に接続している39・42号溝が36号溝を壊していることから、52号溝のグループの方が新しいと考えられる。つまり15世紀中に少なくとも3回掘り直されていることになる。最初が36号溝であり、次が52A号溝そして52B号溝となる。52A・B号溝は、かなり近い時期と考えられる。

(3) 14・36・66号溝

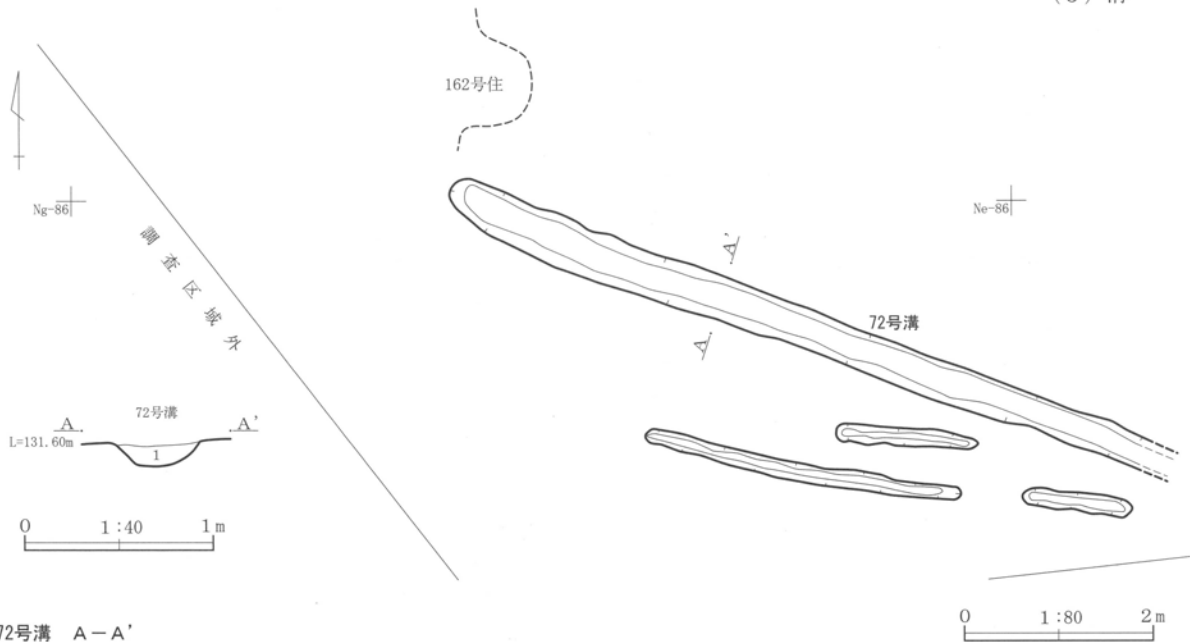
Ⅵ-2区では、部分的にAs-B（浅間B軽石）が残っている部分があった。36号溝の一部はそこで確認された。14号溝は、36号溝と同じ溝であるが確認面の高さは近代の開発で削平されてしまい、溝の深

さは浅くなっている。本来の形に近いのは、Ⅵ-2区東側の部分であろう。幅1.6m、深さ1.2mの葉研堀である。

調査区全体の地形は、南東に緩やかに傾斜している。図面で見ると14号溝・36号溝は、やや北東方向になっていて、等高線に沿うように緩やかに西側を下っている。この溝はⅦ区・Ⅵ区・Ⅴ区を直線で通る。検出された長さは、約150mである。つまり、この溝は、西から東へと水を流すために作られた水路と考えられよう。この水路はⅦ区で3つの溝に接続している。

Ⅶ区には2つの溜池がある。溜池にはそれぞれ溝があり、その溝で水を14・36号溝に流し、さらに14号溝を通して水を東側へ流すと考えられる。

19号溝は、その北上したところに石の集積がある。それは溜池の役割をしていたものと考えられる。その北にある少しばかり不定型な38号溝がある。この溝も水の流れた痕跡がある。また、さらにその北の調査区には38号溝の痕跡はなくなるものの、1号溜



72号溝 A-A'
1 暗褐色土層 やや硬い。黒色土ブロック、灰白色土粒子を含む。

第378図 72号溝

池が存在する。この1号溜池の時期は、出土遺物から中世と考えられ、この溜池に接続している1・2・3号溝も水路であることは間違いない。

(4) 52A・B号溝

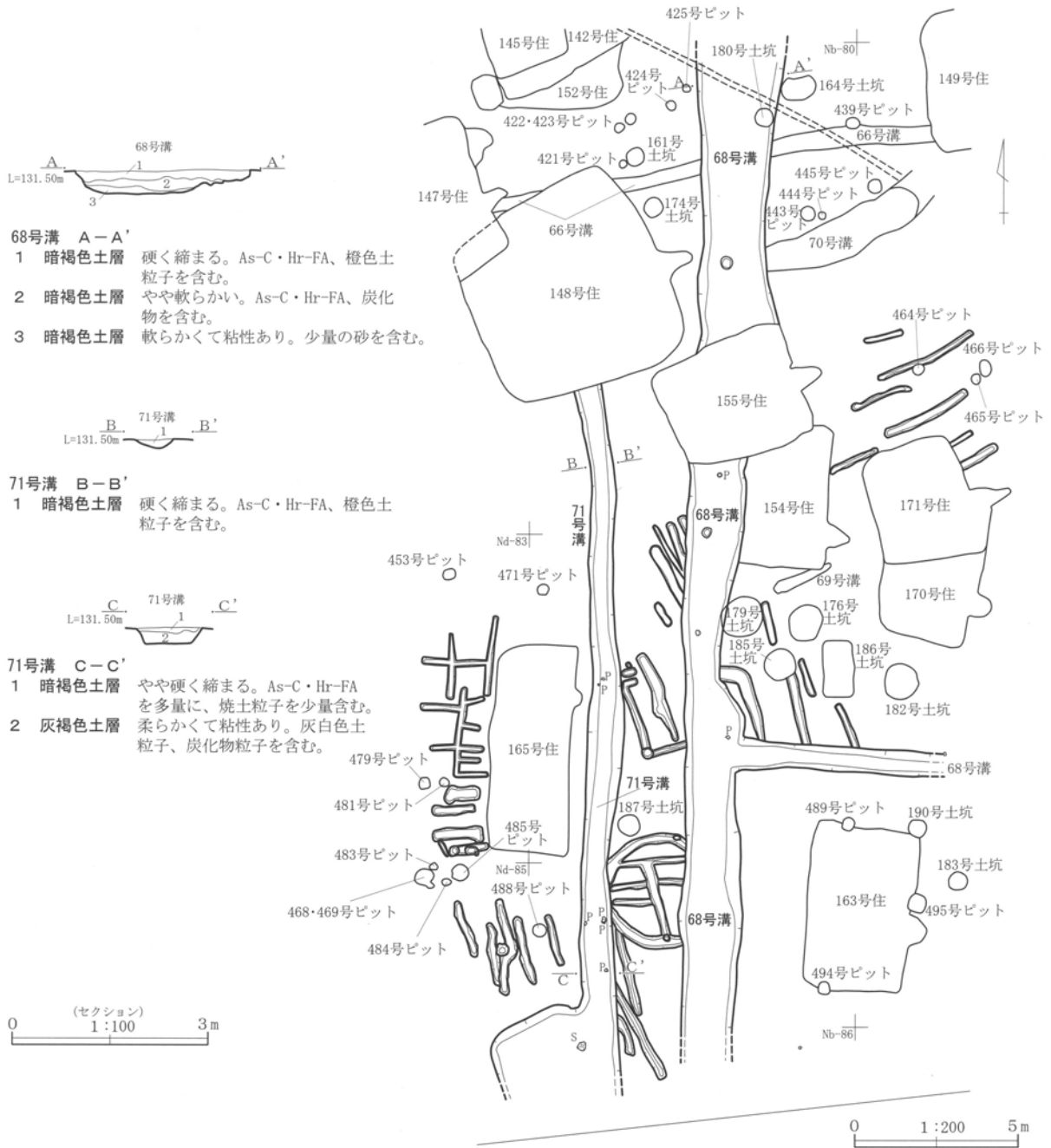
36号溝よりも南で検出された。また、走向は36号溝と同方向であり、時期も離れていないものと思われる。36号溝同様に直行する。北から流れ込んでいる溝も同じく垂直に接続している。検出面が低いため、形状ははっきりしていない。溝が2条重なっているためか、36号溝と比べ、その幅は広い。また、出土している遺物の時期差もほとんど無く、石臼や茶臼等にも同様に出土している。

52A・B号溝は、底の部分に鉄分の沈着が強く残っており、それが堅く固まっていた。その上に砂礫が溜まり、その砂礫に混じり石臼や茶臼の破片や土器片等が多く散乱していた。

36号溝と違いⅦ区にもⅤ区にもそのつながりを示す溝の痕跡は検出できなかった。形態と方向から見て、当然Ⅶ区とⅤ区にはあったはずである。両区は確認面がⅥ区と比較するとやや低く、既に削平されていたものであろう。しかし、52A・B号溝は、36号溝と同系統の溝であり、水路としての役割を担っていたものと想像される。

Ⅵ区では、3条の溝が52A・B号溝に流れ込んでいることが確認されている。東側にある溝はどれも北側から流れ込んではいないものの全容は検出できなかった。42号溝は、北側から全て検出することができた。42号溝は北側で西に直角に曲がり、ある区画を作っている。57号溝で南の区画を作り、50号溝で東を区画している。ここに囲われた区画が屋敷の区画であることは内部にピット群があることより示されている。ただし時間的な制約もあり、ピットの構成は掘立建物の概要を確認するまでには至っていない。

また、この区画された溝のあり方も北東側の角の部分では、明確には検出できなかった。42号溝と50号溝との交点が調査区の端に当たり西に進んでいくのか、それとも北に行くのか確認できなかった。水路との併用による区画溝では、今までに発掘された事例でゆくと、屋敷を囲む水路は、高い方向から低い方向に作られるから、ここでは北側に延びてゆくものと推測される。また、ここで唯一52A・B号溝に続くのは42号溝しかない。42号溝が水路を兼ねた区画溝であり、50号溝と57号溝は一方が止まってしまっていることから、この両溝は、水路というよりは区画溝と考えられる。



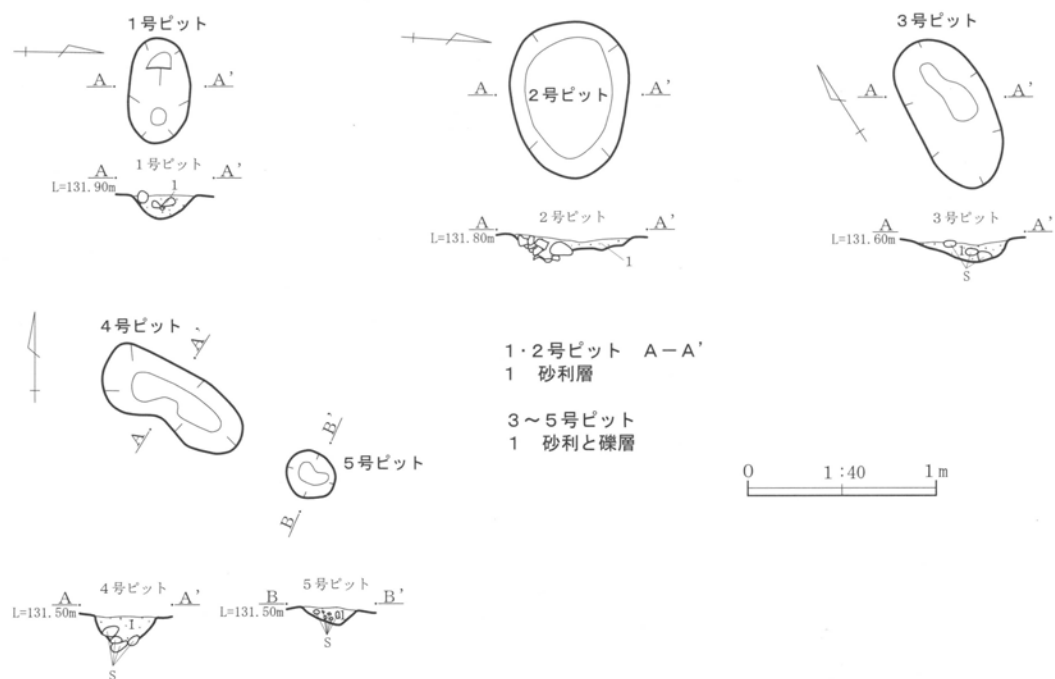
第379図 68号溝・71号溝



第8章
Ⅳ区 検出の遺構



第8章 IV区 検出の遺構



第381図 1～5号ピット

IV区の調査面積は、2,390㎡である。農道を除いたIV-1区が174㎡、IV-2区が2164㎡であった。そして現水田面を掘削し、新たに検出した面を1面(①第380図、P L.368)として調査を始めた。

(1) 1面検出のピット (①第381図、P L.369)

1面は昭和18(1943)年の飛行場造成面であり、5個のピットと3基の排水路を検出した。ピットの構築時期は、昭和18年以降から戦後にかけてのものと思われる。ピットの覆土は砂利と石混じりである。各ピットの規模は次のとおりである。

(2) 1面検出の排水路 (①第382図、P L.368~370)

3基の排水路は、Ⅲ区で調査した3号(用)水路に接続するものであるが、IV-1区で検出した1基は、Ⅲ区1面の2号排水路が延長したものである。これらのことから、北西から南東方向に走行するコ

ンクリート管を埋設した3号(用)水路に接続する土管を使用した排水路は、計5基の検出となる。

1号排水路(①第382図②第378図、P L.368~370)は、上幅1.05~1.7m、下幅0.3~0.5m、深さ約0.8m、南北に走行し長さ11.5mを検出した。19本の土管を埋設しているが、それは底面に石を敷き、その上に配置したものである。そして砂利と石で埋め、さらに掘削した飛行場の造成土で埋め戻されている。

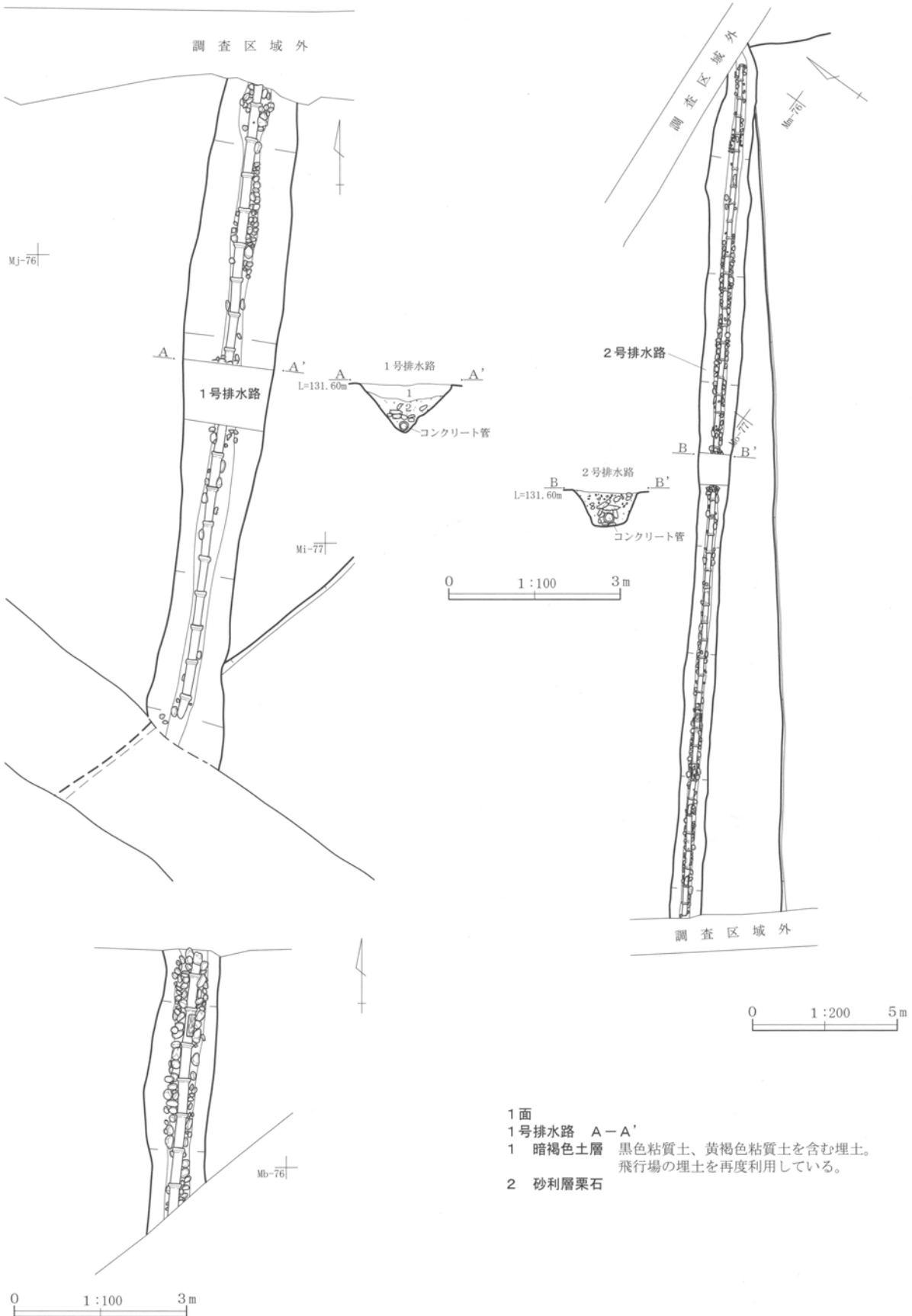
2号排水路(①第382図②第378図、P L.368~370)は、1号排水路と同規模である。南西から北東にかけて走行し長さ30.5mを検出した。49本の土管を埋設している。IV-1区で検出の排水路は、上幅0.9~1.2m、下幅0.4mで8本の土管を埋設している。

飛行場造成土(①384図)は、IV-2区の水路埋設個所の土層を中心に厚さ1.2mを確認した。

ピット一覧表

| 番号 | 位置 | 形状 | 長径×短径×深さ(cm) | 出土遺物(未掲載遺物の点数) | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|----|----------|-----|--------------|----------------|----|-------|------|------|
| 1 | Mr-75 | 楕円形 | 56×30×12 | | | 第381図 | | 369 |
| 2 | Mq-76・77 | 楕円形 | 82×62×12 | 土師器片1・軟質陶器片1 | | 381 | | 369 |
| 3 | Mn・Mo-79 | 楕円形 | 86×40×10 | | | 381 | | 369 |
| 4 | Ml-79 | 楕円形 | 82×30×18 | | | 381 | | 369 |
| 5 | Ml-79 | 楕円形 | 24×24×10 | | | 381 | | 369 |

(2) 1面・排水路



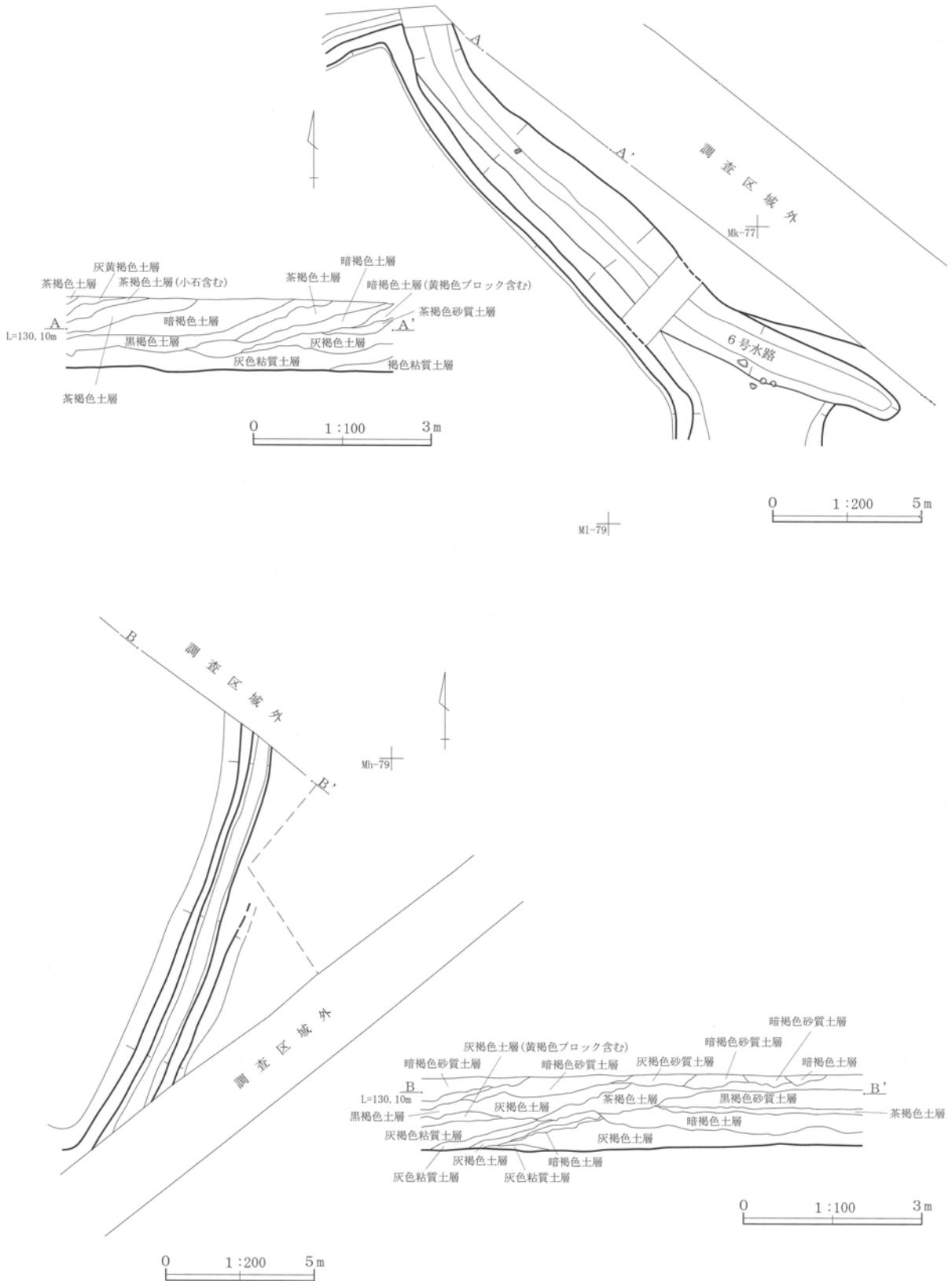
第382図 1・2号排水路



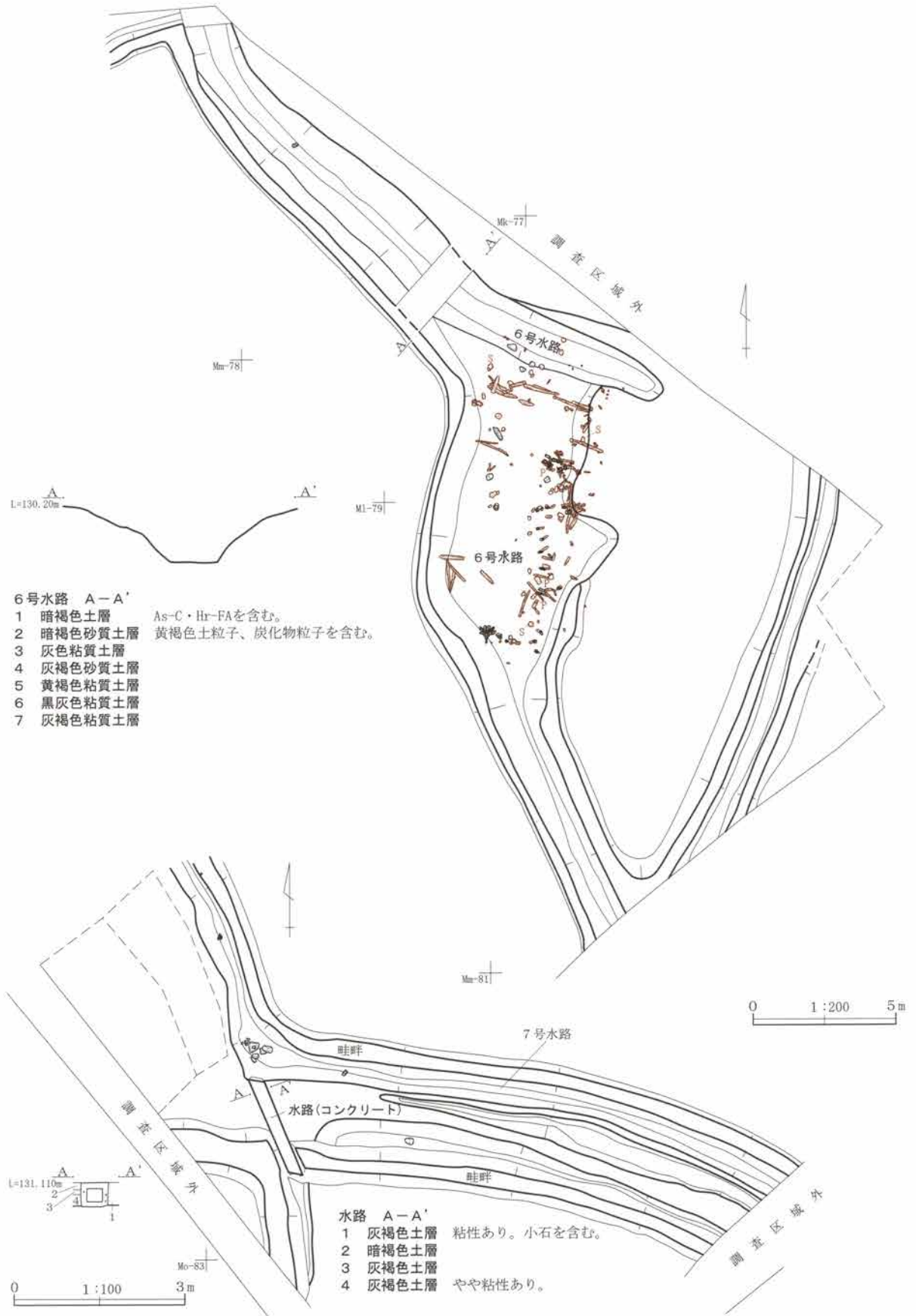
IV区 昭和18年田畑

| 番号 | 面積 (m ²) |
|----|----------------------|
| ㉗ | 198.9 |
| ㉘ | 75.7 |
| ㉙ | 3.2 |
| ㊱ | 530.1 |
| ㊲ | 85.3 |
| ㊳ | 45.4 |
| ㊴ | 159.5 |

第383図 2面全体図 (1/400)



第384図 飛行場造成土



第385図 6号水路・コンクリート水路

(3) 2面・水路

(3) 2面・水路 (①第383図、P.L.369・370)

飛行場設定直前の田畑と水路を検出した。

6号水路(①第385図②第379・380図、P.L.368・370)は、上幅1.7~6.5m、下幅0.2~5m、深さ0.63~1.3mである。調査区の北から蛇行しながら南に走行し長さ35mを検出した。覆土中から土管・瓦・茶碗・下駄・ガラスビン・明治15年の一銭などが出土している。水路底面には杭が残っていた。

7号水路(①第385・387図、P.L.369)は、幅0.4

~1.5m、深さ0.5mである。調査区の北西から南東方向へ長さ約32m走行し、さらに東南東へ約20mを検出した。現農道下で6号水路と合流するものと思われる。

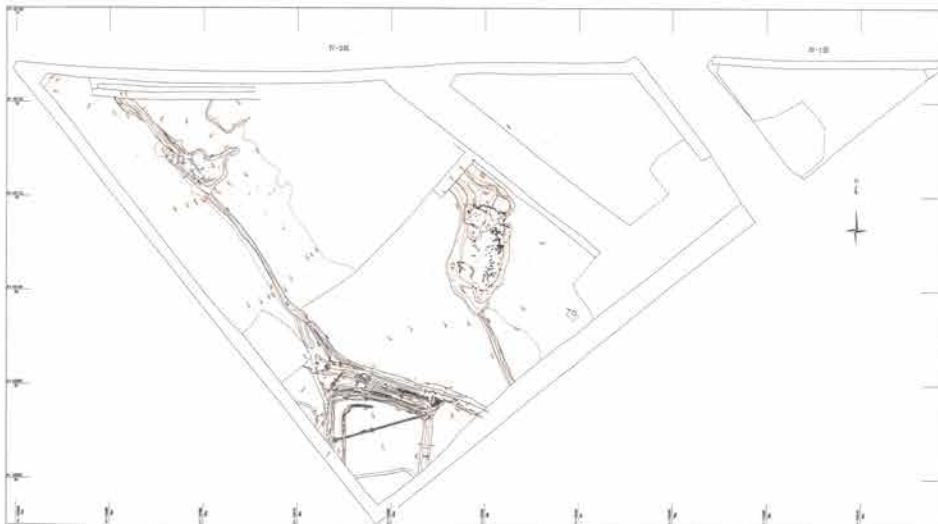
2面を掘削した後、3面(As-B層の流れ込み層が一部に堆積)に至る中間から10~16号水路を検出した。(①第386~388図②第380・381図、P.L.370)この中には15・16号水路のように竹を使用した暗渠も含まれている。

排水路一覧表

| 番号 | 位置 | 長さ×幅×深さ(m) | 出土遺物 | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|----|-------------|---|---------|----|-------|-------|---------|
| 1 | Mi-75~Mi-77 | (上) 11.5×1.05~1.7×0.8 (下) 11.5×0.3~0.5×0.8 | コンクリート管 | | 第382図 | 第378図 | 369・370 |
| 2 | Ml-75~Mr-78 | (上) 30.5×0.9~1.2×1.2 (下) 30.5×0.4×1.2 | コンクリート管 | | 382 | 378 | 369・370 |

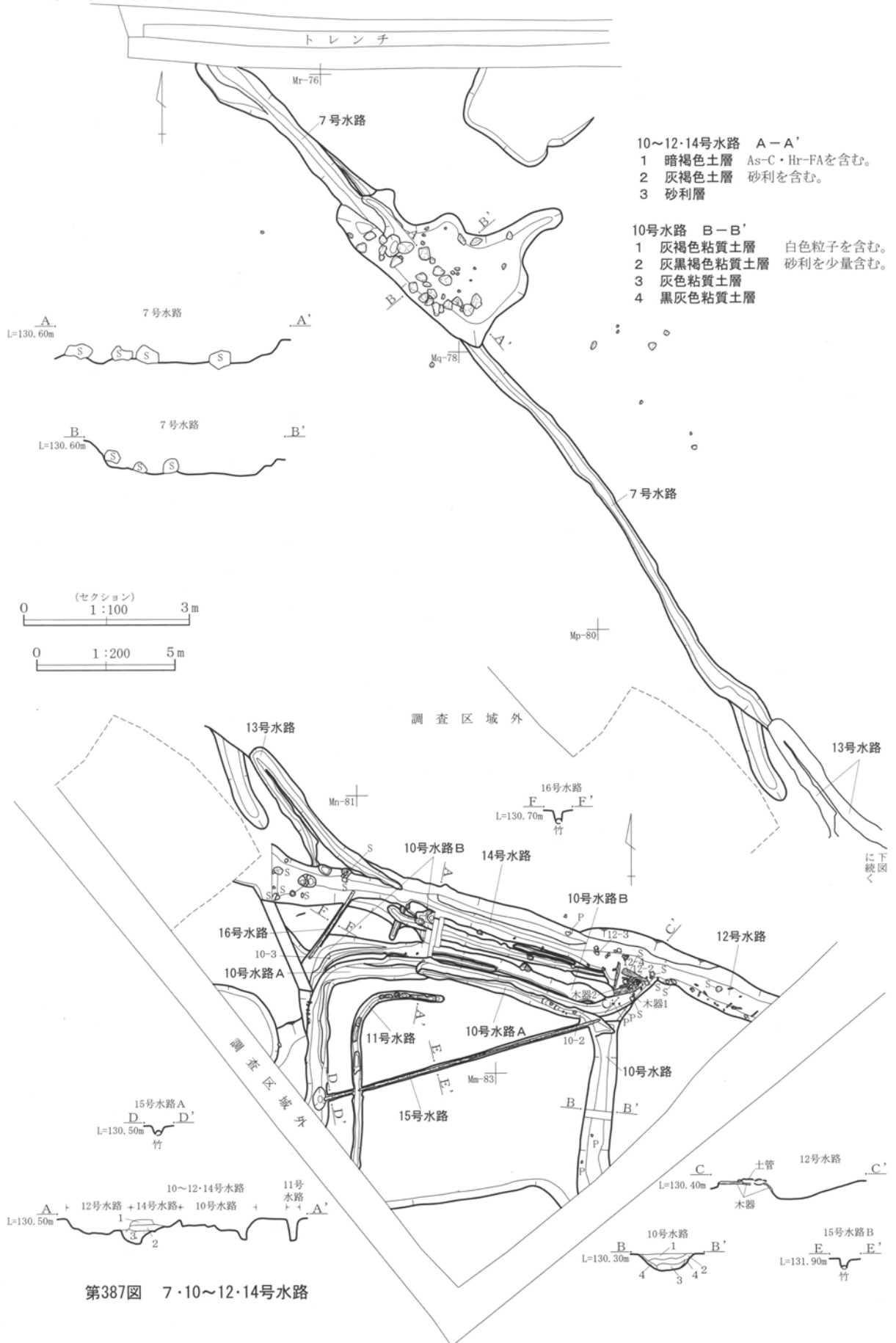
水路一覧表

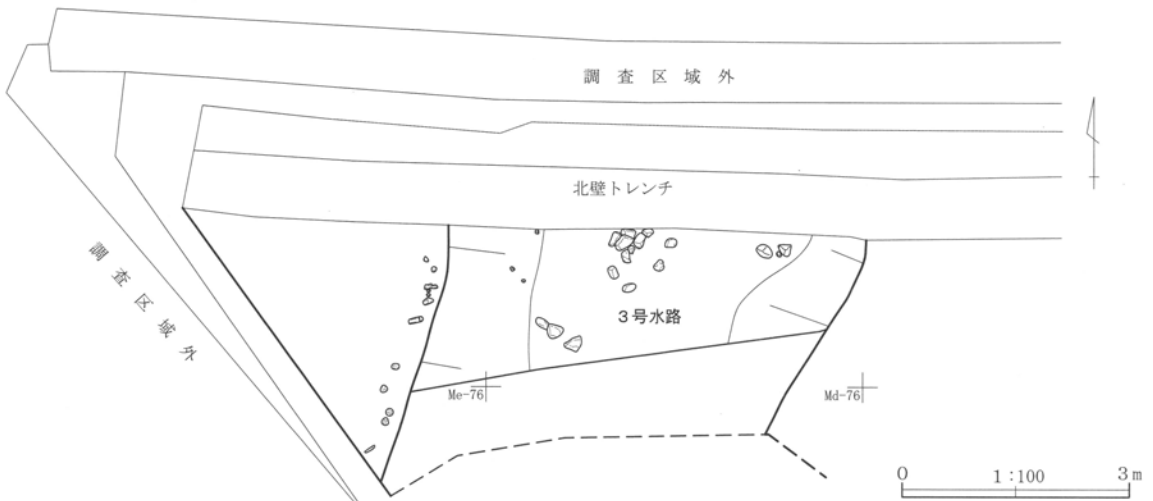
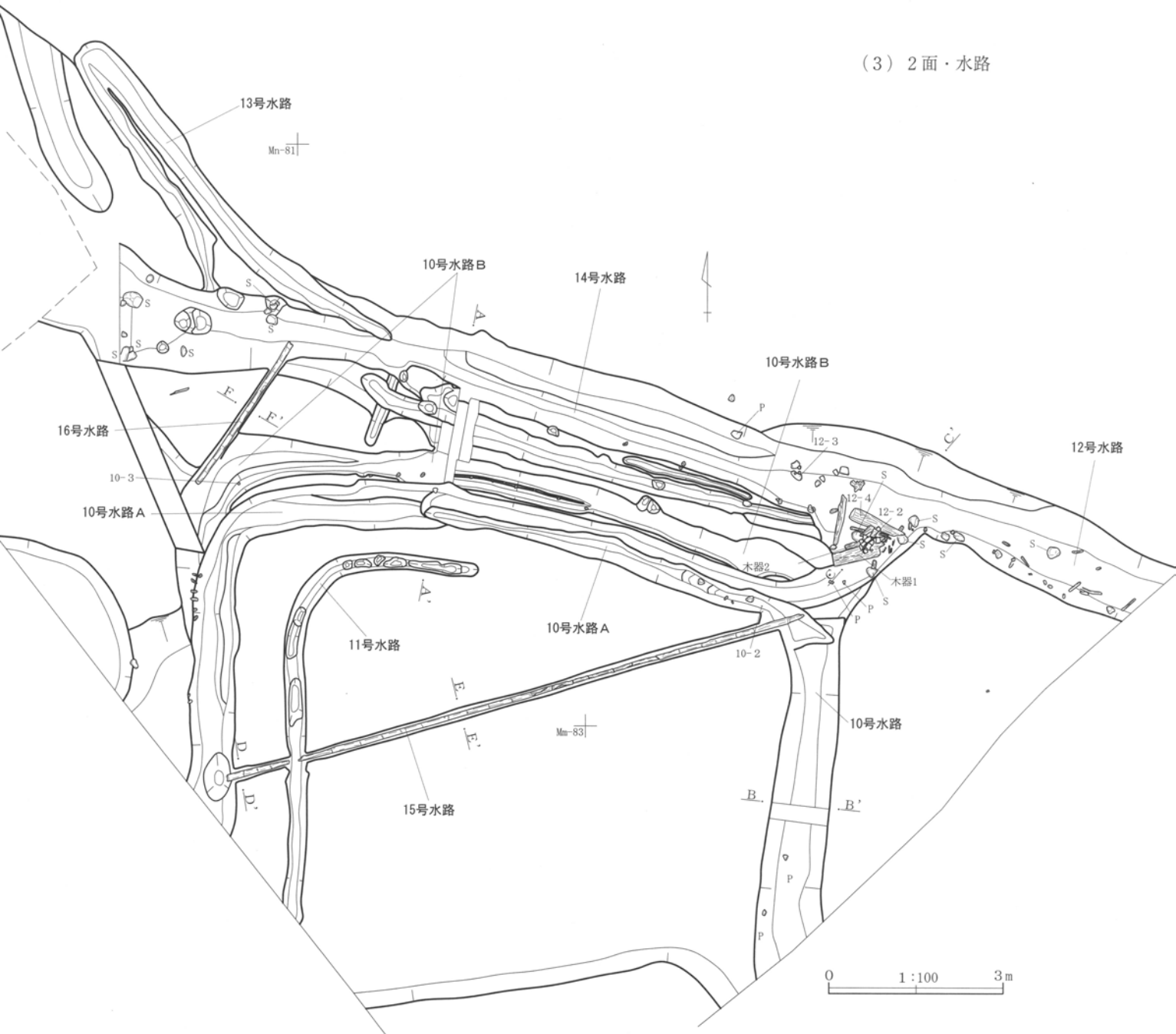
| 番号 | 位置 | 長さ×幅×深さ(m) | 出土遺物 | 備考 | 遺構図版 | 遺物図版 | 写真図版 |
|----|-------------|------------------|------------|----|---------|-----------|---------|
| 6 | Mm-75~Mj-81 | 42.5×2.5~7.0×1.0 | 土管・ガラスビンなど | | 第385図 | 第379・380図 | 368・370 |
| 7 | Mr-75~Mn-81 | 48.0×0.4~1.5×0.5 | | | 385・387 | | |
| 10 | Mn-82~Ml-83 | 21.3×0.8~1.6×0.4 | 砥石・古銭 | | 387・388 | 380 | 370 |
| 11 | Ml-82~Mn-83 | 8.8×0.3~0.4×0.4 | | | 387・388 | | |
| 12 | Mn-81~Mk-82 | 18.5×1.3~2.0×0.4 | 木製品 | | 387・388 | 380 | 370 |
| 13 | Mn-80~Mm-81 | 7.5×0.9~1.5×- | 砥石 | | 388 | 381 | 370 |
| 14 | Mm-81~Ml-82 | 8.0×0.4~0.6×0.5 | ガラスビンなど | | 387 | 381 | 370 |
| 15 | Ml-82~Mn-83 | 10.4×0.2×0.2 | | | 388 | | |
| 16 | Mn-81~Mn-82 | 3.0×0.1×0.2 | | | 388 | | |



第386図 2~3面全体図 (1/800)

第8章 IV区 検出の遺構





第388図 3・10~16号水路

第9章 自然科学分析

(1) 棟高辻久保遺跡の土層とテフラ

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部や中国さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる（たとえば新井, 1962, 1979, 町田・新井, 1992, 早田, 1992など）。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになってきている。

そこで、年代が不明な土層や遺構が検出された棟高辻久保遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析や屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層や遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、Ⅲ区北西壁、西壁、南壁埋没谷部の3地点である。

2. 土層層序

(1) 北西壁

北西壁では、下位より灰色軽石を多く含む灰色砂質土（層厚9cm, 軽石の最大径2mm）、灰白色軽石混じり灰褐色土（層厚9cm, 軽石の最大径7mm）、灰色土（層厚12cm）が認められる（図1）。さらに上位には、1943（昭和18）年の飛行場建設に伴うと考えられている盛土層（層厚38cm）が認められる。この盛土層の上位には、1948（昭和23）～1949（昭和24）年に行われた土地整備の際に形成された灰褐色作土（層厚20cm）が認められる。

飛行場建設に伴うと推定されている盛土層には、黄灰色凝灰質砂のブロックからなる土層や、灰色軽石を含む暗褐色土などが認められる。この直下からは、水田遺構が検出されている。

(2) 西壁

西壁では、下位より暗灰色粘質土（層厚5cm以上）、成層したテフラ層（層厚6.7cm）、灰色細粒軽石を多く含む灰色砂質土（層厚16cm, 軽石の最大径2mm）、灰白色軽石を含む灰褐色土（層厚9cm, 軽石の最大径7mm）、灰色土（層厚11cm）が認められる（図2）。灰色土の上位には水田遺構が認められ、飛行場建設に伴うと推定されている盛土により覆

われている。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色細粒火山灰層（層厚0.2cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚0.4cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚0.1cm）、褐色粗粒軽石（最大径17mm）を含む黄灰色細粒軽石層（層厚1cm, 軽石の最大径2mm）、桃灰色細粒軽石層（層厚2cm, 軽石の最大径2mm）、黄灰色細粒軽石層（層厚3cm, 軽石の最大径2mm）からなる。このテフラ層は、その層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間火山Bテフラ（As-B：荒牧, 1968, 新井, 1979）に同定される。

(3) 南壁埋没谷部

南壁埋没谷部では、下位より灰褐色砂層（層厚15cm以上）、灰色シルト層（層厚5cm）、褐色砂層（層厚10cm）、灰色シルト層（層厚22cm）、灰色粘質土（層厚13cm）、暗灰色粘質土（層厚16cm）、灰色軽石層（層厚7cm, 軽石の最大径9mm）、灰色軽石に富む黒褐色泥炭層（層厚8cm, 軽石の最大径4mm）、黒褐色泥炭層（層厚3cm）、青灰色シルト層（層厚0.2cm）、黒褐色泥炭層（層厚0.1cm）、成層したテフラ層（層厚6cm）、青灰色シルト層（層厚17cm）、層理が発達した灰色砂層（層厚5cm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）、桃灰色シルト層（層厚3cm）、層理が発達した灰色砂層（層厚12cm）、白色軽石混じり灰色粘質土（層厚15cm, 軽石の最大径12mm）、暗灰色粘質土（層厚4cm）が認められる（図3）。

これらの土層のうち、上位の灰色シルト層以下の水成層は、いずれも非常に粒度がそろっており、比較的固結している。本遺跡の位置などを合わせて考慮すると、これらの水成層は、扇状地堆積物の最上部にあり総社砂層（早田, 1990）に続く堆積物と推定される。また成層したテフラ層は、下部の桃褐色細粒火山灰層（層厚2cm）と上部の成層した灰色砂質細粒火山灰層（層厚4cm）からなる。上位の層理が発達した灰色砂層を切って溝が構築されており、この溝は黒色土（層厚6cm以上）により埋没している。また最上位の暗灰色粘質土はAs-Bにより覆われている。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラの特徴とその降灰層準を把握するために、上述3地点において採取された試料のうち、14点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(1) 棟高辻久保遺跡の土層とテフラ

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。北壁では、試料9から試料4にかけてと試料2に、比較的発泡の良い淡褐色軽石(最大径2.5mm)が含まれている。この軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料8と試料6には、さほど発泡の良くない白色軽石(最大径3.1mm)が含まれている。この軽石の斑晶には、角閃石や斜方輝石が含まれている。さらに試料4から試料7にかけての試料では、よく発泡しわずかに灰色がかった白色軽石(最大径2.3mm)がごく少量認められる。この軽石は繊維束状に発泡し、光沢をもつ。軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。軽石の産状から、ここでは試料7付近にわずかに灰色がかった白色軽石の降灰層準のある可能性が考えられる。

西壁では、試料2および試料1に、比較的発泡の良い淡褐色軽石(最大径2.2mm)が比較的多く含まれている。この軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。ほかに、さほど発泡の良くない白色軽石(最大径2.4mm)も少量含まれている。この軽石の斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。さらに、試料1には、よく発泡しわずかに灰色がかった白色軽石(最大径2.3mm)がごく少量認められる。この軽石は繊維束状に発泡し、光沢をもつ。軽石の斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。軽石の産状から、ここでは試料1付近にわずかに灰色がかった白色軽石の降灰層準のある可能性が考えられる。

南壁埋没谷の試料3からは、灰白色軽石(最大径8.7mm)がとくに多く検出される。この軽石はスポンジ状に比較的よく発泡しており、斑晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料2には、軽石は認められなかったものの、斑晶に角閃石が認められる。さらに試料1には、さほど発泡の良くない白色軽石(最大径1.8mm)が少量含まれている。この軽石の斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

テフラ層、テフラの降灰層準、さらに特徴的なテフラ粒子が認められた試料のうち、北壁の試料7と試料2、西壁の試料2、南壁埋没谷の試料5の4点について、温度一定型屈折率測定法(新井, 1972・1993)により屈折率の測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。北壁の試料7に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は、1.516-1.521である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石が含まれている。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.708-1.710である。北壁の試料2に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は、1.520-

1.532(modal range:1.525-1.531)である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石が含まれている。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.707-1.710である。西壁の試料2に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は、1.513-1.520である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量の角閃石が含まれている。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.706-1.710である。南壁埋没谷の試料3に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は、1.515-1.520である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.706-1.710である。

5. 考察

テフラ検出分析により検出された軽石のうち、スポンジ状に比較的よく発泡した灰白色軽石は、その特徴から4世紀中葉*¹に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C:新井, 1979)に由来すると考えられる。産状や含まれるテフラの特徴から、南壁埋没谷部の試料3のテフラ層はAs-Cに同定される。

また、さほど発泡が良くなく、斑晶に角閃石を含む白色軽石は、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA:新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来する可能性が非常に高い。層相を合わせて考慮すると、南壁の成層したテフラ層と、青灰色シルトや灰色砂層を挟んで上位にある桃灰色粗粒火山灰層は、Hr-FAに同定される。この地点では、Hr-FA堆積途中と堆積後にHr-FAに伴う火山泥流(早田, 1989)が堆積したようである。またHr-FAの堆積前にも、洪水堆積物(青灰色シルト層)の堆積が認められる。

比較的よく発泡した淡褐色軽石は、その特徴からAs-Bに同定される。さらに、わずかに灰色がかった白色軽石は、その特徴から1783(天明3)年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A:荒牧, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。

北壁では、試料7付近にAs-Aの降灰層準があるようで、1943(昭和18)年に造成されたと推定されている盛土の層位と矛盾しない。盛り土の試料2に含まれる軽石の多くはAs-Bに由来しており、ほかにAs-CやHr-FAなどに由来するテフラ粒子が混在しているようである。また、盛土の中にブロック状に含まれる黄色や黄灰色の凝灰質砂層には、古墳時代以降の特徴的なテフラ粒子は含まれておらず、層相を合わせると扇状地構成層に由来すると考えられる。

西壁で検出された水田遺構の層位は、As-Bの直下にある。またここでも、1943(昭和18)年に造成されたと推定されている盛土の下位から、わずかながらAs-Aに由来する軽石がごく少量検出された。南壁埋没谷で検出された溝の層位は、Hr-FAの上位で、As-Bの下位にある。

6. 小結

棟高辻久保遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間C軽石 (As-C, 4世紀中葉*)、洪水堆積物、榛名二ツ岳洪川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭)とそれに伴う火山泥流堆積物、浅間Bテフラ (As-B, 1108年)、浅間A軽石 (As-A, 1783年)などを認めることができた。

*1 現在では4世紀を遡るとする説が有力になっているようである (たとえば、若狭, 2000)。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀終末」と考えておくのが妥当なのかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更については、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

文献

新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同一-テフラクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法-研究対象別分析法」, p.138-148.
 荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質。地団研専報, no.45, 65p.
 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
 坂口 一 (1986) 榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.
 早田 勉 (1990) 群馬県の自然と風土。群馬県史通史編, 1, p.37-129.
 若狭 徹 (2000) 群馬の弥生土器が終わるとき。かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く-古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

表1 テフラ検出分析結果

| 地点 | 試料 | 軽石の量 | 軽石の色調 | 軽石の最大径 |
|-------------|----|------|------------|---------------|
| 北壁 | 1 | - | - | - |
| | 2 | ++ | 淡褐>灰白 | 2.5, 3.4 |
| | 3 | - | - | - |
| | 4 | ++ | 淡褐>(灰)白 | 1.7, 3.9 |
| | 5 | ++ | 淡褐>(灰)白 | 1.4, 3.1 |
| | 6 | ++ | 淡褐>白,(灰)白 | 1.3, 3.1, 2.1 |
| | 7 | ++ | 淡褐>灰白,(灰)白 | 2.0, 2.4, 2.1 |
| | 8 | + | 淡褐>白 | 2.0, 1.1 |
| | 9 | ++ | 淡褐 | 1.9 |
| 西壁 | 1 | ++ | 淡褐>白,(灰)白 | 2.1, 2.4, 2.3 |
| | 2 | ++ | 淡褐>灰白, 白 | 2.2, 2.3, 1.8 |
| 南壁 (埋没谷) | 1 | + | 白 | 1.8 |
| | 2 | - | - | - |
| | 3 | ++++ | 灰白 | 8.7 |

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない。最大径の単位は, mm.

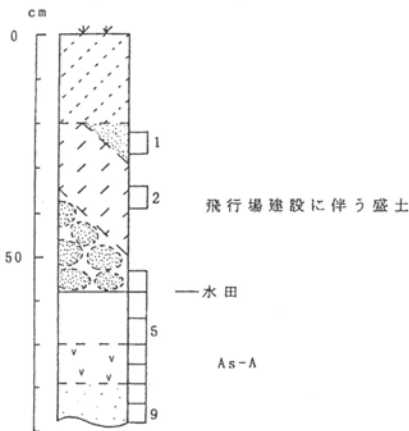


図1 北壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

表2 屈折率測定結果

| 地点 | 試料 | 火山ガラス (n) | 重鉱物 | 斜方輝石 (γ) |
|----------|----|------------------------------|---------------|-------------|
| 北壁 | 2 | 1.520-1.532 (1.525-1.531) | opx>cpx, (ho) | 1.707-1.710 |
| | 7 | 1.516-1.521 | opx>cpx, (ho) | 1.708-1.710 |
| 西壁 | 2 | 1.513-1.520 | opx>cpx, (ho) | 1.706-1.710 |
| 南壁 (埋没谷) | 3 | 1.515-1.520 | opx>cpx | 1.706-1.710 |

屈折率の測定は、温度一定型測定法 (新井, 1972, 1993) による。屈折率の()は, modal rangeを示す。opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 角閃石。()は, 量が少ないことを示す。

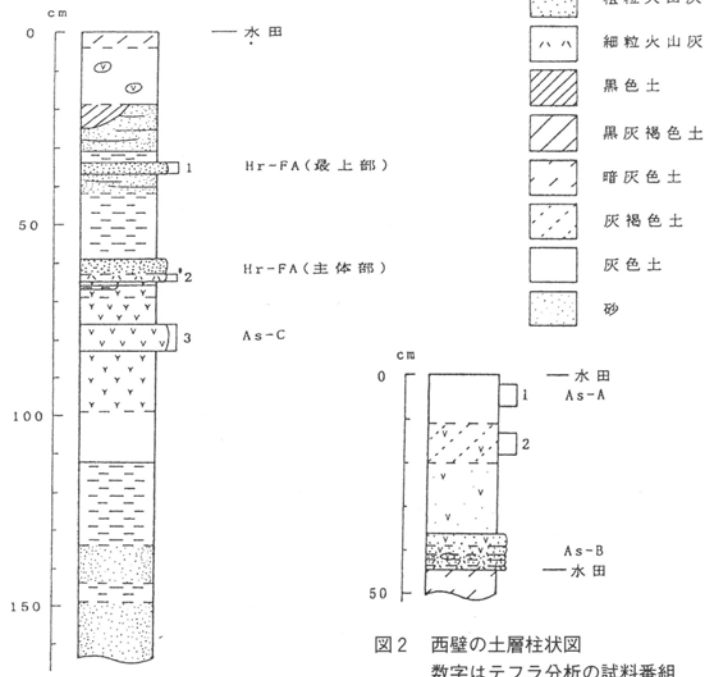


図3 南壁 (埋没谷) の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

図2 西壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

(2) 棟高辻久保遺跡におけるプラント・オパール分析

(2) 棟高辻久保遺跡におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である(杉山, 2000)。

2. 試料

試料は、Ⅲ区北西壁、西壁、南壁(埋没谷部)の3地点から採取された計15点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 鏡検・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94(種実重は1.03)、ヒエ属(ヒエ)は8.40、ヨシ属(ヨシ)は6.31、ススキ属(ススキ)は1.24、タケ亜科(ネザサ節)は0.48である。

4. 分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定お

よび定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 北壁

現表土(試料1)からAs-A直下層(試料4)までの層準について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、試料1については比較的最近の水田耕作に由来するものと考えられる。1943年(昭和18年)とされる盛土直下層(水田検出、試料2)では密度が5,200個/gと高い値であり、As-A混層(試料3)とAs-A直下層(試料4)でも3,000個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

2) 西壁

1943年(昭和18年)とされる盛土直下層(試料1)からAs-B直下層(試料4)までの層準について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、盛土直下層(水田検出、試料1)、As-A直下層(試料2)、As-B直上層(試料3)では密度が4,500~5,200個/gと高い値であり、As-B直下層(水田検出、試料4)でも3,000個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では、稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

3) 南壁(埋没谷)

As-B直下層(水田検出、試料1)からAs-C直下層(試料6')までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)とその下位層(試料2、3)からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料1)とその下層(試料2)では密度が4,500個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。試料3では、密度が1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが

第9章 自然科学分析

考えられる。

(2) オオムギ族について

北壁の盛土直下層(試料2)、西壁の盛土直下層(試料1)、南壁(埋没谷)のAs-B直下層(試料1)では、オオムギ族(穎の表皮細胞)が検出された。ここで検出されたのは、ムギ類(コムギやオオムギ)と見られる形態のものである(杉山・石井, 1989)。密度は700~800個/gと低い値であるが、穎(籾殻)は栽培地に残されることがまれであることから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要はある。したがって、これらの層の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

(3) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。おもな分類群の推定生産量によると、As-Bより下位ではヨシ属が優勢であり、とくにHr-FAより下位ではヨシ属が圧倒的に卓越していることが分かる。

以上のことから、稲作が開始される以前の調査区周辺は、ヨシ属などが繁茂する湿地の環境であったと考えられ、Hr-FAより上層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたと推定される。なお、稲作の開始以降もヨシ属が比較的多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育してい

たことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたことが想定される。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、水田遺構が検出された1943年(昭和18年)とされる盛土直下層および浅間Bテフラ(As-B, 1108年)直下層からはイネが多量に検出され、これらの層で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、浅間A軽石(As-A, 1783年)直下層などでも、稲作が行われていた可能性が認められた。さらに、盛土直下層やAs-B直下層ではムギ類が栽培されていた可能性も認められた。

調査区周辺は、稲作が開始される以前はヨシ属などが繁茂する湿地の環境であったと考えられ、榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)より上層の時期にそこを利用して水田稲作が開始されたと推定される。

文献

杉山真二(2000)植物珪酸体(プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
 杉山真二・石井克己(1989)群馬県子持村、FP直下から検出された灰化物の植物珪酸体(プラント・オパール)分析. 日本第四紀学会要旨集, 19, p.94-95.
 藤原宏志(1976)プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 -. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
 藤原宏志・杉山真二(1984)プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) - プラント・オパール分析による水田址の探査 -. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

表1 棟高辻久保遺跡におけるプラント・オパール分析結果

| 検出密度 (単位: ×100個/g) | | 北壁 | | | | 西壁 | | | |
|--------------------|-------------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 分類群 | 学名 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| イネ | <i>Oryza sativa</i> (domestic rice) | 52 | 52 | 30 | 30 | 45 | 45 | 52 | 30 |
| ヨシ属 | <i>Phragmites</i> (reed) | 7 | | 7 | | 7 | | | 23 |
| ススキ属型 | <i>Miscanthus</i> type | 30 | 15 | | 7 | 15 | 7 | | 15 |
| タケ亜科 | Bambusoideae (Bamboo) | 52 | 22 | 22 | 30 | 67 | 22 | 37 | 30 |
| オオムギ族(穎の表皮細胞) | Wheat husk Phytolith | | 7 | | | 7 | | | |

| 推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-----------------------------------|-------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| イネ | <i>Oryza sativa</i> (domestic rice) | 1.54 | 1.54 | 0.88 | 0.88 | 1.32 | 1.32 | 1.54 | 0.89 |
| ヨシ属 | <i>Phragmites</i> (reed) | 0.47 | | 0.47 | | 0.47 | | | 1.43 |
| ススキ属型 | <i>Miscanthus</i> type | 0.37 | 0.19 | | 0.09 | 0.19 | 0.09 | | 0.19 |
| タケ亜科 | Bambusoideae (Bamboo) | 0.25 | 0.11 | 0.11 | 0.14 | 0.32 | 0.11 | 0.18 | 0.14 |

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

| 検出密度 (単位: ×100個/g) | | 南壁(埋没谷) | | | | | | |
|--------------------|-------------------------------------|---------|----|----|----|----|-----|----|
| 分類群 | 学名 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 6' |
| イネ | <i>Oryza sativa</i> (domestic rice) | 45 | 45 | 15 | | | | |
| ヨシ属 | <i>Phragmites</i> (reed) | 15 | 15 | 30 | 38 | 98 | 75 | 61 |
| ススキ属型 | <i>Miscanthus</i> type | 23 | | 30 | | 23 | 15 | 15 |
| タケ亜科 | Bambusoideae (Bamboo) | 38 | 30 | 45 | 53 | 15 | 113 | 23 |
| オオムギ族(穎の表皮細胞) | Wheat husk Phytolith | | 8 | | | | | |

| 推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 6' |
|-----------------------------------|-------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|
| イネ | <i>Oryza sativa</i> (domestic rice) | 1.33 | 1.32 | 0.44 | | | | |
| ヨシ属 | <i>Phragmites</i> (reed) | 0.95 | 0.94 | 1.90 | 2.37 | 6.18 | 4.75 | 3.82 |
| ススキ属型 | <i>Miscanthus</i> type | 0.28 | | 0.37 | | 0.28 | 0.19 | 0.19 |
| タケ亜科 | Bambusoideae (Bamboo) | 0.18 | 0.14 | 0.22 | 0.25 | 0.07 | 0.54 | 0.11 |

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

(2) 棟高辻久保遺跡におけるプラント・オパール分析

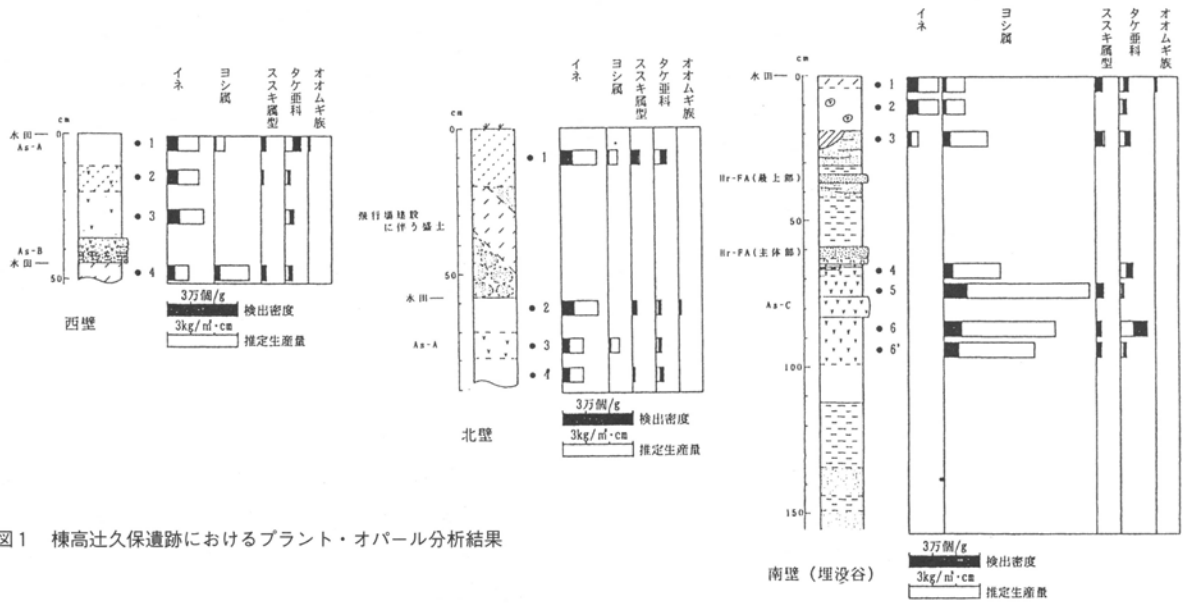
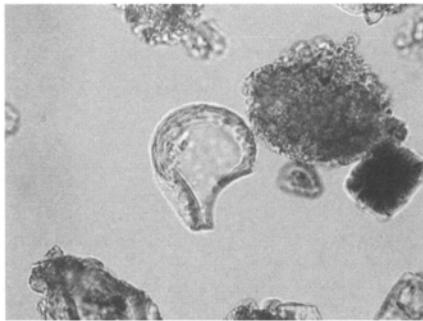


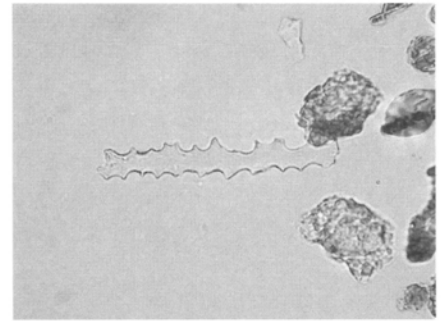
図1 棟高辻久保遺跡におけるプラント・オパール分析結果



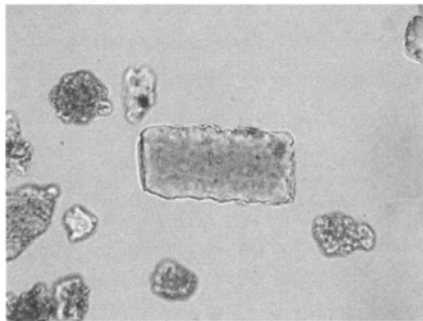
イネ
西壁 1



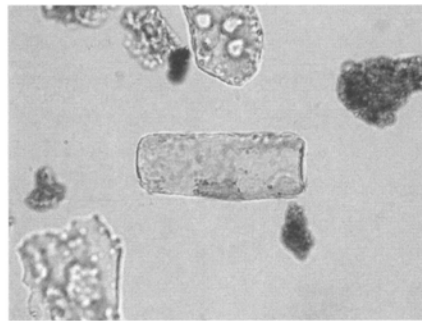
イネ
西壁 3



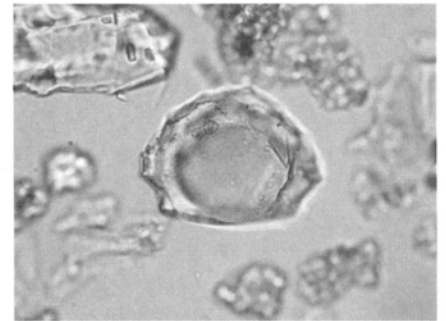
オオムギ族(穎の表皮細胞)
西壁 1



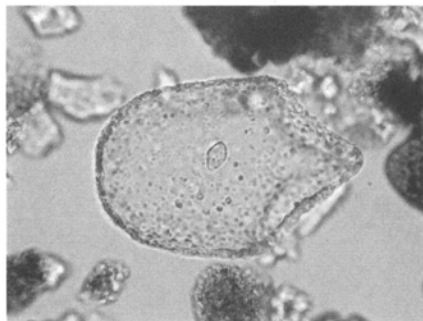
キビ族型
西壁 3



キビ族型
南壁 4



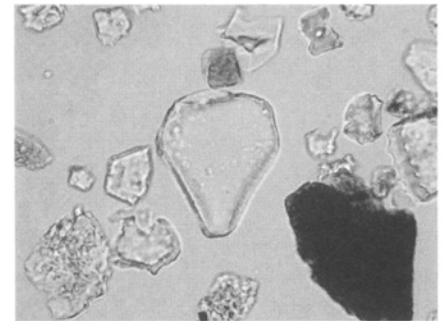
ジュズダマ属型
南壁 5



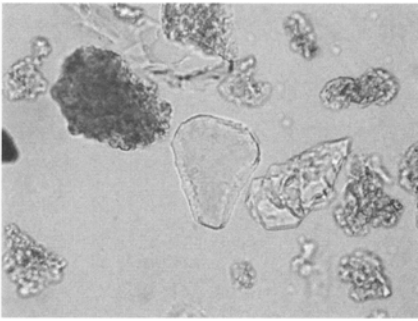
ヨシ属
北壁 1



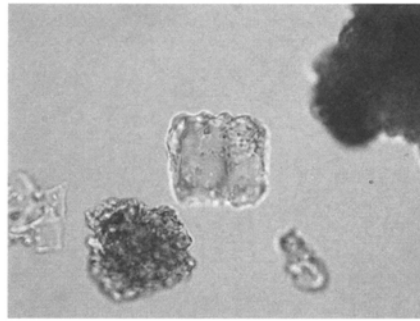
ヨシ属
南壁 6



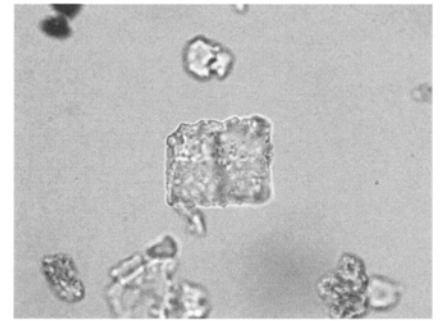
ススキ属型
北壁 1



ススキ属型
南壁 6



ネザサ節型
南壁 2



ネザサ節型
南壁 6

(3) 棟高辻久保遺跡出土木製品の樹種

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

棟高辻久保遺跡は、榛名山南東麓の相馬ヶ原扇状地上に位置する。早田・能登(1990)によれば、この扇状地は後期更新世後半に相馬山の一部が崩壊した岩屑なだれ後に山麓に形成したものとされる。ただし、早田・能登(1990)の付図では本遺跡周辺には扇状地を開析する谷は表示されていないが、発掘調査の結果では南北に伸びる小谷が認められている。谷部では、奈良～平安時代の住居跡や水田跡等が検出されている。また、当地点は、旧日本陸軍前橋飛行場が建設された場所であることから、トロッコの枕木跡や埋立て前の水田跡等や第二次世界大戦中の飛行場関連の遺物や生活道具・医薬品類などが確認されている。

本報告では、昭和の水田跡に伴う水路や暗渠等から出土している木材、および、木製の生活道具(下駄・曲物)等の木質遺物の樹種同定を行い、木材の用材選択に関する資料を得る。

1. 試料

試料は、出土した木製品40点(試料番号1～40)である。各木製品から5mm角程度の木片を採取して試料とした。

2. 方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ゴム・クロラール(抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹4種類(マ

ツ属複維管束亜属・モミ属・スギ・ヒノキ)と広葉樹4種類(ハンノキ属ハンノキ亜属・アサダ・クリ・ケヤキ)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・マツ属単維管束亜属(*Pinus subgen. Haploxyylon*) マツ科
軸方向組織は仮道管を主とし、早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。分野壁孔は窓状となり、1分野に1個。放射仮道管内壁は滑らか。放射組織は単列、1～15細胞高。

・モミ属(*Abies*) マツ科

事項方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・スギ(*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は早材部の終わりから晩材部にかけて認められるが、顕著ではない。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属(*Alnus subgen. Alnus*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2～4個が放射方向に複合して散在し、分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1～30細胞高。板目面では明確ではないが、木口面で集合放射組織が認められる。

(3) 棟高辻久保遺跡出土木製品の樹種

・アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.) カバノキ科アサダ属

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2~4個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1~3細胞幅、1~30細胞高。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1~4列、孔圏外で急激~やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部はやや疎な1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1~10細胞幅、1~60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

4. 考察

棟高辻久保遺跡の出土木材は、排水路の杭や板材等の土木材と、下駄や曲物等の木製品とに大別される。土木材では、複維管束亜属(ニヨウマツ類)とクリが多く、他にアサダが1点認められる。複維管束亜属は、松脂を多く含み、比較的耐水性が高い。また、クリは、強度や耐朽性に優れた材質を有する。いずれも土木材としては適材といえる。遺構毎の樹種同定結果を見ると、2号水路の杭では、マツ属複維管束亜属・クリ・アサダの3種類が混在している。一方、8号排水路の杭はすべて複維管束亜属、10号排水路の板は全点がクリに同定され、特定の種類のみのみ認められている。とくに10号排水路では複維管束亜属よりも加工が困難なクリが板材に利用されており、さらに1号土坑においてもクリと複維管束亜属が杭や板に利用されている。したがって、杭材・板材といった用材による樹種の選択性は認められないものの、遺構毎に木材利用の違いが認められるといえる。このことは、遺構の用途や構築時に入手された木材の違いを反映している可能性がある。

木製品では、曲物の底板?にスギとモミ属、側板にヒノキ、下駄にスギとハンノキ亜属、滑車?にケヤキが認められた。

農商務省山林局(1912)によれば、曲物に利用する木材としてスギ、ヒノキ、モミの3種類が挙げられており、スギを主としてヒノキなどは高価なためにあまり用いられないとされる。このことは、今回の樹種同定結果と調和的である。これらの種類は、木理が直通で加工が容易であり、特に割裂性を利用して薄い板を得ることができるため、こうした材質が木材利用の背景に考えられる。

今回、分析を行った下駄は、いずれも台と歯を一木でつくる連歯下駄であった。下駄の分類については、市田(1992)によれば、試料番号5がI-1-A類、試料番号4と6がI-5-B類となる。台表の形状は、試料番号5が丸みを帯びた長方形、試料番号4と6が楕円形である。木取りは、試料番号4が台表が柾目となる木取りで、試料番号5と6は台表が板目となる木取りである。I-1-A類の下駄については、東京都でも多くの樹種同定が行われているが、針葉樹と広葉樹が混在し、様々な樹種が確認されている(高橋, 1995; 松葉, 1997a, 1997b; パリノ・サーヴェイ株式会社, 1997)。これらの樹種の違いは、利用者の身分や年齢、性別や利用目的等を反映している可能性が指摘されている(田中, 1990; 高橋, 1995; パリノ・サーヴェイ株式会社, 1997)。今回の場合もその可能性があるが、さらに分析例を蓄積し検討したい。

I-5-B類は、「のめり」があることから、つま先で地面を付けて歩きやすくなるように設計されており、江戸時代中期以降に出現するとされる(秋田, 2002)。試料番号4・6の2点は、いずれもスギであることから、スギが選択的に

表1 樹種同定結果

| 番号 | 地区 | 遺構 | 取上番号 | 用途 | 樹種 | |
|----|--------|--------|-------|-------|-------------|----|
| 1 | I区 | 10号土坑 | 木器3 | 曲物底板? | スギ | |
| 2 | I区 | 10号土坑 | 木器4 | 曲物側板 | ヒノキ | |
| 3 | I区 | 10号土坑 | 木器4 | 曲物側板 | ヒノキ | |
| 4 | IV-2区 | 6号水路 | W-2 | 下駄 | スギ | |
| 5 | II区 | 1号水路 | 木器2 | 下駄 | ハンノキ属ハンノキ亜属 | |
| 6 | III-1区 | 2号水路 | ⑥/2面 | げた | 下駄 | スギ |
| 7 | II区 | 1号水路 | 木器 | 滑車? | ケヤキ | |
| 8 | II区 | 1号水路 | 木器 | 曲物底板? | モミ属 | |
| 9 | III-1区 | 2号水路 | No.1 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 10 | III-1区 | 2号水路 | No.2 | 杭 | クリ | |
| 11 | III-1区 | 2号水路 | No.3 | 杭 | アサダ | |
| 12 | III-1区 | 3号水路 | No.2 | 杭 | クリ | |
| 13 | III-2区 | 8号排水路 | No.1 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 14 | III-2区 | 8号排水路 | No.2 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 15 | III-2区 | 8号排水路 | No.3 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 16 | III-2区 | 8号排水路 | No.4 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 17 | III-2区 | 8号排水路 | No.5 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 18 | III-2区 | 8号排水路 | No.6 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 19 | III-2区 | 8号排水路 | No.7 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 20 | III-2区 | 8号排水路 | No.8 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 21 | III-2区 | 8号排水路 | No.9 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 22 | III-2区 | 8号排水路 | No.10 | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 23 | III-2区 | 10号排水路 | No.1 | 板材 | クリ | |
| 24 | III-2区 | 10号排水路 | No.2 | 板材 | クリ | |
| 25 | III-2区 | 10号排水路 | No.3 | 板材 | クリ | |
| 26 | III-2区 | 10号排水路 | No.4 | 板材 | クリ | |
| 27 | III-2区 | 10号排水路 | No.5 | 板材 | クリ | |
| 28 | III-2区 | 10号排水路 | No.6 | 板材 | クリ | |
| 29 | III-2区 | 10号排水路 | No.7 | 板材 | クリ | |
| 30 | IV-2区 | 12号水路 | 木器-1 | 木器 | マツ属複維管束亜属 | |
| 31 | III-2区 | 1号土坑 | No.9 | 板 | クリ | |
| 32 | III-2区 | 1号土坑 | No.3 | 板 | マツ属複維管束亜属 | |
| 33 | III-2区 | 1号土坑 | No.11 | | クリ | |
| 34 | III-2区 | 8号排水路 | B | 杭? | マツ属複維管束亜属 | |
| 35 | III-2区 | 14号排水路 | B | | スギ | |
| 36 | III-2区 | 1号土坑 | No.15 | | マツ属複維管束亜属 | |
| 37 | III-2区 | 1号土坑 | No.10 | | マツ属複維管束亜属 | |
| 38 | III-2区 | 1号土坑 | No.5 | | マツ属複維管束亜属 | |
| 39 | III-2区 | 9号排水路 | A | 杭 | マツ属複維管束亜属 | |
| 40 | III-1区 | 5号水路 | No.1 | 杭 | クリ | |

第9章 自然科学分析

利用されていた可能性がある。

滑車に使用されているケヤキは、重硬で強度が高く、耐朽性も比較的高い。使用時の摩擦や重量などに耐えうる木材としてケヤキが選択された可能性がある。

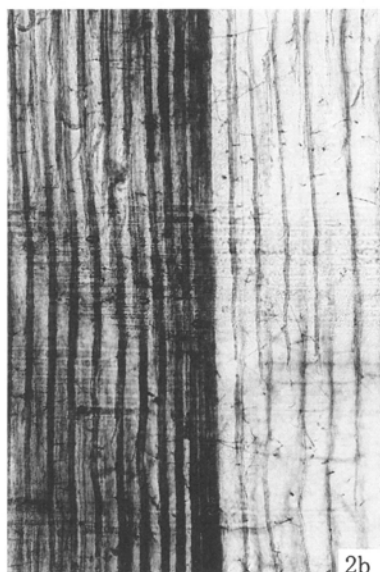
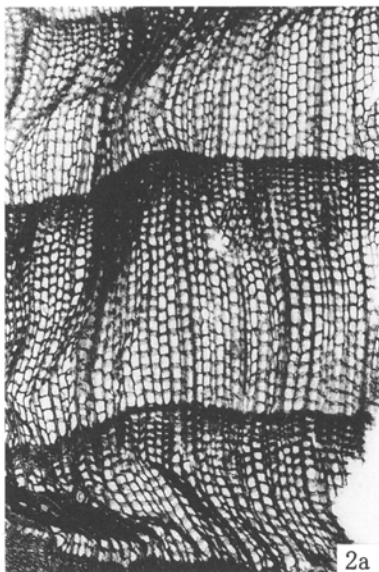
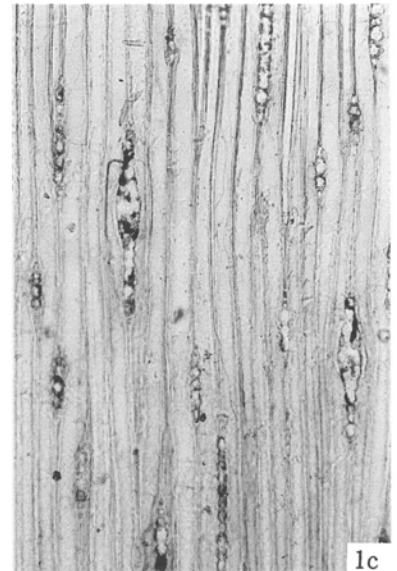
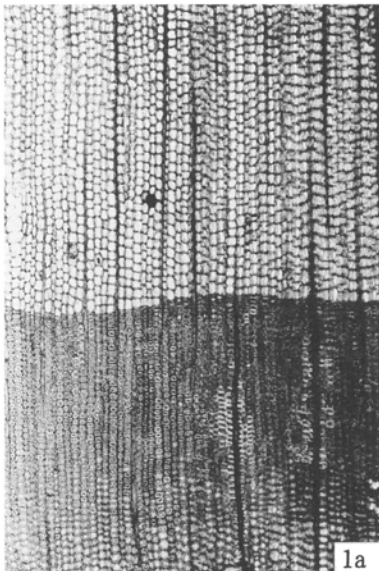
今回分析を行った棟高辻久保遺跡から出土した木製品については、当該期の出土例や分析事例が少ない。そのため、今後は同時期の木材利用に関する資料を蓄積し、改めて評価したいと考える。

引用文献

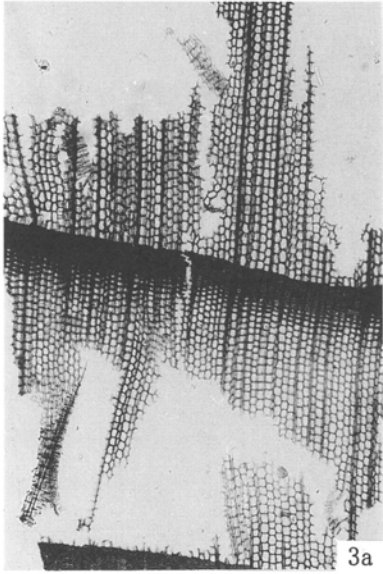
- 秋田裕毅 (2002) 下駄 神のはきもの (ものと人間の文化史104). 295p., 法政大学出版社.
 市田京子 (1992) 江戸時代の下駄. 江戸遺跡研究会第5回大会 考古学と江戸文化 発表要旨, p.237- 255.
 松葉礼子 (1997a) 溜池遺跡出土木製品の樹種同定. 「一地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡発掘調査報告書7-2- 溜池遺跡

- 第Ⅱ分冊」, p.1-30, 帝都高速度交通営団・地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会.
 松葉礼子 (1997b) 江東橋二丁目遺跡出土木製品の樹種同定. 「東京都墨田区江東橋二丁目遺跡 一生涯職業能力開発促進センター建設に伴う緊急発掘調査報告書一」, p.331-338, 雇用促進事業団・墨田区江東橋二丁目遺跡調査団.
 農商務省山林局編 (1912) 木材ノ工藝的利用. 1308p., 大日本山林會.
 バリノ・サーヴェイ株式会社 (1997) 木製品の用材と製作方法. 「東京都渋谷区 千駄ヶ谷五丁目遺跡 一新宿新南口RCビル (高島屋タイムズスクエアほか) の建設事業に伴う緊急発掘調査報告書一 本文 編 (第Ⅰ分冊)」, p.326-366, 千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会.
 早田 勉・能登 健 (1990) 前橋台地と広瀬川低地帯. 群馬県史編さん委員会編「群馬県史 通史編1 原始古代1」, p.98-110, 群馬県.
 高橋 敦 (1995) 木製品の樹種について. 「飯田町遺跡」, p.419-420, 飯田町遺跡調査会.
 田中真貴 (1990) 木製品. 「白鷗2」, p.134-144, 都立学校遺跡調査会.

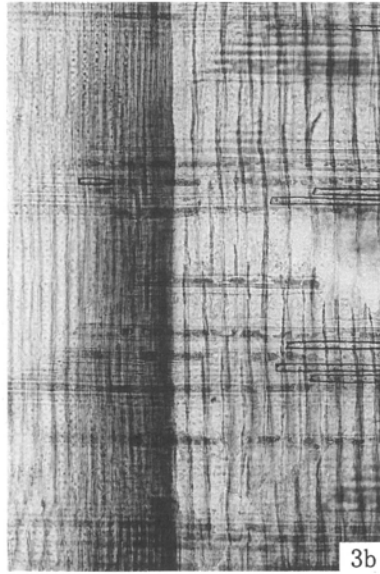
図版1 木材(1)



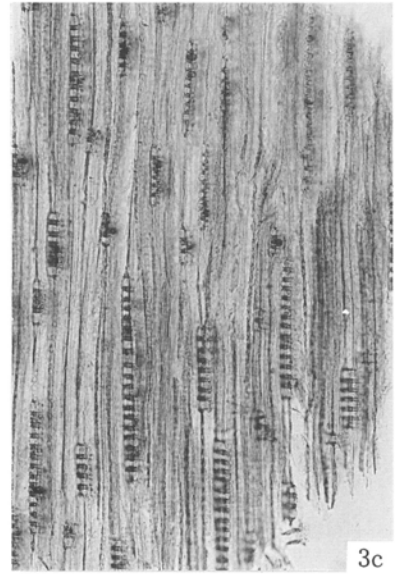
(3) 棟高辻久保遺跡出土木製品の樹種



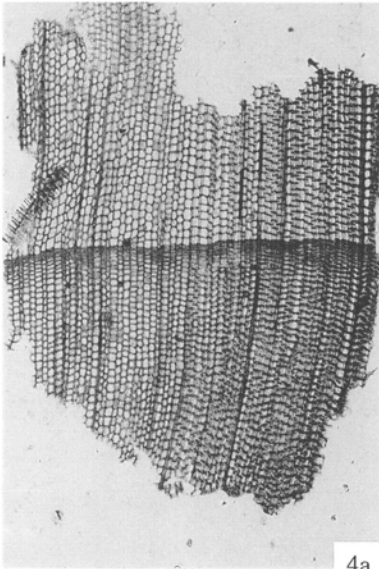
3a



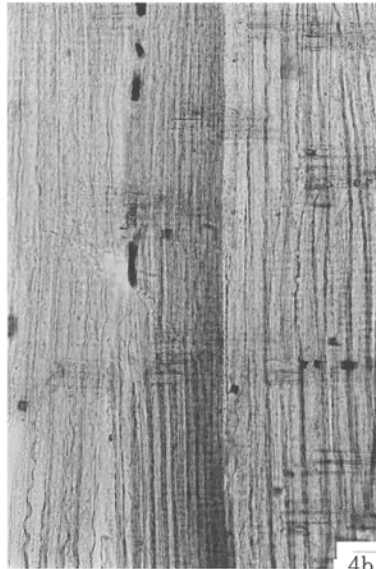
3b



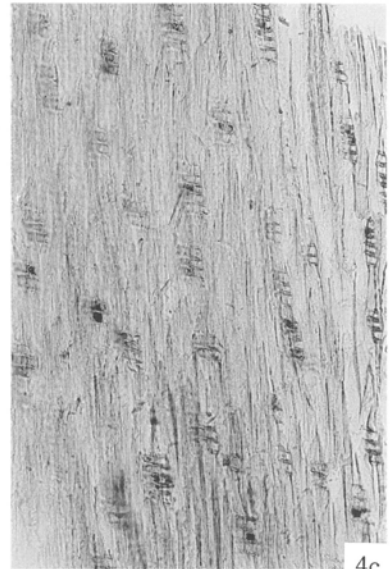
3c



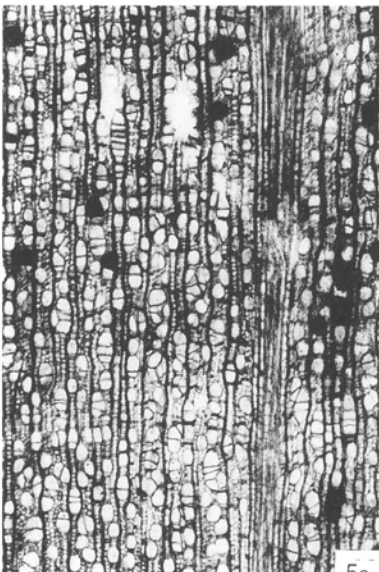
4a



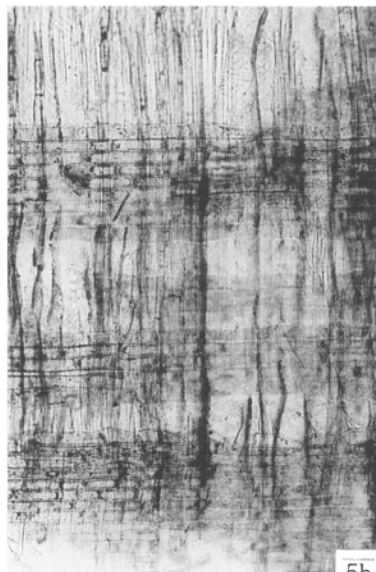
4b



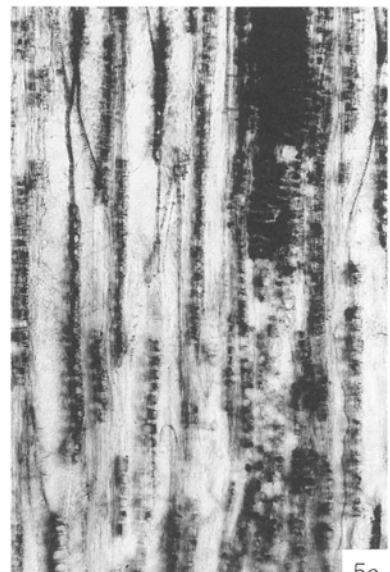
4c



5a



5b



5c

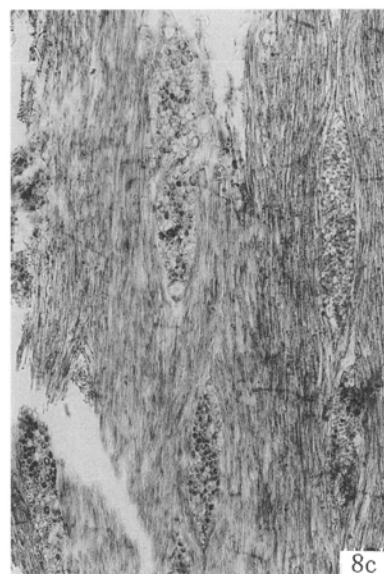
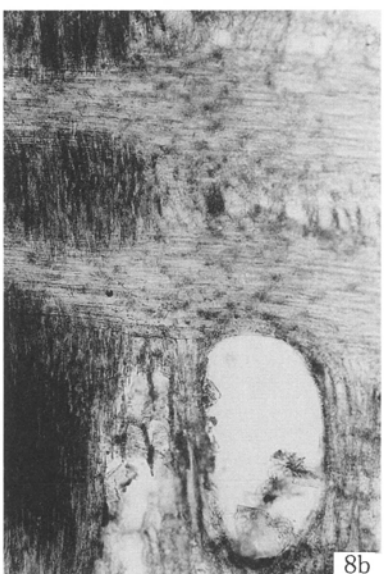
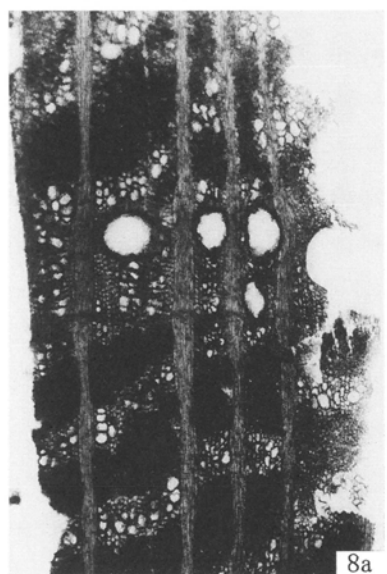
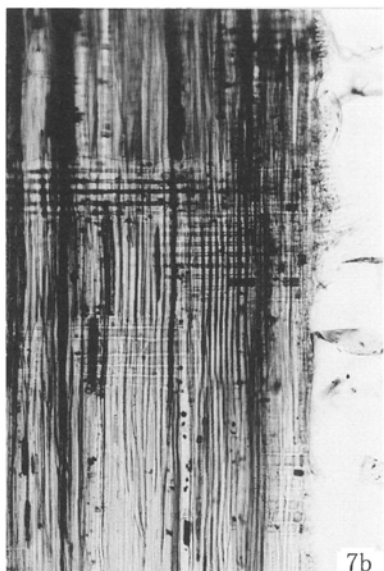
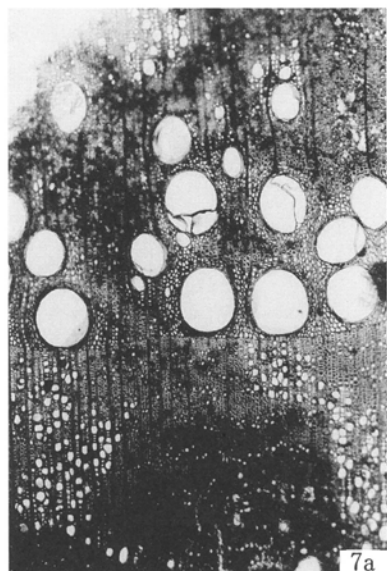
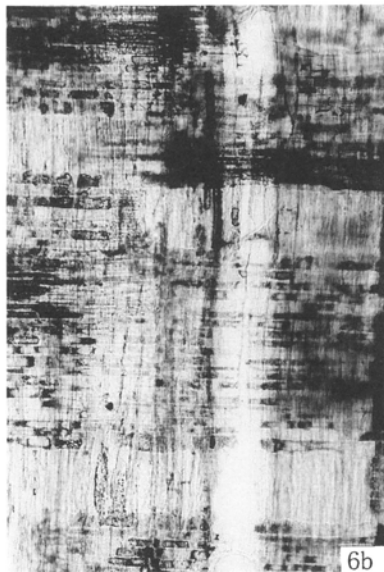
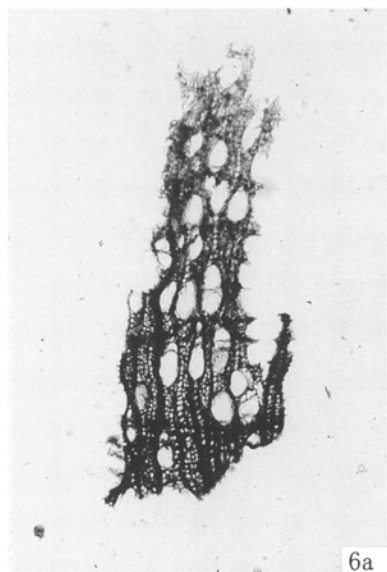
- 1. マツ属複維管束亜属 (試料番号22)
- 2. モミ属 (試料番号8)
- 3. スギ (試料番号1)

- 4. ヒノキ (試料番号2)
- 5. ハンノキ属ハンノキ亜属 (試料番号5)

200 μ m: a

200 μ m: b, c

a : 木口, b : 柁目, c : 板目



6. アサダ (試料番号11)

7. クリ (試料番号27)

8. ケヤキ (試料番号7)

a : 木口, b : 柁目, c : 板目

200 μ m : a
200 μ m : b, c

(4) 棟高辻久保遺跡の火山灰分析

(4) 棟高辻久保遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県中央部とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な堅穴住居跡が検出された棟高辻久保遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった堅穴住居跡は、Ⅵ区検出の79号住居跡と82号住居跡である。

2. 土層の層序

(1) 79号住居跡中・西部

79号住居跡中・西部では、床面の上位に、下位より灰色軽石層（層厚9cm、軽石の最大径11mm）、灰色軽石を多く含む暗灰褐色土（層厚18cm、軽石の最大径6mm）、灰色軽石混じり黒灰色土（層厚19cm、軽石の最大径8mm）、灰色軽石を比較的多く含む暗灰色土（層厚20cm、軽石の最大径7mm）、成層したテフラ層（層厚10.1cm）、白色粗粒火山灰混じり暗灰色土（層厚9cm）、白色粗粒火山灰を比較的多く含む灰色土（層厚7cm）が認められる（図1）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より褐色細粒火山灰層（層厚3cm）、逆級化構造をもつ灰色粗粒火山灰層（層厚1.2cm）、灰色細粒火山灰層（層厚1.1cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚0.2cm）、灰色細粒火山灰層（層厚0.6cm）、かすかに成層した黄灰色砂質細粒火山灰層（層厚4cm）からなる。

なお、壁面に近い西部では床面の上位で灰色軽石層の下位に、下位より暗褐色土（層厚9cm）と黒灰褐色土（層厚10cm）の堆積が認められた。

(2) 79号住居跡東部

壁面に近い79号住居跡東部では、床面の上位に下位より黄色シルトブロック混じり灰色土（層厚4cm）、褐色土（層厚3cm）、暗灰褐色土（層厚11cm）、灰色軽石層（層厚8cm、軽石の最大径19mm）、灰色土混じり灰色軽石層（層厚7cm、

(3) 82号住居跡中央部

82号住居跡中央部では、床面の上位に、下位より灰色軽石層（層厚7cm、軽石の最大径10mm）、灰色軽石に富む暗灰色土（層厚14cm、軽石の最大径9mm）、灰色軽石混じり黒灰色土（層厚15cm、軽石の最大径9mm）、灰色軽石を比較的多く含む暗灰色土（層厚14cm、軽石の最大径13mm）、灰色土（層厚2cm）、成層したテフラ層（層厚7.6cm）、灰色土（層厚4cm）、白色粗粒火山灰混じり灰色土（層厚7cm）が認められる（図3）。これらのうち、成層したテフラ層は、下位より褐色細粒火山灰層（層厚2cm）、逆級化構造をもつ灰色粗粒火山灰層（層厚1.8cm）、灰色細粒火山灰層（層厚0.8cm）、かすかに成層した灰色砂質細粒火山灰層（層厚7cm）からなる。

(4) 82号住居跡東部

壁面に近い82号住居跡東部では、床面の上位に、下位より黒灰褐色土（層厚8cm）、黄色シルトブロック混じり暗灰褐色土（層厚6cm）、黒褐色土（層厚5cm）、灰色軽石層（層厚6cm、軽石の最大径23mm）、灰色土や砂を含む灰色軽石層（層厚6cm、軽石の最大径11mm）、灰色軽石に富む暗灰色土（層厚15cm、軽石の最大径12mm）が認められる（図4）。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラの特徴とその降灰層準を把握するために、79号住居跡中・西部および東部と82号住居跡の中央部および東部の4地点において、基本的に厚さ5cmごとに設定採取された試料のうち、31点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を、表1に示す。79号住居跡中・西部では、試料4を除くいずれの試料からもスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径15.2mm）が検出された。この軽石は、軽石層の試料19にとくに多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料23や試料21にも、この軽石が少量認められる。また試料4には、細粒の白色軽石（最大径1.8mm）が少量含まれている。この

第9章 自然科学分析

軽石の班晶としては、角閃石や斜方輝石が認められる。さらに試料3や試料1には、さほど発泡が良くない白色軽石（最大径2.1mm）が認められる。この軽石の班晶にも、角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、試料1により多く認められる。なおこの地点では、試料11より上位の試料で角閃石が認められる。

79号住居跡の東部では、試料3や試料1にスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径9.9mm）がとくに多く含まれている。この軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

82号住居跡の中央部では、試料3を除くいずれの試料からもスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径13.9mm）が検出された。この軽石は、軽石層の試料15にとくに多く含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料3には、細粒の白色軽石（最大径1.3mm）が少量含まれている。この軽石の班晶としては、角閃石や斜方輝石が認められる。さらに、試料3や試料1には、さほど発泡が良くない白色軽石（最大径2.1mm）が認められる。この軽石の班晶にも、角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、上位の試料1により多く認められる。

82号住居跡の東部では、試料6と試料3より上位で、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径9.9mm）が認められる。軽石層である試料2にとくに多くの軽石が含まれている。この軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

79号住居跡中・西部において、灰色軽石層の下位にある試料23、灰色軽石層（試料19）、角閃石が検出しはじめる試料11、成層したテフラ層（試料4）、白色粗粒火山灰が比較的多く含まれる試料1の5点について、温度一定型屈折率測定法（新井，1972・1993）によりテフラ粒子の屈折率測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を、表2に示す。試料23、19、11に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は、いずれも1.515-1.520である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.706-1.710である。試料4には、重鉱物として斜方輝石や角閃石のほか、少量の単斜輝石が認められる。斜方輝石（ γ ）と角閃石（ n_2 ）の屈折率は、1.706-1.710と1.672-1.680（modal range: 1.672-1.677）である。試料1に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は、1.502-1.503である。重鉱物としては、斜方輝石のほか角閃石や単斜輝石が認められる。斜方輝石（ γ ）と角閃石（ n_2 ）の屈折率は、

各々1.706-1.710と1.672-1.677である。

5. 考察

79号住居跡中・西部の灰色軽石層（試料19）は、層相、含まれる軽石の岩相、重鉱物の組合せ、さらに火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、4世紀中葉*1に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C：荒牧，1968，新井，1979）と考えられる。また79号住居跡中央部の成層したテフラ層（試料4）は、層相や含まれる軽石の岩相、重鉱物の組合せ、さらに火山ガラス、斜方輝石、角閃石の屈折率などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA：新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992）に同定される。したがって、ほかの地点で認められた灰色軽石層と成層した火山灰層についても、各々As-CとHr-FAに同定される。以上のことから、79号住居跡および82号住居跡ともに、As-Cより下位にあると考えられる。

なお79号住居跡中・西部や82号住居跡東部では、As-Cに同定される灰色軽石層の下位からAs-C起源と考えられる軽石が検出された。しかしながらその量は少なく、細粒で、何らかの作用により上位より混入した可能性が高いと思われる。これらの住居跡の中央部では、床面直上にAs-Cが認められるものの、壁面のそばではより下位の土層が認められる。またAs-Cより下位の構築物の存在を示すような堆積構造がAs-Cに認められないことも合わせて考慮すると、これらの住居跡の廃棄時期については、As-C降灰をかなり遡る可能性も指摘されるのかも知れない。

79号住居跡中・西部の試料1に含まれる軽石については、Hr-FAの可能性もあるものの、層位や角閃石の屈折率などから、6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名伊香保二ツ岳軽石（Hr-FP：新井，1962，坂口，1986，早田，1989）に由来する可能性が考えられる。

6. まとめ

棟高辻久保遺跡において地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、浅間C軽石（As-C，4世紀中葉*2）、榛名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA，6世紀初頭）のほか、榛名有馬火山灰（Hr-AA，5世紀）や榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP，6世紀中葉）に由来する可能性のあるテフラを検出することができた。本遺跡で検出された79号住居跡や82号住居跡については、As-Cより下位にある可能性が高いと推定される。

*1 現在では4世紀を遡るとする説が有力になっているようである（たとえば、若狭，2000）。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀終末」と考えておくのが妥当な

(4) 棟高辻久保遺跡の火山灰分析

のかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更にについては、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

文献

新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148.
 荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質. 地団研専報, 14, 45p.

町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ—. 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
 坂口 一 (1986) 榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
 若狭 徹 (2000) 群馬の弥生土器が終わるとき. かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

表1 テフラ検出分析結果

| 住居址 | 地点 | 試料 | 軽石・スコリア | | |
|-----|------|----|---------|-------|----------|
| | | | 量 | 色調 | 最大径 |
| 79号 | 中・西部 | 1 | ++ | 白, 灰白 | 1.9, 3.8 |
| | | 3 | ++ | 灰白, 白 | 3.2, 2.1 |
| | | 4 | + | 白 | 1.8 |
| | | 7 | ++ | 灰白 | 9.1 |
| | | 9 | ++ | 灰白 | 6.1 |
| | | 11 | +++ | 灰白 | 6.7 |
| | | 13 | +++ | 灰白 | 9.8 |
| | | 15 | +++ | 灰白 | 15.2 |
| | | 17 | ++ | 灰白 | 10.1 |
| | | 19 | +++ | 灰白 | 10.8 |
| 21 | + | 灰白 | 2.1 | | |
| 23 | + | 灰白 | 2.2 | | |
| 79号 | 東部 | 1 | +++ | 灰白 | 9.9 |
| | | 3 | +++ | 灰白 | 8.3 |
| | | 5 | - | - | - |
| | | 7 | - | - | - |
| 82号 | 中央部 | 1 | ++ | 白, 灰白 | 1.9, 3.8 |
| | | 2 | ++ | 灰白, 白 | 3.4, 2.1 |
| | | 3 | + | 白 | 1.3 |
| | | 5 | ++ | 灰白 | 7.2 |
| | | 7 | ++ | 灰白 | 7.9 |
| | | 9 | ++ | 灰白 | 5.2 |
| 11 | + | 灰白 | 7.1 | | |
| 13 | +++ | 灰白 | 8.2 | | |
| 15 | +++ | 灰白 | 13.9 | | |
| 82号 | 東部 | 1 | +++ | 灰白 | 6.2 |
| | | 2 | +++ | 灰白 | 9.9 |
| | | 3 | ++ | 灰白 | 2.4 |
| | | 4 | - | - | - |
| 6 | + | 灰白 | 2.2 | | |

+++ : とくに多い, ++ : 多い, + : 中程度, - : 少ない, - : 認められない. 最大径の単位は, mm.

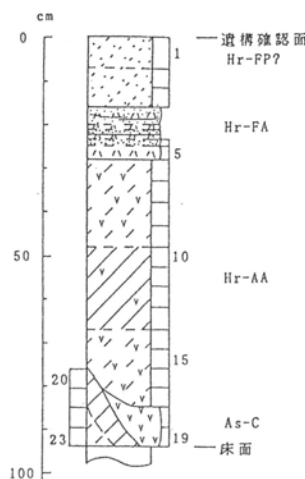


図1 79号住居跡中・西部の土層柱状図
図数字はテフラ分析の試料番号

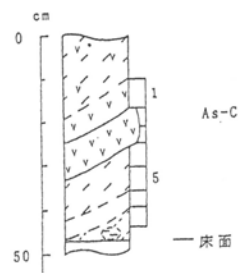


図2 79号住居跡東部の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

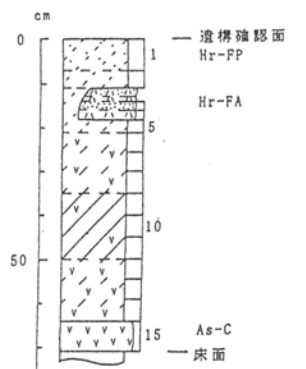


図3 82号住居跡中央部の土層柱状図
図数字はテフラ分析の試料番号

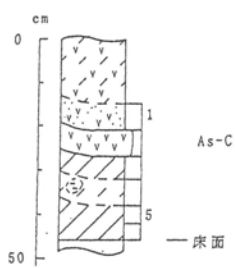


図4 82号住居跡東部の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

- 軽石
- 粗粒火山灰
- 細粒火山灰
- 黒灰褐色土
- 暗灰褐色土
- 灰色土
- 褐色土
- シルト

表2 79号住居跡中・四部における屈折率測定結果

| 試料 | 火山ガラス (n) | 珪酸物 | 斜方輝石 (γ) | 角閃石 (α) |
|----|-------------|---------------|-------------|---------------------------|
| 1 | 1.502-1.503 | opx>ho, cpx | 1.706-1.710 | 1.672-1.677 |
| 4 | 1.515-1.520 | opx>ho, (cpx) | 1.706-1.710 | 1.672-1.680 (1.672-1.677) |
| 11 | 1.515-1.520 | opx>cpx | 1.706-1.710 | - |
| 19 | 1.515-1.520 | opx>cpx | 1.706-1.710 | - |
| 23 | 1.515-1.520 | opx>cpx | 1.706-1.710 | - |

屈折率は温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)による。()は, modal rangeを示す。opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 単斜輝石。珪酸物の () は, 量が少ないことを示す。

(5) 棟高辻久保遺跡出土人骨

植崎修一郎

はじめに

棟高辻久保遺跡は、群馬県高崎市引間町及び同棟高町に所在する。西毛広域幹線建設に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成12(2000)年～平成15(2003)年にかけて行われた。本遺跡は、0区～Ⅶ区まで、8区に分けて調査されたが、その内、Ⅴ区及びⅥ区から中世の人骨が出土したので以下に記載する。なお、99号土坑出土人骨の歯の計測は藤田の方法(藤田, 1949)に従った。

1. Ⅴ区出土人骨

Ⅴ区では、164号土坑から、人骨が出土した。

(1) 164号土坑出土火葬人骨

164号土坑は、長径107cm×短径65cm×深さ18cmの楕円形土坑である。本土坑から、約5mm～2cmの大きさの人骨破片が約100片出土している。副葬品は検出されていない。歯根片及び四肢骨片が出土しているが、すべて熱を受けている火葬人骨である。火葬人骨の色は白色を呈しており、高い温度で焼成されたことが推定される。残念ながら、わずかな部位しか出土していないため、被火葬者の性別及び死亡年齢等は不明である。

2. Ⅵ区出土人骨

Ⅵ区では、55号土坑・56号土坑・57号土坑・80号土坑・99号土坑から人骨が出土した。

(1) 55号土坑出土火葬人骨

①人骨の出土状況

55号土坑は、長径102cm×短径57cm×深さ10cm～15cmの隅丸長方形土坑である。西側に突出部を持つ、中世の典型的な火葬跡である。

②人骨の出土部位

人骨の頭蓋骨片及び四肢骨片が細片化した状態で出土している。しかしながら、明確に同定できる部位は歯の歯根のみである。

③副葬品

土師器片及び須恵器片が出土している。

④被火葬者の個体数

出土火葬人骨には、明らかな重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被火葬者の性別

出土火葬人骨の出土量が少ないため、被火葬者の性別は不明である。

⑥被火葬者の死亡年齢

出土火葬人骨の出土量が少ないため、被火葬者の死亡年齢は不明であるが、歯の歯根がある程度残存しているため成人であると推定される。

(2) 56号土坑出土火葬人骨

①人骨の出土状況

56号土坑は、長径150cm×短径83cm×深さ17cm～24cmの楕円形土坑である。西側に突出部を持つ、中世の典型的な火葬跡である。

②人骨の出土部位

頭蓋骨片・四肢骨片が多数出土している。

③副葬品

土師器片及び須恵器片が出土している。

④被火葬者の個体数

出土火葬人骨には、明らかな重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被火葬者の性別

火葬の際の熱による収縮を考慮しても、上腕骨や脛骨の大きさが小さいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被火葬者の死亡年齢

死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが、歯の歯根がある程度残存しているため、被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

(3) 57号土坑出土火葬人骨

①人骨の出土状況

57号土坑は、長径107cm×短径45cm×深さ7cmの隅丸長方形土坑である。東側に突出部を持つ、中世の典型的な火葬跡である。

②人骨の出土部位

人骨の頭蓋骨片・歯根・大腿骨片等が出土している。

③副葬品

土師器片が出土している。

④被火葬者の個体数

出土火葬人骨には、明らかな重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被火葬者の性別

火葬の際の熱による収縮を考慮しても、頭蓋骨片や大腿骨片は、厚さが薄かったり小さいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被火葬者の死亡年齢

死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが、歯の歯根がある程度残存しているため、被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

(4) 80号土坑出土火葬人骨

人骨は、直径68cm×深さ53cmの円形土坑から出土してい

(5) 棟高辻久保遺跡出土人骨

る。80号土坑の覆土から、約5mm～2cmの大きさの破片が13片出土している。そのほとんどが頭蓋骨片であり、すべて熱を受けている火葬人骨である。火葬人骨の色は白色から灰色を呈しており、ある程度高い温度で焼成されたことが推定される。残念ながら、わずかな部位しか出土していないため、被火葬者の性別及び死亡年齢等は不明であるが、火葬による収縮を考慮しても頭蓋骨の厚さが薄いため、女性である可能性が高い。

(5) 99号土坑出土人骨

①人骨の出土状況

人骨は、長径109cm×短径83cm×深さ15cmの楕円形土坑から出土している。

②人骨の出土部位

歯の歯冠部のみ出土している。

③副葬品

土師器片及び須恵器片が出土している。

④被葬者の頭位及び埋葬形態

歯が土坑の北側から検出されているため、被葬者の頭位は北であると推定される。埋葬形態は、歯しか出土していないため不明であるが、屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数

出土歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別

歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度であるので、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

考 察

V区164号土坑・VI区の55号・56号・57号・80号土坑より、火葬人骨が出土した。V区164号土坑及びVI区80号土坑では検出されなかったが、V区55号・56号・57号土坑の3基の土坑では、土坑が南北に掘られ、その東側か西側に突出部が認められた。この突出部は煙道であり火をつける焚き口であると推定されている。4基共、出土人骨の量が少ないため、これらの遺構は火葬跡であり火葬墓ではないと推定される。恐らく、東日本タイプの葬法で、ほとんどの人骨を収骨したのであろう。また、火葬人骨の色は明灰色から白色を呈しているため、火葬の際の温度は約900℃以上であらう。さらに、火葬人骨には亀裂・ゆがみ・ねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬したのではなく、死体をそのまま火葬に付したと推定される。

まとめ

棟高辻久保遺跡のV区及びVI区から、中世人骨が出土した。これらのまとめを、以下の表1に、また99号土坑出土人骨の歯冠計測値を表2に示した。

引用文献

藤田恒太郎 1949 歯の計測規準について、「人類学雑誌」、61:1-6。
 権田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67:151-163。
 MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Museum monographs No.9, National Science Museum

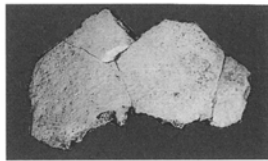
表1. 棟高辻久保遺跡出土人骨まとめ

| 区名 | 土坑番号 | 個体数 | 性別 | 死亡年齢 | 備考 |
|-----|--------|-----|-----|-------|------|
| V区 | 164号土坑 | 1個体 | 不明 | 不明 | 火葬人骨 |
| | 55号土坑 | 1個体 | 不明 | 成人 | 火葬人骨 |
| VI区 | 56号土坑 | 1個体 | 女性 | 成人 | 火葬人骨 |
| | 57号土坑 | 1個体 | 女性 | 成人 | 火葬人骨 |
| | 80号土坑 | 1個体 | 女性? | 不明 | 火葬人骨 |
| | 99号土坑 | 1個体 | 男性 | 約30歳代 | 土葬人骨 |

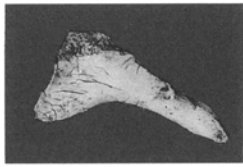
表2. 棟高辻久保遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較表

| 歯種 | 計測項目 | 本遺跡 VI区99号土坑 | | 中世時代人 * | | 江戸時代人 * | | 現代人 ** | | |
|----|------|-----------------|------|------------|-------|------------|-------|-----------|-------|-------|
| | | 右 | 左 | ♂ | ♀ | ♂ | ♀ | ♂ | ♀ | |
| 上 | I2 | MD | — | 7.2 | 6.98 | 6.85 | 7.16 | 6.97 | 7.13 | 7.05 |
| | | BL | — | 7.7 | 6.55 | 6.26 | 6.74 | 6.33 | 6.62 | 6.51 |
| | C | MD | 7.9 | 7.8 | 7.96 | 7.43 | 8.01 | 7.60 | 7.94 | 7.71 |
| | | BL | 8.8 | 8.7 | 8.50 | 7.94 | 8.66 | 8.03 | 8.52 | 8.13 |
| | P1 | MD | 7.2 | 7.4 | 7.25 | 7.02 | 7.41 | 7.23 | 7.38 | 7.37 |
| | | BL | 9.9 | 10.0 | 9.46 | 9.03 | 9.67 | 9.33 | 9.59 | 9.43 |
| 顎 | P2 | MD | — | 6.5 | 6.87 | 6.69 | 7.00 | 6.82 | 7.02 | 6.94 |
| | | BL | — | 9.6 | 9.39 | 8.88 | 9.55 | 9.29 | 9.41 | 9.23 |
| | M2 | MD | 8.9 | — | 9.65 | 9.42 | 9.88 | 9.48 | 9.91 | 9.74 |
| | | BL | 11.3 | — | 11.72 | 11.19 | 12.00 | 11.52 | 11.85 | 11.31 |
| 下 | C | MD | 6.8 | 6.8 | 6.88 | 6.55 | 7.06 | 6.69 | 7.07 | 6.68 |
| | | BL | 破損 | 破損 | 7.82 | 7.33 | 8.04 | 7.39 | 8.14 | 7.50 |
| | P1 | MD | 7.2 | 7.3 | 7.07 | 6.96 | 7.32 | 7.05 | 7.31 | 7.19 |
| | | BL | 7.9 | 8.0 | 8.10 | 7.72 | 8.34 | 7.89 | 8.06 | 7.77 |
| | P2 | MD | 7.4 | 7.4 | 7.12 | 7.00 | 7.45 | 7.12 | 7.42 | 7.29 |
| | | BL | 8.7 | 8.7 | 8.49 | 8.06 | 8.68 | 8.30 | 8.53 | 8.26 |

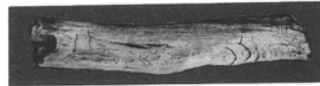
註1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。
 註2. 歯種は、I2 (第2切歯)・C (犬歯)・P1 (第1小臼歯)・P2 (第2小臼歯)・M2 (第2大臼歯)を意味する。
 註3. 計測項目はMD (歯冠近遠心径)・BL (歯冠唇舌径)を表す。
 註4. 「破損」は、歯冠が破損しており計測ができなかったことを示す。
 註5. 「*」は、MATSUMURA (1995) より引用。
 註6. 「**」は、権田 (1959) より引用。



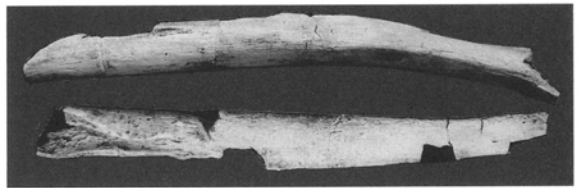
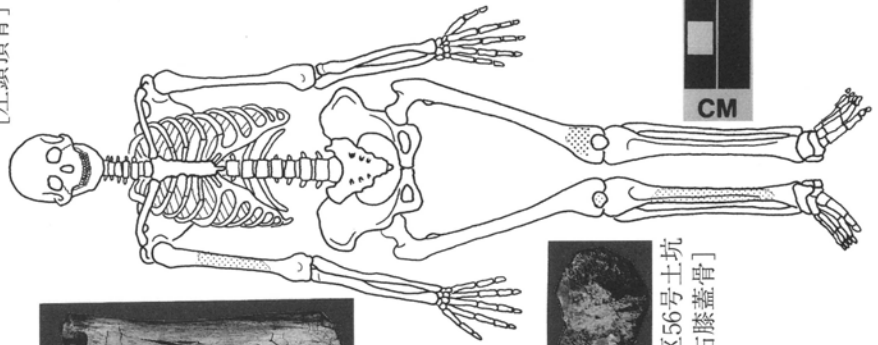
VI区56号土坑
[左頭頂骨]



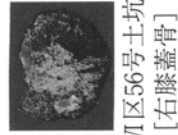
VI区56号土坑
[下顎骨左]



VI区56号土坑
[右上腕骨]



VI区56号土坑
[右脛骨]



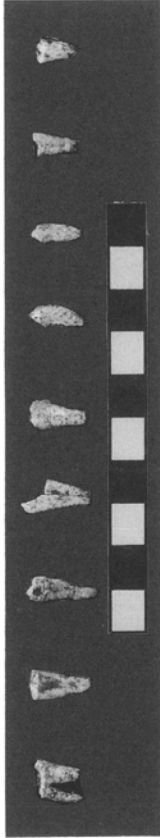
VI区56号土坑
[右膝蓋骨]



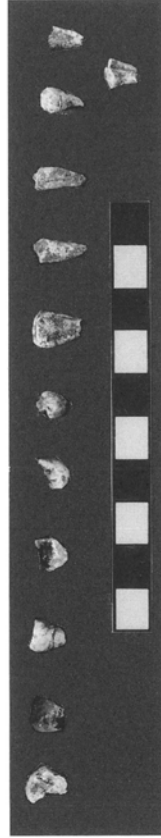
VI区57号土坑
[左大腿骨]



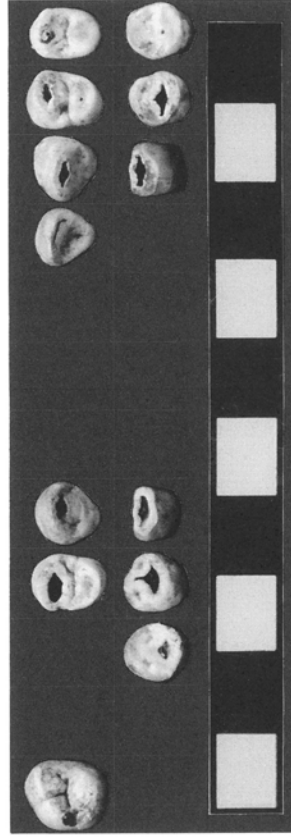
棟高辻久保遺跡VI区55号土坑出土人骨 [火葬人骨] (齒根部)



棟高辻久保遺跡VI区56号土坑出土人骨 [火葬人骨] (齒根部)



棟高辻久保遺跡VI区57号土坑出土人骨 [火葬人骨] (齒冠部・齒根部)



棟高辻久保遺跡VI区99号土坑出土人骨 [土葬人骨] (齒冠部)

| | | | | | | | | |
|-----|----|----|---|----|----|----|----|-----|
| 上顎右 | M2 | P1 | C | I2 | C | P1 | P2 | 上顎左 |
| 上顎右 | P2 | P1 | C | C | P1 | P2 | | 下顎左 |

註：I2(第2切歯)・C(犬歯)・P1(第1小白歯)・P2(第2小白歯)・M2(第2大臼歯)を意味する。

(6) 棟高辻久保遺跡出土獣骨

(6) 棟高辻久保遺跡出土獣骨

榎崎修一郎

はじめに

棟高辻久保遺跡は、群馬県高崎市引間町及び同棟高町に所在する。西毛広域幹線建設に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成12(2000)年～平成15(2003)年にかけて行われた。本遺跡より、獣骨が出土したので以下に報告する。本遺跡は、0区～Ⅶ区まで、8区に分けて調査されたため、本報告もそれに従い区の順に記載する。

本遺跡からは、獣骨が多数出土したが、そのほとんどが、馬(ウマ) [*Equus caballus*]か牛(ウシ) [*Bos taurus*]の歯である。群馬県出土獣骨の内、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の報告書を調べたデータベースが作成されているが、そのほとんどは馬(ウマ)か牛(ウシ)であることが判明しており、その点で本遺跡も群馬県の中で典型的な遺跡である(榎崎, 2005)。出土獣骨は、破損しているものが多く歯種の同定が限られたものが多いために、記載可能な獣骨は少ない。なお、馬(ウマ)及び牛(ウシ)の性別推定は、馬の場合犬歯の有無で、牛の場合寛骨で可能であるが、本遺跡出土獣骨で性別推定が可能な個体は無かった。出土獣骨の記載獣骨リストを表2に、記載獣骨計測値を表3に、すべての出土獣骨リストを表4に掲載したので参照されたい。

なお、出土獣骨は清掃後、できる限りの接着復元を行い、観察・計測・写真撮影を行った。また、出土獣骨の計測は、フォン・デン・ドリーシュ [von den DRIESCH] (1976) に従った。

1.0区出土獣骨

0区では、61号住居・110号土坑・46号溝・47号溝の4つの遺構及び、遺構確認面・覆土から獣骨が出土している。この内、61号住居・47号溝・遺構確認面出土獣骨を記載する。

(1) 61号住居出土獣骨 [P3] (平安時代以降)

61号住居から、牛(ウシ)の下顎左右M3(第3大白歯)が出土した。同一個体の歯であると推定される。どちらも、咬耗はほとんど認められないため、未萌出の歯であると推定される。牛の場合、M3は約2歳で萌出すると言われていたため、死亡年齢は、約2歳以下であると推定される。中型牛である。

(2) 110号土坑出土獣骨 (平安時代以降)

110号土坑から、猪(ニホンイノシシ) [*Sus scrofa*]か豚(ブタ)の下顎右P2(第2小白歯)が1本出土した。しかし、この歯1本では、ニホンイノシシかブタかの判定は不可能で

ある。歯には咬耗が認められるため、死亡年齢は成体であると推定される。

(3) 47号溝出土獣骨 [No.15・31・32・39] (平安時代～中世)

0区47号溝から、牛(ウシ)の上顎左M2(第2大白歯) [No.15]・馬(ウマ)の下顎右M2(第2大白歯) [No.31]・ウマの下顎左M1とM2(第1及び第2大白歯) [No.32]・牛(ウシ)の下顎左M3(第3大白歯) [No.39]が出土した。牛の場合、どちらも中型牛で死亡年齢はそれぞれ成体[No.15]と約2歳[No.39]であると推定される。馬の場合、大型馬～中型馬で、歯冠高から死亡年齢はそれぞれ成体[No.31]と約5歳[No.32]の幼齢馬であると推定される。

(4) 遺構確認面出土獣骨 (平安時代以降)

遺構確認面から、馬(ウマ)の上顎左P4(第4小白歯)が出土した。中型馬である。死亡年齢は、約4歳より若い個体の幼齢馬であると推定される。

2.Ⅰ区出土獣骨

Ⅰ区では、22号住居・31号住居・56号住居・10号土坑・6号溝・34号溝の6つの遺構及び、グリッド上げで獣骨が出土している。この内、56号住居・10号土坑出土獣骨を記載する。

(1) 56号住居出土獣骨[No.2・14・16・骨1] (平安時代以降)

56号住居床面から、馬(ウマ)の歯が18に分けて取り上げられている。出土状況から、同一個体であると推定される。中型馬である。同定された馬歯は、上顎右M3(第3大白歯) [No.14]・上顎左M1・M2・M3(第1・2・3大白歯) [骨1]・下顎右P2(第2小白歯) [No.16]及び同M2(第2大白歯) [No.2]である。死亡年齢は、計測値の歯冠高から幅をもたせて、約10歳～11歳であると推定される。獣医学の分野では、6歳～15・16歳は牡馬に分類される。

(2) 10号土坑出土獣骨 (古代以降)

10号土坑から、牛(ウシ)の下顎左M3(第3大白歯)が出土した。中型牛である。咬耗がかなり進んでおり、老齢に近い牡牛であると推定される。

3.Ⅱ区出土獣骨

Ⅱ区では、124号ピット・1号水路・S18水田(昭和18年時の水田)の3つの遺構及び、グリッド上げで獣骨が出土している。この内、124号ピット・1号水路・S18水田・Kg-82グリッド出土獣骨を記載する。

(1) 124号ピット出土獣骨 (中世以降)

124号ピットから、馬(ウマ)の下顎右P3(第3小白歯)が出土した。小型馬である。歯冠高から、死亡年齢は約6歳の牡馬であると推定される。

(2) 1号水路出土獣骨[P-269・覆土・下層ベルト内] (近世

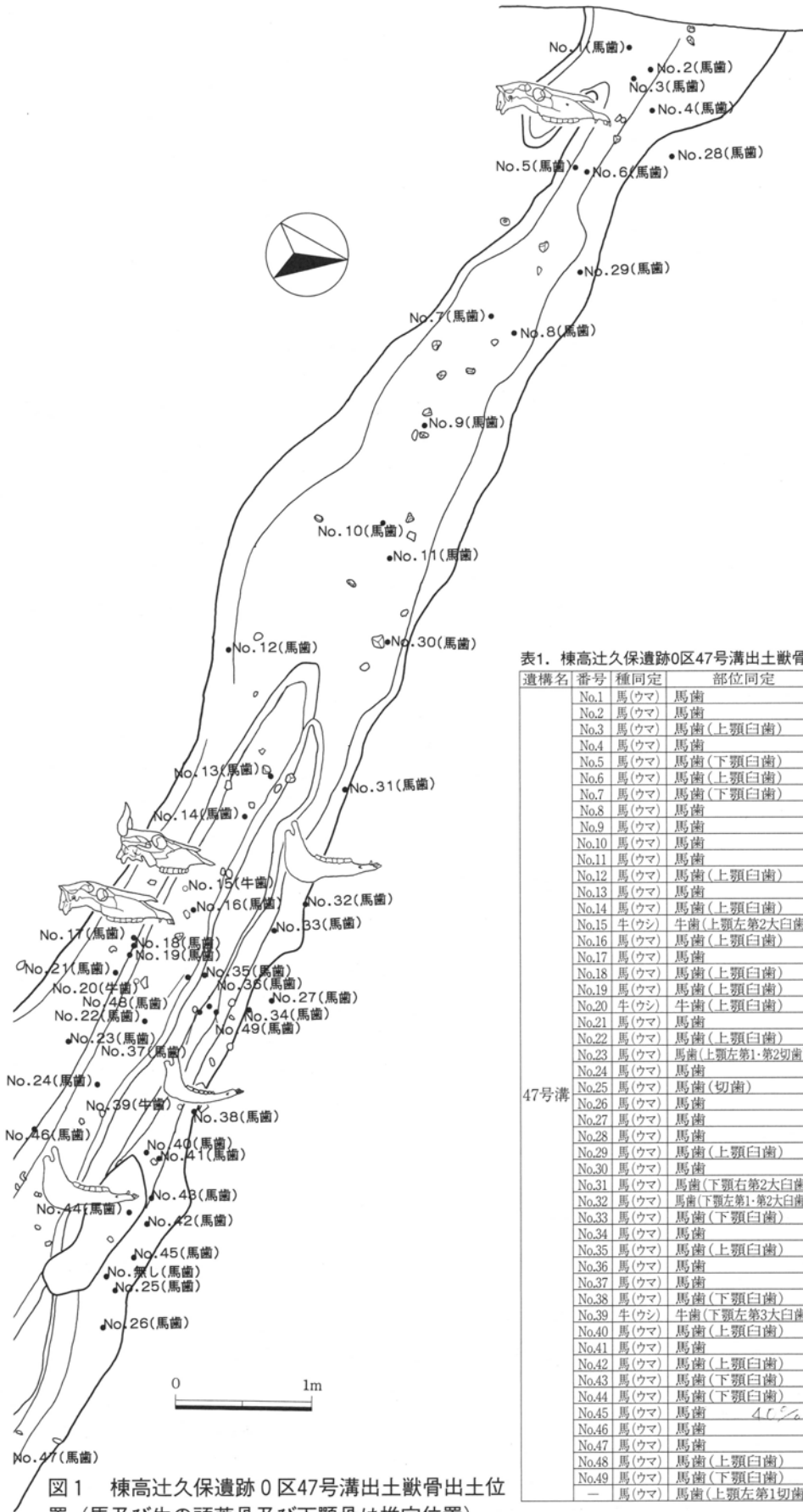


図1 棟高辻久保遺跡0区47号溝出土獣骨出土位置 (馬及び牛の頭蓋骨及び下顎骨は推定位置)

【●：馬歯、○牛歯】

表1. 棟高辻久保遺跡0区47号溝出土獣骨リスト

| 遺構名 | 番号 | 種同定 | 部位同定 | 保存状態 | 出土年月日 | 備考 |
|------|-------|-------------|-----------------|------|------------|----|
| 47号溝 | No.1 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.2 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.3 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.4 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.5 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.6 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.7 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.8 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.9 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.10 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.11 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.12 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.13 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.14 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.15 | 牛(ウシ) | 牛歯(上顎左第2大白歯) | ほぼ完形 | 2003. 6. 6 | 記載 |
| | No.16 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.17 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.18 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.19 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.20 | 牛(ウシ) | 牛歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.21 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.22 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.23 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎左第1・第2切歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.24 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.25 | 馬(ウマ) | 馬歯(切歯) | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.26 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.27 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.28 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6. 6 | |
| | No.29 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.30 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.31 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎右第2大白歯) | ほぼ完形 | 2003. 6.10 | 記載 |
| | No.32 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎左第1・第2大白歯) | ほぼ完形 | 2003. 6.10 | 記載 |
| | No.33 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.34 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.35 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.36 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.37 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.38 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.39 | 牛(ウシ) | 牛歯(下顎左第3大白歯) | ほぼ完形 | 2003. 6.10 | 記載 |
| | No.40 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.41 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.42 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.43 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.44 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.45 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.46 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.47 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.48 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| | No.49 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003. 6.10 | |
| — | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎左第1切歯) | 破片 | — | | |

(6) 棟高辻久保遺跡出土獣骨

以降)

1号水路から、馬(ウマ)の歯及び不明骨が9に分けて取り上げられている。同定された馬歯は、上顎左右M2(第2大白歯)[覆土]・下顎右M1(第1大白歯)[P-269]・下顎左P2(第2小白歯)[下層ベルト内]である。この内、下顎歯の2本は、同一個体の小型馬であると推定される。死亡年齢は、歯冠高から、上顎歯は約9歳・下顎歯は約10歳の牡馬であると推定される。死亡年齢にずれがあるが、同定された4本共に歯が小さく小型であり、色も似通っているため、同一個体の可能性もある。

(3) S18水田出土獣骨[No.12](1943年)

S18水田から、馬(ウマ)の下顎右P3(第3小白歯)[No.12]が出土した。中型馬である。歯冠高から、死亡年齢は約6歳の牡馬であると推定される。

(4) Kg-82グリッド出土獣骨(古代以降)

Kg-82グリッド4面から、馬(ウマ)の上顎右M3(第3大白歯)が出土した。大型馬である可能性が高い。歯冠高から、死亡年齢は約6歳の牡馬であると推定される。

4. III区出土獣骨

III区では、5号水路の遺構及び覆土から獣骨が出土している。この内、5号水路・2面覆土・3面覆土出土獣骨を記載する。

(1) 5号水路出土獣骨(近代)

5号水路覆土から、馬(ウマ)の下顎右P4(第4小白歯)が出土した。馬歯の色は、黒色を呈しており、長い間、水に浸かった状態であったことが推定される。大型馬である。歯冠高から、死亡年齢は約5歳の幼馬であると推定される。

(2) 2面覆土出土獣骨(近代)

2面覆土から、馬(ウマ)の上顎右M3(第3大白歯)が出土した。大型馬である可能性が高い。歯冠高から、死亡年齢は約10歳の牡馬であると推定される。

(3) 3面覆土出土獣骨(近代)

3面覆土から、馬(ウマ)の上顎左M1(第1大白歯)が出土した。小型馬である可能性が高い。歯冠高から、死亡年齢は約7歳の牡馬であると推定される。

5. IV区出土獣骨

IV区では、2・3面の間からのみ獣骨が出土しているので、2・3面の間出土獣骨を記載する。

(1) 2・3面の間出土獣骨(中世以降)

2・3面の間から、馬(ウマ)の上顎左M2(第2大白歯)が出土した。大型馬である。歯冠高から、死亡年齢は約5歳～6歳の幼馬～牡馬であると推定される。

6. V区出土獣骨

V区では、148号住居の遺構から獣骨が出土している。しかしながら、カマド掘り方覆土からの出土であり、焼骨の一部である。人骨で無いことは間違いがないが、種の同定及び部位の同定は不可能であった。恐らく、調理された獣骨であると推定される。

7. VI区出土獣骨

VI区では、54号住居・71号住居・89号住居・91号住居・14号溝・15号溝・40号溝・44号溝・52号溝の9の遺構及び、覆土から獣骨が出土している。この内、52号溝出土獣骨を記載する。

(1) 52号溝出土獣骨[P-22・P-46・P-47・P-49](15世紀)

52号溝から、馬(ウマ)の骨(P-45)及び歯が7つに分けて取り上げられている。同定された部位は、上顎右M2(第2大白歯)[P-22]・下顎左P4(第4小白歯)[P-46]・下顎左P3(第3小白歯)[P-47]・下顎右P4(第4小白歯)[P-49]である。大型馬(p-22)と中型馬(p-22以外)である。死亡年齢は、歯冠高より、それぞれ、約9歳[P-22]・約7歳[P-46]・約9歳[P-47]・約7歳[P-49]の牡馬であると推定される。

8. VII区出土獣骨

VII区では、31号土坑・8号溝・10号溝・11号溝・19号溝・20号溝の6の遺構及び、試掘トレンチから獣骨が出土している。この内、11号溝出土獣骨を記載する。

(1) 11号溝出土獣骨(中世以降)

11号溝覆土から、馬(ウマ)の歯が3本出土している。歯種は、下顎右P3(第3小白歯)・下顎左P3(第3小白歯)・下顎左M1(第1大白歯)である。大型馬である。死亡年齢は、歯冠高より、それぞれ、約5歳～6歳(下顎左右P3)と約6歳(下顎左M1)の幼馬と牡馬であると推定される。これら、3本の馬歯は、色や形も似通っているため、恐らく同一個体であると推定される。

考 察

棟高辻久保遺跡の0区～VII区から、主に馬及び牛の歯が多数出土した。これらの獣歯の所属年代は様々であるが、皮革生産や骨角加工に使用した斃牛馬を解体後に処理した例や祈雨祭祀や井戸を埋める際の祭祀のために殉殺した例であると推定される。

ま と め

棟高辻久保遺跡の0区～VII区から、多数の獣骨が出土した。しかしながら、ほとんどが馬か牛の歯であり、破損しているものも多いため、記載できたのは出土獣歯の一部である。表2に出土記載獣骨を、表3に記載獣骨の計測値を、すべての

(6) 棟高辻久保遺跡出土獣骨

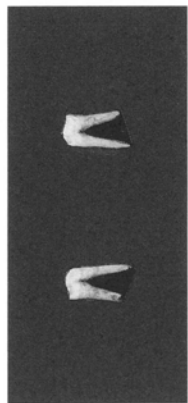
表4. 棟高辻久保遺跡出土獣骨リスト

| 区名 | 遺構名 | 番号 | 種同定 | 部位同定 | 保存状態 | 出土年月日 | 備考 | 区名 | 遺構名 | 番号 | 種同定 | 部位同定 | 保存状態 | 出土年月日 | 備考 |
|-------|--------|--------------------|------------------|-----------------|------------|-----------|-----------|--------------|-----------------------|-----------------|--------------|--------------|------------|-----------|----|
| 0区 | 住居 | | | | | | | I区 | 土坑 | | | | | | |
| | 61号住居 | P-3 | 牛(ウシ) | 牛歯(下顎左第3大白歯) | 破片 | 2002.11.7 | 記載 | | 10号土坑 | — | 牛(ウシ) | 牛歯(下顎左第3大白歯) | ほぼ完形 | 2000.8.29 | 記載 |
| | 土坑 | | | | | | | | 溝 | | | | | | |
| | 110号土坑 | No.2 | 猪(イノシシ) 豚(ブタ) | 猪か豚の歯(下顎右第2小臼歯) | ほぼ完形 | 2003.6.11 | 記載 | | 6号溝 | No.1 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.8.30 | |
| | 溝 | | | | | | | | 34号溝 | | | | | | |
| | 46号溝 | No.6 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003.6.2 | | | A 覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.10.27 | | |
| | No.1 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | B 覆土 | | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.10.26 | | | |
| | No.2 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | その他 | | | | | | | | |
| | No.3 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | Ke-79G | | 骨-1(3面) | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2000.9.26 | | |
| | No.4 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | Ke-81G | | — | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.10.25 | | |
| | No.5 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | Kg-81G | | 3面 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2000.10.26 | | |
| | No.6 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | | | 3面覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.11.7 | | |
| | No.7 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | Ki-80G | | 骨-No.1(3面) | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2000.11.7 | | |
| | No.8 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | | | 骨-No.2(3面) | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.11.7 | | |
| | No.9 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | Kj-82G | | 表土下 | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2000.5.22 | | |
| | No.10 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | ピット | | | | | | | | |
| | No.11 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | 124号ピット | | 覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎右第3小臼歯) | ほぼ完形 | 2000.9.28 | 記載 | |
| | No.12 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | 水路 | | | | | | | | |
| | No.13 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | P-149(下層) | | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.10.10 | | | |
| | No.14 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | P-269(下層) | | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎右第1大白歯) | ほぼ完形 | 2000.10.16 | 記載 | | |
| | No.15 | 牛(ウシ) | 牛歯(上顎左第2大白歯) | ほぼ完形 | 2003.6.6 | 記載 | P-270(下層) | | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.10.16 | | | |
| | No.16 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | 下層ベルト内 | | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎左第2小臼歯) | ほぼ完形 | 2000.10.17 | 記載 | | |
| | No.17 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | 下層ベルト内 | | 不明 | 不明骨 | 破片 | 2000.10.17 | | | |
| | No.18 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | 覆土 | | 馬(ウマ) | 馬歯2点(上顎左右第2大白歯) | ほぼ完形 | 2000.10.5 | 記載 | | |
| | No.19 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | — | | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.6.30 | | | |
| | No.20 | 牛(ウシ) | 牛歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | — | | 不明 | 不明骨 | 破片 | 2000.7.5 | | | |
| | No.21 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | — | | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.9.21 | | | |
| | No.22 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.6 | | その他 | | | | | | | | |
| | No.23 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎左第1・第2切歯) | 破片 | 2003.6.6 | | S-18水田 | | No.12 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎右第3小臼歯) | ほぼ完形 | 2000.7.12 | 記載 | |
| | No.24 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | Kg-80G | | 4面 | 馬(ウマ) | 馬歯(切歯) | 破片 | 2000.10.18 | | |
| | No.25 | 馬(ウマ) | 馬歯(切歯) | 破片 | 2003.6.6 | | Kg-82G | | 4面 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎右第3大白歯) | ほぼ完形 | 2000.10.18 | 記載 | |
| | No.26 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | Ko-81G | | 4面 | 馬(ウマ) | 馬歯(白歯) | 破片 | 2000.10.19 | | |
| | No.27 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | Kp-81G | | 4面覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.10.19 | | |
| | No.28 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.6 | | Ks-78G | | 4面 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.10.19 | | |
| | No.29 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | Kt-77G | | 4面覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.10.19 | | |
| | No.30 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.10 | | 水路 | | | | | | | | |
| | No.31 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎右第2大白歯) | ほぼ完形 | 2003.6.10 | 記載 | 5号水路 | | 覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎右第4小臼歯) | 完形 | 2001.2.6 | 記載 | |
| | No.32 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎左第1・第2大白歯) | ほぼ完形 | 2003.6.10 | 記載 | その他 | | | | | | | | |
| | No.33 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | 1面 | | 覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.11.15 | | |
| | No.34 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.10 | | 2面 | | 覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.12.21 | | |
| | No.35 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | 3面 | | 覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎右第3大白歯) | ほぼ完形 | 2001.2.26 | 記載 | |
| | No.36 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.10 | | 3面 | | 覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎左第1大白歯) | 完形 | 2001.3.6 | 記載 | |
| | No.37 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.10 | | その他 | | | | | | | | |
| | No.38 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | 2・3面の間 | | — | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎左第2大白歯) | ほぼ完形 | 2001.6.1 | 記載 | |
| | No.39 | 牛(ウシ) | 牛歯(下顎左第3大白歯) | ほぼ完形 | 2003.6.10 | 記載 | 住居 | | | | | | | | |
| | No.40 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | 148号住居 | | 竈掘り方覆土 | 不明 | 不明焼骨 | 破片 | 2002.10.16 | 記載 | |
| | No.41 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.10 | | 住居 | | | | | | | | |
| No.42 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | 54号住居 | 骨-1 | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2002.6.6 | | | | |
| No.43 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | | 骨 | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2002.6.5 | | | | |
| No.44 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | 71号住居 | — | 不明 | 不明焼骨 | 破片 | 2002.7.3 | | | | |
| No.45 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.10 | | 89号住居 | 骨 | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2002.7.30 | | | | |
| No.46 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.10 | | 91号住居 | 骨 | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2002.7.24 | | | | |
| No.47 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2003.6.10 | | 土坑 | | | | | | | | | |
| No.48 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | 55号土坑 | — | 不明 | 不明 | 破片 | — | | | | |
| No.49 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎左第1切歯) | 破片 | — | | 溝 | | | | | | | | | |
| — | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎左第1切歯) | 破片 | — | | 14号溝 | — | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2002.1.8 | | | | |
| その他 | | | | | | | 15号溝 | 骨 | 不明 | 不明骨 | 破片 | 2002.2.12 | | | |
| — | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2002.11.8 | | 40号溝 | 2面 | 不明 | 不明 | 破片 | 2002.2.12 | | | | |
| 遺構確認面 | — | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎左第4小臼歯) | ほぼ完形 | 2002.11.11 | 記載 | 44号溝 | 骨-1 | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2002.6.13 | | | |
| 骨覆土 | — | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2003.6.10 | | | 骨-3 | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2002.6.13 | | | |
| 住居 | | | | | | | 52号溝 | | | | | | | | |
| 22号住居 | B-1 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.7.17 | | P-22 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎右第2小臼歯) | 完形 | 2002.8.9 | 記載 | | | |
| 31号住居 | P-7(骨) | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.7.31 | | P-43 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2002.8.9 | | | | |
| No.1 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | P-44 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2002.8.9 | | | | | |
| No.2 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎右第2大白歯) | ほぼ完形 | 2000.11.16 | 記載 | P-45 | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2002.8.9 | | | | | |
| No.3 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | P-46 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎左第4小臼歯) | 完形 | 2002.8.9 | 記載 | | | | |
| No.4 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2000.11.16 | | P-47 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎左第3小臼歯) | 完形 | 2002.8.9 | 記載 | | | | |
| No.5 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | P-48 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2002.8.9 | | | | | |
| No.6 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | P-49 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎右第4小臼歯) | ほぼ完形 | 2002.8.9 | 記載 | | | | |
| No.7 | 馬(ウマ) | 馬歯 | 破片 | 2000.11.16 | | その他 | | | | | | | | | |
| No.8 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎切歯) | 破片 | 2000.11.16 | | 1面 | 覆土 | 不明 | 不明焼骨 | 破片 | 2002.1.17 | | | | |
| No.9 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | 土坑 | | | | | | | | | |
| No.10 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | 31号土坑 | — | 不明 | 不明 | 破片 | 2002.2.18 | | | | |
| No.11 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | 溝 | | | | | | | | | |
| No.12 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | 8号溝 | 骨-1 | 不明 | 獣骨 | 破片 | 2001.12.17 | | | | |
| No.13 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | 10号溝 | 骨-1 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎白歯) | 破片 | 2001.12.17 | | | | |
| No.14 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎右第3大白歯) | 破片 | 2000.11.16 | 記載 | 11号溝 | 覆土 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎左右第3小臼歯・同左第1大白歯) | ほぼ完形 | 2001.12.17 | 記載 | | | |
| No.15 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | 19号溝 | — | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2002.3.19 | | | | |
| No.16 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎右第2小臼歯) | ほぼ完形 | 2000.11.16 | 記載 | 20号溝 | — | 馬(ウマ) | 馬骨 | 破片 | 2002.3.14 | | | | |
| No.17 | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2000.11.16 | | その他 | | | | | | | | | |
| 骨1 | 馬(ウマ) | 馬歯(上顎左第1・第2・第3大白歯) | ほぼ完形 | 2000.11.14 | 記載 | 謎トレンチ | — | 馬(ウマ) | 馬歯(下顎白歯) | 破片 | 2001.11.8 | | | | |

註: 備考欄に「不明」とあるものは、種同定や部位同定はできないが、人骨ではないことを示す。また、()内は、部位同定ができたもののみを記載した。「記載」とあるものは、本報告書に記載されていることを示す。



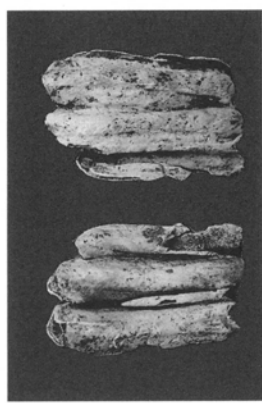
0区61号住居出土牛歯(P3)[左:下顎右M3(頰側面観・舌側面観),右:下顎左M3(頰側面観・舌側面観)]



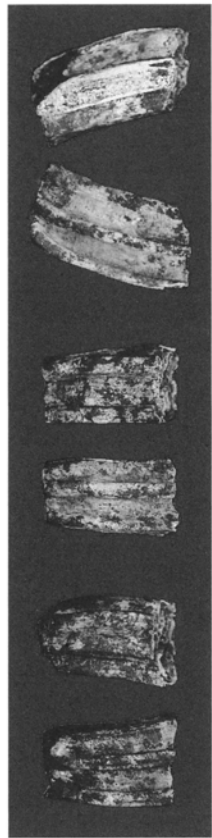
0区110号土坑出土猪か豚の歯[下顎右P2]



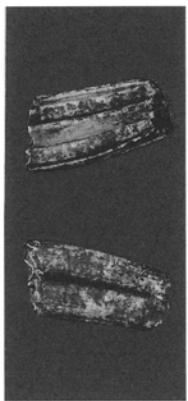
0区47号溝出土馬歯(No.31)[下顎右M2]



0区47号溝出土牛歯(No.39)[下顎左M3]



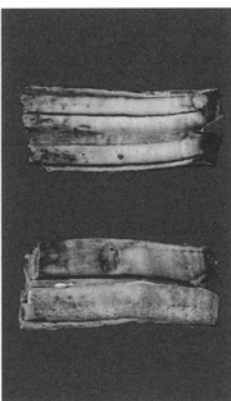
I区56号住居出土馬歯(骨1)[左から、それぞれ上顎左M1・M2・M3の頰側面観・舌側面観]



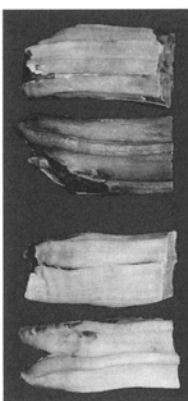
I区56号住居出土馬歯(No.2)[下顎右M2]



I区56号住居出土馬歯(No.16)[下顎右P2]



II区124号ピット覆土出土馬歯[下顎右P3]



II区1号水路(覆土)出土馬歯[上顎左右M2]



I区56号住居出土馬歯(No.14)[上顎右M3]



I区10号土坑出土牛歯[下顎左M3]

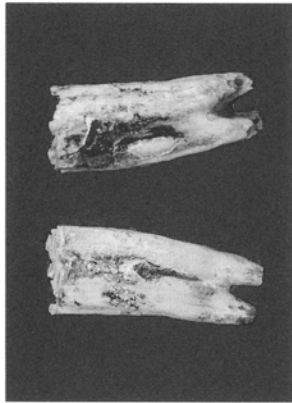


II区1号水路(P-269)出土馬歯[下顎右M1]

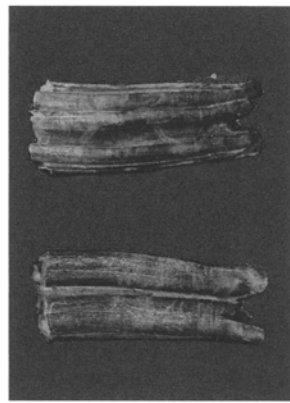


II区1号水路(下層ベルト内)出土馬歯[下顎左P2]

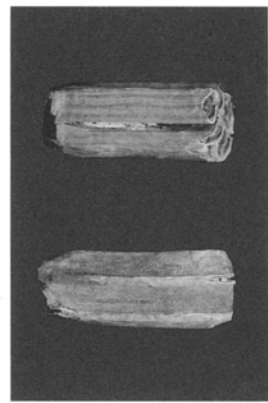




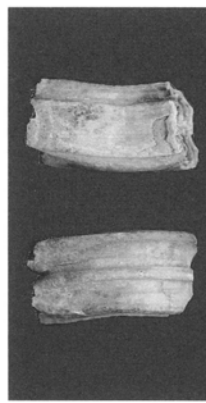
II区S-18水田(No.12)出土馬齒[下顎右P3]



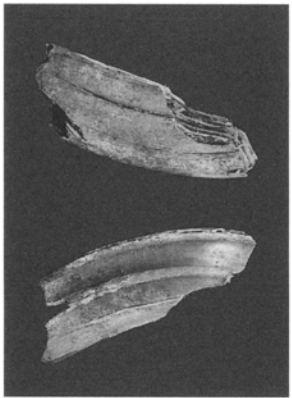
III区5面水路(覆土)出土馬齒[下顎右P4]



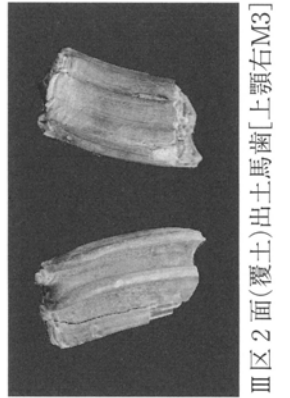
III区3面(覆土)出土馬齒[上顎左M1]



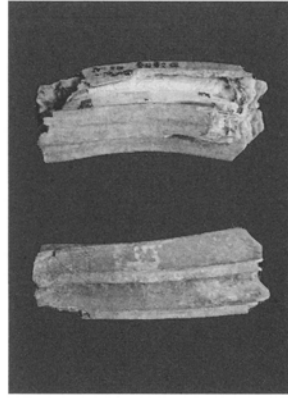
VI区52号溝(P-22)出土馬齒[上顎右M2]



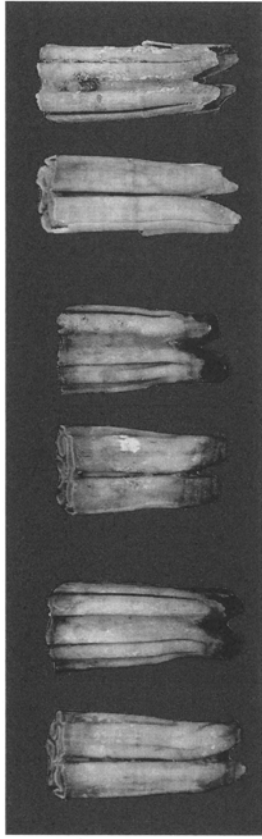
II区Kg-82G(4面)出土馬齒[上顎右M3]



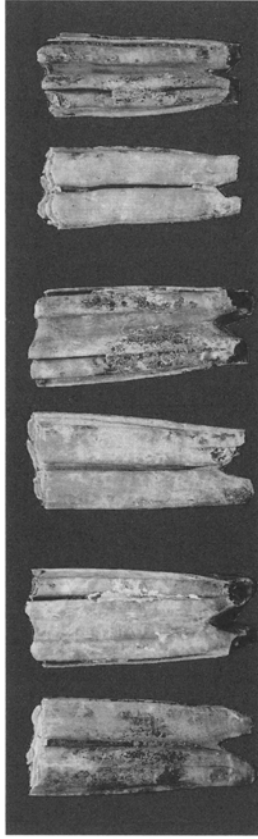
III区2面(覆土)出土馬齒[上顎右M3]



IV区2・3面の間出土馬齒[上顎左M2]



VI区52号溝出土馬齒[左から、P-46(下顎左P4)・P-47(同左P3)・P-49(同右P4)の頬側面観・舌側面観]



VII区11号溝(覆土)出土馬齒[左から、それぞれ下顎右P3・同左P3・下顎左M1の頬側面観・舌側面観]

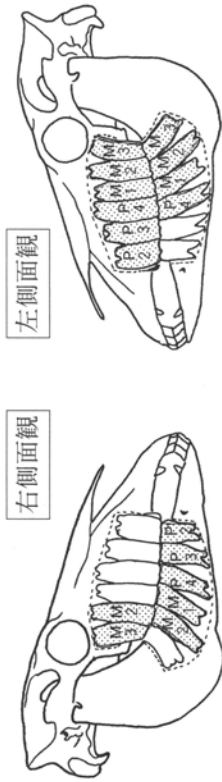


図2 棟高辻久保遺跡出土馬齒出土部位図

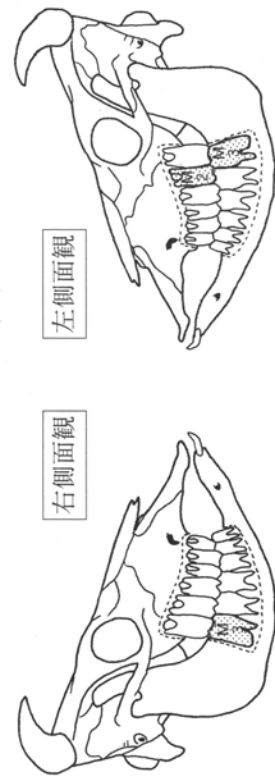


図3 棟高辻久保遺跡出土牛齒出土部位図

(6) 棟高辻久保遺跡出土獣骨

報告書抄録

| | |
|-----------|---|
| 書名ふりがな | むなだかつじくほいせき |
| 書名 | 棟高辻久保遺跡 |
| 副書名 | 一般県道前橋・足門線バイパス(西毛広域幹線道路)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | 3 |
| シリーズ名 | 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 |
| シリーズ番号 | 366 |
| 編著者名 | 菊池 実/植崎修一郎 |
| 編集機関 | 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 発行機関 | 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 発行年月日 | 20060310 |
| 作成法人ID | 21005 |
| 郵便番号 | 377-8555 |
| 電話番号 | 0279-52-2511 |
| 住所 | 群馬県渋川市北橋町下箱田784-2 |
| 遺跡名ふりがな | むなだかつじくほいせき |
| 遺跡名 | 棟高辻久保遺跡 |
| 所在地ふりがな | ぐんまけんたかさきしひきままち・むなだかまち |
| 遺跡所在地 | 群馬県高崎市引間町・棟高町(旧群馬県群馬郡群馬町大字引間・棟高) |
| 市町村コード | 10345 |
| 遺跡番号 | |
| 北緯(日本測地系) | 362309 |
| 東経(日本測地系) | 1390052 |
| 北緯(世界測地系) | 362321 |
| 東経(世界測地系) | 1390040 |
| 調査期間 | 20000401-20030930 |
| 調査面積 | 35116 |
| 調査原因 | 道路建設工事 |
| 種別 | 集落/田畑/その他 |
| 主な時代 | 縄文/弥生・古墳/奈良平安/中近世/近現代 |
| 遺跡概要 | 集落-弥生・古墳・奈良平安-住居跡226+土坑295+ピット743+溝125+掘立柱建物8+竪穴状遺構1/中近世・近代-田畑+排水路17+溜池2+石組み暗渠/縄文-配石土坑1 |
| 特記事項 | 旧陸軍前橋飛行場跡地 |



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告書第366集

棟高辻久保遺跡

第一分冊 本文・遺構図版編

一般県道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）
建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

平成18(2006)年3月1日 印刷

平成18(2006)年3月10日 発行

発行／編集 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橋町下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上武印刷株式会社